

小平市政に関する世論調査報告書

第20回

令和3年12月

小平市

目 次

I 調査実施の概要	3
1 調査目的	3
2 調査設計	3
3 調査の内容	3
4 回収結果	3
5 地区区分	4
6 報告書の見方	5
II 調査回答者の属性	9
III 調査結果の分析	15
1 定住意向について	15
問1 居住年数	15
問2 住みよさ	17
問3 定住意向	21
問3-1 住み続けたい理由	24
問3-2 転居したい理由	27
2 生活環境について	30
問4 生活環境評価	30
3 安全・安心について	38
問5 日頃の地震対策	38
問5-1 家庭での地震対策	41
問5-2 家庭内で備蓄している品目	43
問5-3 飲料水や食品の備蓄量	45
問6 必要な防災情報	47
4 市民相談について	51
問7 市民相談窓口の認知度	51
5 教育について	54
問8 教育環境の充実度	54
6 文化・歴史について	56
問9 歴史遺産への関心度	56
7 環境・ごみ処理について	59
問10 ごみ減量やリサイクルに対する取組	59
8 多様な生き方の尊重について	62
問11 男女共同参画社会の実現度	62

9	スポーツについて.....	64
	問12 健康づくりのための運動を行う頻度.....	64
	問13 スポーツに関するボランティア活動の意向.....	67
10	産業について.....	69
	問14 市内での買い物状況.....	69
	問15 小平産の農産物の購入状況.....	72
	問15-1 小平産の農産物の購入方法.....	75
	問15-2 小平産の農産物を購入していない理由.....	78
11	情報提供について.....	82
	問16 市からの情報の入手先.....	82
	問17 市が情報発信する上で充実した方が良いと思うもの.....	86
	問18 市報の読みやすさ.....	89
	問19 市のホームページについて.....	91
12	公共施設について.....	93
	問20 公共施設の機能.....	93
	問21 公共施設の地域コミュニティの拠点としての要素.....	96
	問22 市内の公共施設の利用頻度.....	100
	問23 公共施設の利用にかかる経費負担.....	120
	問24 鉄道の最寄り駅周辺の公共施設の充実度.....	123
13	行政サービスの向上・改善について.....	127
	問25 市職員の仕事や対応への満足度.....	127
	問26 市職員に必要な能力・資質.....	130
	問27 動く市役所の認知度.....	132
	問28 窓口を利用しやすい時間帯.....	135
14	新型コロナウイルス感染症の影響について.....	138
	問29 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策.....	138
15	今後の市政について.....	140
	問30 将来像を実現するための重点政策.....	140
	自由記述.....	144
	問31 まちづくりについてのご意見・アイデア.....	144
IV	調査票.....	149
V	調査結果の集計表.....	167

I 調査実施の概要

I 調査実施の概要

1 調査目的

市民の生活意識と市政に対する市民の意向・要望を把握し、行政全般にわたる施策遂行上の参考資料を得ることを目的とする。

2 調査設計

- (1)調査地域 小平市全域
 - (2)調査対象 市内在住の満 18 歳以上の市民
 - (3)標本数 2,000 人
 - (4)標本抽出 住民基本台帳からの無作為抽出
 - (5)調査方法 郵送法
(郵送配布－郵送回収・礼状兼回答お願いはがき1回)
 - (6)調査期間 令和3年5月6日から5月 24 日まで
 - (7)調査機関 株式会社 オフィス・コラボ
-

3 調査の内容

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 定住意向について | 9 スポーツについて |
| 2 生活環境について | 10 産業について |
| 3 安全・安心について | 11 情報提供について |
| 4 市民相談について | 12 公共施設について |
| 5 教育について | 13 行政サービスの向上・改善について |
| 6 文化・歴史について | 14 新型コロナウイルス感染症の影響について |
| 7 環境・ごみ処理について | 15 今後の市政について |
| 8 多様な生き方の尊重について | 16 あなたご自身のこと(回答者属性)について |
-

4 回収結果

- (1)標本数 2,000 人
- (2)回収数 1,123 人
- (3)回収率 56.2%

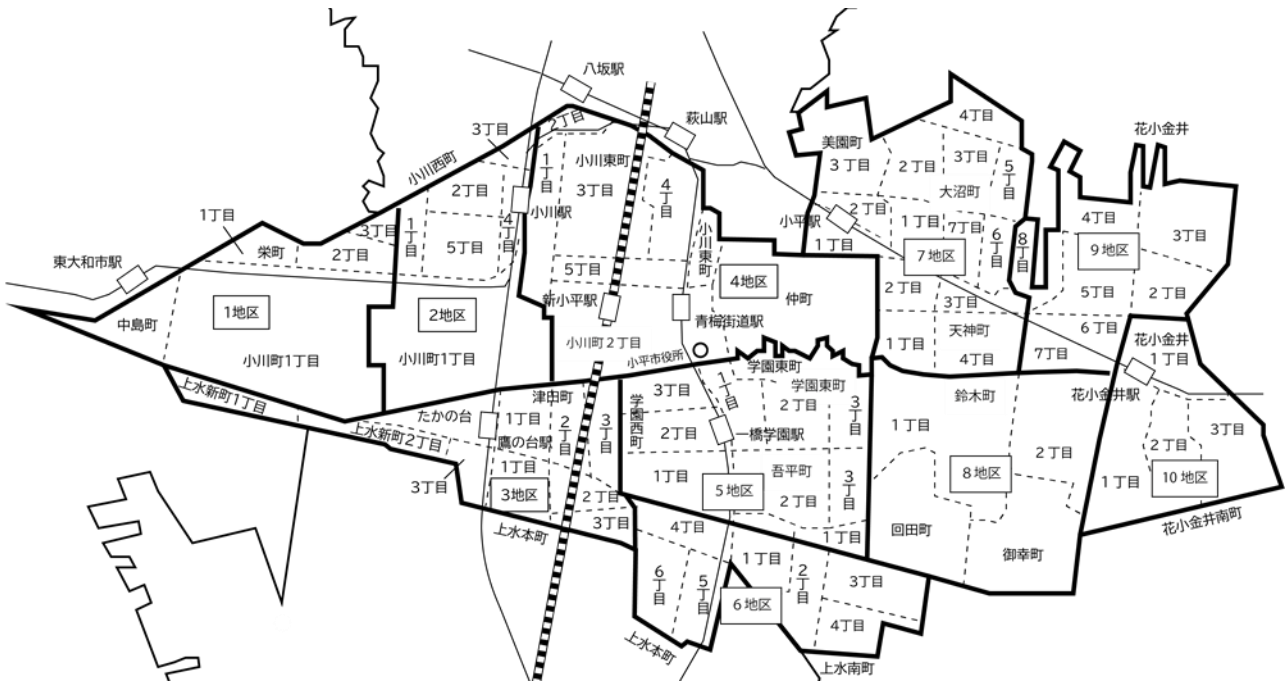
5 地区区分

地域的特性を把握するために、小平市内を10地区に分けた。この地区区分は、行政区分と市民の生活圏を重視し、利用交通機関などを参考にしている。

(1)地区内の該当町丁目

地区区分	該当町丁目
第1地区	中島町、栄町1～3丁目、小川町1丁目 73～741、2488～2599、上水新町1丁目
第2地区	小川西町1～5丁目、小川町1丁目(上記以外の地区)
第3地区	たかの台、津田町1～3丁目、上水新町2・3丁目、上水本町1～3丁目
第4地区	小川東町及び小川東町1～5丁目、小川町2丁目、仲町
第5地区	学園西町1～3丁目、学園東町及び学園東町1～3丁目、喜平町1～3丁目
第6地区	上水本町4～6丁目、上水南町1～4丁目
第7地区	美園町1～3丁目、大沼町1～7丁目、天神町1～4丁目
第8地区	鈴木町1・2丁目、回田町、御幸町
第9地区	花小金井2～8丁目
第10地区	花小金井1丁目、花小金井南町1～3丁目

(2)地区区分図



6 報告書の見方

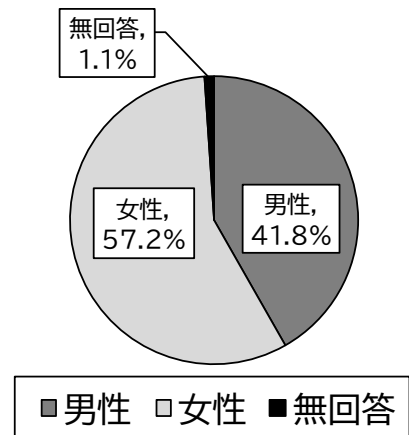
- (1)集計は、小数点第2位を四捨五入してある。このため、数値の合計が 100.0%に一致しない場合がある。
- (2)回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超えることがある。
- (3)基数となるべき実数(サンプル数)は「n」として掲載した。その際の比率は、nを 100.0%として算出した。
- (4)本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5)選択肢が多い設問の場合、クロス分析については上位6項目を分析対象とした。
- (6)「V 調査結果の集計表」では、最も多い構成比のものに着色をした。

II 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

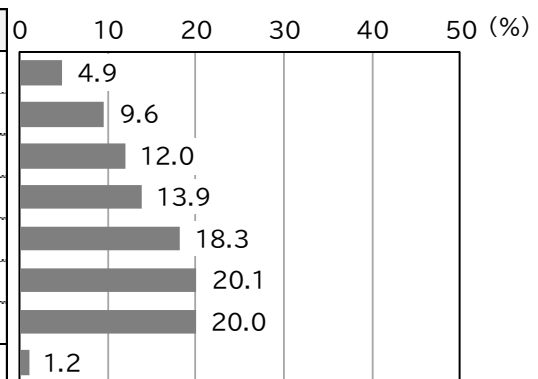
F1 性別

	n	構成比
男性	469	41.8%
女性	642	57.2%
無回答	12	1.1%
全体	1,123	100.0%



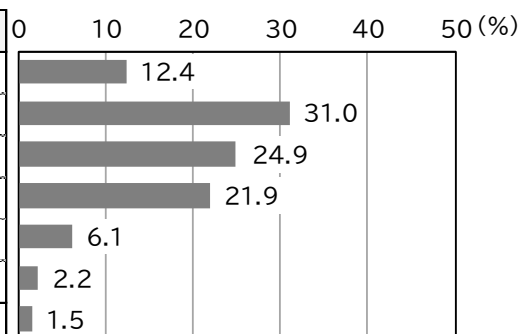
F2 年齢

	n	構成比
18～19歳	55	4.9%
20～29歳	108	9.6%
30～39歳	135	12.0%
40～49歳	156	13.9%
50～59歳	205	18.3%
60～69歳	226	20.1%
70歳以上	225	20.0%
無回答	13	1.2%
全体	1,123	100.0%

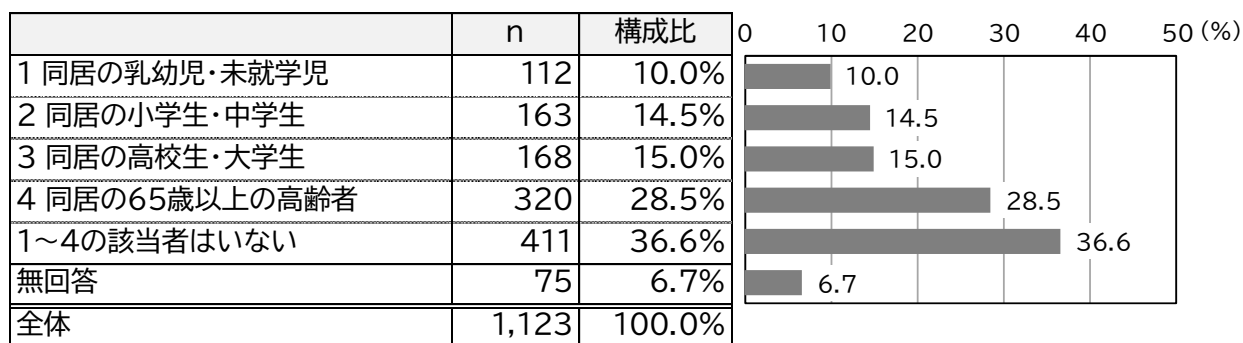


F3 家族人数

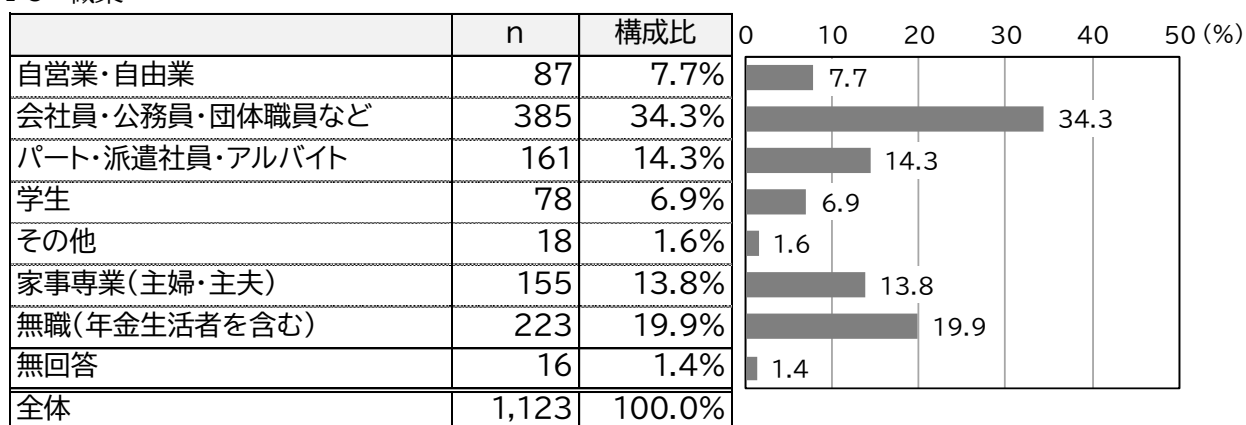
	n	構成比
1人	139	12.4%
2人	348	31.0%
3人	280	24.9%
4人	246	21.9%
5人	68	6.1%
6人以上	25	2.2%
無回答	17	1.5%
全体	1,123	100.0%



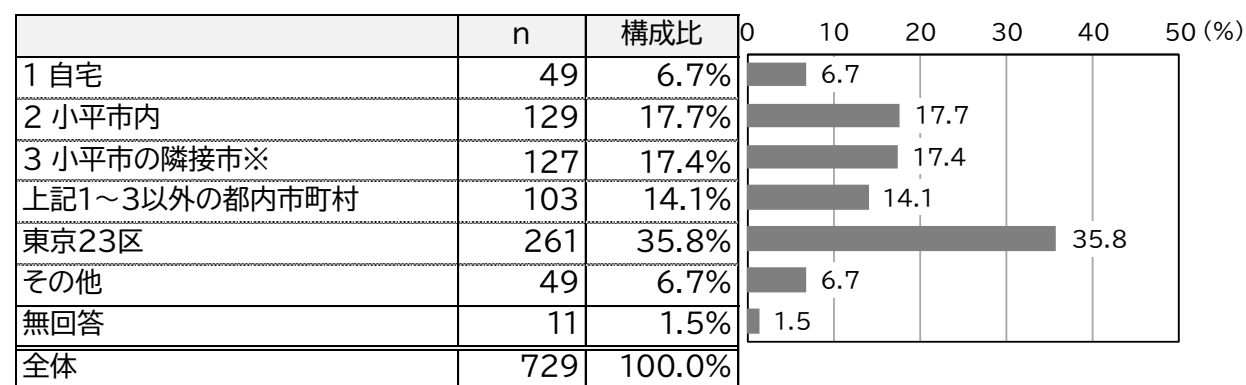
F4 同居家族



F5 職業



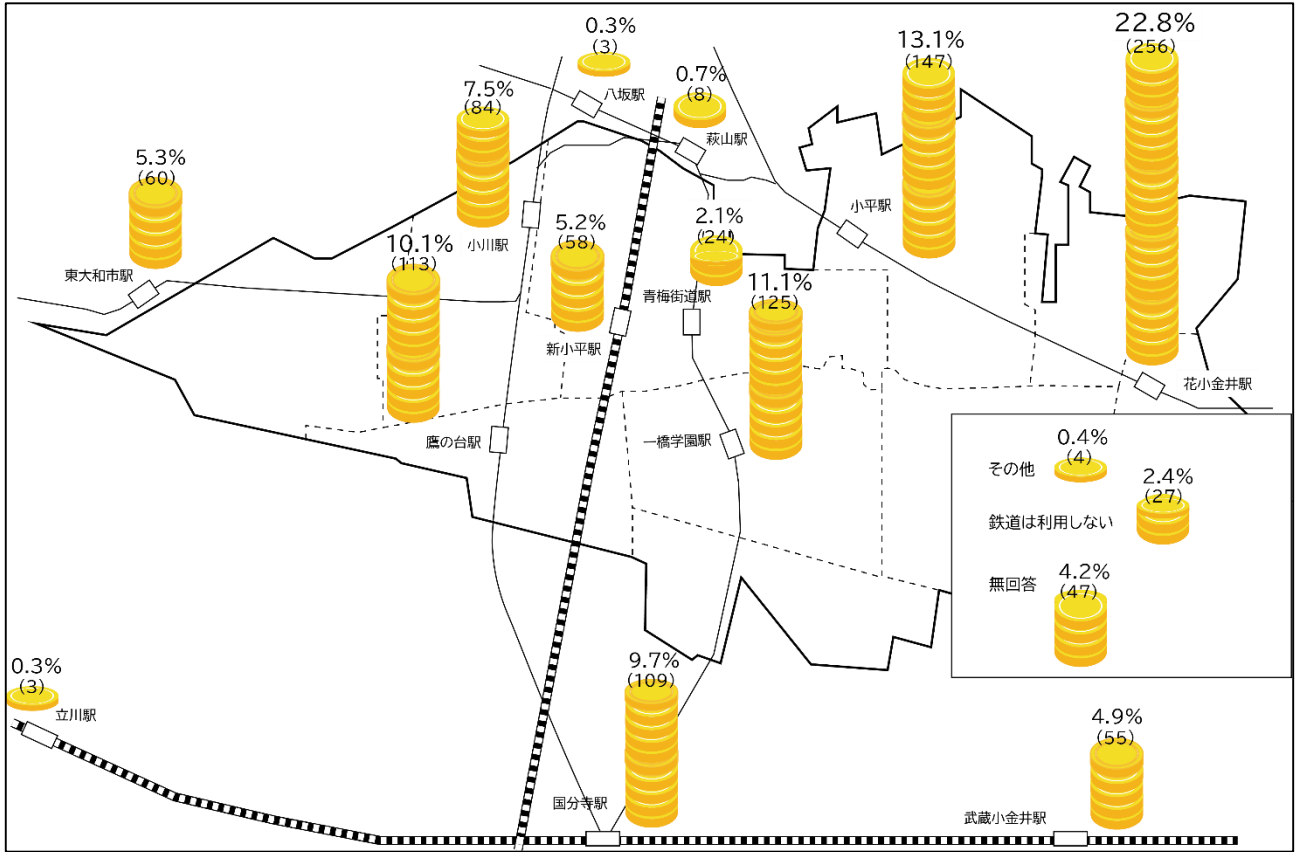
F6 勤務先、通学先



※小平市の隣接市とは、西東京市、東久留米市、東村山市、東大和市、立川市、国分寺市、小金井市のこと。

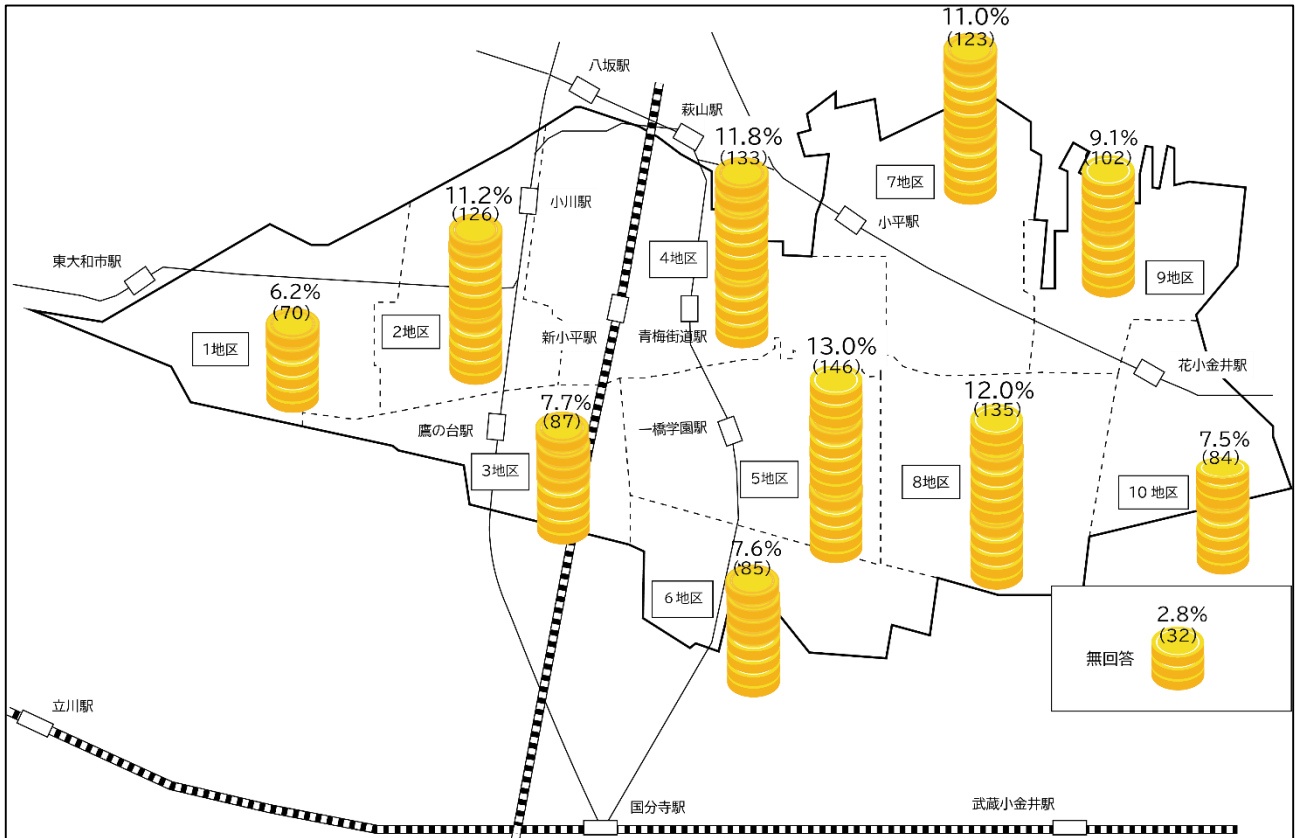
※「家事専業」及び「無職(年金生活者)」は非該当設問としている。

F7 鉄道の最寄り駅



(n=1,123)※地図上の()内にはnを記載

F8 居住地区



(n=1,123)※地図上の()内にはnを記載

地区区分	該当町丁目
第1地区	中島町、栄町1～3丁目、小川町1丁目 73～741、2488～2599、上水新町1丁目
第2地区	小川西町1～5丁目、小川町1丁目(上記以外の地区)
第3地区	たかの台、津田町1～3丁目、上水新町2・3丁目、上水本町1～3丁目
第4地区	小川東町及び小川東町1～5丁目、小川町2丁目、仲町
第5地区	学園西町1～3丁目、学園東町及び学園東町1～3丁目、喜平町1～3丁目
第6地区	上水本町4～6丁目、上水南町1～4丁目
第7地区	美園町1～3丁目、大沼町1～7丁目、天神町1～4丁目
第8地区	鈴木町1・2丁目、回田町、御幸町
第9地区	花小金井2～8丁目
第10地区	花小金井1丁目、花小金井南町1～3丁目

Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

1 定住意向について

問1【居住年数】 あなたは、小平市に住んで何年になりますか。(○は1つ)

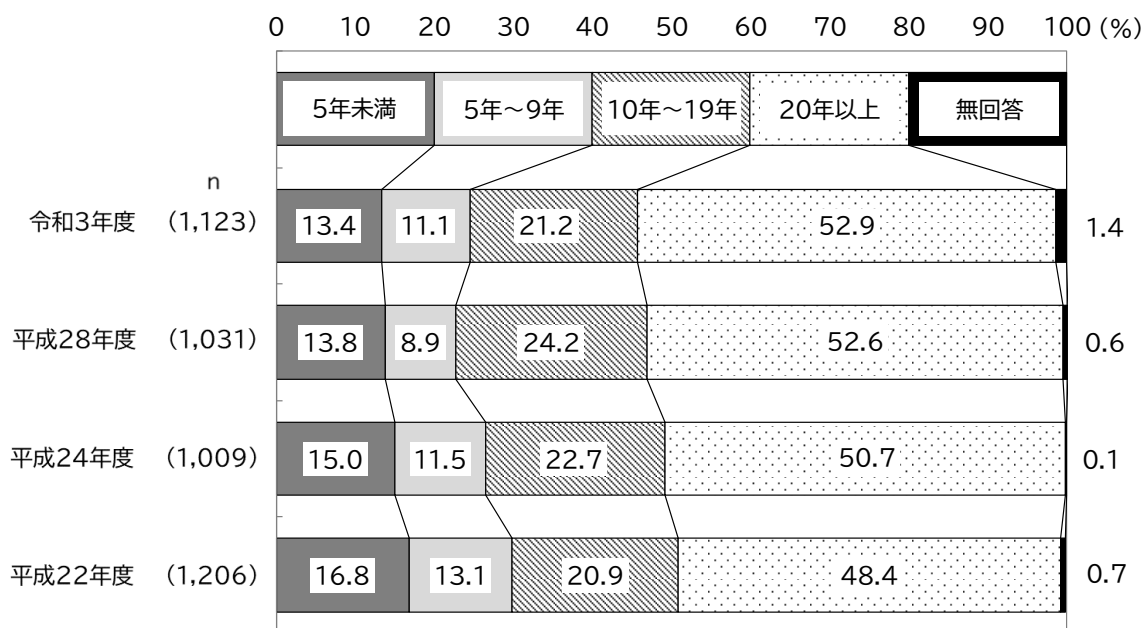
◇「20年以上」の長期居住者が過半数

居住年数は、「20年以上」の長期居住者が52.9%で最も多く、次いで、「10年～19年」(21.2%)、「5年未満」(13.4%)の順となっている。(図1-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、大きな変化はみられないが、「20年以上」の長期居住者の割合がやや増加傾向にあるのに対し、「5年未満」の居住年数が短い割合がやや減少傾向にある。(図1-1)

<図1-1>居住年数、時系列比較



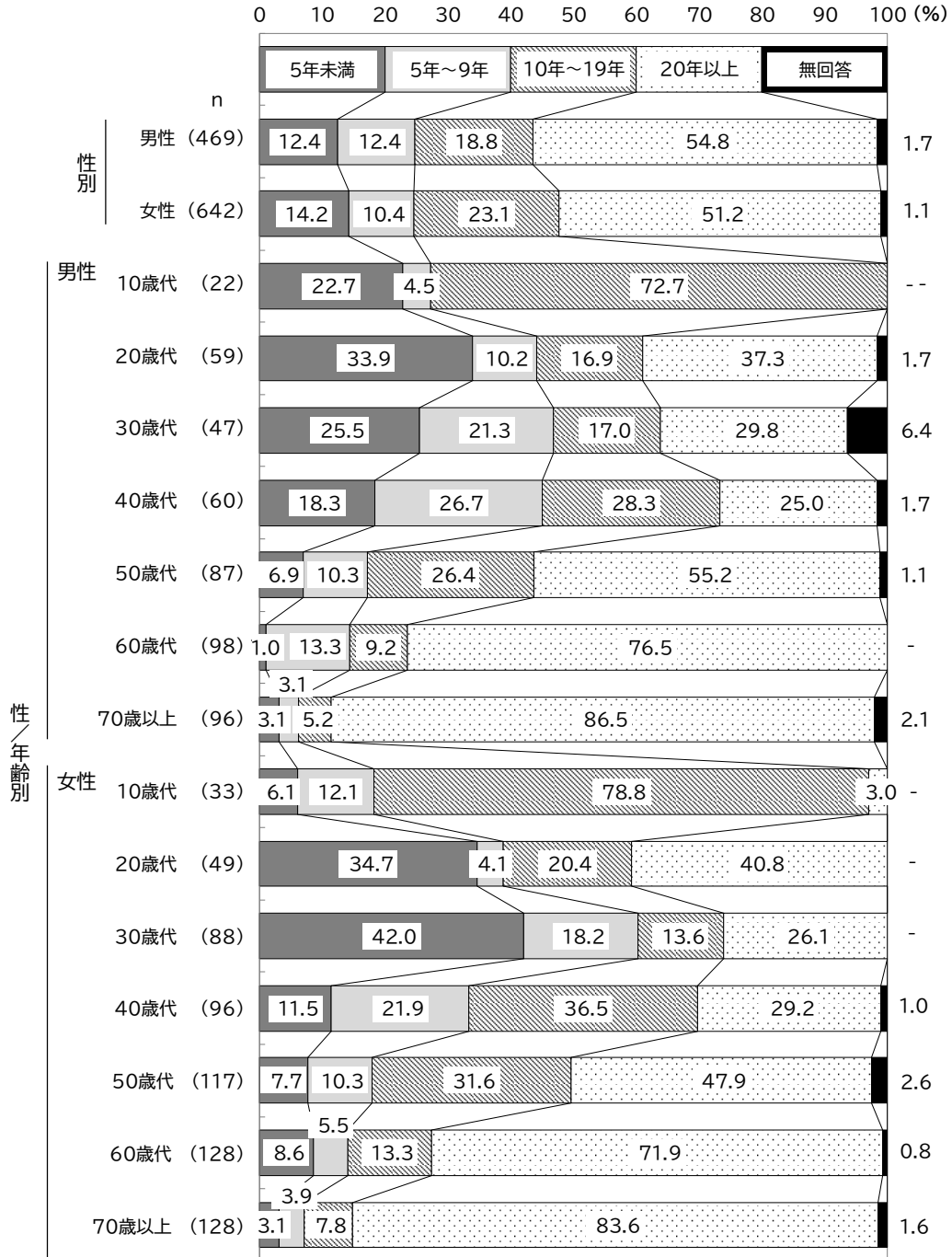
〈居住年数〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、「20年以上」の長期居住者が男女ともに過半数となっている。

性／年齢別にみると、「30歳代」では、男性は「20年以上」が29.8%で最も多いのに対し、女性は「5年未満」が42.0%で最も多く、男女間で差がみられる。(図1-2)

〈図1-2〉性別、性／年齢別



問2【住みよさ】 あなたは、現在の小平市を住みよいと思いますか。（○は1つ）

◇『住みよい』が8割強

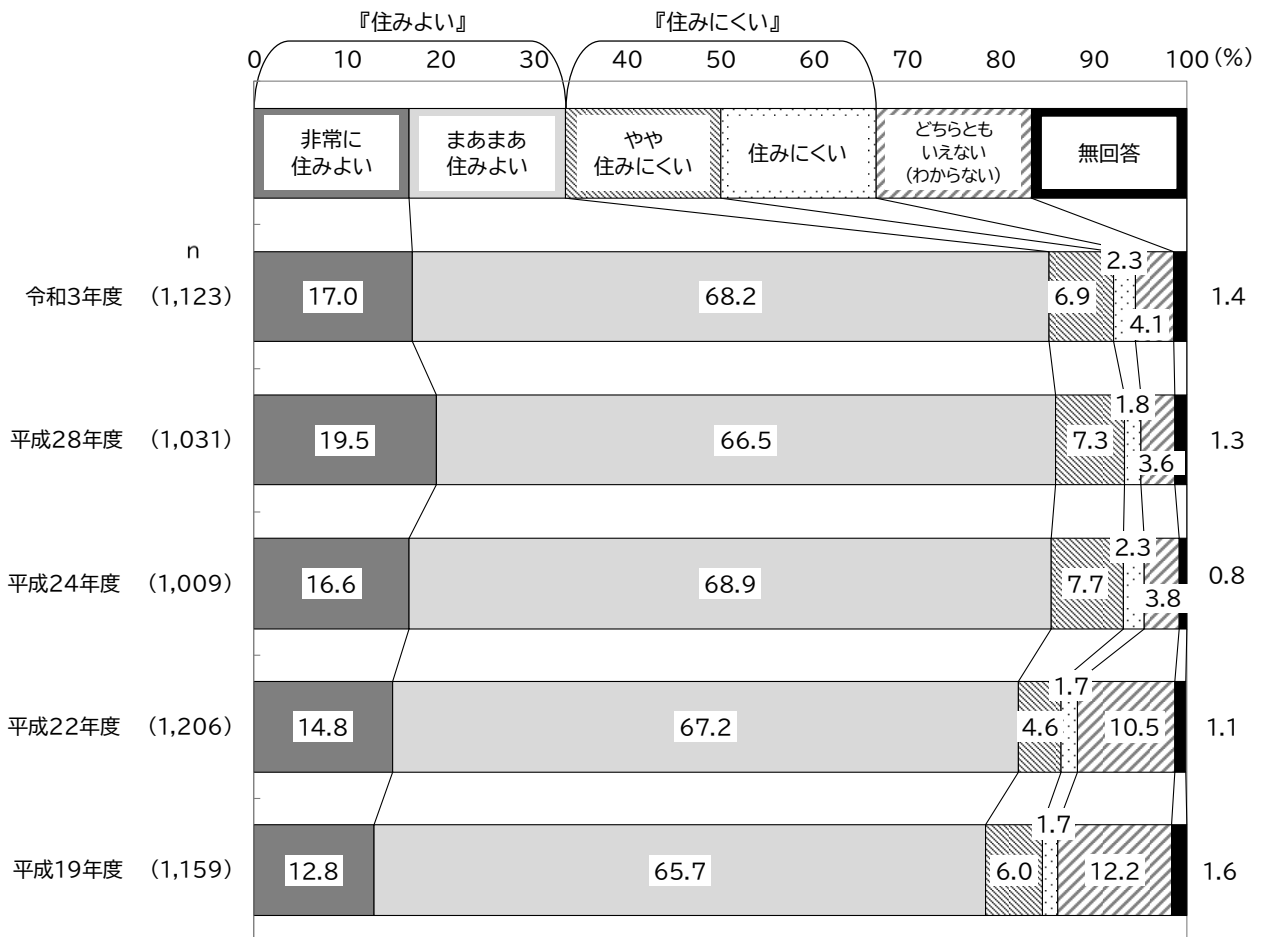
住みよさについて、「非常に住みよい」(17.0%)と「まあまあ住みよい」(68.2%)を合わせた『住みよい』については85.2%となっている。

一方、「やや住みにくい」(6.9%)と「住みにくい」(2.3%)を合わせた『住みにくい』は9.2%となっている。(図1-3)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「非常に住みよい」は前回調査の19.5%より2.5ポイント減少したものの、『住みよい』は、直近3回の調査とも大きな差はみられない。(図1-3)

<図1-3>住みよさ、時系列比較



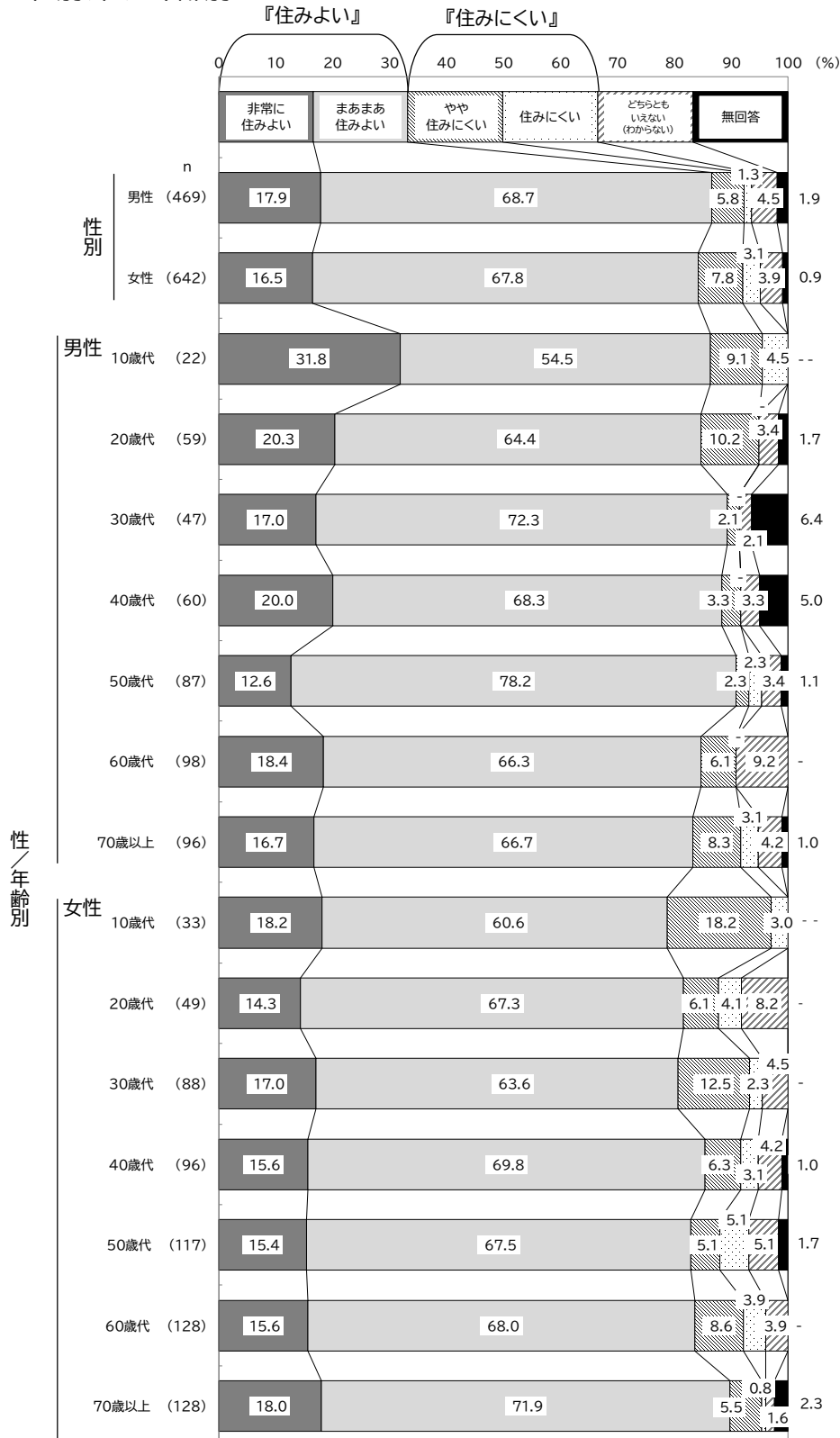
〈住みよき〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、『住みよい』は男性が 86.6%、女性は 84.3%でいずれも8割を超えており、大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、『住みよい』は男性では“50 歳代”が 90.8%、女性では“70 歳以上”が 89.9%でそれぞれ最も多くなっている。(図1-4)

〈図1-4〉性別、性／年齢別

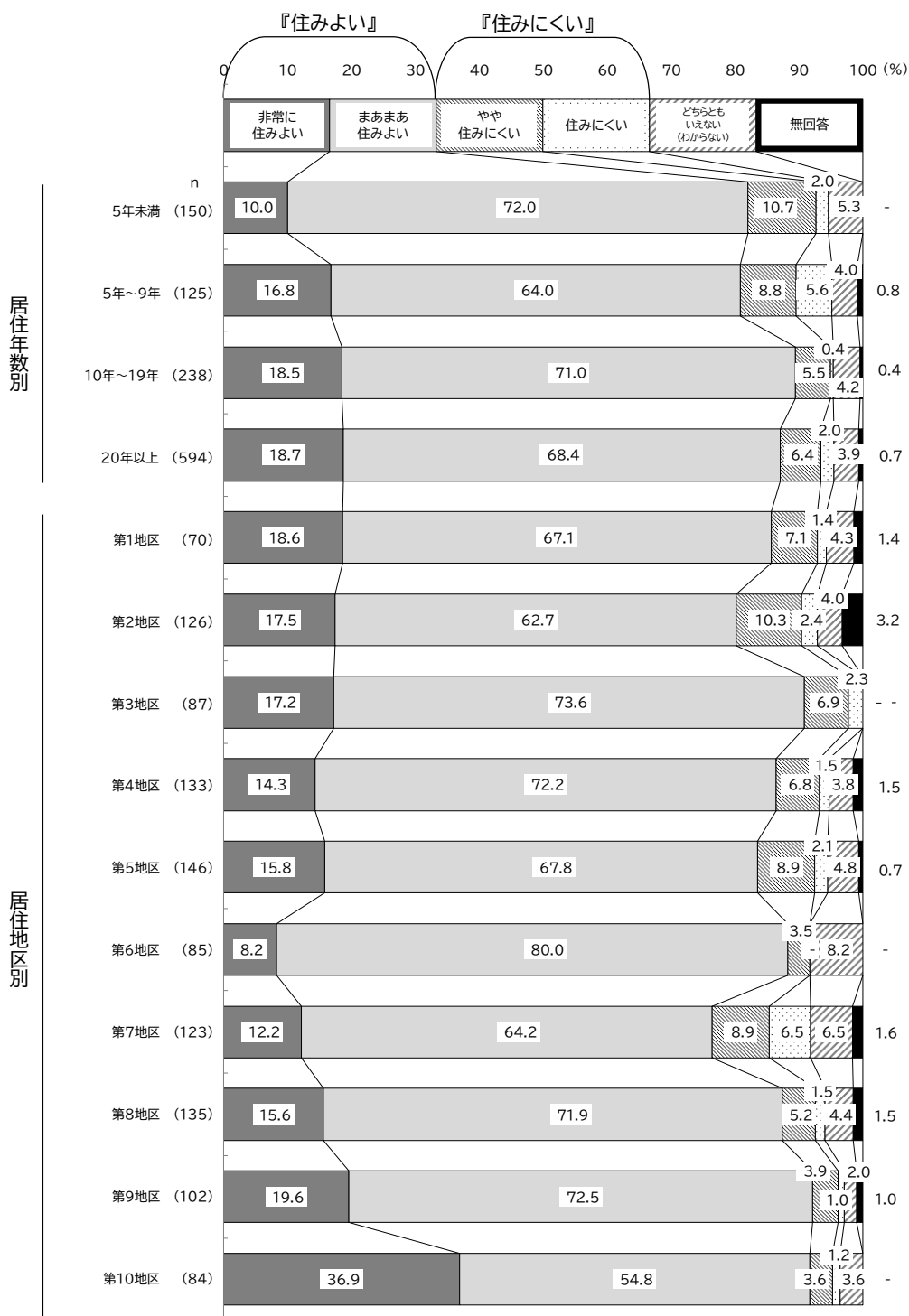


【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、いずれの年数でも『住みよい』が8割を超えており、最も多いのは“10年～19年”の89.5%となっている。

居住地区別にみると、『住みよい』が最も多いのは“第9地区”の92.1%となり、次いで“第10地区”(91.7%)、“第3地区”(90.8%)となっている。(図1-5)

<図1-5>居住年数別、居住地区別

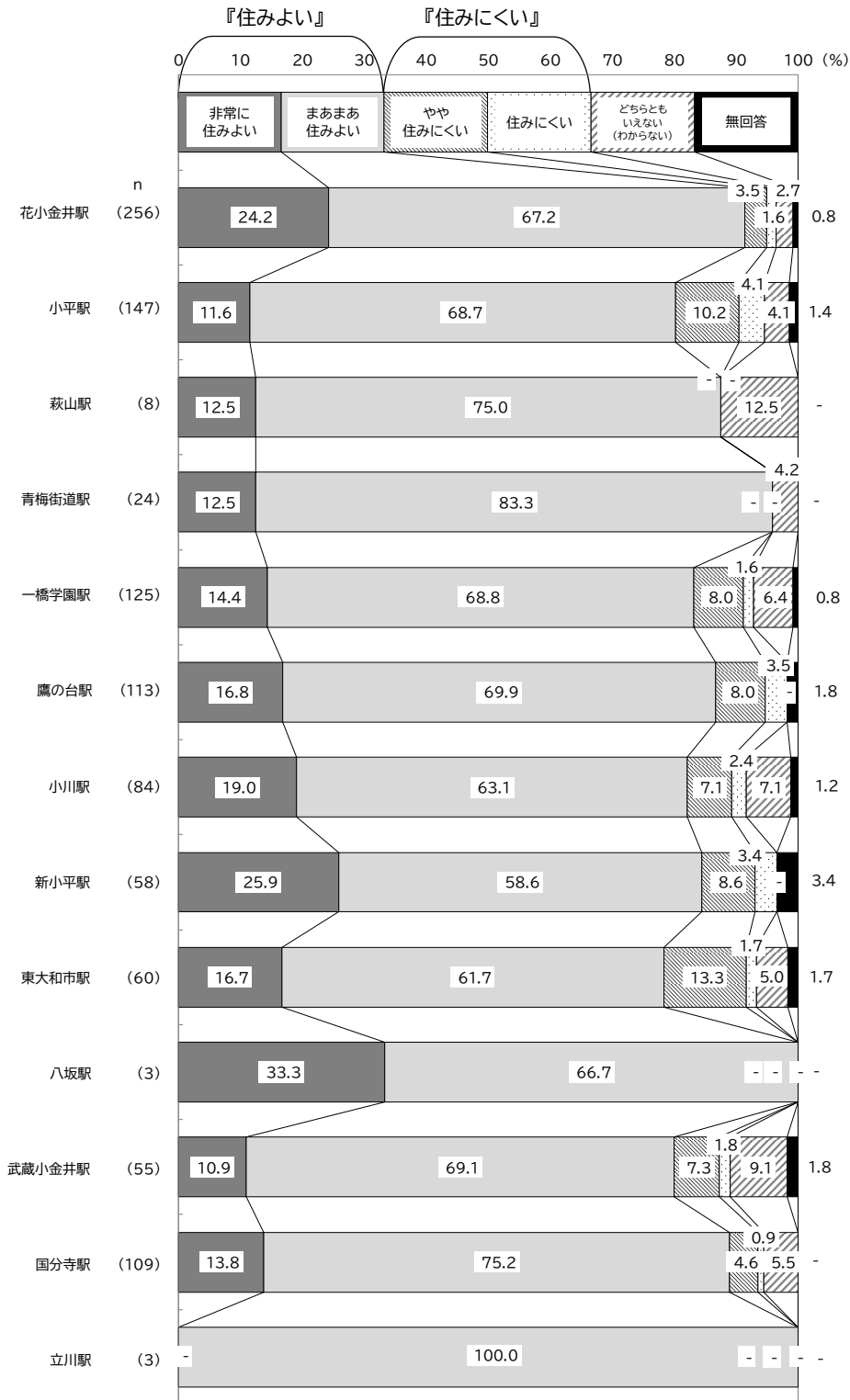


〈住みよき〉

【鉄道の最寄り駅別】

鉄道の最寄り駅別にみると、“東大和市駅”を除くすべての駅で『住みよい』が8割以上となっている。(図1-6)

〈図1-6〉鉄道の最寄り駅別



問3【定住意向】 あなたは、これからも小平市にお住まいになりますか。(住み続けたいと思いますか。)(○は1つ)

◇『住み続けたい』が約8割

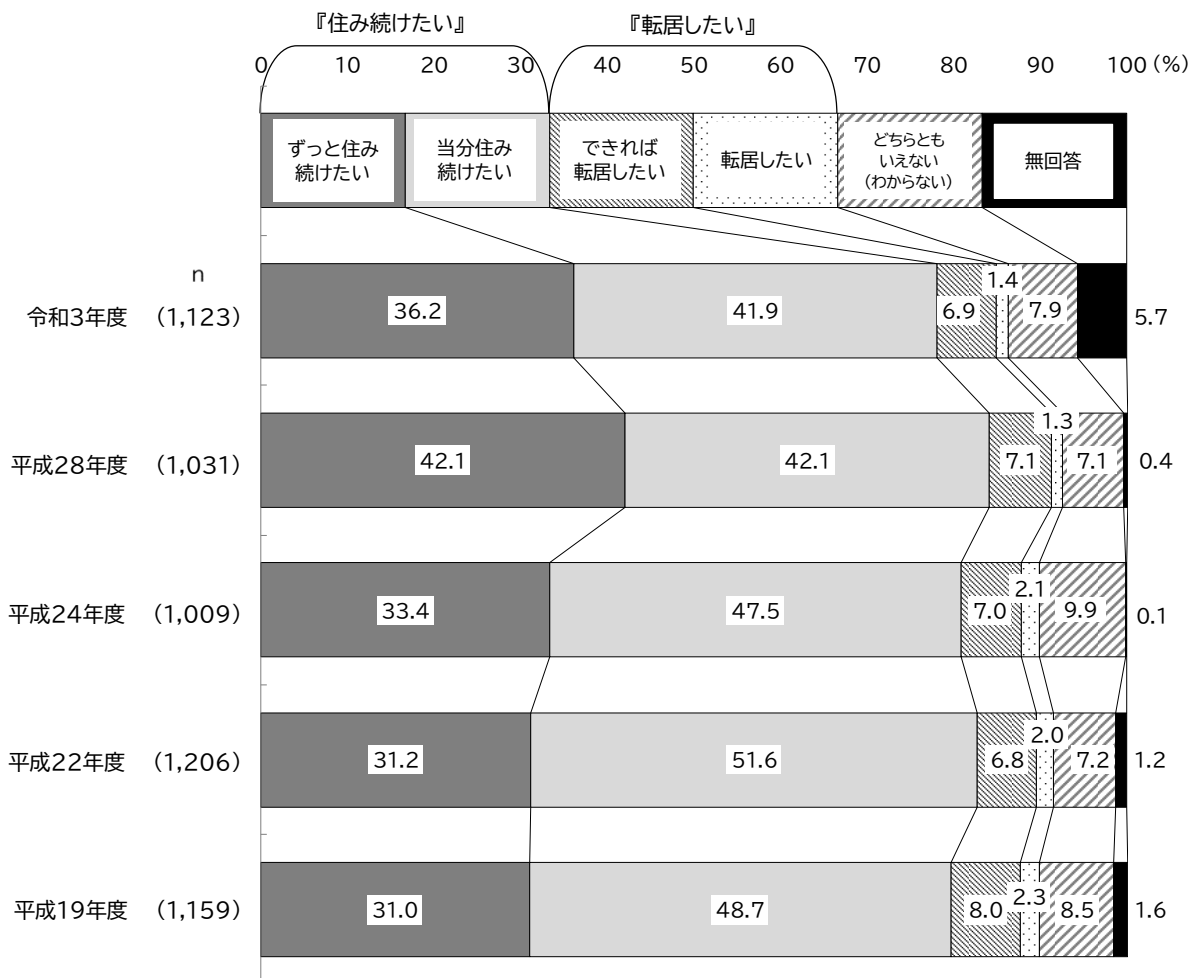
定住意向について、「ずっと住み続けたい」(36.2%)と「当分住み続けたい」(41.9%)を合わせた『住み続けたい』については78.1%となっている。

一方、「できれば転居したい」(6.9%)と「転居したい」(1.4%)を合わせた『転居したい』は8.3%となっている。(図1-7)

【時系列比較】

時系列で比較すると、『住み続けたい』については、前回調査までは割合が多くなる傾向にあったが、今回調査では前回調査(84.2%)と比べ6.1ポイント減少した。(図1-7)

<図1-7>定住意向、時系列比較



〈定住意向〉

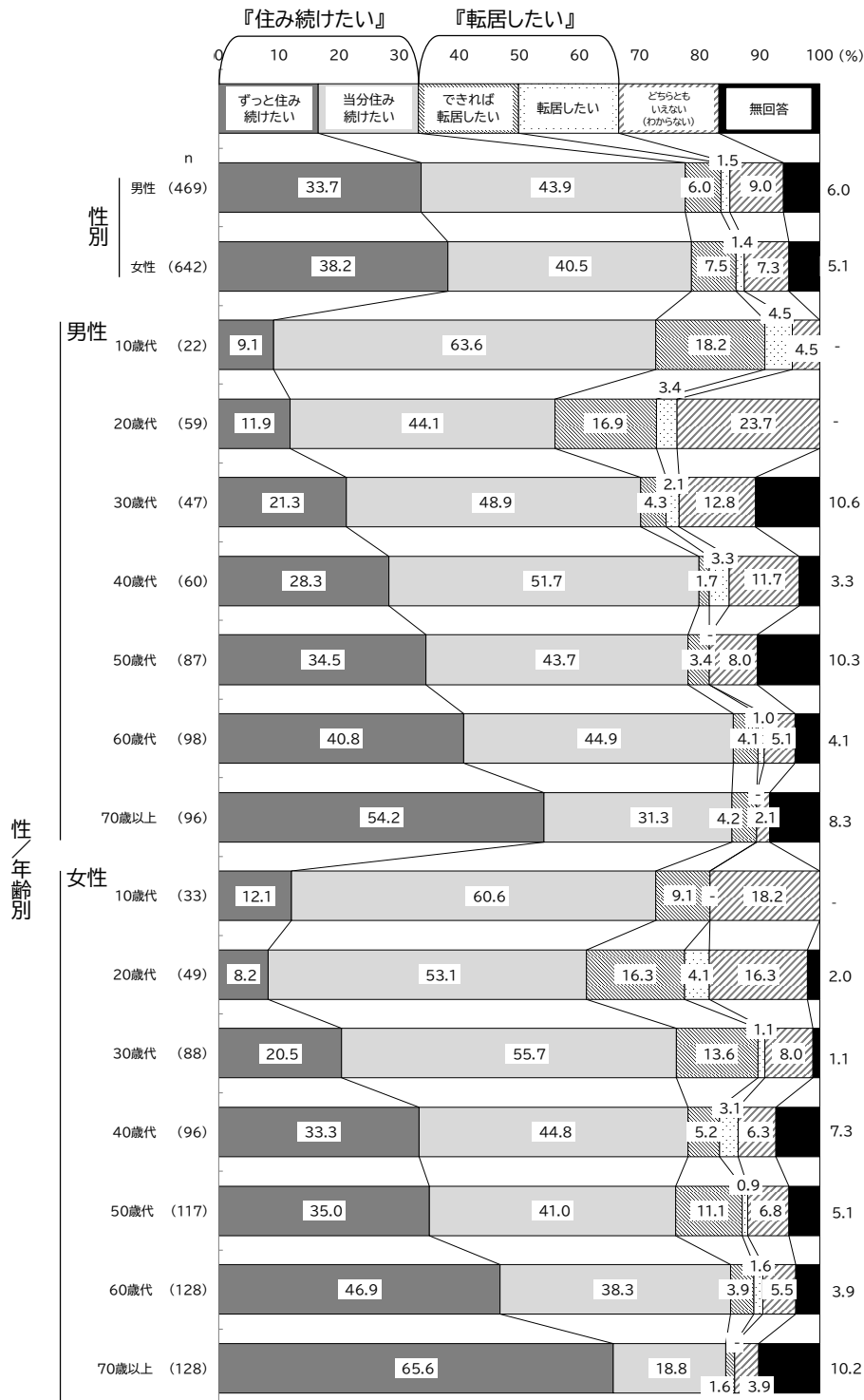
【性別、性／年齢別】

性別にみると、『住み続けたい』は男性が 77.6%、女性は 78.7%でいずれも約8割となり、大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、『住み続けたい』は男女ともに“60 歳代”が最も多く、次いで“70 歳以上”となっており、いずれも8割を超えており、高齢者層の定住意向の高さがうかがえる。

一方、『転居したい』は男性では“10 歳代”と“20 歳代”、女性では“20 歳代”で2割を超えており、全体(8.3%)と比べて高くなっている。(図1—8)

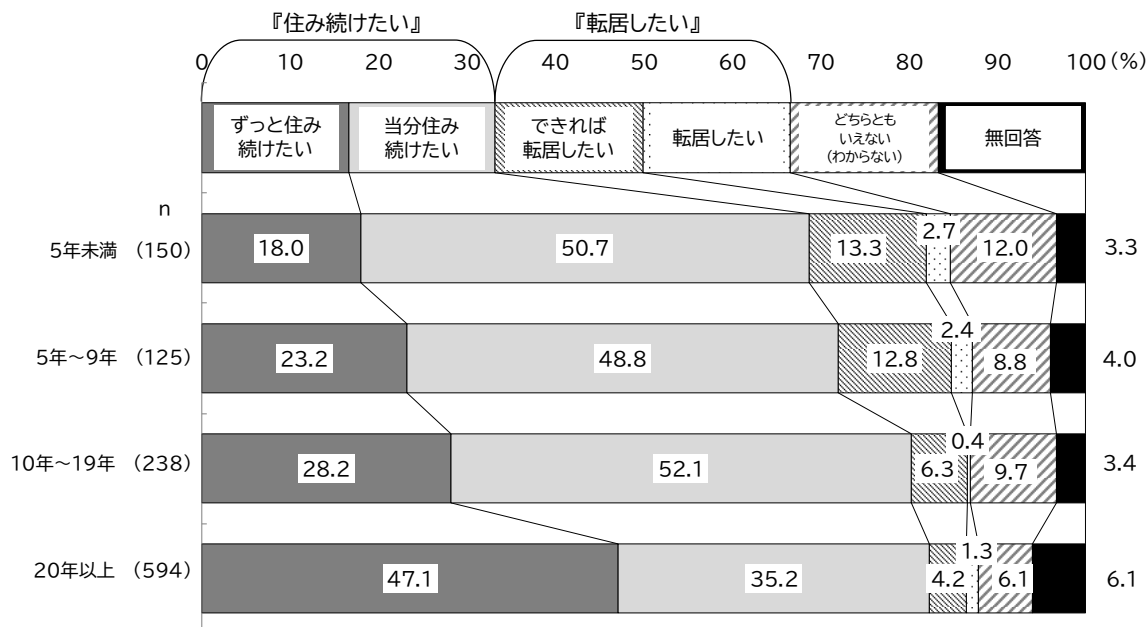
〈図1—8〉性別、性／年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、『住み続けたい』の割合は居住年数が長くなるにつれて高くなっており、“20年以上”では82.3%となっている。(図1-9)

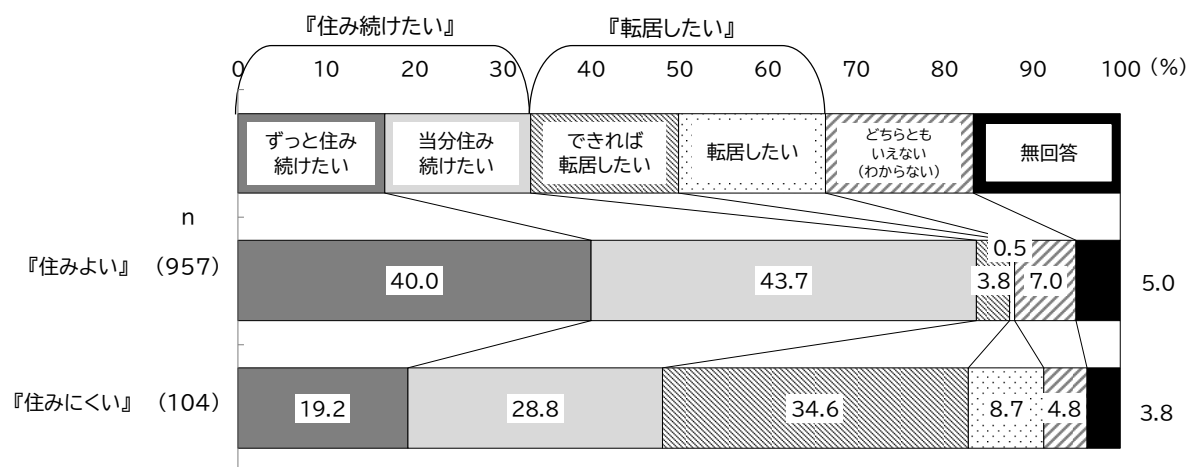
〈図1-9〉居住年数別



【住みよさ別】

住みよさ別にみると、『住み続けたい』の割合は、現在の小平市が“住みよい”と答えた人では83.7%である一方、現在の小平市が“住みにくい”と答えた人では48.0%と半数以下となっており、大きな差がみられる。(図1-10)

〈図1-10〉住みよさ別



(問3で「1」「2」と答えた方におたずねします。)

問3-1【住み続けたい理由】 あなたが、そう思う理由は何ですか。(○は3つまで)

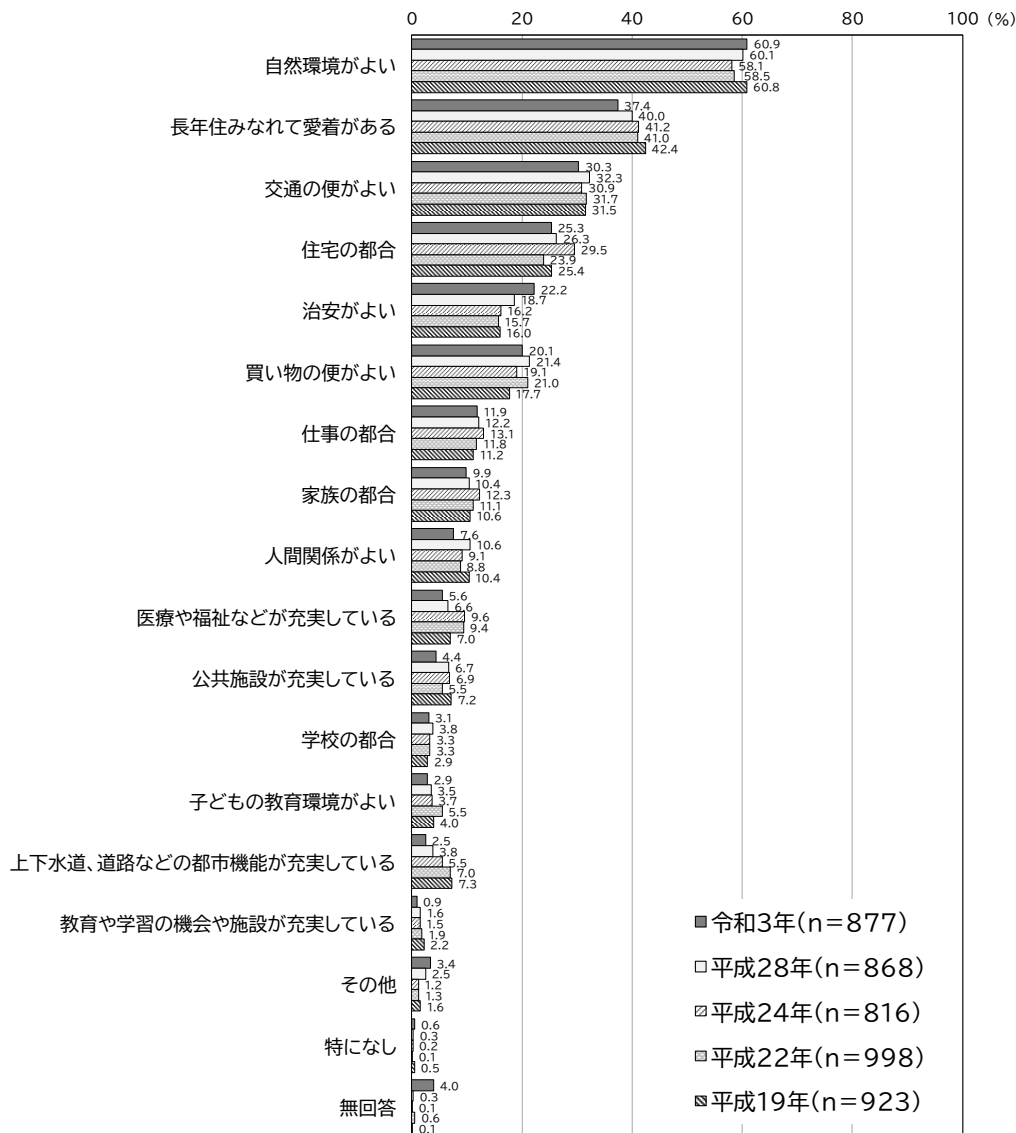
◇「自然環境がよい」が60.9%で最も多い

住み続けたい理由は、「自然環境がよい」が60.9%で最も多く、次いで、「長年住みなれて愛着がある」(37.4%)、「交通の便がよい」(30.3%)の順となっている。(図1-11)

【時系列比較】

時系列で比較すると、最も増加したのは「治安がよい」で、前回調査(18.7%)から3.5ポイント増加した。一方、最も減少したのは、「人間関係がよい」で、前回調査(10.6%)より3.0ポイント減少した。(図1-11)

<図 1-11>住み続けたい理由、時系列比較



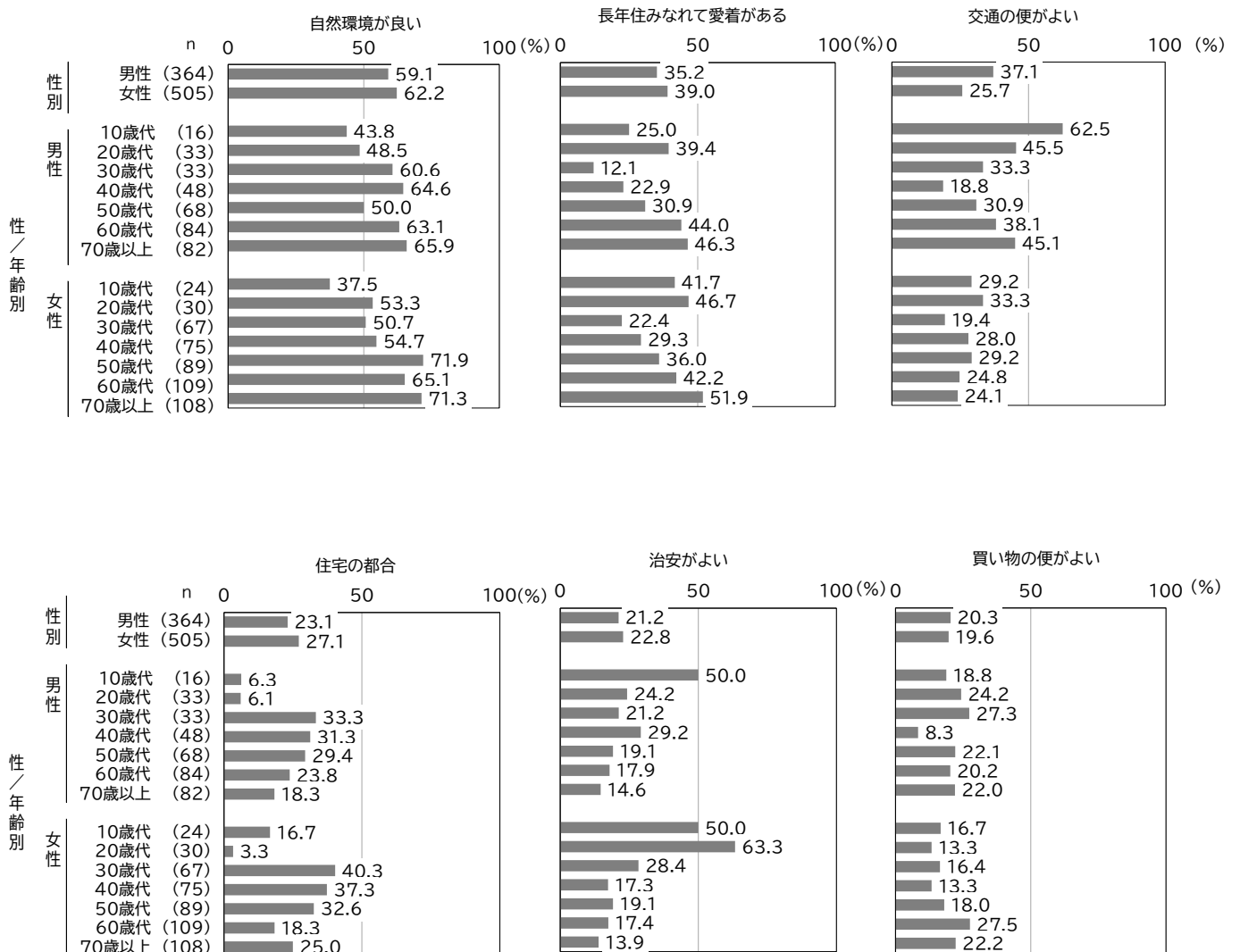
【性別、性／年齢別】

性別にみると、男女ともに「自然環境がよい」が約6割で最も多いが、次いで、男性では「交通の便がよい」(37.1%)、「長年住みなれて愛着がある」(35.2%)の順となっている一方、女性では「長年住みなれて愛着がある」(39.0%)、「住宅の都合」(27.1%)の順となっている。

性／年齢別にみると、「自然環境がよい」は全体的に多くなっており、特に女性の“50 歳代”、“70 歳以上”では7割以上となっている。

男性の“10 歳代”では「交通の便がよい」が 62.5%となり、他の年代に比べて特に高くなっている。「住宅の都合」は、女性の“30 歳代”、“40 歳代”が全体(25.3%)と比べて 10 ポイント以上高くなっている。また、「治安がよい」は、男性の“10 歳代”、女性の 20 歳代以下で半数以上となっており、若い世代の需要が高いことがわかる。全体的に、年代ごとに住み続けたい理由にはばらつきがみられる。(図1-12)

<図1-12>性別、性／年齢別



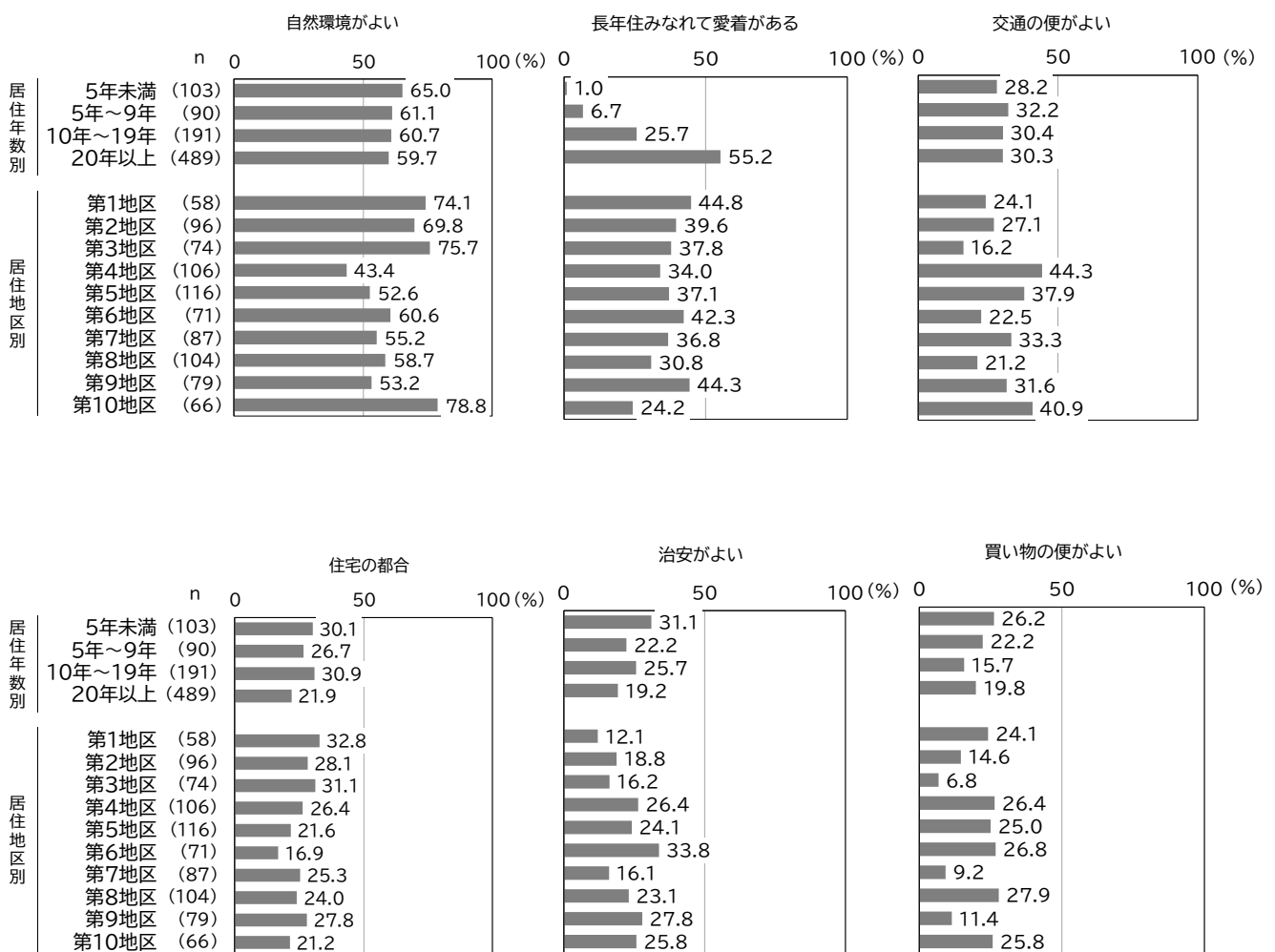
〈住み続けたい理由〉

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、「長年住みなれて愛着がある」は居住年数が長くなるにつれて高くなっており、「20年以上」では55.2%となっている。

居住地区別にみると、「長年住みなれて愛着がある」は、「第10地区」では24.2%となり、全体(37.4%)と比べて13.2ポイント低くなっている。「交通の便がよい」は、「第4地区」、「第10地区」では4割以上となり、他の地区に比べて高くなっている。「治安がよい」は、「第6地区」が33.8%となり、10地区のうち唯一3割以上となっている。「買い物の便がよい」が2割以上となっているのは、10地区中6地区となっている。(図1-13)

〈図1-13〉居住年数別、居住地区別



(問3で「3」「4」と答えた方におたずねします。)

問3-2【転居したい理由】 あなたが、そう思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

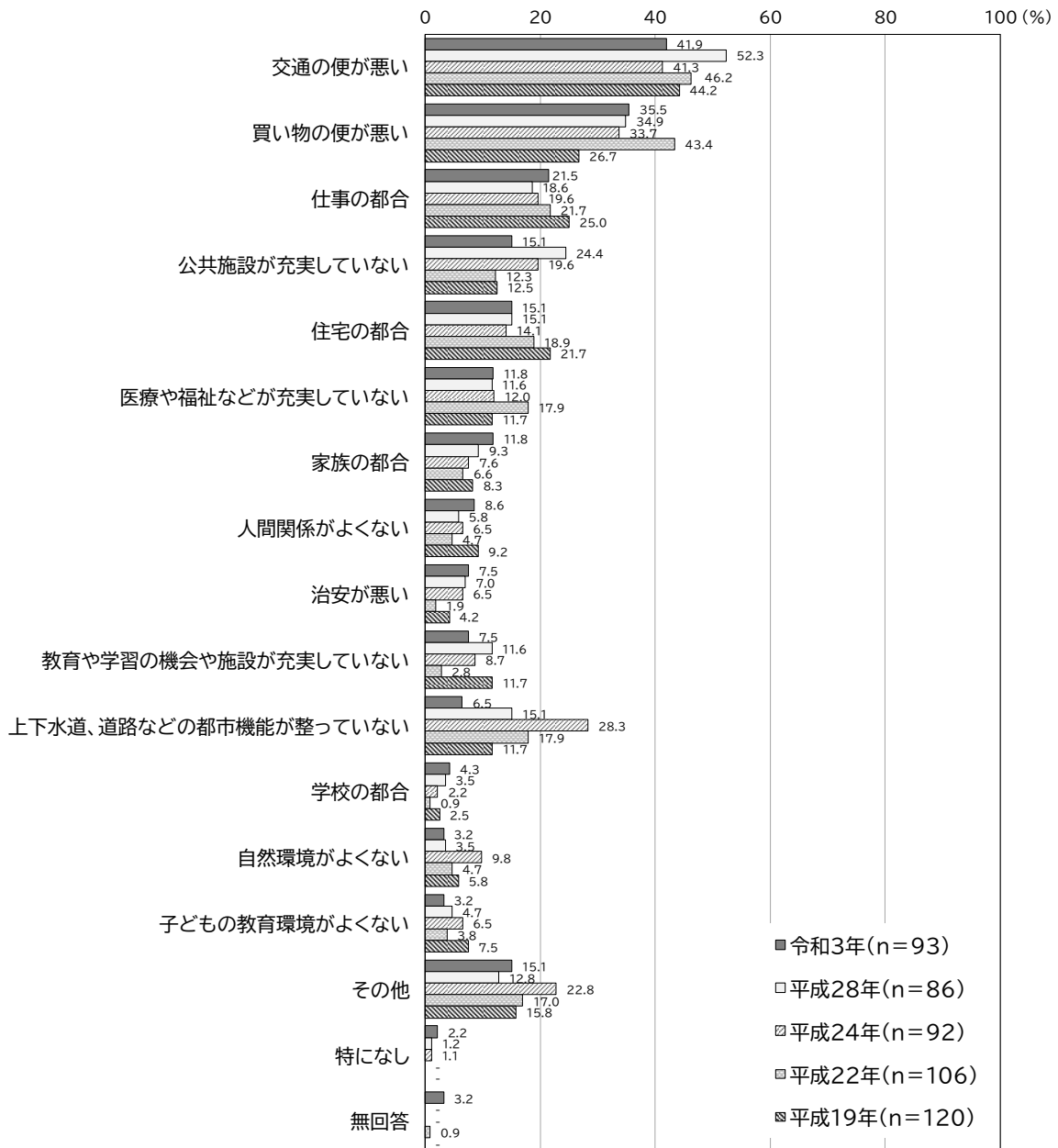
◇「交通の便が悪い」が41.9%で最も多い

転居したい理由は、「交通の便が悪い」が41.9%で最も多く、次いで、「買い物の便が悪い」(35.5%)、「仕事の都合」(21.5%)の順となっている。(図1-14)

【時系列比較】

時系列で比較すると、前回調査と比較して、「交通の便が悪い」が10.4ポイント、「公共施設が充実していない」が9.3ポイント、「上下水道、道路などの都市機能が整っていない」が8.6ポイントと、大幅に減少している。(図1-14)

<図1-14>転居したい理由、時系列比較



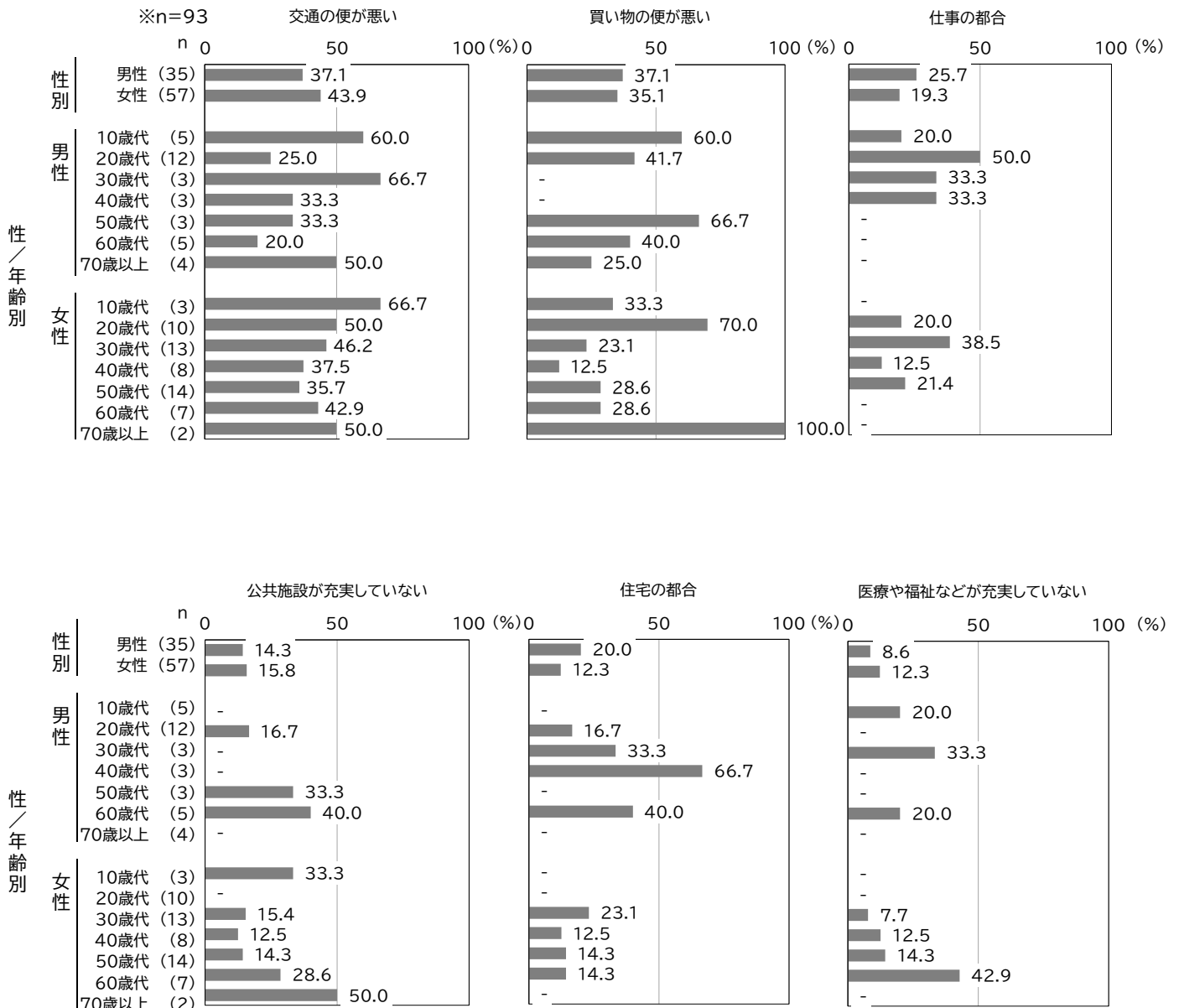
〈転居したい理由〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、「交通の便が悪い」は、女性が43.9%となり、男性(37.1%)より6.8ポイント高くなっている。また、「仕事の都合」は6.4ポイント、「住宅の都合」は7.7ポイント、それぞれ男性が女性に比べて高くなっている。

性／年齢別は回答者数が少ないため、参考とする。(図1-15)

<図1-15>性別、性／年齢別

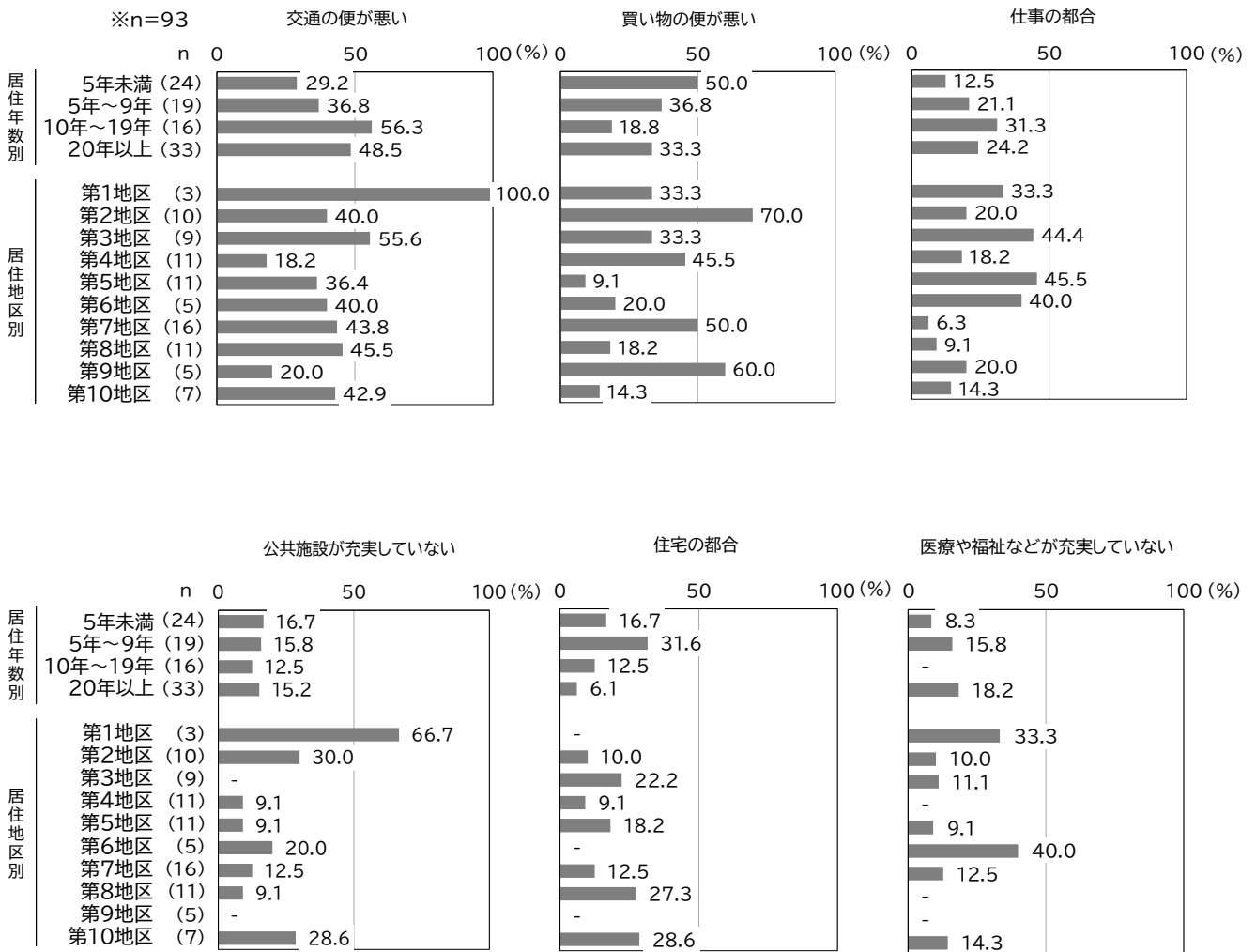


【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、“5年未満”では「買い物の便が悪い」が 50.0%、“10年～19年”では「交通の便が悪い」が 56.3%とそれぞれ半数以上となっており、他の居住年数に比べて高くなっている。

居住地区別は回答者数が少ないため、参考とする。(図1-16)

<図1-16>居住年数別、居住地区別



2 生活環境について

問4【生活環境評価】 あなたのお住まいの周辺的环境について、どの程度満足していますか。

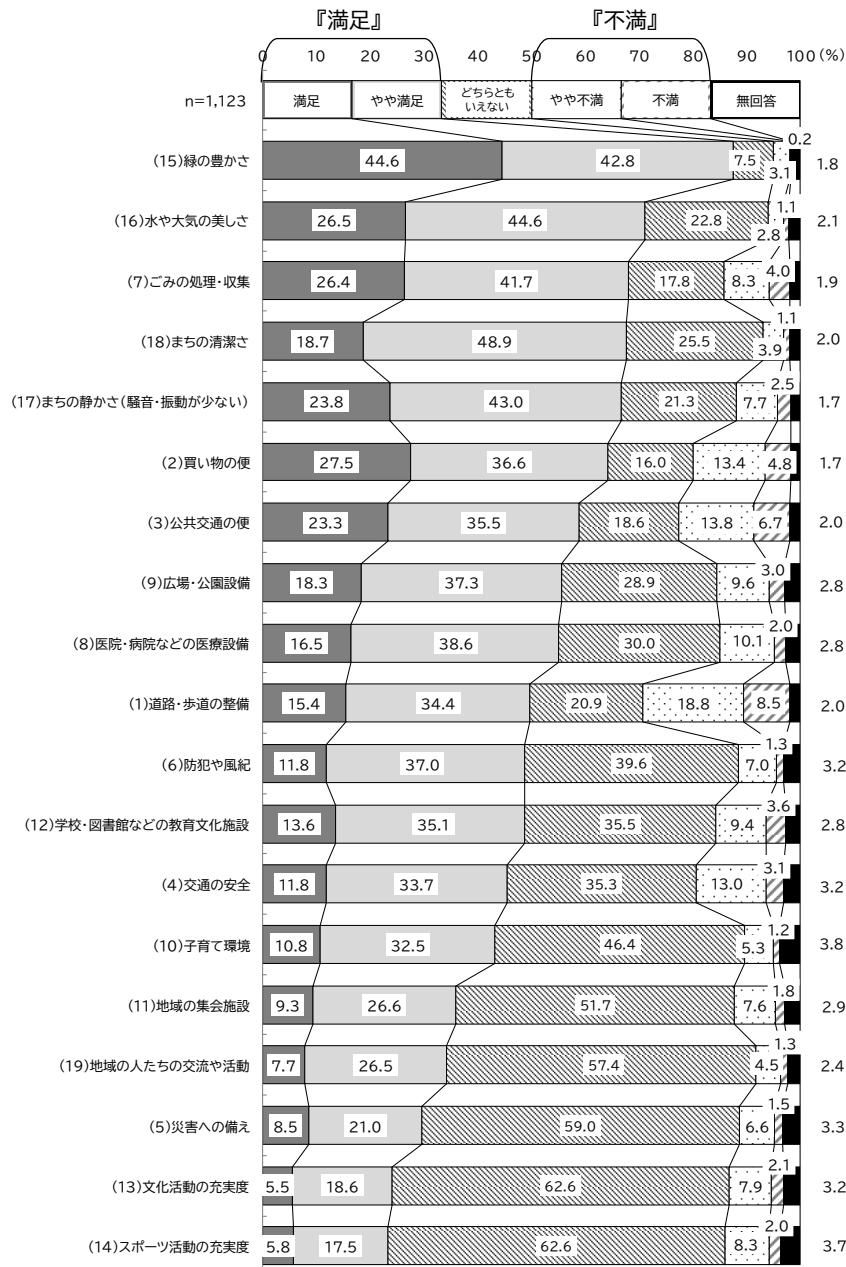
(満足度5段階から選択、○は各設問に1つ)

◇『満足』は「緑の豊かさ」が 87.4%で最も多い

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』について、「緑の豊かさ」(87.4%)、「水や大気的美しさ」(71.1%)、「ごみの処理・収集」(68.1%)の順となっている。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』については、「道路・歩道の整備」(27.3%)、「公共交通の便」(20.5%)、「買い物の便」(18.2%)の順となっている。(図 2-1)

<図 2-1>生活環境評価



「満足」と「やや満足」の合計を『満足』、「やや不満」と「不満」の合計を『不満』として、それぞれの上位5項目を列挙すると次のようになる。

順位	『満足』		順位	『不満』	
1	緑の豊かさ	87.4%	1	道路・歩道の整備	27.3%
2	水や大気的美しさ	71.1%	2	公共交通の便	20.5%
3	ごみの処理・収集	68.1%	3	買い物の便	18.2%
4	まちの清潔さ	67.6%	4	交通の安全	16.1%
5	まちの静かさ(騒音・振動が少ない)	66.8%	5	学校・図書館などの教育文化施設	13.0%

【時系列比較】(項目が変更されているため、参考値)

時系列で比較すると、『満足』は、過去の調査においても「緑の豊かさ」が最も多くなっており、割合は増加傾向で推移している。

『不満』は、上位4項目が前回調査と同じになっているが、5位が「医院・病院などの医療設備」から「学校・図書館などの教育文化施設」となった。

【平成28年度】

順位	『満足』		順位	『不満』	
1	緑の豊かさ	83.9%	1	道路・歩道の整備	26.8%
2	ごみの処理・収集	77.2%	2	公共交通(電車・バス)の便	25.6%
3	買い物の便	61.7%	3	買い物の便	21.6%
4	公共交通(電車・バス)の便	56.0%	4	交通の安全	18.2%
5	医院・病院などの医療設備	54.6%	5	医院・病院などの医療設備	14.0%

【評価点(加重平均値)】

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times \blacktriangle 5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times \blacktriangle 10 \text{点}}{\text{回答者数(無回答を除く)}}$$

この算出方法では、評価点は+10.00点～▲10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど「満足」との評価は高くなり、逆に、▲10.00点に近くなるほど「不満」との評価が高くなる。(表2-1)

これによる評価点の高いものと、低いものの上位5項目は次のようになっている。

順位	『高いもの』		順位	『低いもの』	
1	緑の豊かさ	+6.55	1	スポーツ活動の充実度	+0.87
2	水や大気的美しさ	+4.74	2	文化活動の充実度	+0.90
3	まちの清潔さ	+4.09	3	災害への備え	+1.47
4	ごみの処理・収集	+3.98	4	道路・歩道の整備	+1.49
5	まちの静かさ(騒音・振動が少ない)	+3.96	5	地域の集会施設	+1.76

〈生活環境評価〉

【評価点(加重平均値)】

<表2-1>時系列比較・性別・性／年齢別・居住地区別

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		道路・歩道の整備	買い物物の便	公共交通の便	交通の安全	災害への備え	防犯や風紀	ごみの処理・収集	医院・病院などの医療設備	広場・公園設備	子育て環境	地域の集会施設	学校・図書館などの教育文化施設	文化活動の充実度	スポーツ活動の充実度	緑の豊かさ	水や大気的美しさ	まちの静かさ(騒音・振動が少ない)	まちの清潔さ	地域の人たちの交流や活動
令和3年度		1.49	3.49	2.81	1.96	1.47	2.63	3.98	2.95	3.00	2.41	1.76	2.35	0.90	0.87	6.55	4.74	3.96	4.09	1.78
平成28年度		1.50	2.86	2.22	1.63	1.06	2.23	5.09	2.68	2.72	1.84	2.13	2.68	1.11	0.99	6.01	-	-	-	1.74
平成24年度		1.06	2.74	2.11	0.75	0.48	1.83	4.68	2.59	2.56	1.66	1.94	2.30	0.93	0.58	5.74	-	-	-	1.51
平成22年度		0.82	2.38	2.39	0.93	0.92	1.68	4.39	2.23	2.54	1.88	2.03	2.84	0.96	0.77	6.08	-	-	-	1.58
性別	男性	1.29	3.92	3.57	1.69	1.62	2.77	3.82	3.22	3.05	2.60	1.89	2.65	1.00	0.89	6.26	4.72	3.93	3.93	1.78
	女性	1.66	3.13	2.29	2.18	1.38	2.55	4.14	2.78	2.96	2.27	1.66	2.14	0.87	0.85	6.75	4.75	3.98	4.20	1.78
年齢別	10歳代	2.95	2.95	3.18	3.41	4.32	3.18	4.32	3.64	4.09	4.55	2.95	5.23	3.41	2.27	5.91	5.68	4.55	5.23	3.41
	20歳代	2.20	4.40	3.98	2.76	2.63	4.15	4.15	4.58	3.14	2.59	2.20	3.81	1.69	1.29	5.69	4.41	3.98	3.90	2.46
	30歳代	0.34	3.86	2.91	▲0.12	1.93	2.33	3.75	3.64	4.09	2.27	2.05	2.61	0.57	0.12	6.70	4.66	3.86	4.43	1.48
	40歳代	1.81	4.24	3.14	2.03	2.12	3.79	3.31	2.59	3.31	2.37	2.03	2.54	0.76	0.68	7.37	4.92	4.07	4.58	2.03
	50歳代	1.15	4.20	2.82	1.15	0.94	2.07	2.64	2.94	3.05	2.70	1.49	1.90	0.63	0.76	5.92	4.20	2.93	3.22	1.61
	60歳代	0.41	3.57	4.29	1.39	0.82	2.50	3.61	2.84	2.99	2.79	1.21	1.89	0.00	0.58	6.53	5.00	4.49	3.51	1.19
	70歳以上	1.48	3.79	3.94	2.02	1.29	2.27	5.22	3.09	2.13	2.07	2.36	2.90	1.80	1.29	5.82	4.78	4.06	4.10	1.74
	10歳代	3.64	3.03	3.64	3.94	4.09	4.55	4.24	3.64	4.85	1.82	2.58	3.48	2.42	2.66	6.97	5.30	3.94	4.85	3.18
	20歳代	1.43	2.14	1.94	2.55	1.43	3.57	2.65	3.37	2.76	1.22	1.12	1.12	0.20	0.61	6.77	4.39	3.88	4.08	0.41
	30歳代	1.48	3.69	1.31	0.74	0.52	1.99	3.01	2.22	2.90	1.42	0.85	1.31	0.17	0.23	6.82	4.32	3.86	3.30	1.21
40歳代	2.07	3.40	2.77	2.42	2.37	2.66	3.82	3.21	3.35	3.17	2.50	2.55	1.12	0.69	6.91	4.68	4.20	4.73	2.29	
50歳代	0.91	3.28	2.72	1.73	1.49	2.72	3.52	3.04	2.61	2.41	1.47	2.11	0.95	1.10	7.03	4.66	4.27	4.35	2.22	
60歳代	1.46	3.13	1.69	1.77	0.67	2.16	4.57	1.81	3.03	2.32	1.56	1.94	0.71	0.99	6.22	4.80	3.28	4.06	1.42	
70歳以上	1.82	2.70	2.71	3.28	1.09	2.11	5.85	3.17	2.48	2.54	1.84	2.76	1.04	0.60	6.77	5.21	4.39	4.27	1.90	
居住地区	第1地区	2.14	3.84	1.84	1.93	0.80	1.96	4.07	2.03	2.61	2.57	2.43	1.69	0.37	0.43	6.74	5.00	3.79	3.70	2.14
	第2地区	0.04	1.78	1.96	0.81	1.62	2.46	4.62	2.78	3.80	2.84	1.78	2.88	0.72	0.74	7.13	5.56	4.03	4.75	2.25
	第3地区	1.28	0.47	1.72	1.06	1.93	3.35	4.94	2.41	4.64	3.37	2.27	2.62	1.28	1.90	8.16	6.09	3.85	4.54	2.09
	第4地区	2.01	4.62	4.05	2.21	1.45	2.56	3.91	3.16	1.86	1.74	1.82	3.41	1.53	1.16	5.56	4.44	3.27	3.57	1.58
	第5地区	1.41	4.28	3.81	2.31	1.84	2.66	3.55	2.60	2.01	2.06	2.06	2.81	0.97	1.09	6.41	4.38	4.83	3.90	1.97
	第6地区	1.10	4.04	1.73	1.40	1.14	2.89	4.16	2.47	2.95	2.65	1.10	1.65	0.37	0.18	6.33	4.64	4.22	4.16	1.69
	第7地区	1.20	1.07	1.81	1.77	1.14	1.47	3.88	3.16	2.71	2.39	1.51	2.42	0.97	1.17	5.90	4.21	3.06	3.54	1.71
	第8地区	1.12	4.85	2.56	1.91	1.36	2.77	3.38	2.78	3.17	2.15	1.76	1.74	1.08	0.87	5.91	4.06	3.95	3.98	1.70
	第9地区	2.00	4.21	3.75	2.78	1.12	3.37	4.08	3.64	2.90	2.03	1.55	1.77	0.61	0.37	6.31	4.09	4.10	4.36	1.31
	第10地区	3.98	5.30	4.34	3.43	2.29	3.48	3.51	4.58	4.58	2.93	1.20	1.90	0.84	0.24	7.86	5.60	4.70	4.40	1.51

【市全体と地区別の評価点(加重平均値)】

19項目の評価点を、地区ごとに市全体と対比させたグラフが次のとおりとなる。

【+】市全体を上回るもの／【-】市全体を下回るもの

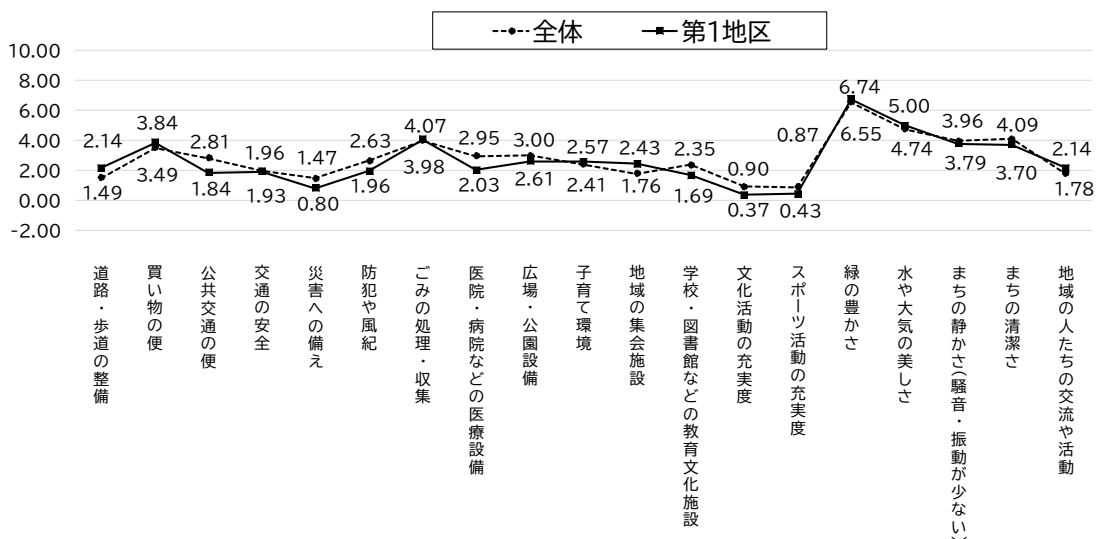
○第1地区

(中島町、柴町1～3丁目、小川町1丁目 73～741、2488～2599、上水新町1丁目)

【+】16項目中 8項目が、市全体を上回っている。最も差が大きいのは「地域の集会施設」で0.67ポイント上回っている。

【-】特に、「公共交通の便」が0.97ポイント、「医院・病院などの医療設備」が0.92ポイント下回っている。(図2-2)

<図2-2>第1地区

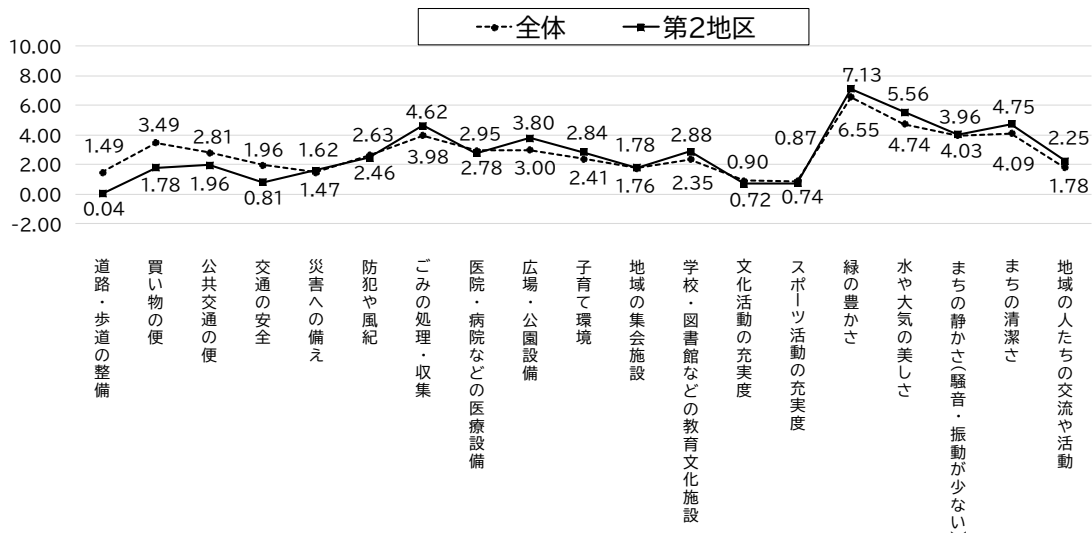


○第2地区(小川西町1～5丁目、小川町1丁目(上記以外の地区))

【+】16項目中 11項目が、市全体を上回っている。最も差が大きいのは「水や大気的美しさ」で0.82ポイント上回っている。

【-】特に、「買い物の便」が1.71ポイント、「道路・歩道の整備」が1.45ポイント下回っている。(図2-3)

<図2-3>第2地区



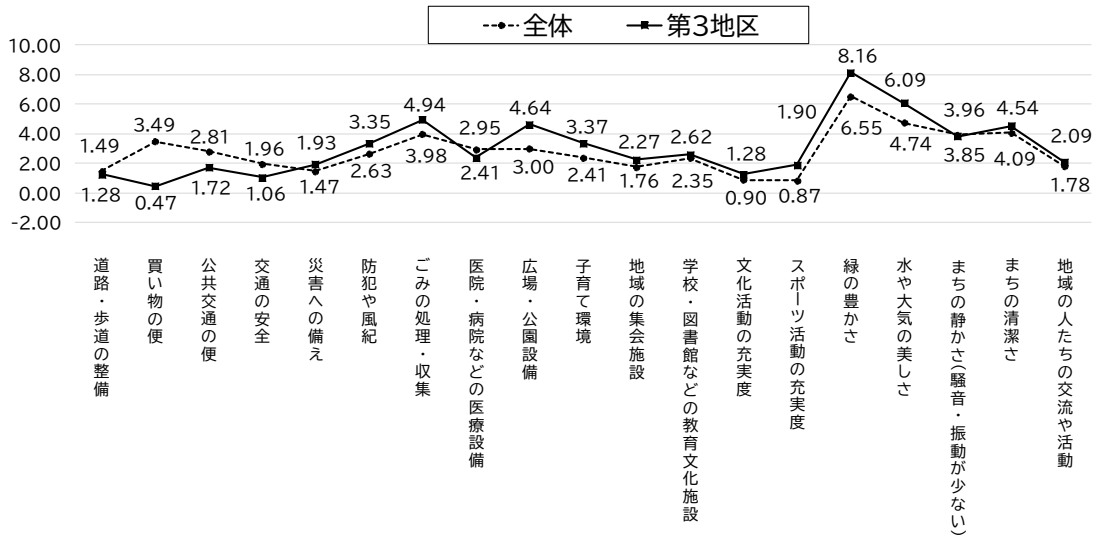
〈生活環境評価〉

○第3地区(たかの台、津田町1～3丁目、上水新町2・3丁目、上水本町1～3丁目)

【+】16項目中13項目が、市全体を上回っている。特に「広場・公園設備」が1.64ポイント、「緑の豊かさ」が1.61ポイント上回っている。

【-】最も差が大きいのは「買い物の便」で、3.02ポイントと大きく下回っている。(図2-4)

〈図2-4〉第3地区



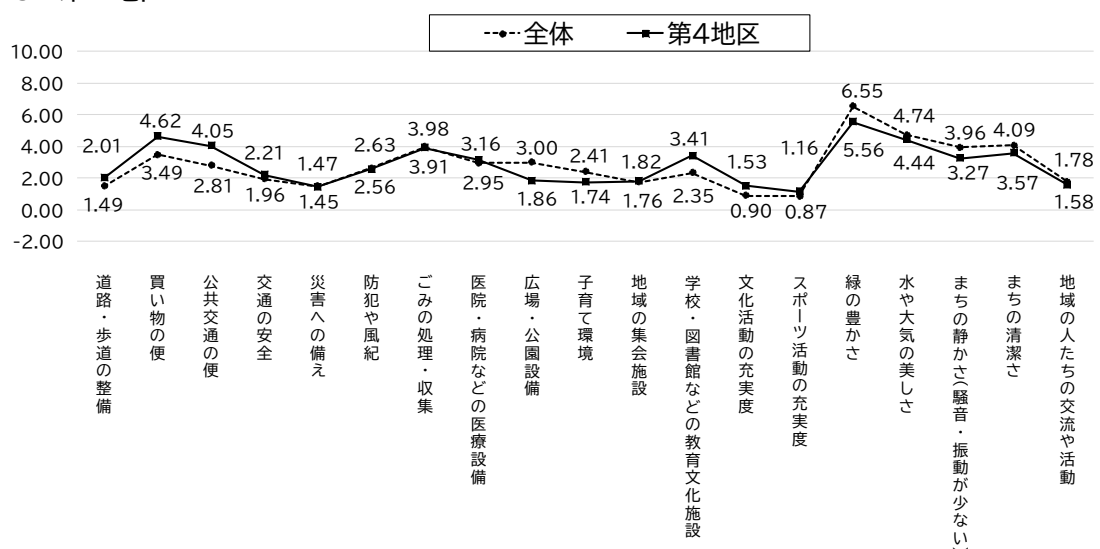
○第4地区(小川東町及び小川東町1～5丁目、小川町2丁目、仲町)

【+】16項目中9項目が、市全体を上回っている。特に「公共交通の便」が1.24ポイント、「買い物の便」が1.13ポイント上回っている。

【-】特に、「広場・公園設備」が1.14ポイント、「緑の豊かさ」が0.99ポイント下回っている。

(図2-5)

〈図2-5〉第4地区

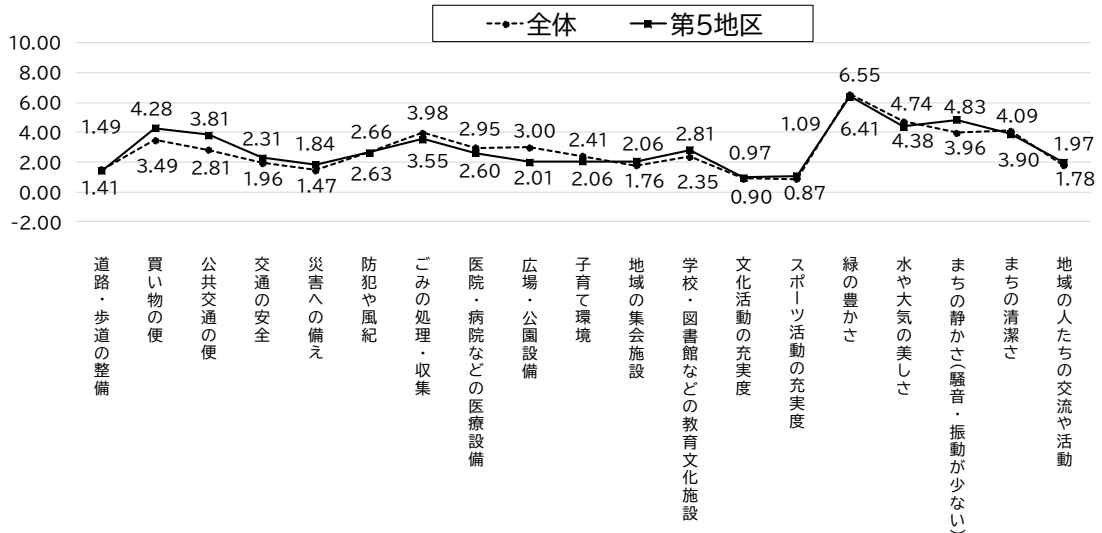


○第5地区(学園西町1～3丁目、学園東町及び学園東町1～3丁目、喜平町1～3丁目)

【+】16項目中 11項目が、市全体を上回っている。最も差が大きいのは「公共交通の便」で1.00ポイント上回っている。

【-】最も差が大きいのは「広場・公園設備」で、0.99ポイント下回っている。(図2-6)

<図2-6>第5地区

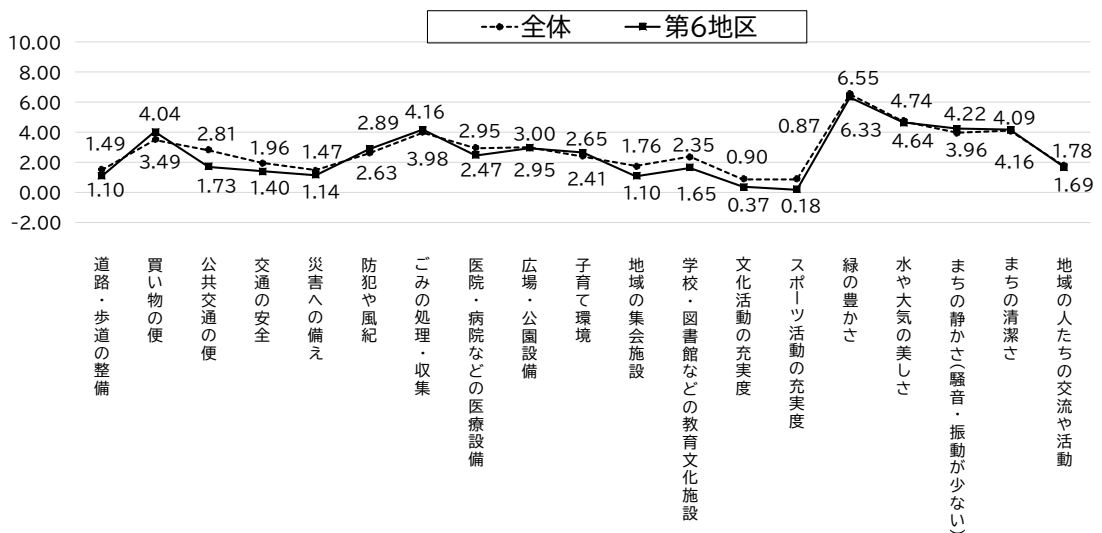


○第6地区(上水本町4～6丁目、上水南町1～4丁目)

【+】16項目中 6項目が、市全体を上回っている。最も差が大きいのは「買い物の便」で0.55ポイント上回っている。

【-】最も差が大きいのは「公共交通の便」で、1.08ポイント下回っている。(図2-7)

<図2-7>第6地区



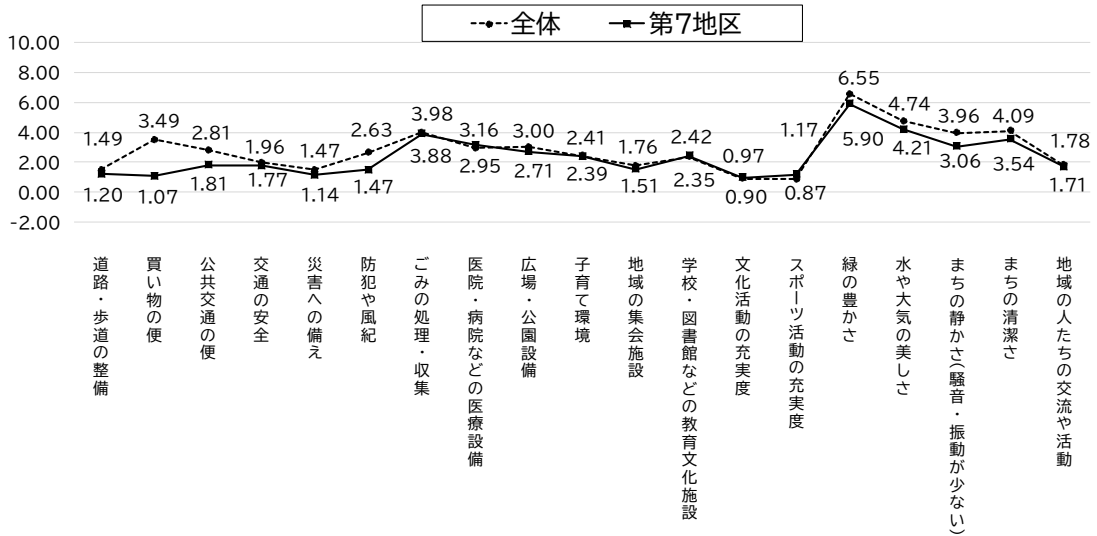
〈生活環境評価〉

○第7地区(美園町1～3丁目、大沼町1～7丁目、天神町1～4丁目)

【+】16項目中4項目が市全体を上回っているが、大きな差があるものはみられない。

【-】最も差が大きいのは「買い物の便」で、2.42ポイントと大きく下回っている。(図2-8)

〈図2-8〉第7地区

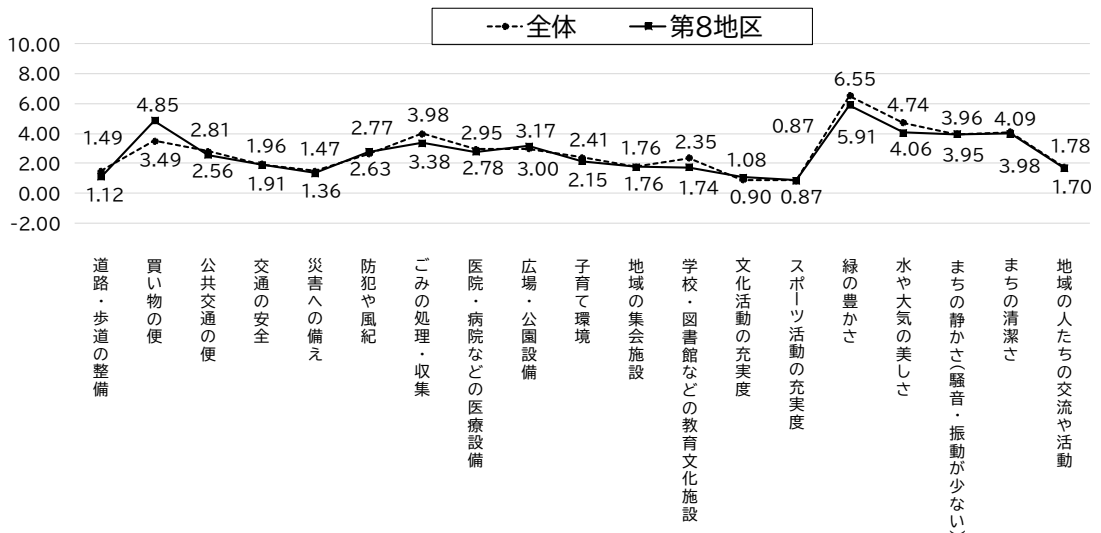


○第8地区(鈴木町1・2丁目、回田町、御幸町)

【+】16項目中4項目が、市全体を上回っている。最も差が大きいのは「買い物の便」で1.36ポイント上回っている。

【-】特に、「水や大気的美しさ」が0.68ポイント、「緑の豊かさ」が0.64ポイント下回っている。(図2-9)

〈図2-9〉第8地区

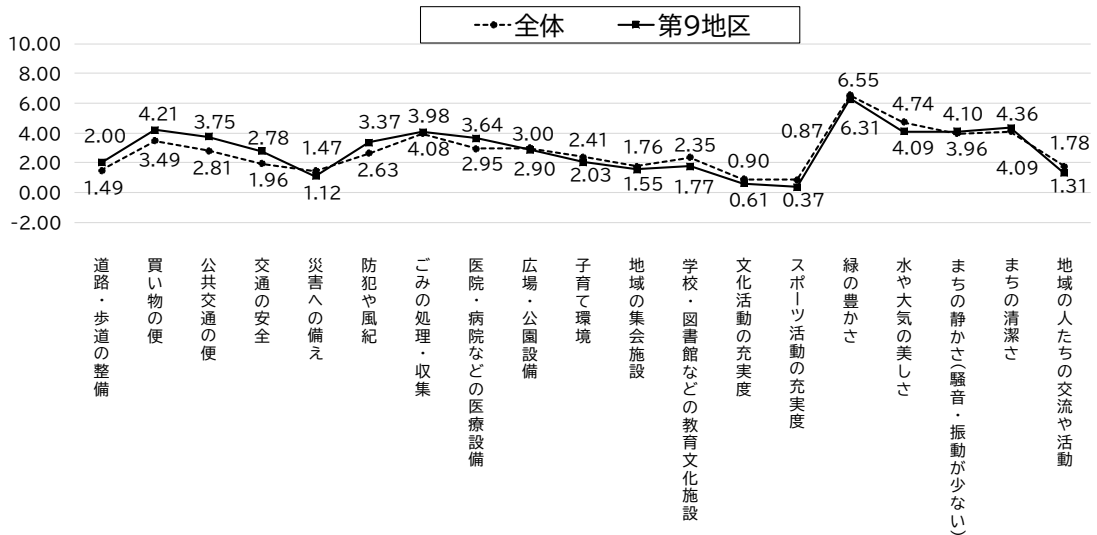


○第9地区(花小金井2～8丁目)

【+】16項目中9項目が、市全体を上回っている。最も差が大きいのは「公共交通の便」で0.94ポイント上回っている。

【-】最も差が大きいのは「水や大気的美しさ」で、0.65ポイント下回っている。(図2-10)

<図2-10>第9地区

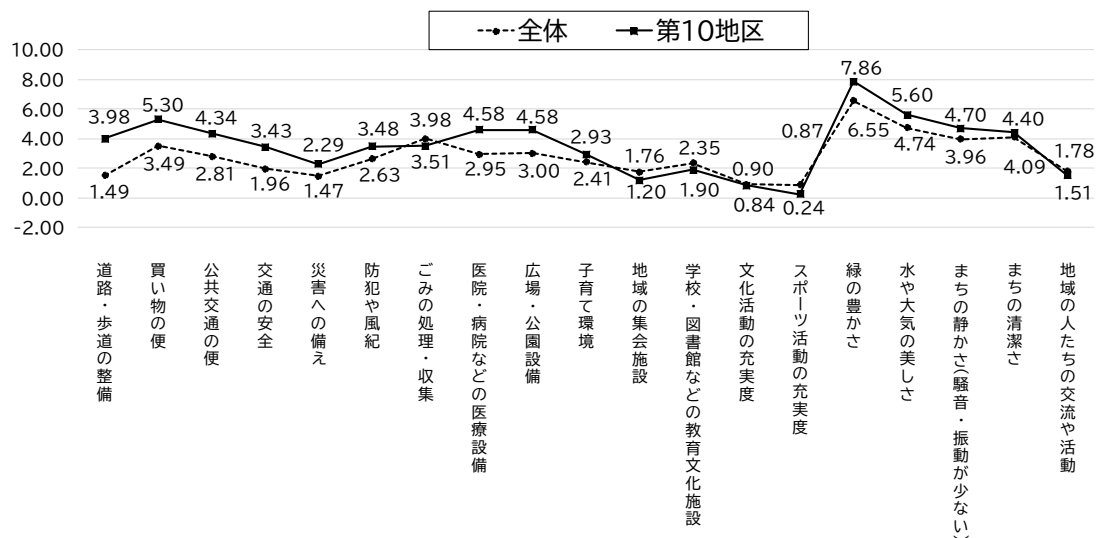


○第10地区(花小金井1丁目、花小金井南町1～3丁目)

【+】16項目中13項目が、市全体を上回っている。特に「道路・歩道の整備」が2.49ポイント、「買い物の便」が1.81ポイント上回っている。

【-】最も差が大きいのは「スポーツ活動の充実度」で、0.63ポイント下回っている。(図2-11)

<図2-11>第10地区



3 安全・安心について

問5【日頃の地震対策】 あなたのご家庭では、大地震が起きた際に、ご自分たちの身を守るため、日頃、何か備えや対策を行っていますか。(○は1つ)

◇『行っている』が6割強

日頃の地震対策について、「行っている」(13.0%)と「少しは行っている」(53.4%)を合わせた『行っている』については66.4%となっている。

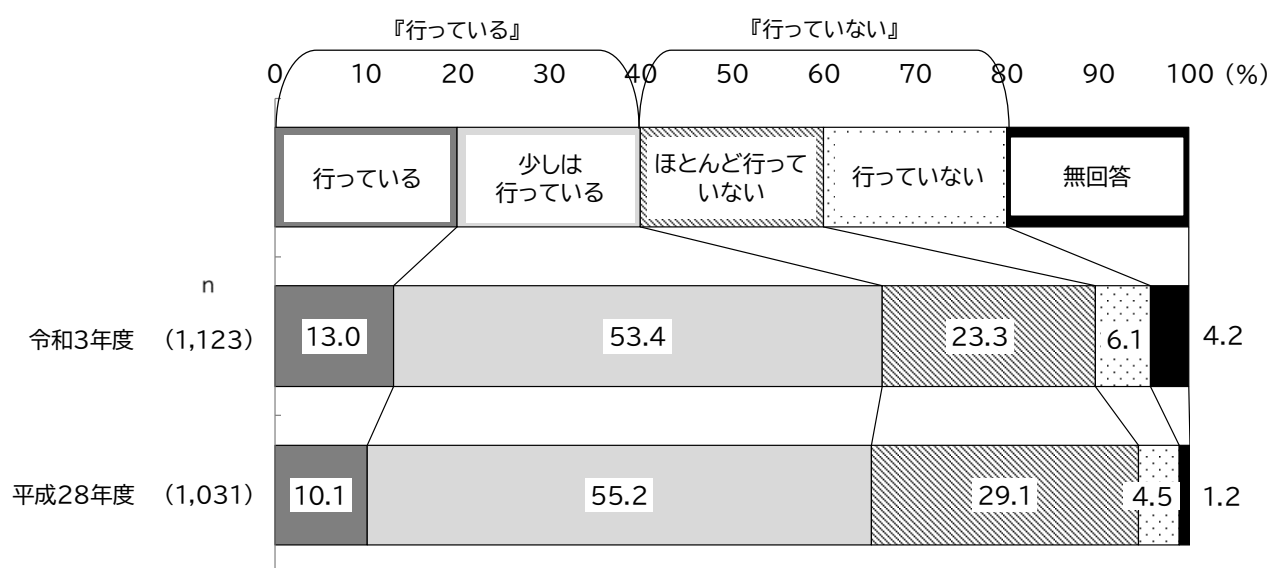
一方、「ほとんど行っていない」(23.3%)と「行っていない」(6.1%)を合わせた『行っていない』は29.4%となっている。(図3-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、『行っていない』は前回調査(33.6%)より4.2ポイント減少している。

(図3-1)

<図3-1>日頃の地震対策、時系列比較

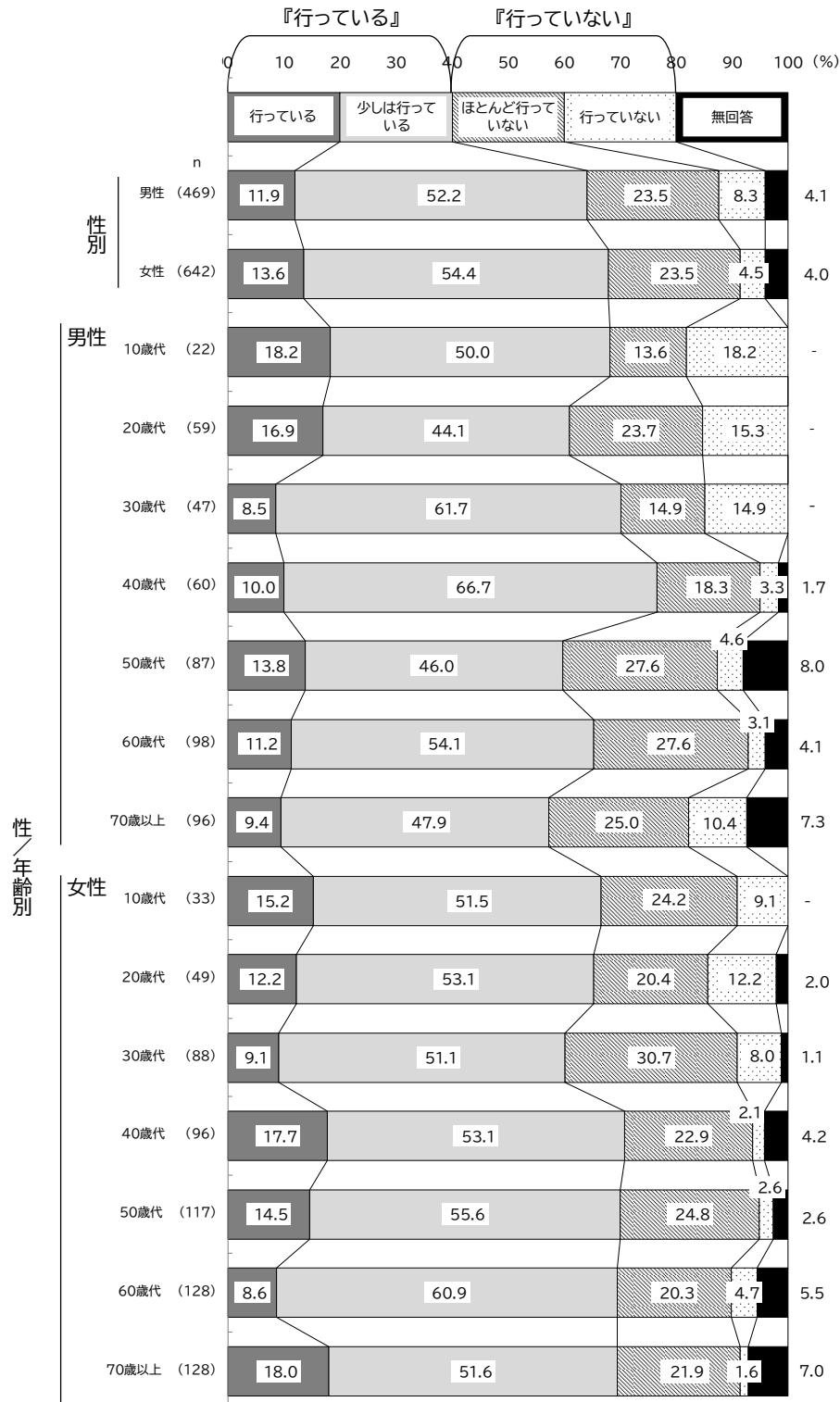


【性別、性／年齢別】

性別にみると、『行っている』は男性が64.1%、女性が68.0%で大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、『行っている』は男女ともに“40 歳代”が最も多く、男性は76.7%、女性は70.8%となり、防災意識の高さがうかがえる。一方、『行っていない』は男性では“20 歳代”が39.0%、女性では“30 歳代”が38.7%で最も多くなっている。(図3-2)

<図3-2>性別、性／年齢別



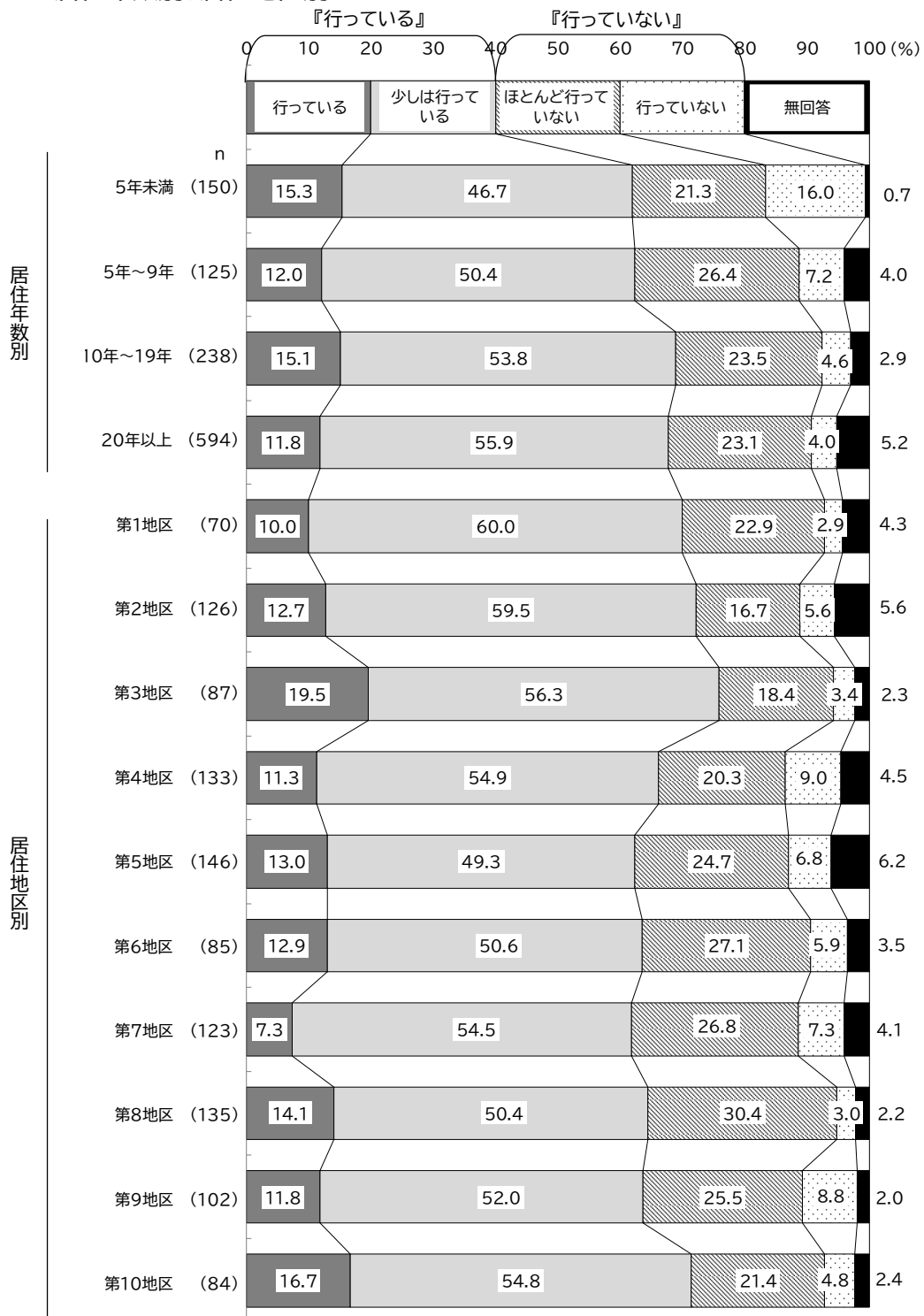
〈日頃の地震対策〉

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『行っていない』の割合は、居住年数が長くなるにつれて低くなっており、最も低い“20年以上”(27.1%)と、最も高い“5年未満”(37.3%)では、10.2ポイントの差がある。

居住地区別にみると、『行っている』が最も多いのは“第3地区”の75.8%となり、次いで“第2地区”(72.2%)、“第10地区”(71.5%)の順となっている。一方、『行っていない』が最も多いのは“第9地区”の34.3%となっている。(図3-3)

〈図3-3〉居住年数別、居住地区別



(問5で「1」「2」と答えた方におたずねします。)

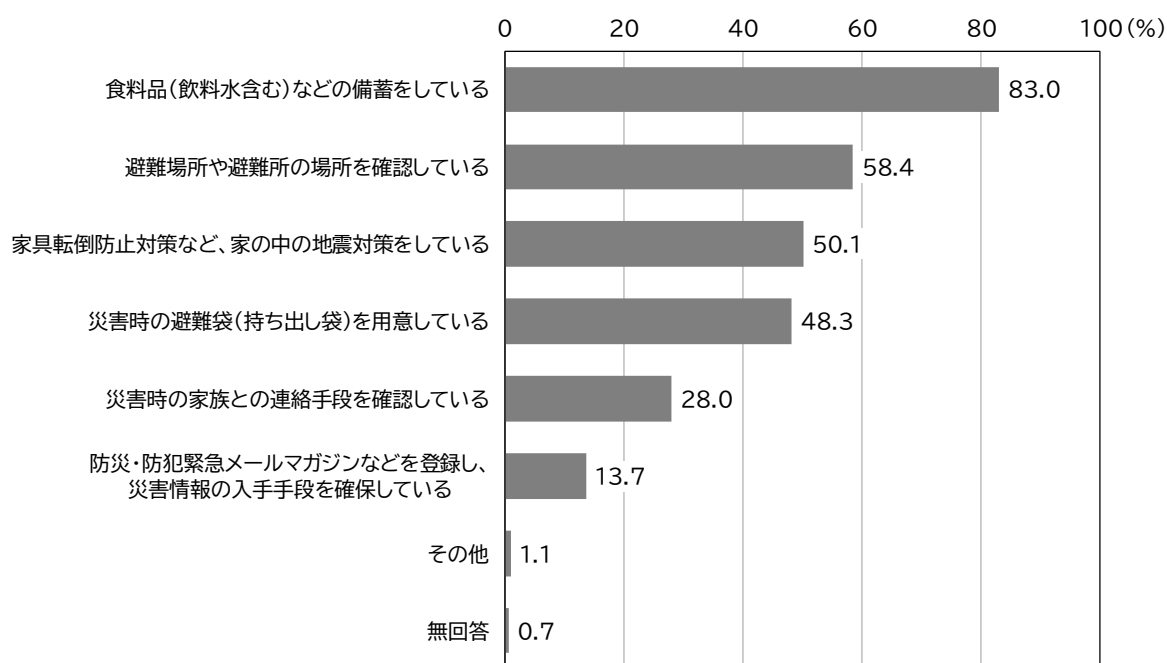
問5-1【家庭での地震対策】 あなたのご家庭では、どのような地震対策をしていますか。

(○はいくつでも可)

◇「食料品(飲料水含む)などの備蓄をしている」が 83.0%で最も多い

家庭での地震対策は、「食料品(飲料水含む)などの備蓄をしている」が 83.0%で最も多く、次いで、「避難場所や避難所の場所を確認している」(58.4%)、「家具転倒防止対策など、家の中の地震対策をしている」(50.1%)の順となっている。(図3-4)

<図3-4>家庭での地震対策



n=746

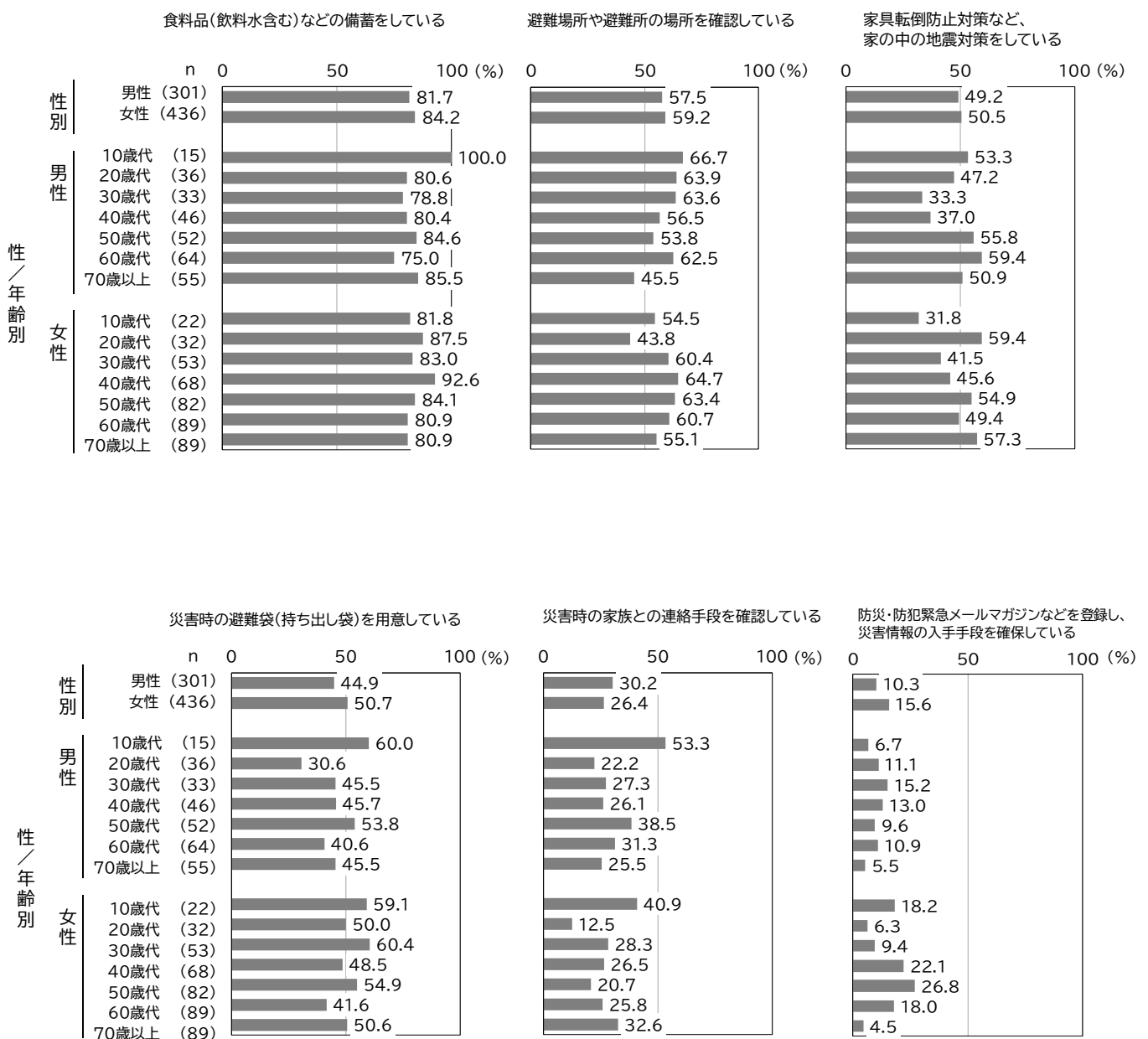
〈家庭での地震対策〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、「災害時の避難袋(持ち出し袋)を用意している」、「防災・防犯緊急メールマガジンなどを登録し、災害情報の入手手段を確保している」の割合は、女性が男性に比べ5.0ポイント以上高くなっている。

性／年齢別にみると、男女ともに“10歳代”では「災害時の家族との連絡手段を確認している」が他の年代に比べて高くなっている。また、「避難場所や避難所の場所を確認している」は、男性では“70歳以上”が45.5%、女性では“20歳代”が43.8%で最も少なく、その他の年代では男女ともに過半数となっている。(図3-5)

<図3-5>性別、性／年齢別



(問5-1で「1」と答えた方におたずねします。)

問5-2【家庭内で備蓄している品目】 家庭内で備蓄を行っている品目は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも可)

◇「飲料水」が92.7%で最も多い

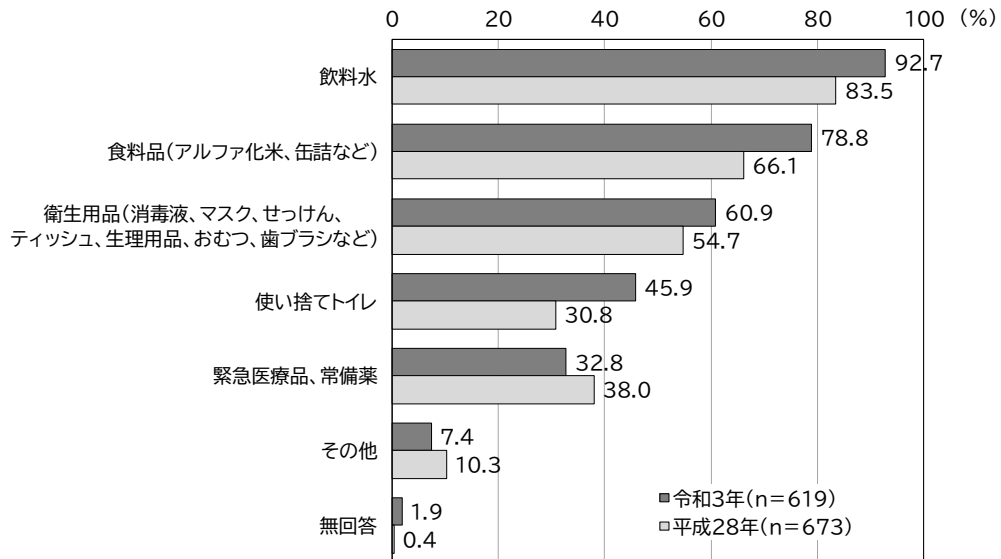
家庭内で備蓄している品目は、「飲料水」が92.7%で最も多く、次いで、「食料品(アルファ化米、缶詰など)」(78.8%)、「衛生用品(消毒液、マスク、せっけん、ティッシュ、生理用品、おむつ、歯ブラシなど)」(60.9%)の順となっている。(図3-6)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「緊急医療品、常備薬」以外の品目は、前回調査と比べて増加している。最も増えたのは「使い捨てトイレ」(45.9%)で、前回調査(30.8%)より15.1ポイント増加している。(図3-6)

※前回調査では、地震対策を『行っている』人に対して調査が行われたが、今回調査では備蓄をしている人に対して、品目を問う設問に変更。

<図3-6>家庭内で備蓄している品目、時系列比較



〈家庭内で備蓄している品目〉

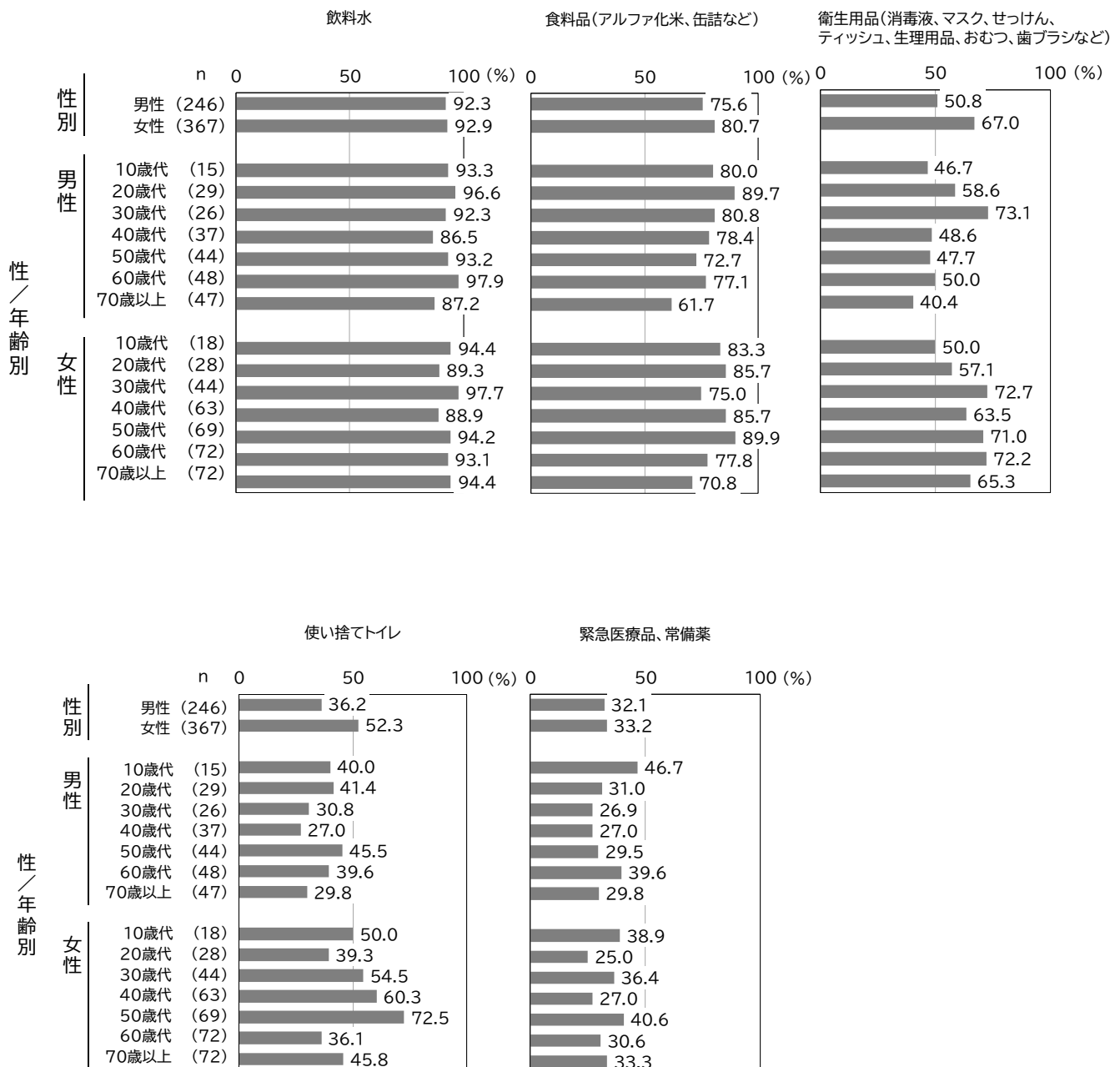
【性別、性／年齢別】

性別にみると、家庭内で備蓄している品目のうち「衛生用品(消毒液、マスク、せっけん、ティッシュ、生理用品、おむつ、歯ブラシなど)」、「使い捨てトイレ」の割合は、女性が男性に比べ 15.0 ポイント以上高くなっている。

性／年齢別にみると、「食料品(アルファ化米、缶詰など)」は、男性の“70 歳以上”が 61.7%で最も少なく、その他の年代では男女ともに7割を超えている。

「衛生用品(消毒液、マスク、せっけん、ティッシュ、生理用品、おむつ、歯ブラシなど)」の 40 歳以上の割合をみると、男性は半数以下となっているが、女性では6割以上となっており、それぞれ差がみられる。(図3-7)

〈図3-7〉性別、性／年齢別



(問5-1で「1」と答えた方におたずねします。)

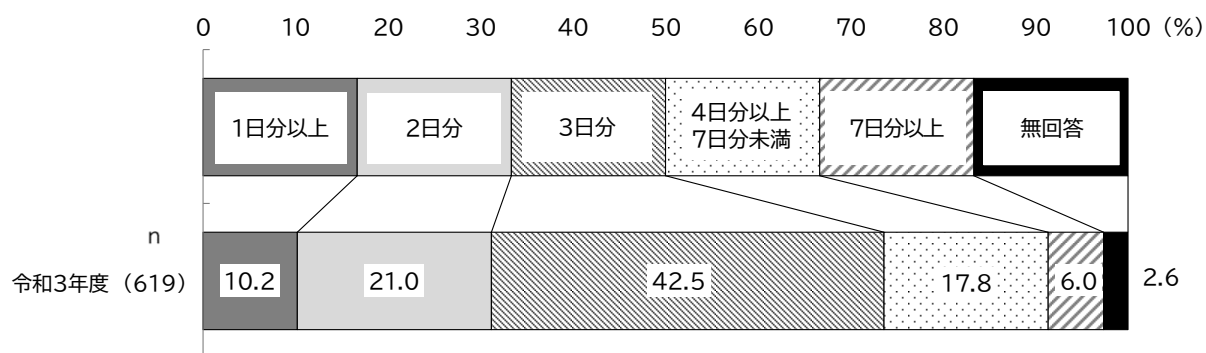
問5-3【飲料水や食品の備蓄量】 どれくらいの量の飲料水や食品を備蓄していますか。

(○は1つ)

◇「3日分」が42.5%で最も多い

飲料水や食品の備蓄量は、「3日分」が42.5%で最も多く、次いで、「2日分」(21.0%)、「4日分以上7日分未満」(17.8%)の順となっている。(図3-8)

<図3-8>飲料水や食品の備蓄量



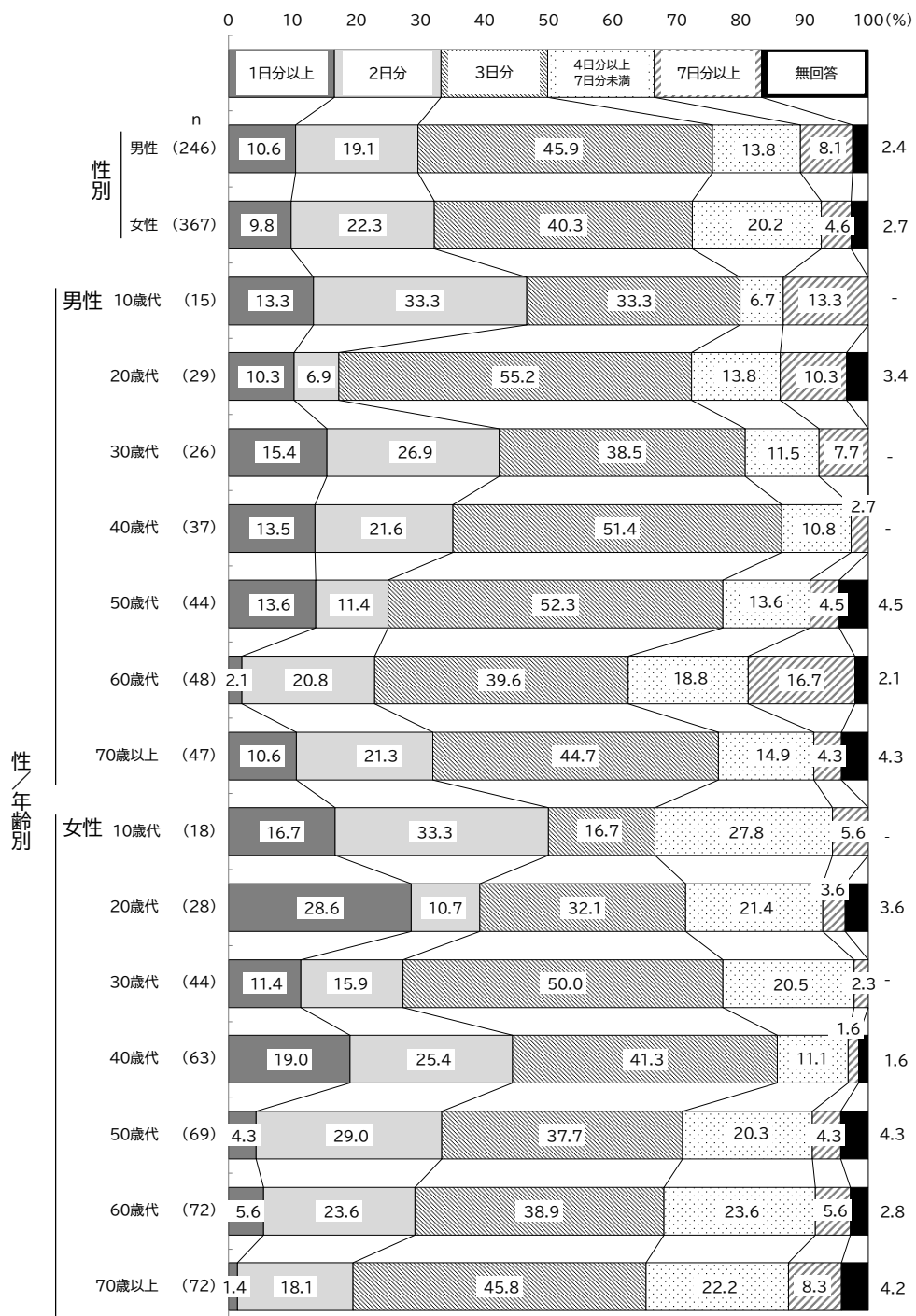
〈飲料水や食品の備蓄量〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、「3日分」が男女ともに4割以上で最も多くなっている。「3日分」は女性に比べ男性が、「4日分以上7日分未満」では男性に比べ女性が、それぞれ5ポイント以上高くなっている。

性／年齢別にみると、男女とも“10 歳代”では「2日分」が 33.3%で最も多くなっている。また、「1日分以上」では女性の“20 歳代”、「7日分以上」では男性の“60 歳代”が他の年代に比べて高くなっている。(図3-9)

〈図3-9〉性別、性／年齢別



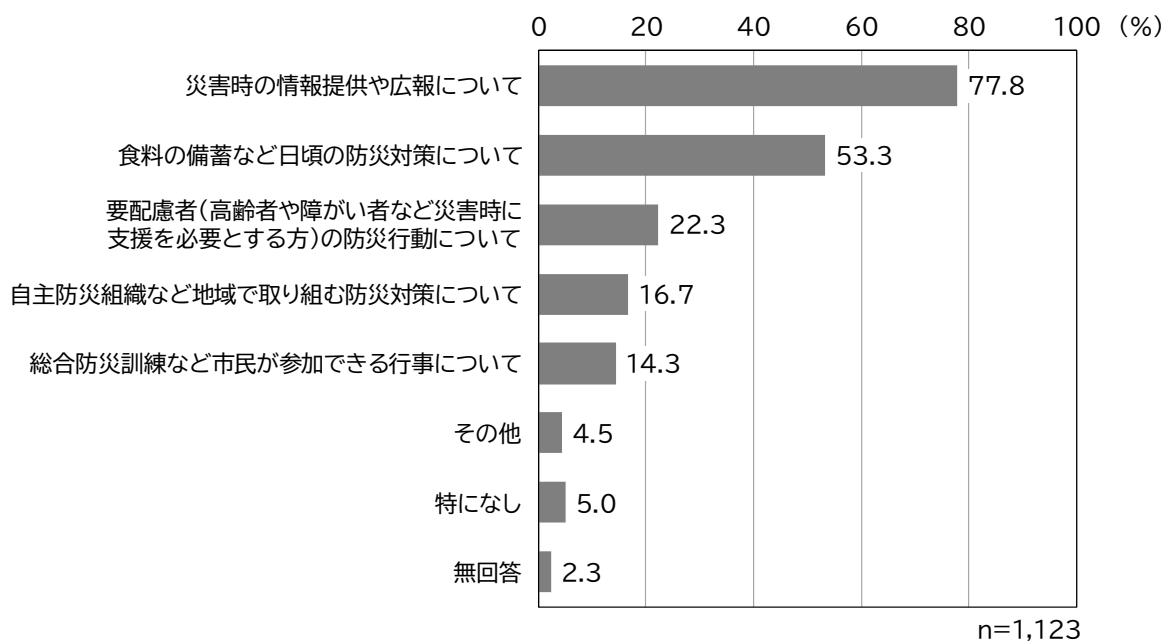
問6【必要な防災情報】 あなたは市からどのような防災情報を得たいですか。

(○はいくつでも可)

◇「災害時の情報提供や広報について」が77.8%で最も多い

必要な防災情報は、「災害時の情報提供や広報について」が77.8%で最も多く、次いで、「食料の備蓄など日頃の防災対策について」(53.3%)、「要配慮者(高齢者や障がい者など災害時に支援を必要とする方)の防災行動について」(22.3%)の順となっている。(図3-10)

<図3-10>必要な防災情報



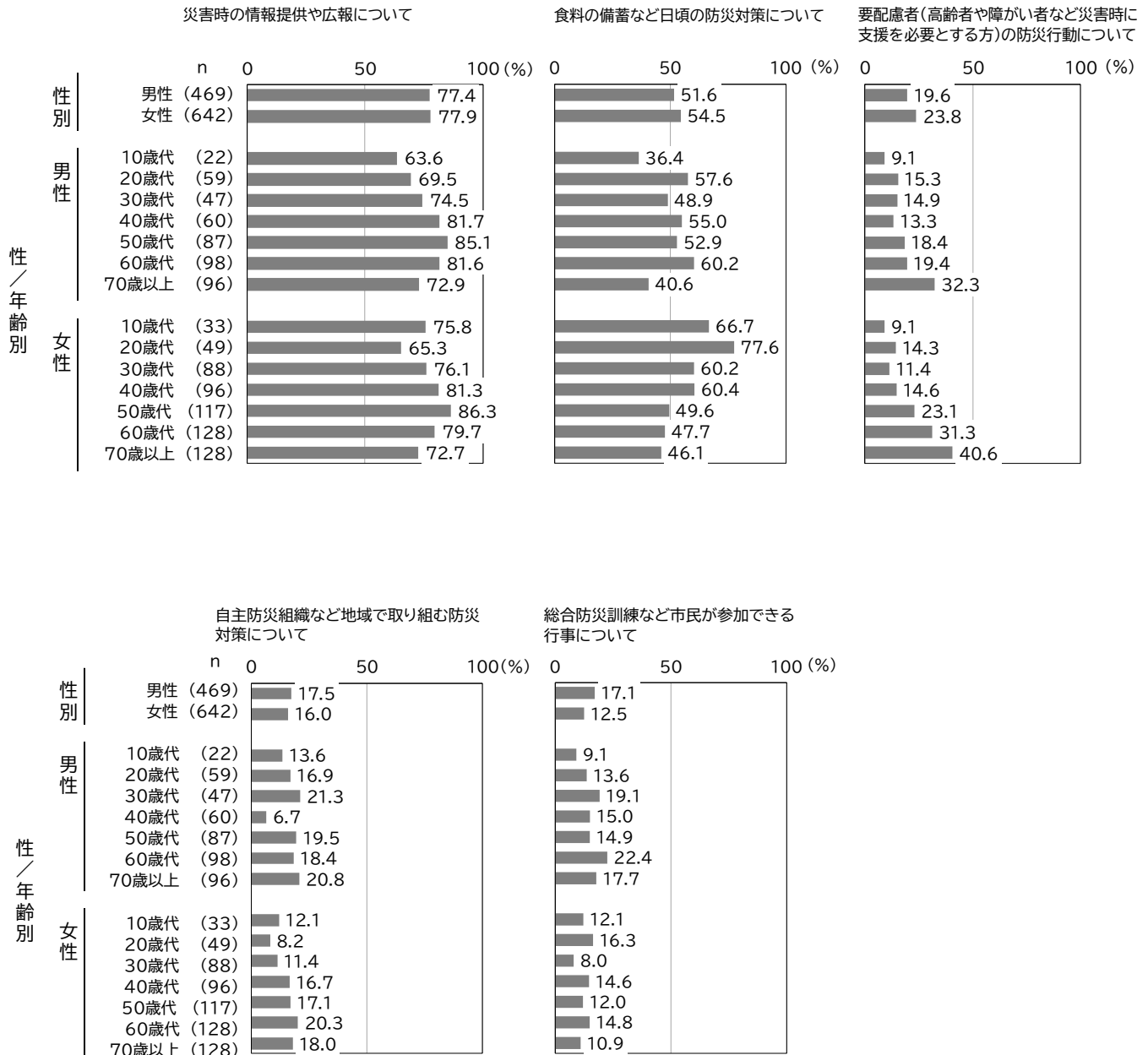
〈必要な防災情報〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図3-10)の傾向と大きな違いはみられない。

性／年齢別にみると、女性の“20 歳代”では「食料の備蓄など日頃の防災対策について」が77.6%で最も多く、他の年代に比べて高くなっている。また、「要配慮者(高齢者や障がい者など災害時に支援を必要とする方)の防災行動について」は、男女ともに“70 歳代”が全体(22.3%)に比べて10ポイント以上高くなっている。(図3-11)

〈図3-11〉性別、性／年齢別

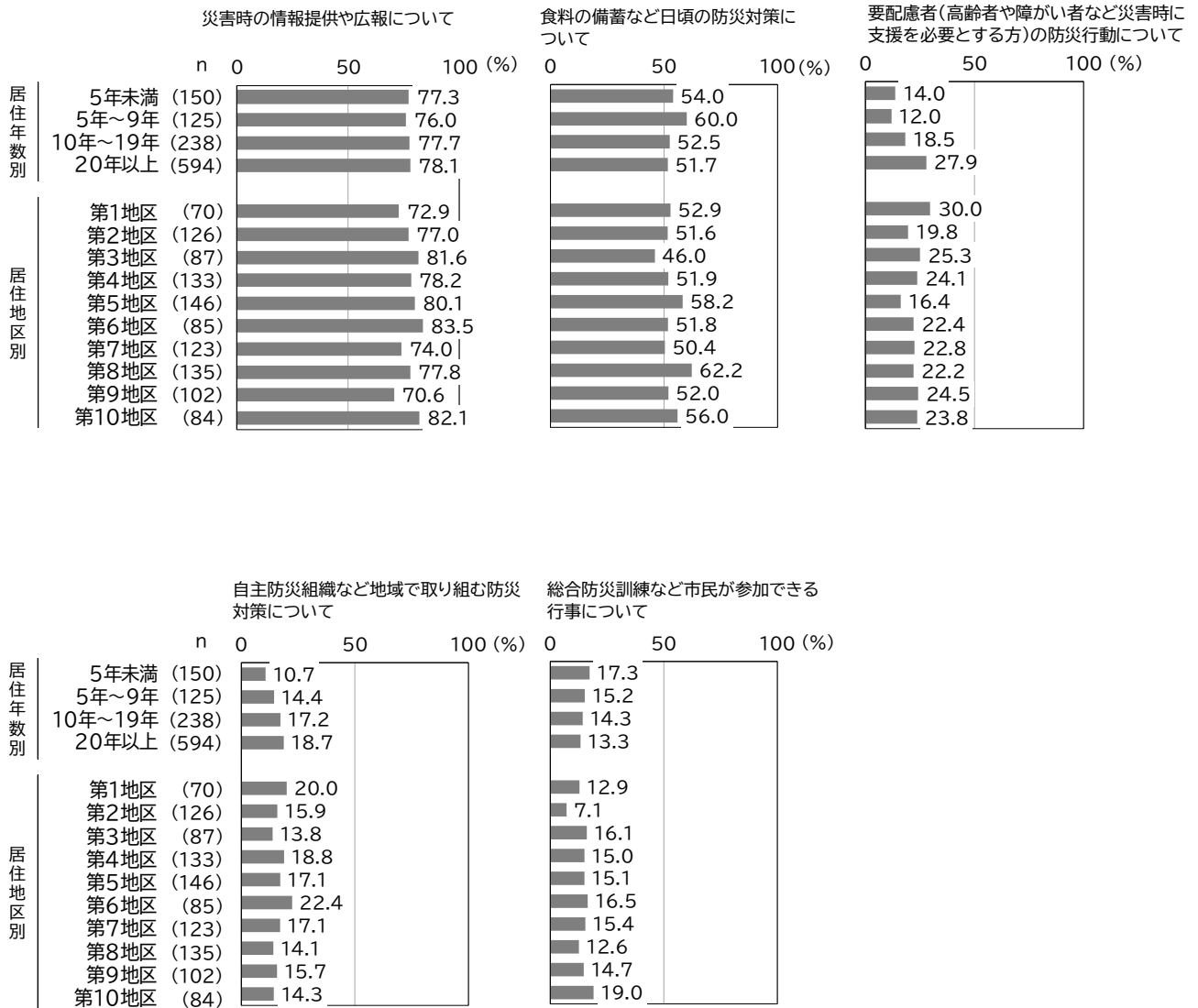


【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、いずれの年数でも「災害時の情報提供や広報について」が7割以上で最も多くなっている。また、“20年以上”では「要配慮者（高齢者や障がい者など災害時に支援を必要とする方）の防災行動について」の割合が、他の年数に比べてやや高くなっている。

居住地区別にみると、いずれの地区でも「災害時の情報提供や広報について」が7割以上で最も多く、全体(図3-10)の傾向と大きな違いはみられない。(図3-12)

〈図3-12〉居住年数別、居住地区別

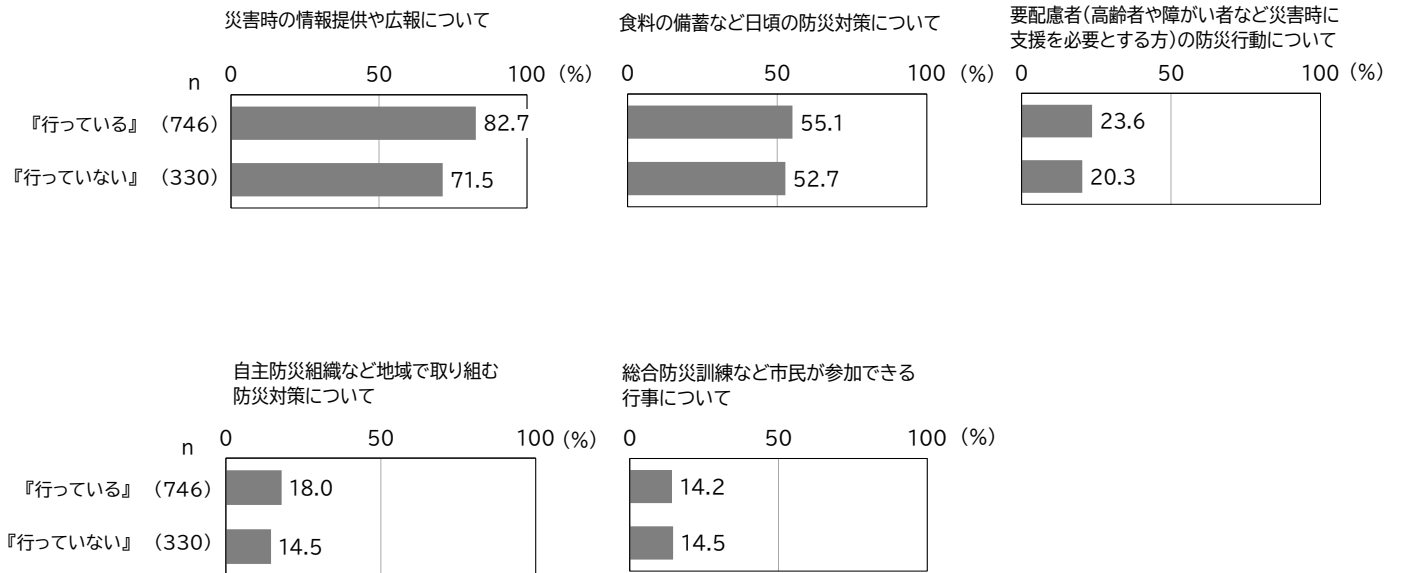


〈必要な防災情報〉

【地震対策の有無別】

地震対策の有無別にみると、必要な防災情報のうち「災害時の情報提供や広報について」と答えた人の割合は、地震対策を“行っている”人が、“行っていない”人に比べ、11.2 ポイント高くなっている。(図3-13)

〈図3-13〉地震対策の有無別



4 市民相談について

問7【市民相談窓口の認知度】 あなたは、小平市で行っている市民相談窓口を知っていますか。(〇は1つ)

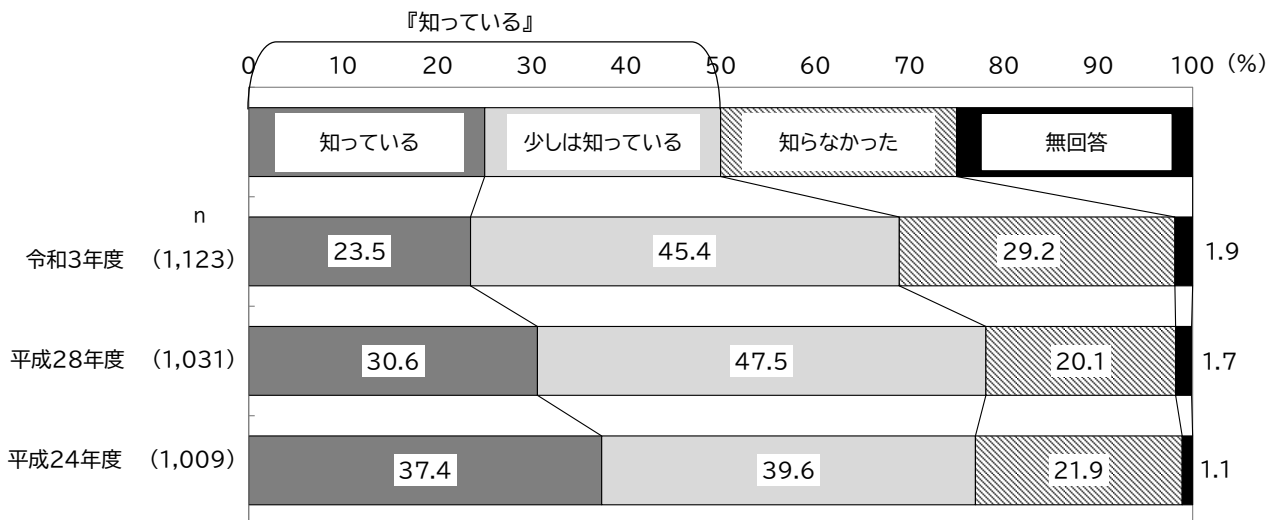
◇『知っている』が約7割

市民相談窓口の認知度について、「少しは知っている」が 45.4%で最も多く、次いで、「知らなかった」(29.2%)、「知っている」(23.5%)の順となっている。(図4-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「少しは知っている」と「知っている」を合わせた『知っている』(68.9%)は、前回調査(78.1%)から 9.2 ポイント減少したものの、7割近くの人が市民相談窓口を認知している。(図4-1)

<図4-1>市民相談窓口の認知度、時系列比較



〈市民相談窓口の認知度〉

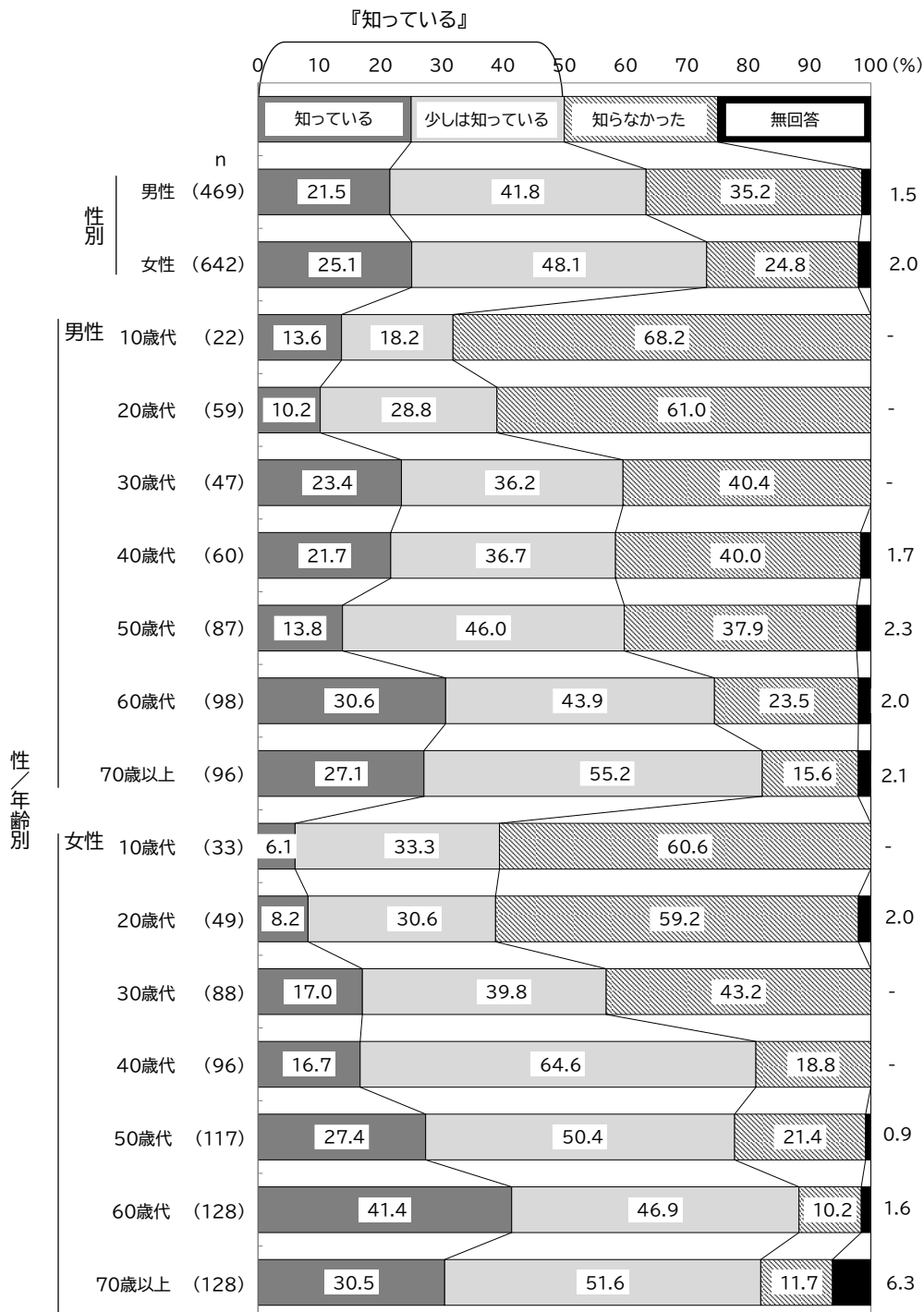
【性別、性／年齢別】

性別にみると、「知らなかった」の割合は男性が35.2%となり、女性(24.8%)に比べて10.4ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、男性の40歳代以下、女性の30歳代以下では「知らなかった」が最も多くなっており、特に男性の20歳代以下、女性の“10歳代”では6割以上となっている。

『知っている』は、男性の“70歳以上”、女性の“40歳代”、60歳代以上で8割を超えている。
(図4-2)

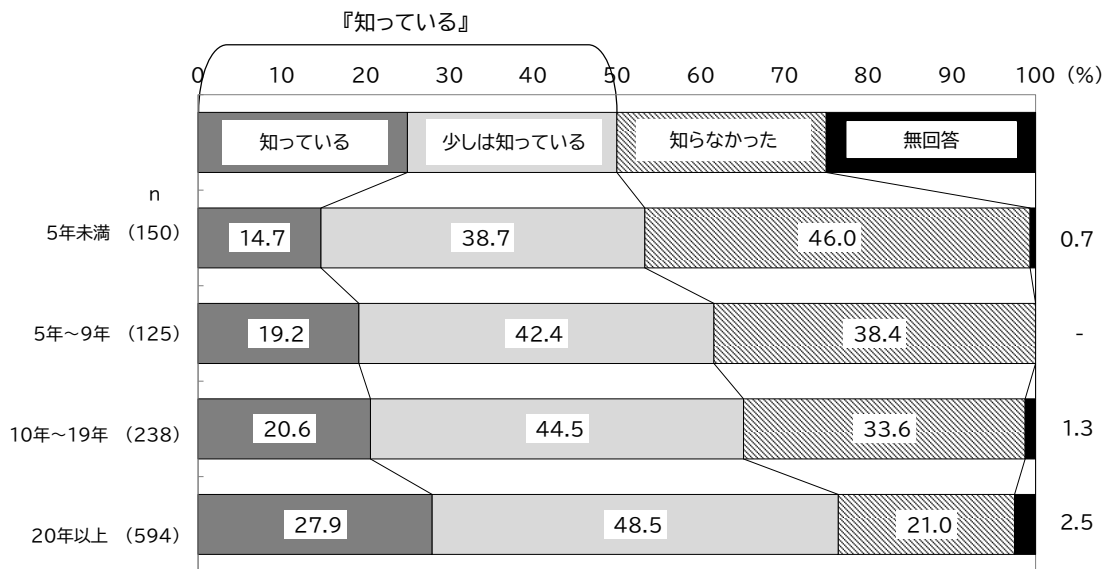
〈図4-2〉性別、性／年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、『知っている』の割合は、居住年数が長くなるにつれて高くなっており、最も高い“20年以上”(76.4%)と、最も低い“5年未満”(53.4%)では、23.0ポイントの差がある。
(図4-3)

<図4-3>居住年数別



5 教育について

問8【教育環境の充実度】 あなたは、小平市の小・中学校の教育環境が、充実していると思いますか。(〇は1つ)

◇『充実している』は 35.0%

教育環境の充実度について、「充実していると思う」(6.2%)と「どちらかといえば充実していると思う」(28.8%)を合わせた『充実している』については 35.0%となっている。

一方、「どちらかといえば充実していないと思う」(11.8%)と「充実していないと思う」(3.7%)を合わせた『充実していない』は 15.5%となっている。

なお、「どちらともいえない(わからない)」は 46.6%である。(図5-1)

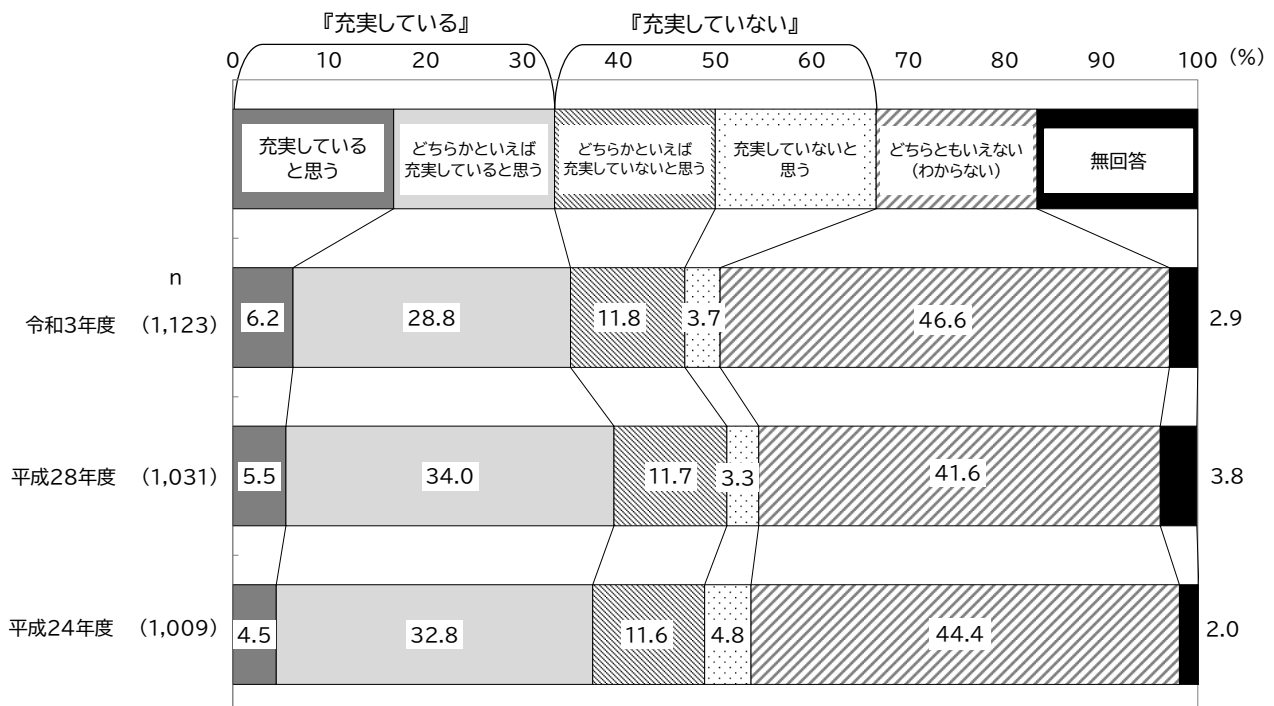
【時系列比較】

時系列で比較すると、『充実していると思う』は増加傾向にある一方、「どちらかといえば充実していると思う」は前回調査(34.0%)より 5.2 ポイント減少した。

また、「どちらともいえない(わからない)」は前回調査(41.6%)より 5.0 ポイント増加した。

(図5-1)

<図5-1>教育環境の充実度、時系列比較



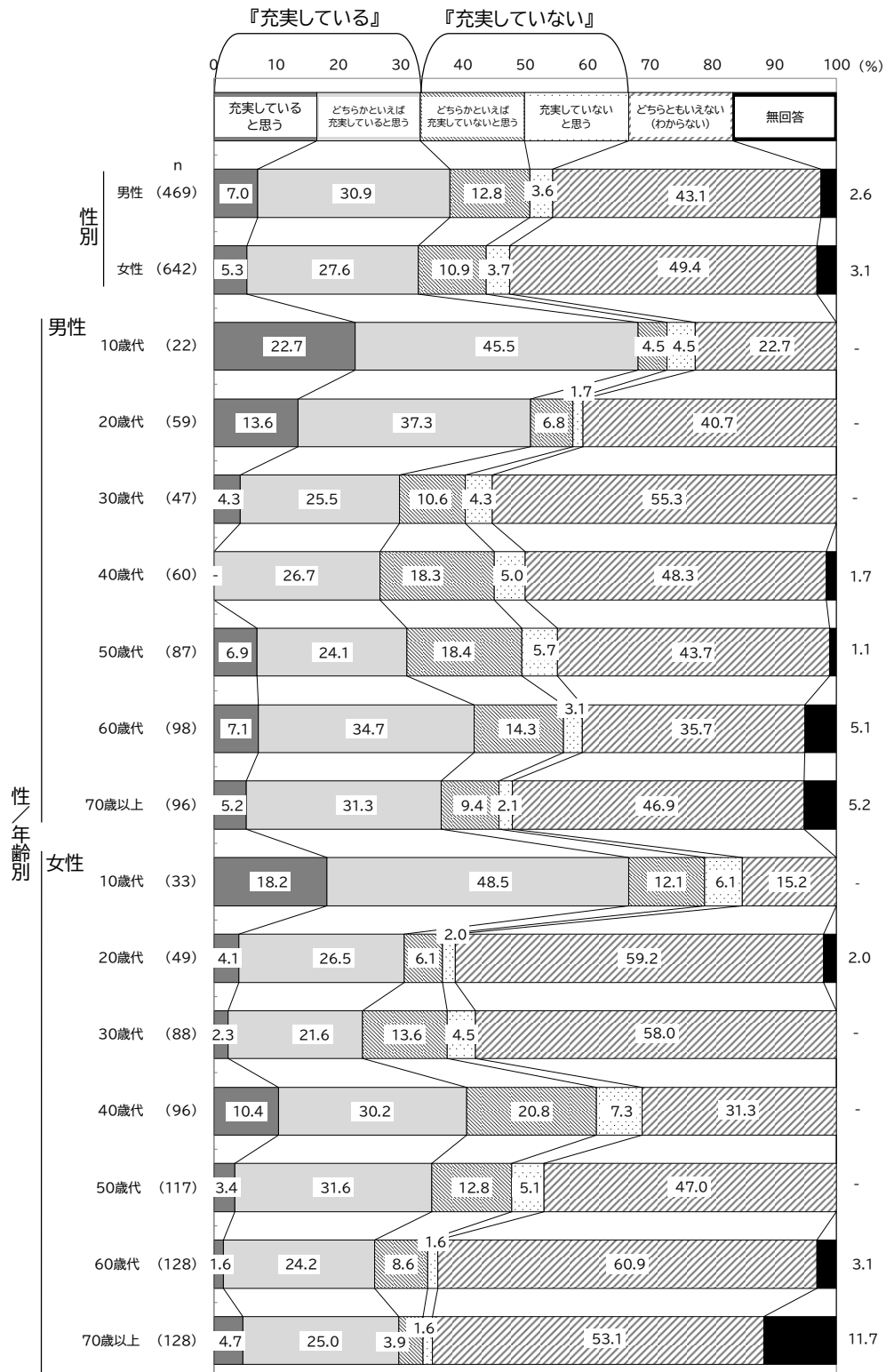
【性別、性／年齢別】

性別にみると、『充実している』の割合は、男性が 37.9%となり、女性(32.9%)に比べて 5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、男女ともに“10 歳代”では「どちらかといえば充実していると思う」が4割強で最も多く、『充実している』の割合も6割以上となり、他の年代に比べて高くなっている。

(図5-2)

<図5-2>性別、性／年齢別



6 文化・歴史について

問9【歴史遺産への関心度】 あなたは、小平ふるさと村、鈴木遺跡、鈴木ばやしといった小平市の歴史遺産に関心がありますか。(○は1つ)

◇『関心がある』が過半数

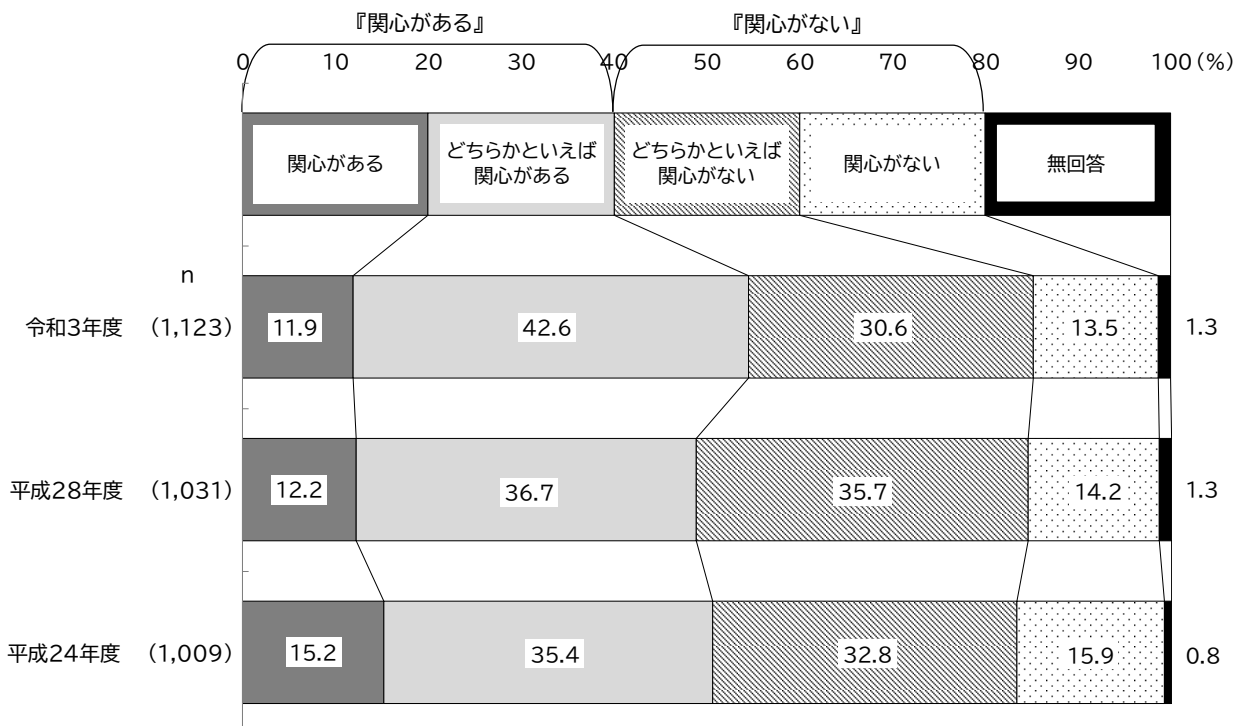
歴史遺産への関心度について、「関心がある」(11.9%)と「どちらかといえば関心がある」(42.6%)を合わせた『関心がある』は54.5%となっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」(30.6%)と「関心がない」(13.5%)を合わせた『関心がない』は44.1%となっている。(図6-1)

<時系列比較>

時系列で比較すると、『関心がある』は前回調査(48.9%)より5.6ポイント増加した。(図6-1)

<図6-1>歴史遺産への関心度、時系列比較

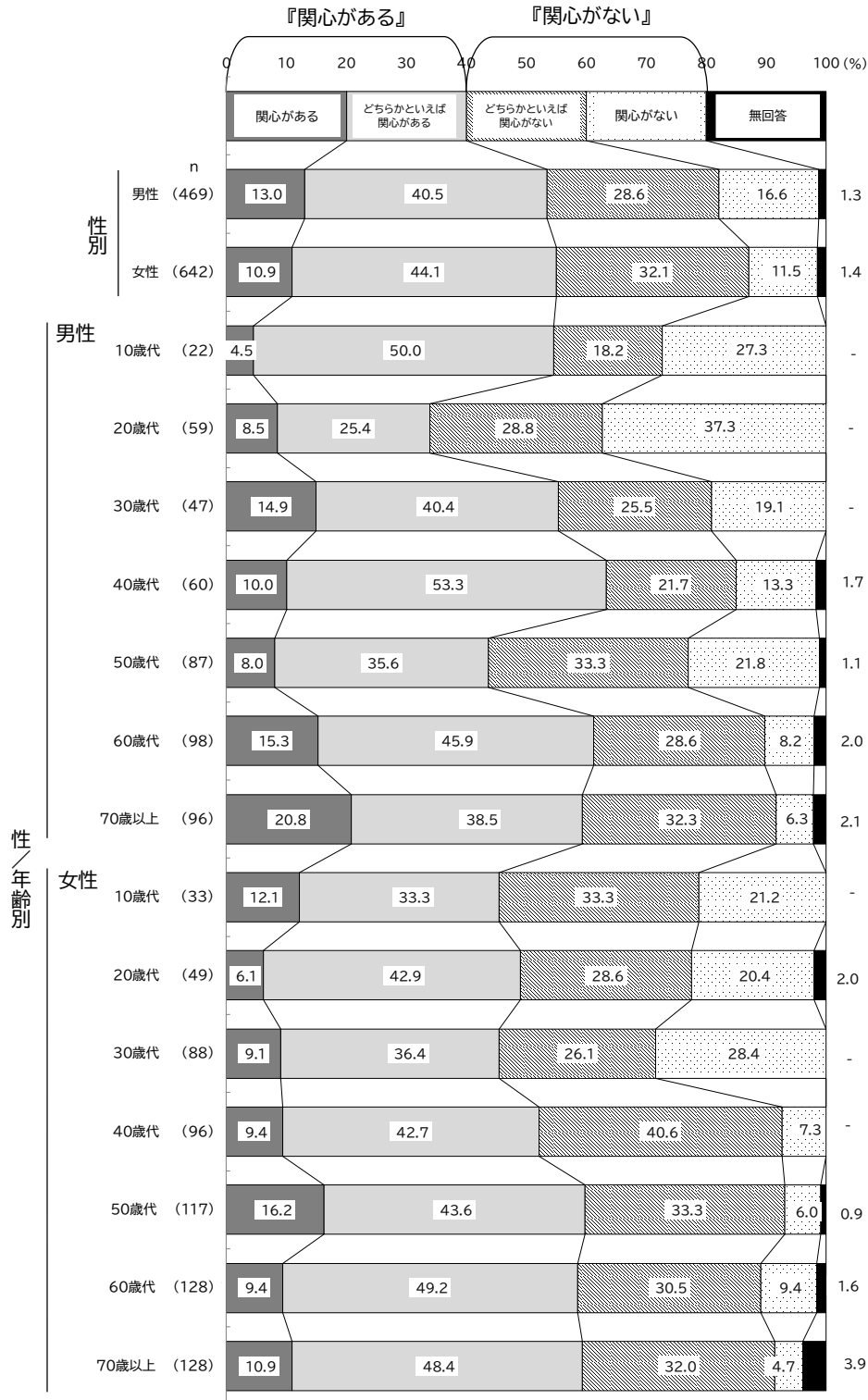


【性別、性／年齢別】

性別にみると、関心は半々程度で全体(図6-1)の傾向と大きな違いはみられない。

性／年齢別にみると、『関心がある』は、男性の“40歳代”と60歳代以上、女性の50歳代以上で6割前後となり、関心の高さがうかがえる。一方、男性の“20歳代”では「関心がない」が37.3%で最も多くなっており、『関心がない』の割合も66.1%となり、全体(44.1%)に比べて高くなっている。(図6-2)

<図6-2>性別、性／年齢別



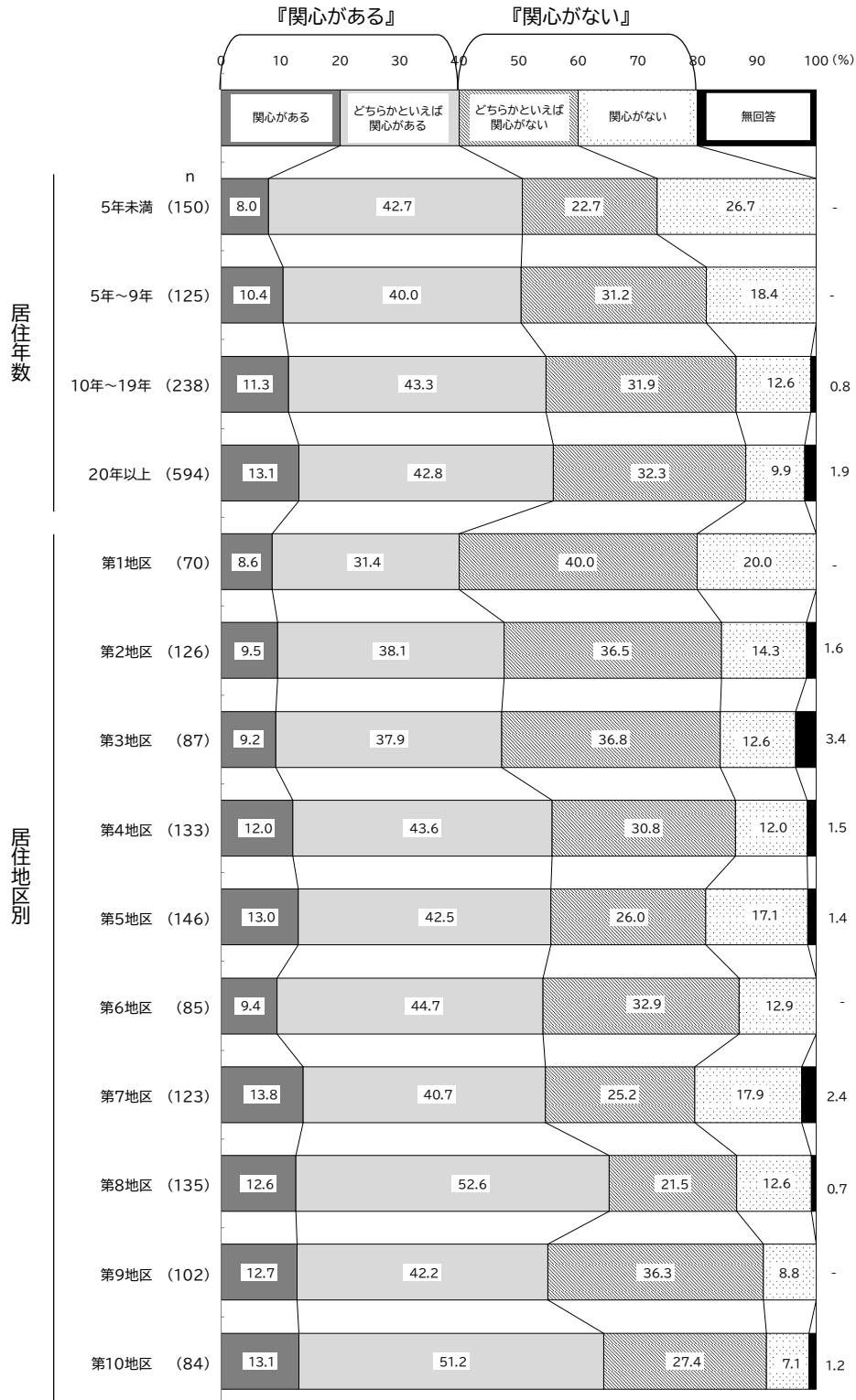
〈歴史遺産への関心度〉

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『関心がある』の割合は、居住年数が長くなるにつれ高くなる傾向にあり、最も高い“20年以上”(55.9%)と、最も低い“5年未満”(50.7%)では、5.2ポイントの差がある。

居住地区別にみると、『関心がある』は“第8地区”が65.2%で最も多く、次いで“第10地区”(64.3%)となっている。なお、『関心がある』はすべての地区で4割以上となっている。(図6-3)

〈図6-3〉居住年数別、居住地区別



7 環境・ごみ処理について

問10【ごみ減量やリサイクルに対する取組】 あなたは、日頃からごみ減量やリサイクルに、取り組んでいますか。(○は1つ)

◇『取り組んでいる』は8割強

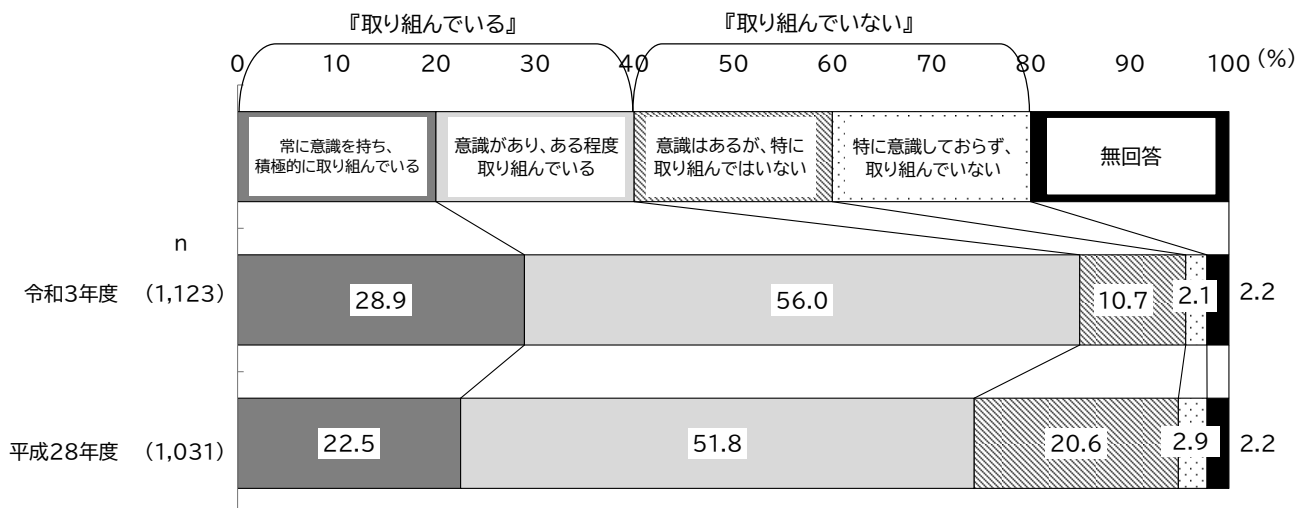
ごみ減量やリサイクルに対する取組について、「常に意識を持ち、積極的に取り組んでいる」(28.9%)と「意識があり、ある程度取り組んでいる」(56.0%)を合わせた『取り組んでいる』は84.9%となっている。

一方、「意識はあるが、特に取り組んではない」(10.7%)と「特に意識しておらず、取り組んでいない」(2.1%)を合わせた『取り組んでいない』は12.8%となっている。(図7-1)

<時系列比較>

時系列で比較すると、『取り組んでいる』については、前回調査(74.3%)から10.6ポイント増加し、ごみ減量やリサイクル意識が向上し、取り組んでいることがわかる。(図7-1)

<図7-1>ごみ減量やリサイクルに対する取組、時系列比較



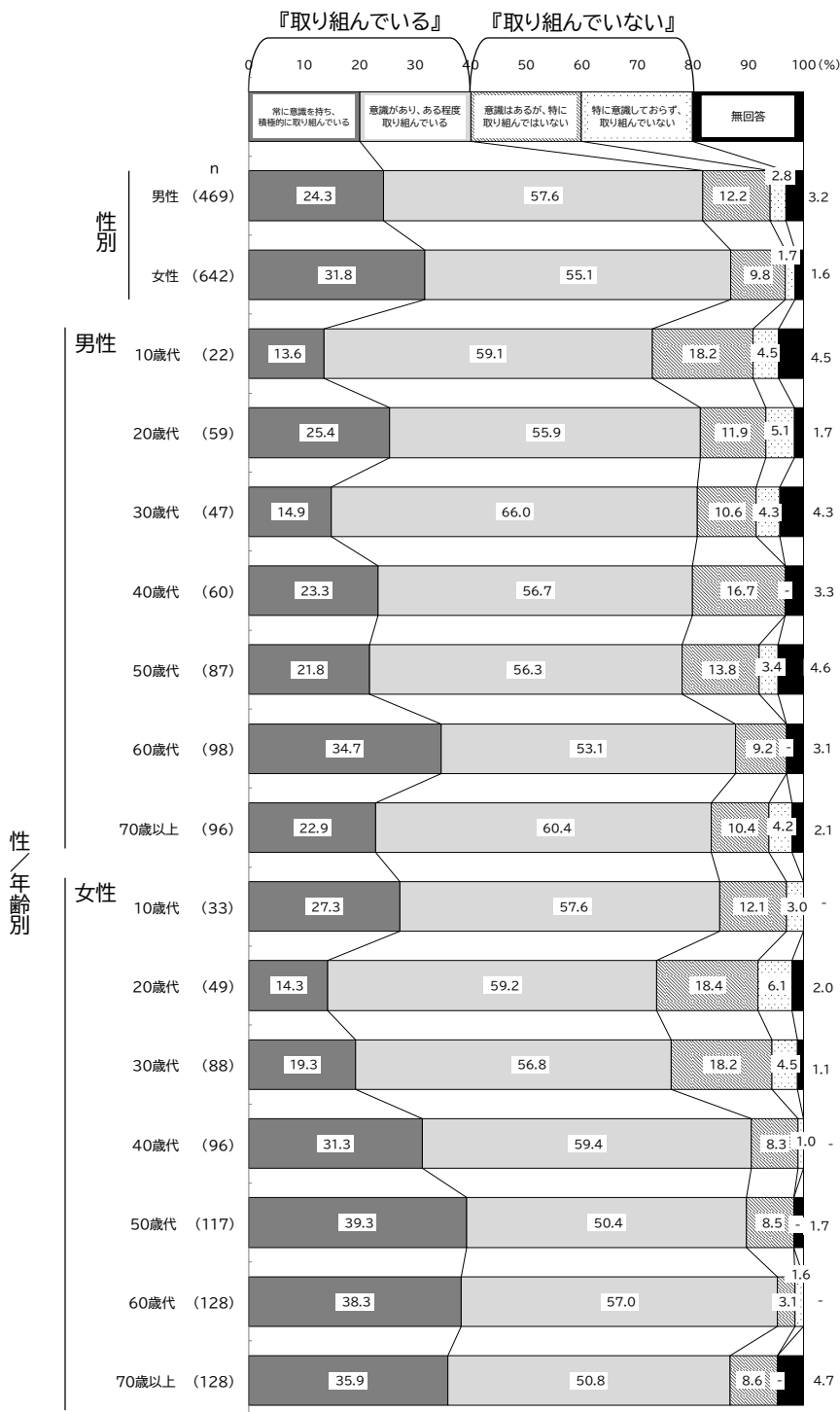
〈ごみ減量やりサイクルに対する取組〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、『取り組んでいる』の割合は、女性が 86.9%となり、男性(81.9%)と比べて 5.0 ポイント高くなっている。特に、「常に意識を持ち、積極的に取り組んでいる」が、女性が 31.8%に対し、男性が 24.3%となり、7.5 ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、『取り組んでいる』は、男女ともに“60 歳代”が最も多く、男性が 87.8%、女性が 95.3%となり、意識の高さがうかがえる。一方、『取り組んでいない』は、男性では“10 歳代”が 22.7%、女性では“20 歳代”が 24.5%で他の年代に比べて高くなっている。(図7-2)

〈図7-2〉性別、性／年齢別

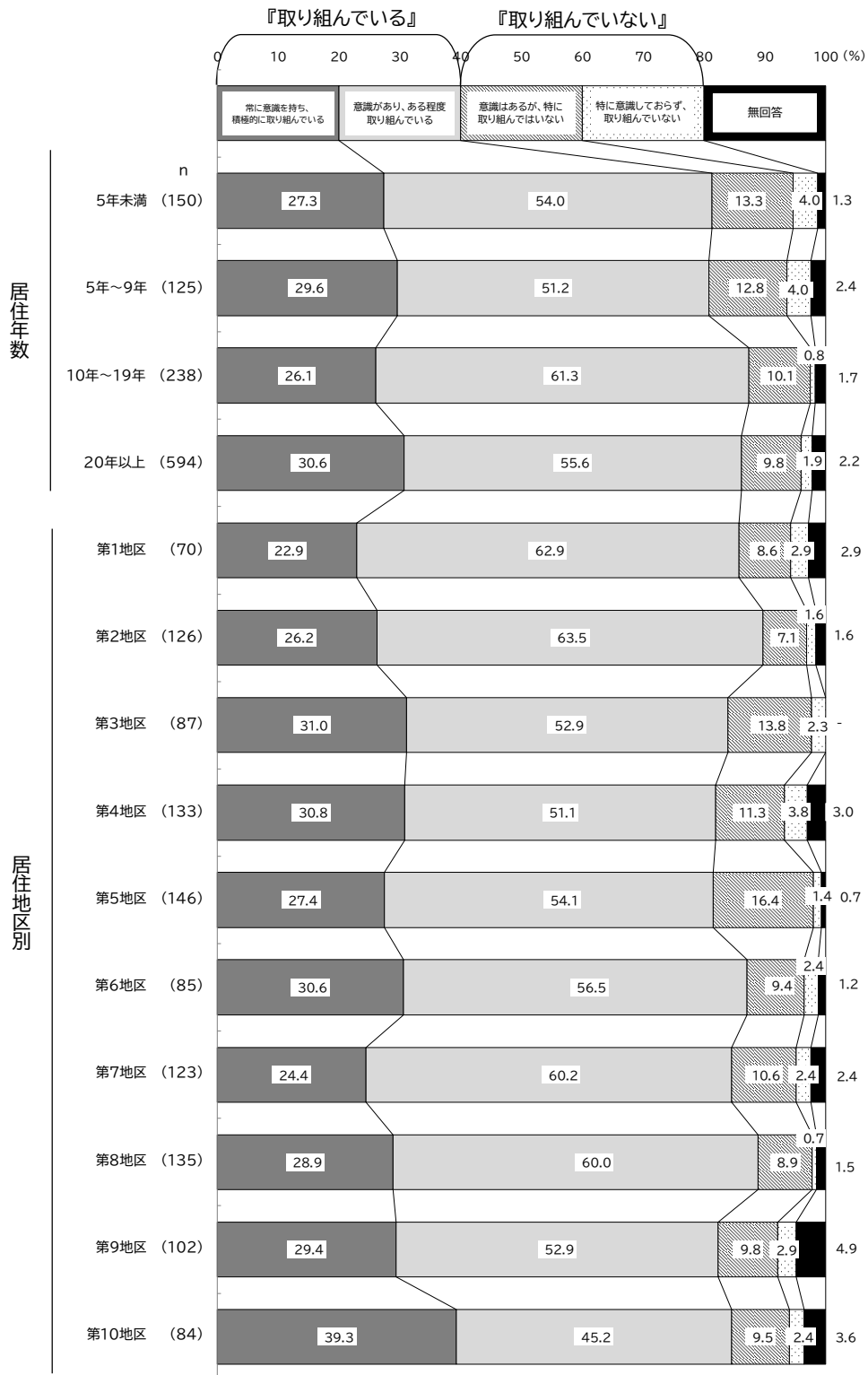


【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『取り組んでいる』はいずれの年数でも8割を超えており、最も多いのは“10～19年”の87.4%となっている。

居住地区別にみると、『取り組んでいる』はすべての地区で8割を超えており、“第2地区”が89.7%で最も多く、次いで“第8地区”(88.9%)となっている。(図7-3)

<図7-3>居住年数別、居住地区別



8 多様な生き方の尊重について

問11【男女共同参画社会の実現度】 あなたは、男女共同参画社会が実現されていると思いますか。(○は1つ)

◇『そう思う』は3割弱

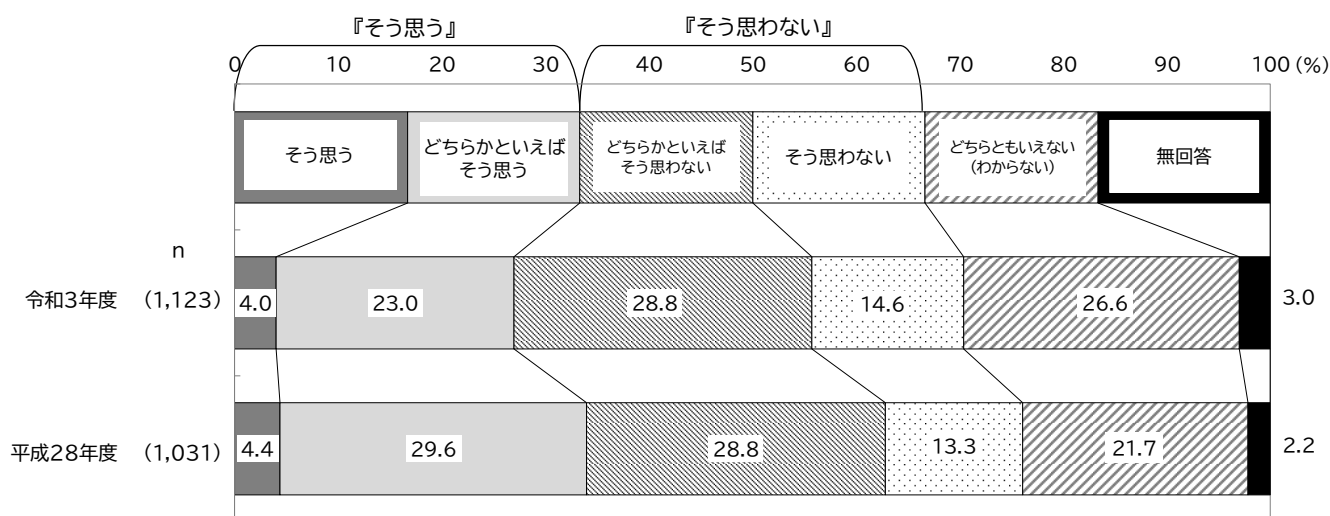
男女共同参画社会の実現度について、「そう思う」(4.0%)と「どちらかといえばそう思う」(23.0%)を合わせた『そう思う』は27.0%となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(28.8%)と「そう思わない」(14.6%)を合わせた『そう思わない』は43.4%となっている。(図8-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、『そう思う』については、前回調査(34.0%)から7.0ポイント減少し、「どちらともいえない(わからない)」が前回調査(21.7%)から4.9ポイント増加した。(図8-1)

<図8-1>男女共同参画社会の実現度、時系列比較

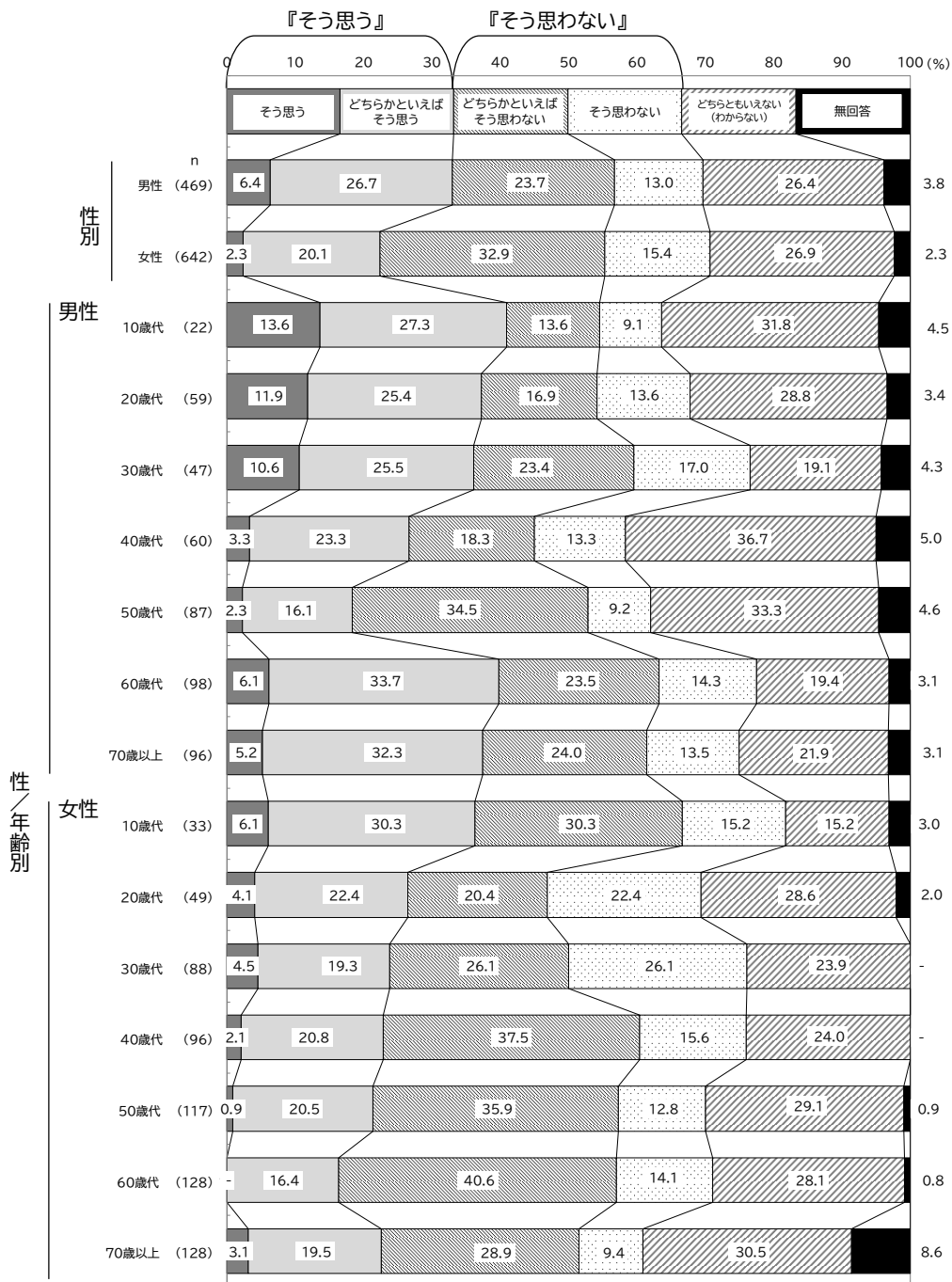


【性別、性／年齢別】

性別にみると、『そう思う』の割合は、男性が 33.1%となり、女性(22.4%)に比べて 10.7 ポイント高い一方、『そう思わない』の割合は、女性が 48.3%で、男性(36.7%)に比べて 11.6 ポイント高く、それぞれに差がみられる。

性／年齢別にみると、『そう思う』は男女ともに“10 歳代”が最も多く、男性では 40.9%、女性では 36.4%となっている。『そう思わない』は、男性では“50 歳代”が 43.7%、女性では“60 歳代”が 54.7%で最も多く、女性では“60 歳代”のほか、“30 歳代”、“40 歳代”でも過半数となっている。(図8-2)

<図8-2>性別、性／年齢別



9 スポーツについて

問12【健康づくりのための運動を行う頻度】 あなたは、健康づくりのために、どのくらいの頻度で運動(軽い体操、散歩などを含む)を行っていますか。(○は1つ)

◇『週に1回以上運動している』人が約6割

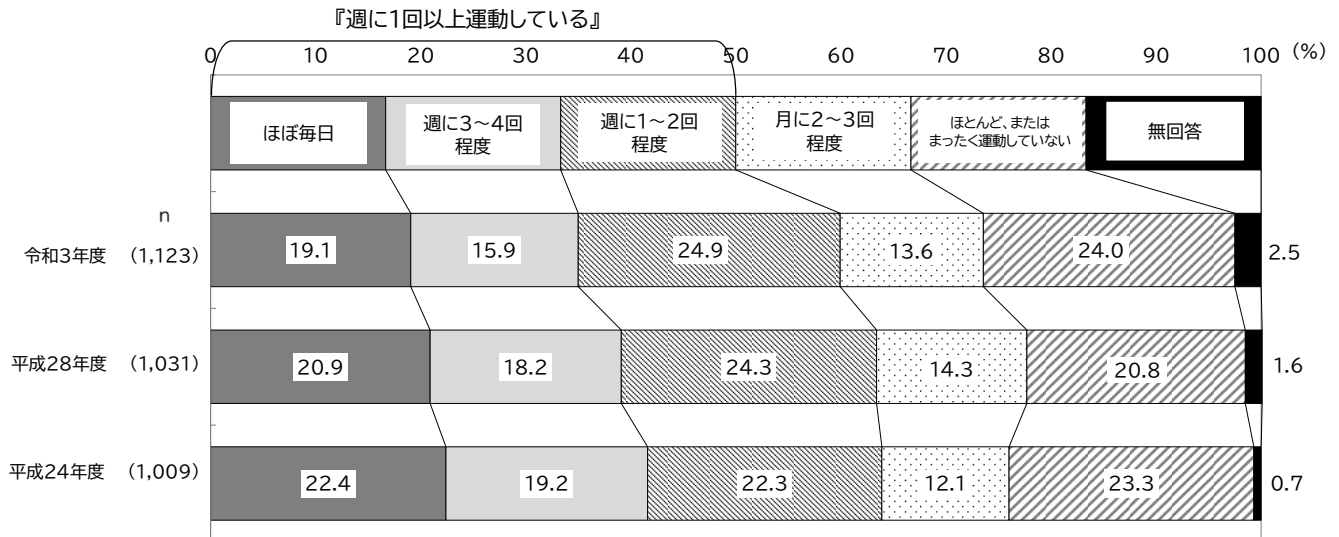
健康づくりのための運動を行う頻度は、「週に1～2回程度」が 24.9%で最も多く、次いで、「ほとんど、またはまったく運動していない」(24.0%)、「ほぼ毎日」(19.1%)の順となっている。

「月に2～3回程度」、「ほとんど、またはまったく運動していない」、「無回答」を除く『週に1回以上運動している』が 59.9%となっている。(図9-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、『週に1回以上運動している』については減少傾向にあり、前回調査(63.4%)から 3.5 ポイント減少した。(図9-1)

<図9-1>健康づくりのための運動を行う頻度、時系列比較

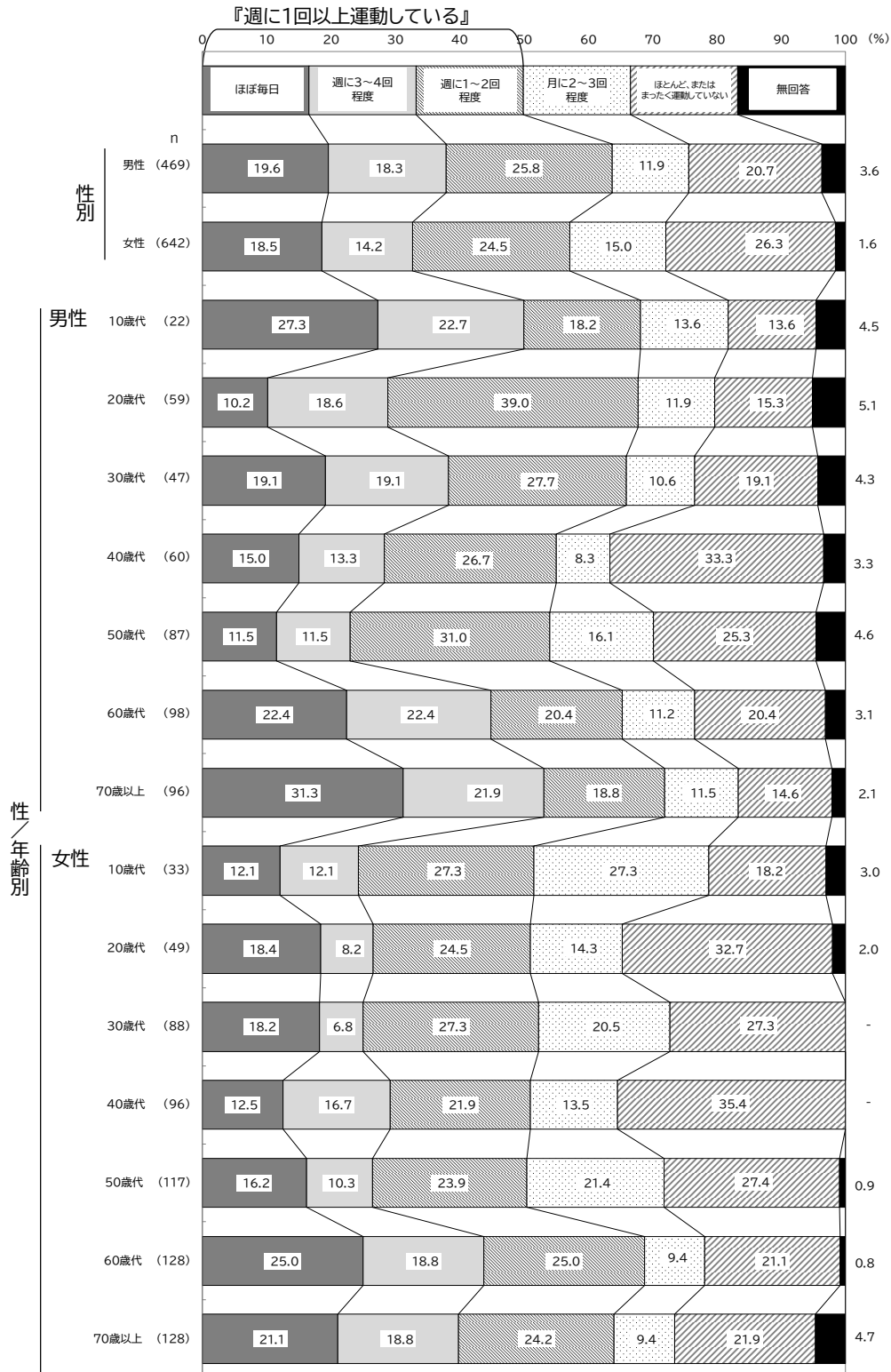


【性別、性／年齢別】

性別にみると、『週に1回以上運動している』は、男性が63.7%で、女性(57.2%)に比べて6.5ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、『週に1回以上運動している』は、男性では“70 歳以上”が 72.0%、女性では“60 歳代”が68.8%で最も多くなっている。なお、「ほとんど、またはまったく運動していない」は、男性の“40 歳代”、女性の“20 歳代”、“40 歳代”で3割以上となっている。(図9-2)

<図9-2>性別、性／年齢別

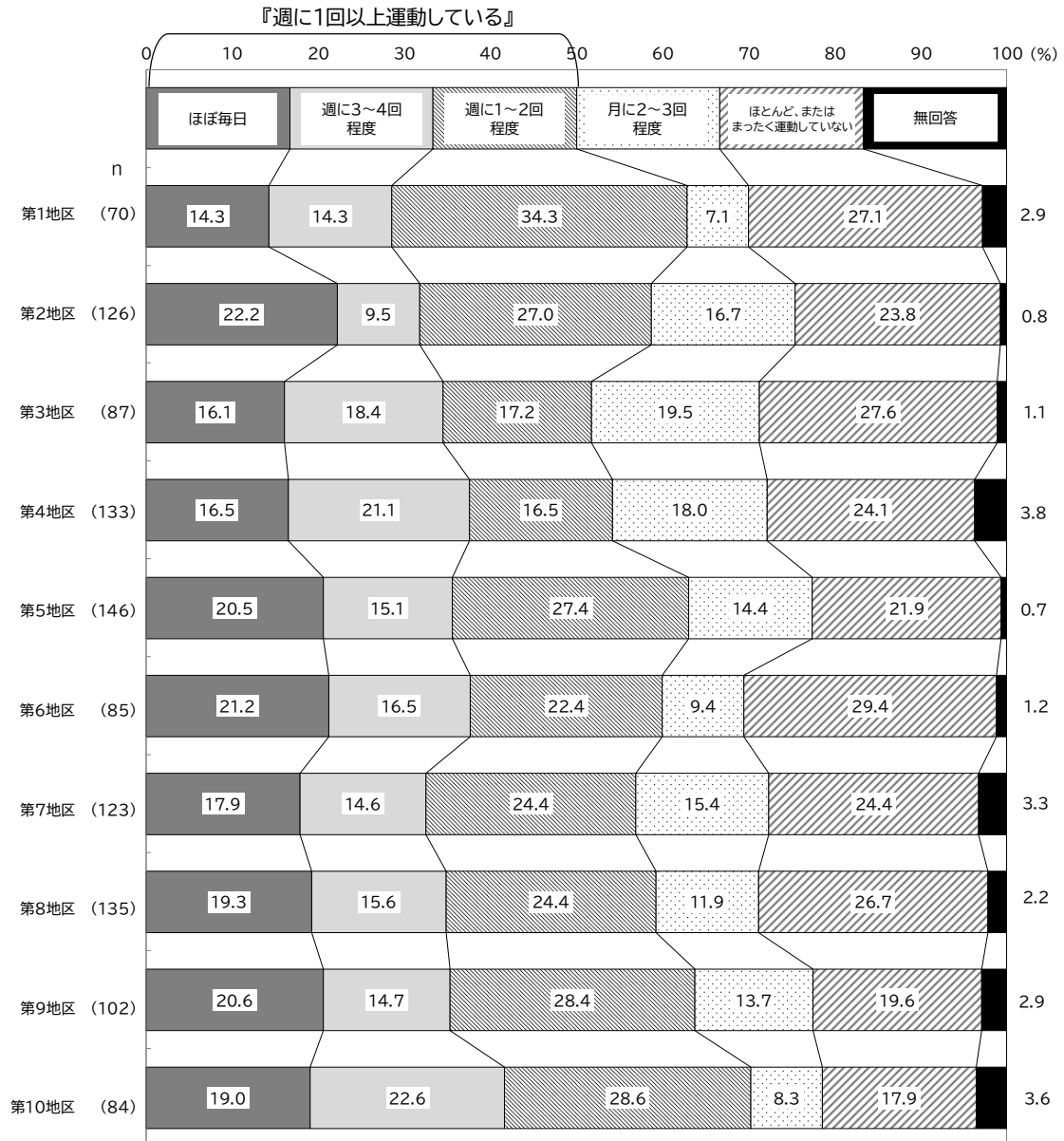


〈健康づくりのための運動を行う頻度〉

〈居住地区別〉

居住地区別にみると、『週に1回以上運動している』は“第10地区”が70.2%で最も多く、次いで“第9地区”(63.7%)、“第5地区”(63.0%)の順となっている。(図9-3)

〈図9-3〉居住地区別

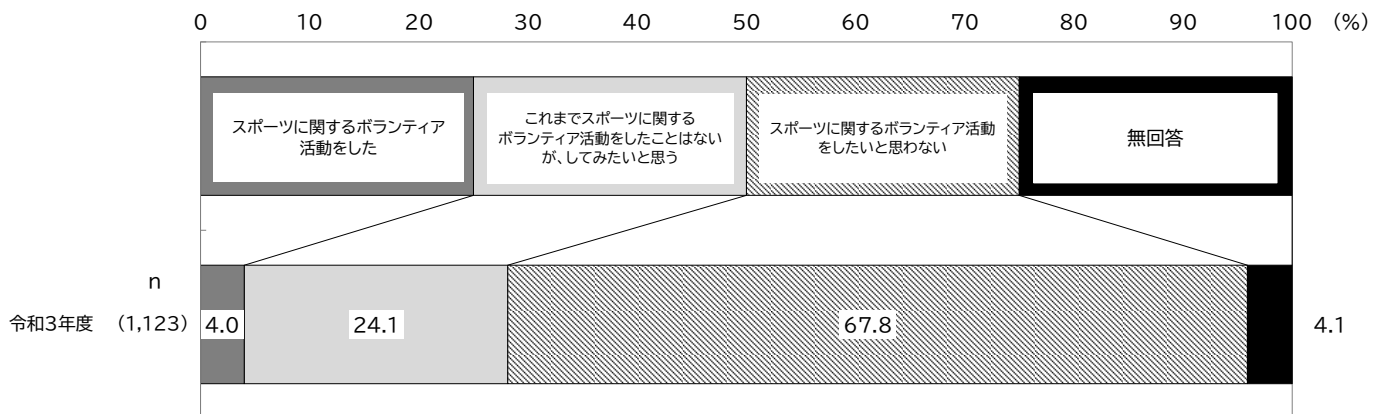


問13【スポーツに関するボランティア活動の意向】 あなたはこの1年間に運動やスポーツ、昔あそび(学校支援含む)などの指導や大会の運営などのスポーツに関するボランティア活動をしましたか。(○は1つ)

◇「スポーツに関するボランティア活動をしたと思わない」が67.8%で最も多い

スポーツに関するボランティア活動の意向は、「スポーツに関するボランティア活動をしたと思わない」が67.8%で最も多く、次いで、「これまでスポーツに関するボランティア活動をしたことはないが、してみたいと思う」(24.1%)、「スポーツに関するボランティア活動をした」(4.0%)の順となっている。(図9-4)

<図9-4>スポーツに関するボランティア活動の意向



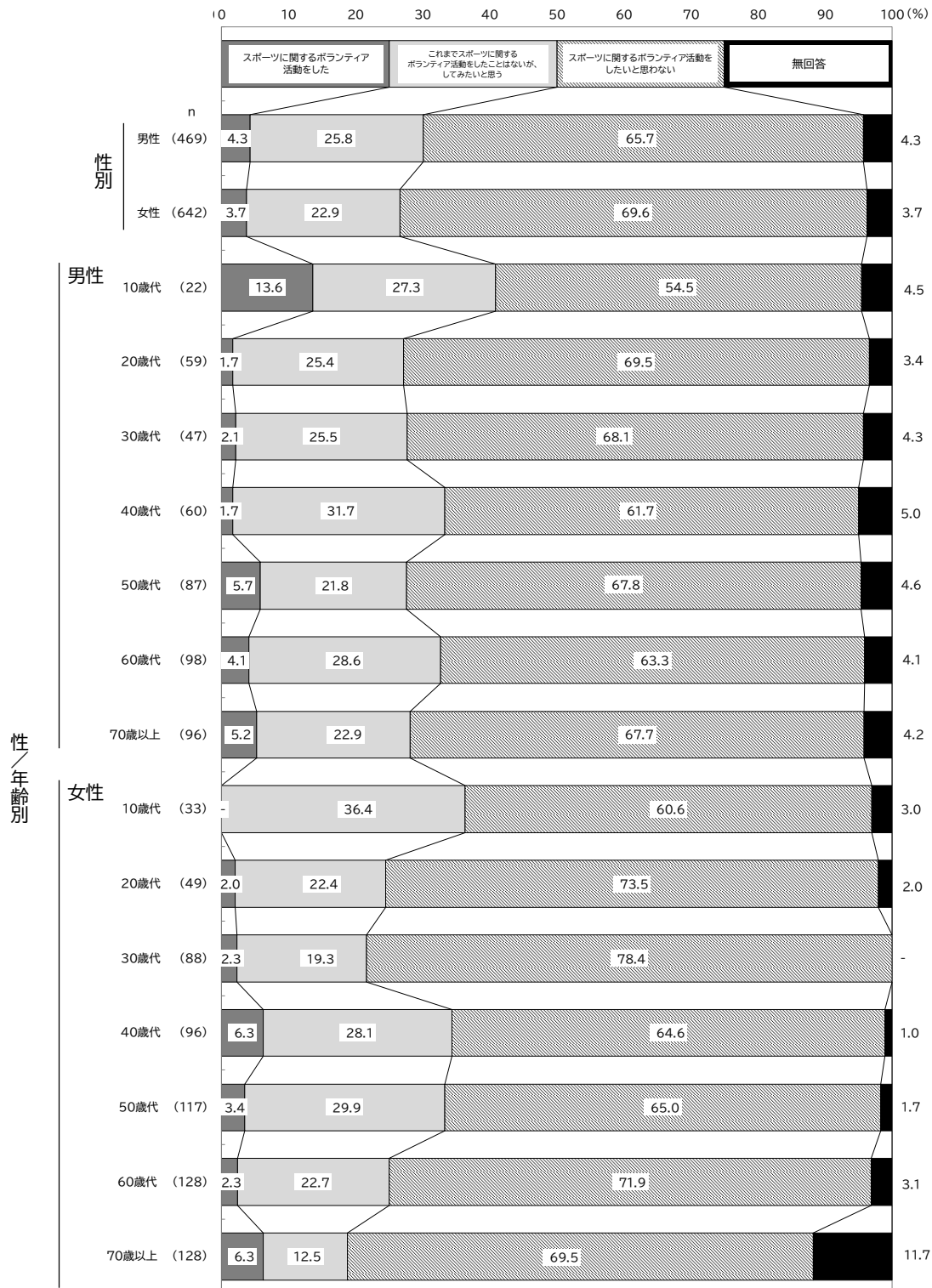
〈スポーツに関するボランティア活動の意向〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図9-4)の傾向と大きな違いはみられない。

性／年齢別にみると、「スポーツに関するボランティア活動をした」は男性の“10 歳代”が13.6%で最も多く、男女を通して唯一1割を超えている。「これまでスポーツに関するボランティア活動をしたことはないが、してみたいと思う」は、男性では“40 歳代”が31.7%、女性では“10 歳代”が36.4%で最も多くなっている。(図9-5)

〈図9-5〉性別、性／年齢別



10 産業について

問14【市内での買い物状況】 あなたは、日頃、小平市内の店舗で買い物をしていますか。

(○は1つ)

◇『買い物をしている』が8割強

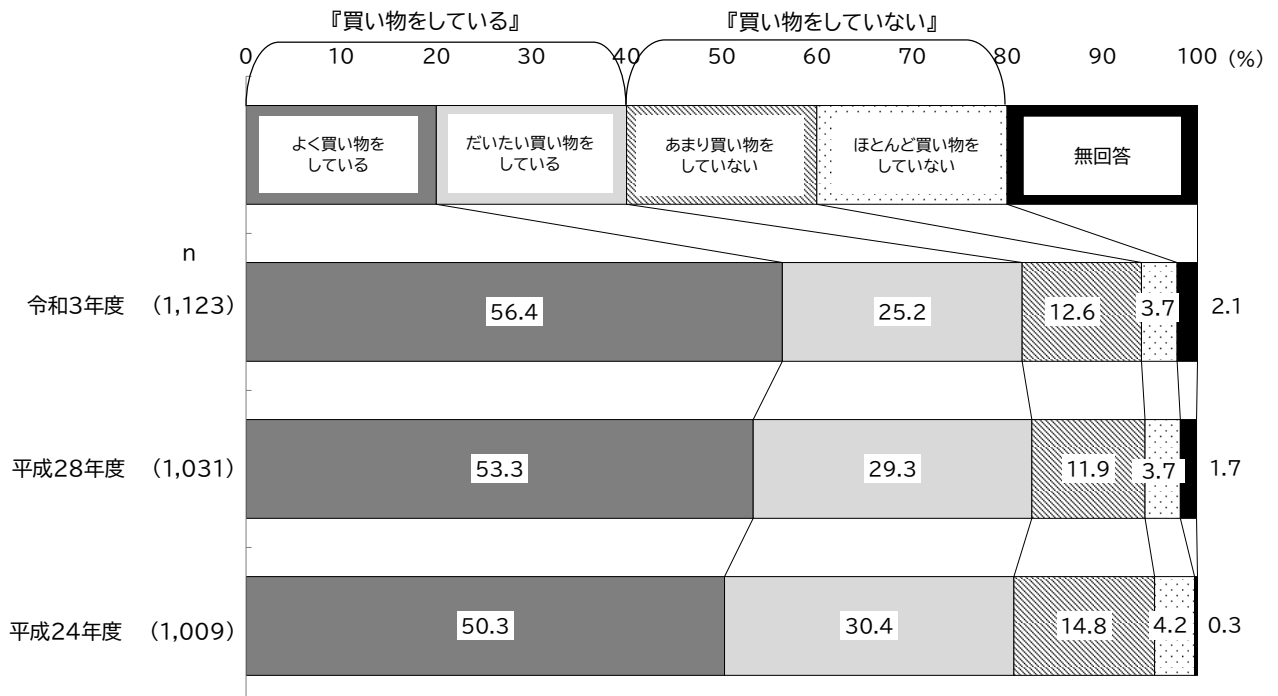
市内での買い物状況について、「よく買い物をしている」(56.4%)と「だいたい買い物をしている」(25.2%)を合わせた『買い物をしている』は 81.6%となっている。

一方、「あまり買い物をしていない」(12.6%)と「ほとんど買い物をしていない」(3.7%)を合わせた『買い物をしていない』は 16.3%となっている。(図 10-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「よく買い物をしている」については増加傾向にあり、前回調査(53.3%)から 3.1 ポイント増加した。

<図10-1>市内での買い物状況、時系列比較



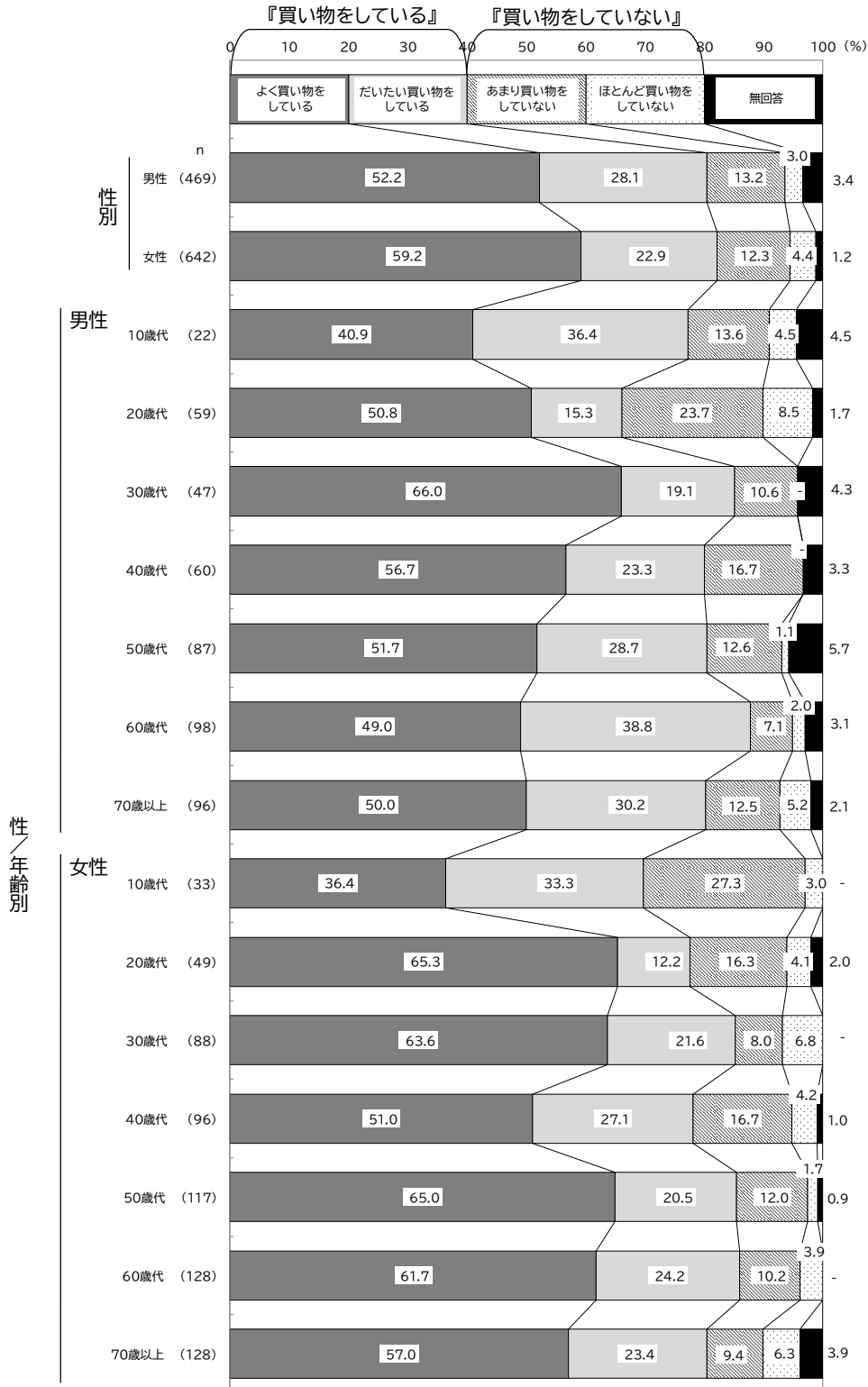
〈市内での買い物状況〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、市内で『買い物をしている』は、男女ともに約8割で大きな差はみられないが、「よく買い物をしている」は、女性が59.2%で、男性(52.2%)に比べて7.0ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、『買い物をしている』は、男性の30歳代以上、女性の“30歳代”と50歳代以上で8割を超えている。一方、『買い物をしていない』は、男性の“20歳代”、女性の“10歳代”で3割以上となり、他の年代に比べて高くなっている。(図10-2)

〈図10-2〉性別、性／年齢別

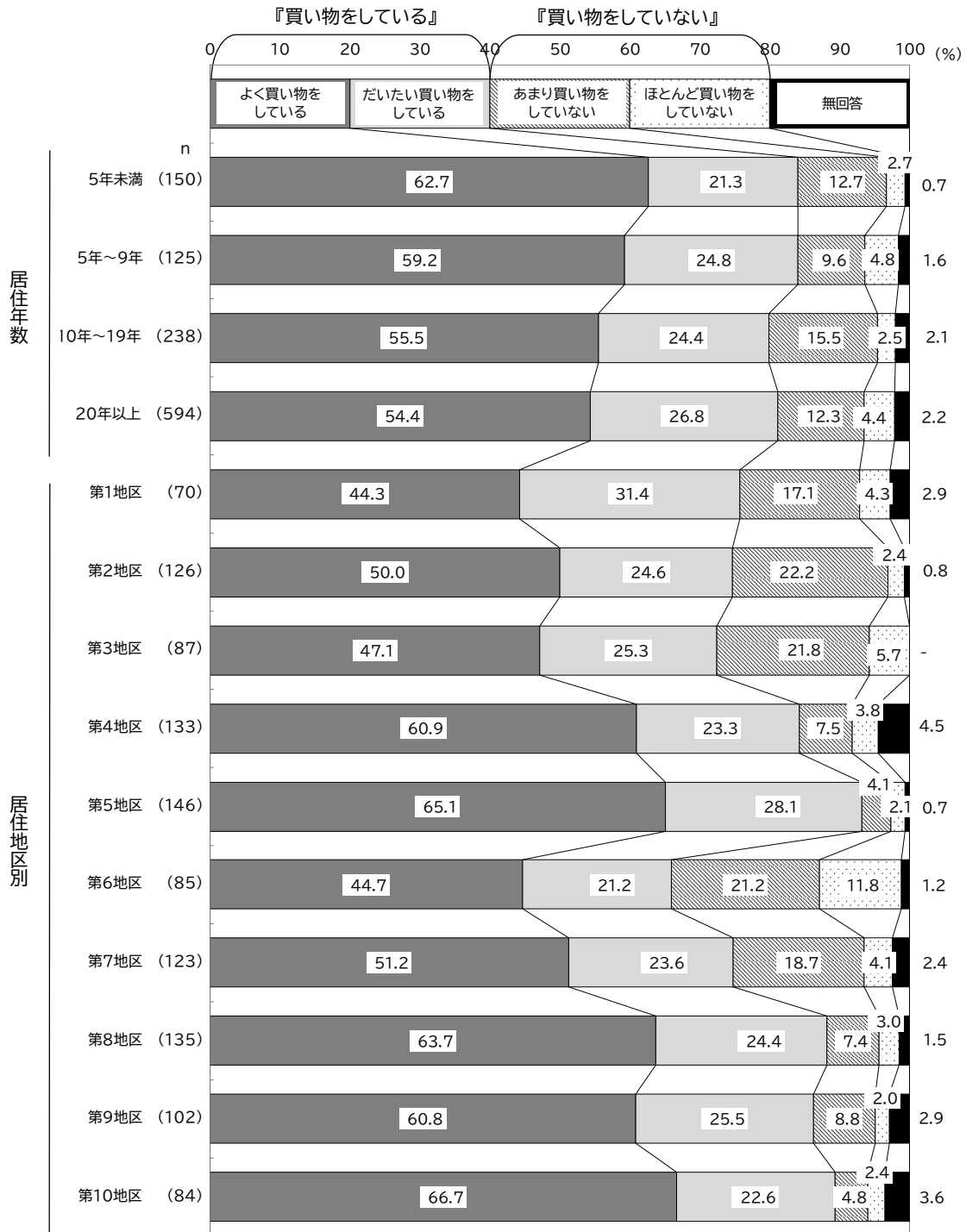


【居住年数、居住地区】

居住年数別にみると、全体(図 10-1)の傾向と大きな違いはみられない。

居住地区別にみると、『買い物をしている』は“第 5 地区”が 93.2%で最も多く、次いで“第 10 地区”(89.3%)、“第 8 地区”(88.1%)の順となっている。一方、『買い物をしていない』が最も多いのは“第 6 地区”の 33.0%となっている。(図 10-3)

<図 10-3>居住年数、居住地区



問15【小平産の農産物の購入状況】 あなたは、日頃、小平産の農産物を購入するようにしていますか。(○は1つ)

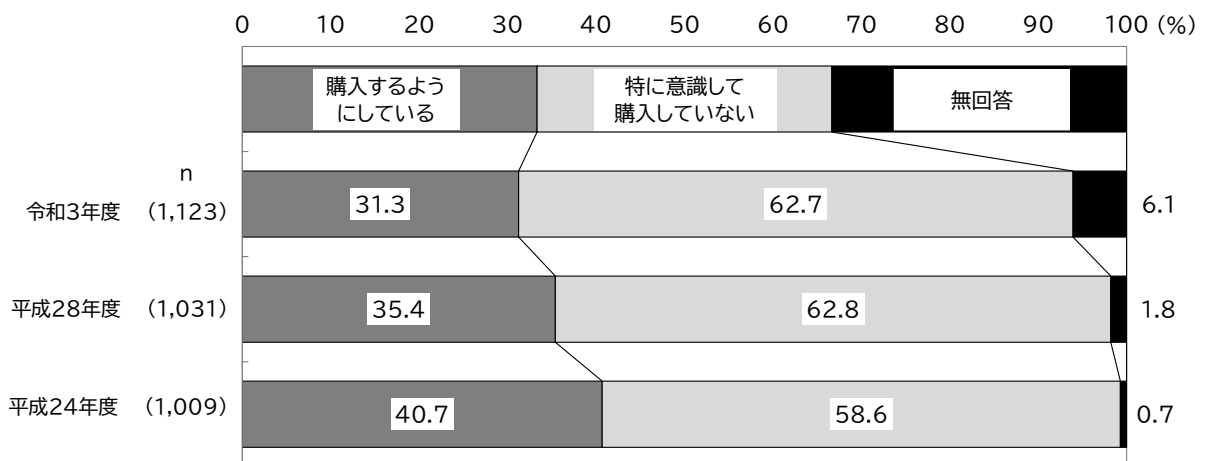
◇「購入するようにしている」が約 3 割

小平産の農産物の購入状況は、「購入するようにしている」が 31.3%、「特に意識して購入していない」が 62.7%となっている。(図 10-4)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「購入するようにしている」については減少傾向にあり、今回調査では前回調査(35.4%)と比べ 4.1 ポイント減少した。(図10-4)

<図 10-4>小平産の農産物の購入状況、時系列比較

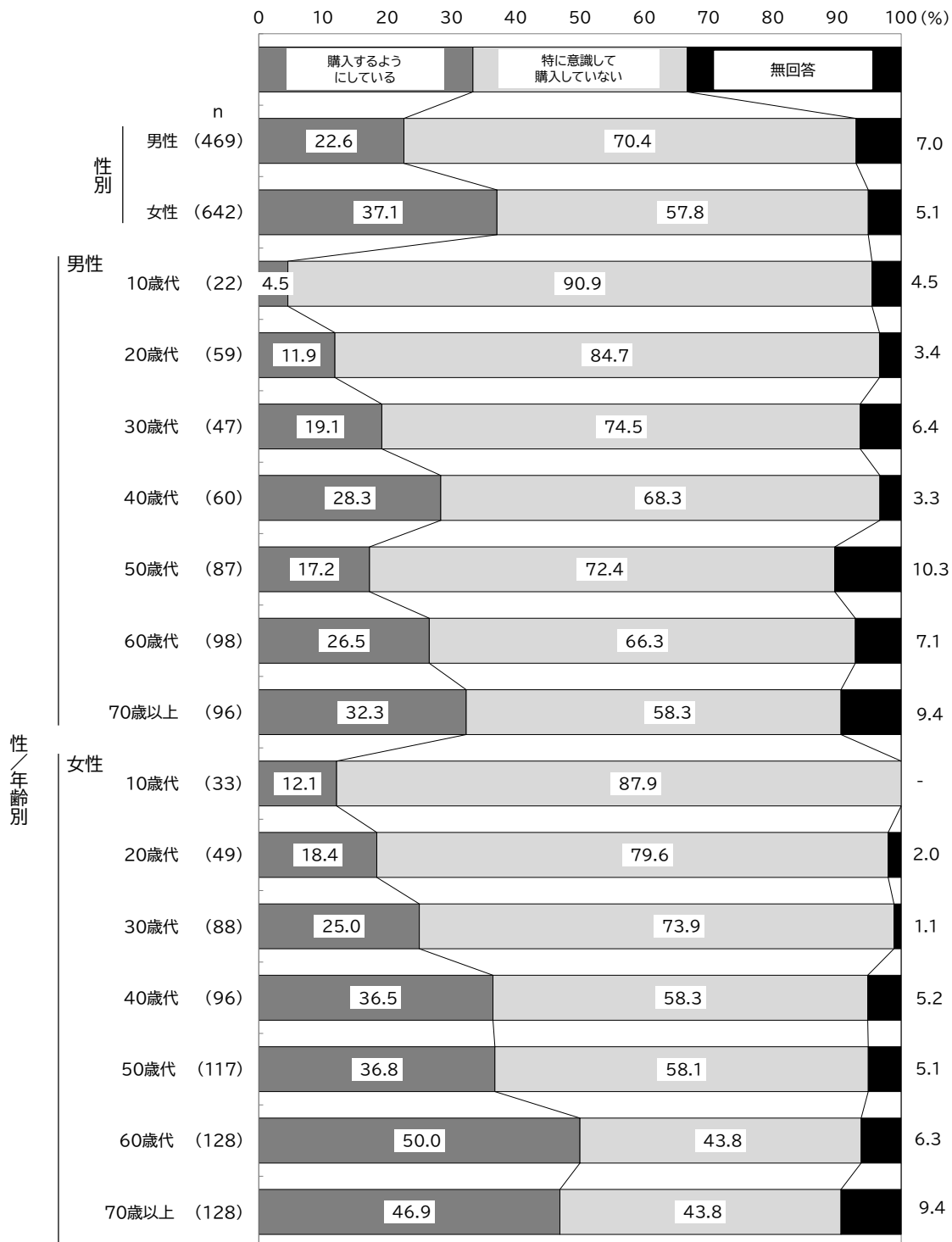


【性別、性／年齢別】

性別にみると、「購入するようにしている」は、女性が 37.1%となり、男性(22.6%)に比べて 14.5 ポイント高い一方、「特に意識して購入していない」は、男性が 70.4%で、女性(57.8%)に比べて 12.6 ポイント高く、それぞれに差がみられる。

性／年齢別にみると、「購入するようにしている」は男性の“70歳以上”、女性の40歳代以上で3割を超えており、特に女性の60歳代以上は高く、約半数となっている。「特に意識して購入していない」の割合は、男女ともに年代が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。(図10-5)

<図10-5>性別、性／年齢別



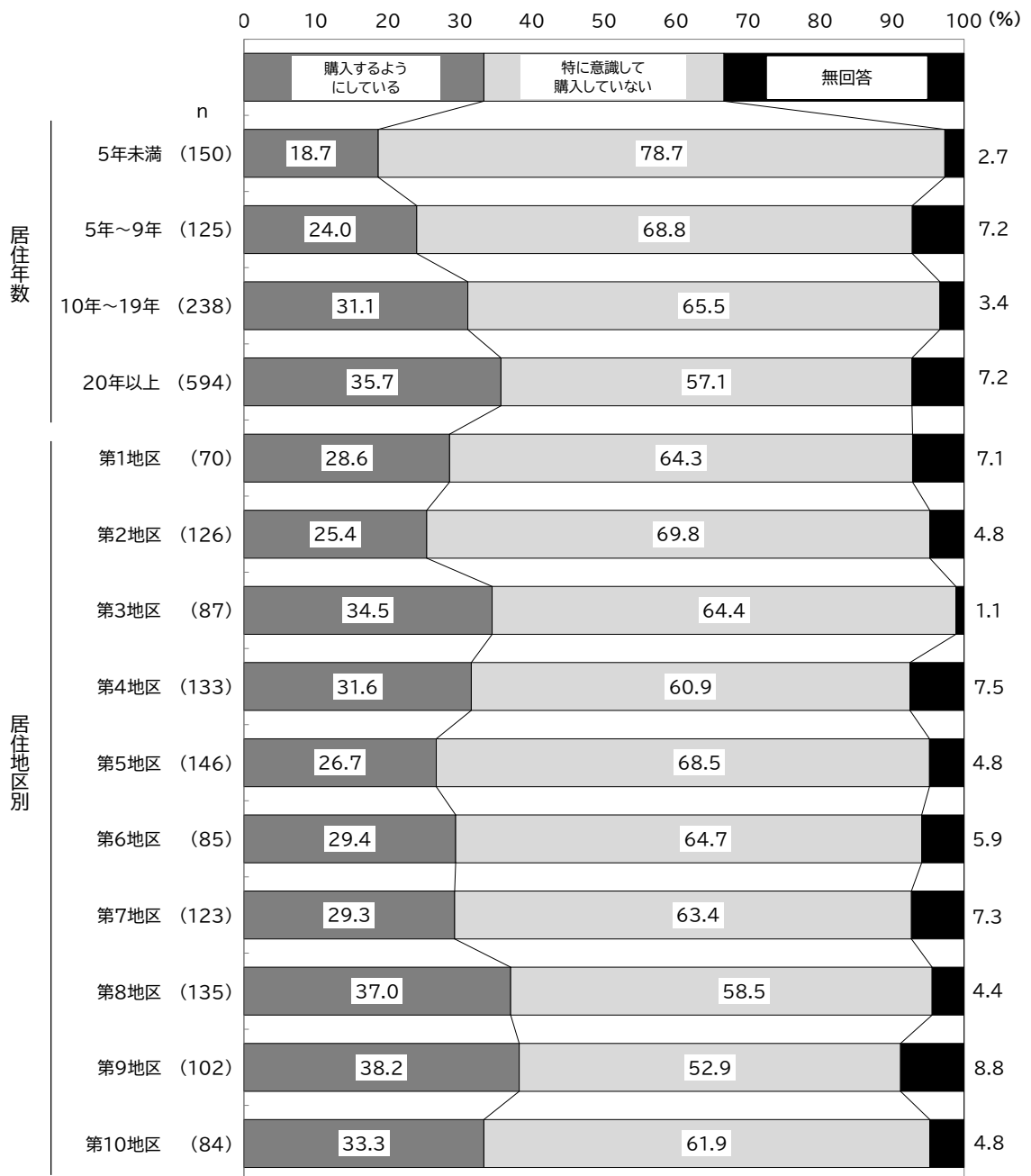
〈小平産の農産物の購入状況〉

【居住年数、居住地区】

居住年数別にみると、「購入するようにしている」は、居住年数が長くなるにつれて高くなっており、最も高い“20年以上”(35.7%)と、最も低い“5年未満”(18.7%)では、17.0ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「購入するようにしている」は、“第9地区”が38.2%で最も多く、次いで“第8地区”(37.0%)、“第3地区”(34.5%)の順となっている。(図10-6)

<図10-6>居住年数、居住地区



(問15で「1」と答えた方におたずねします。)

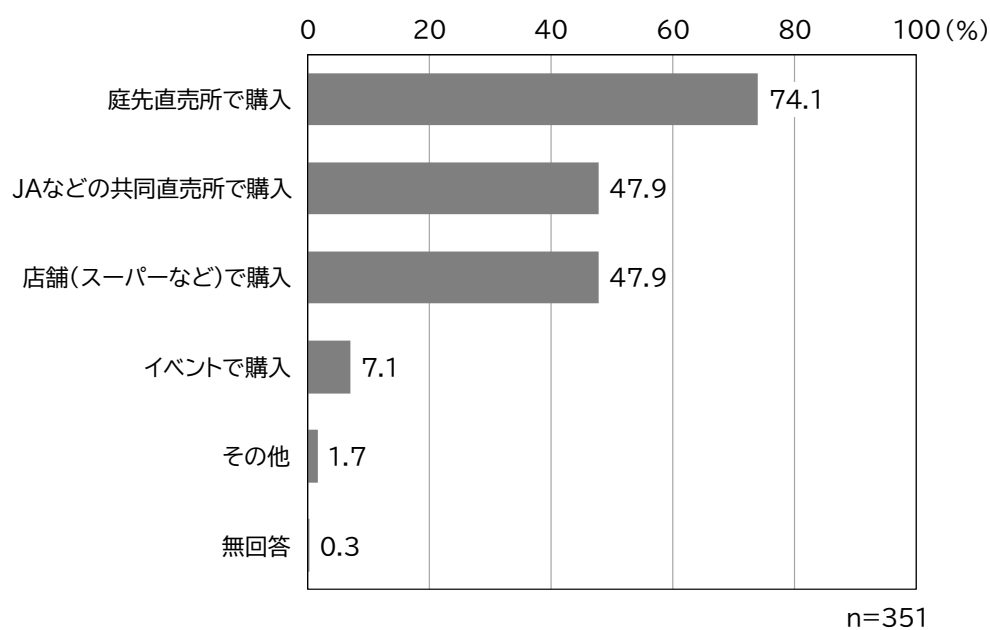
問15-1【小平産の農産物の購入方法】 どのような形で購入していますか。

(○はいくつでも可)

◇「庭先直売所で購入」が 74.1%で最も多い

小平産の農産物の購入方法は、「庭先直売所で購入」が 74.1%で最も多く、次いで、「JAなどの共同直売所で購入」と「店舗(スーパーなど)で購入」が同率の 47.9%となっている。(図10-7)

<図10-7>小平産の農産物の購入方法



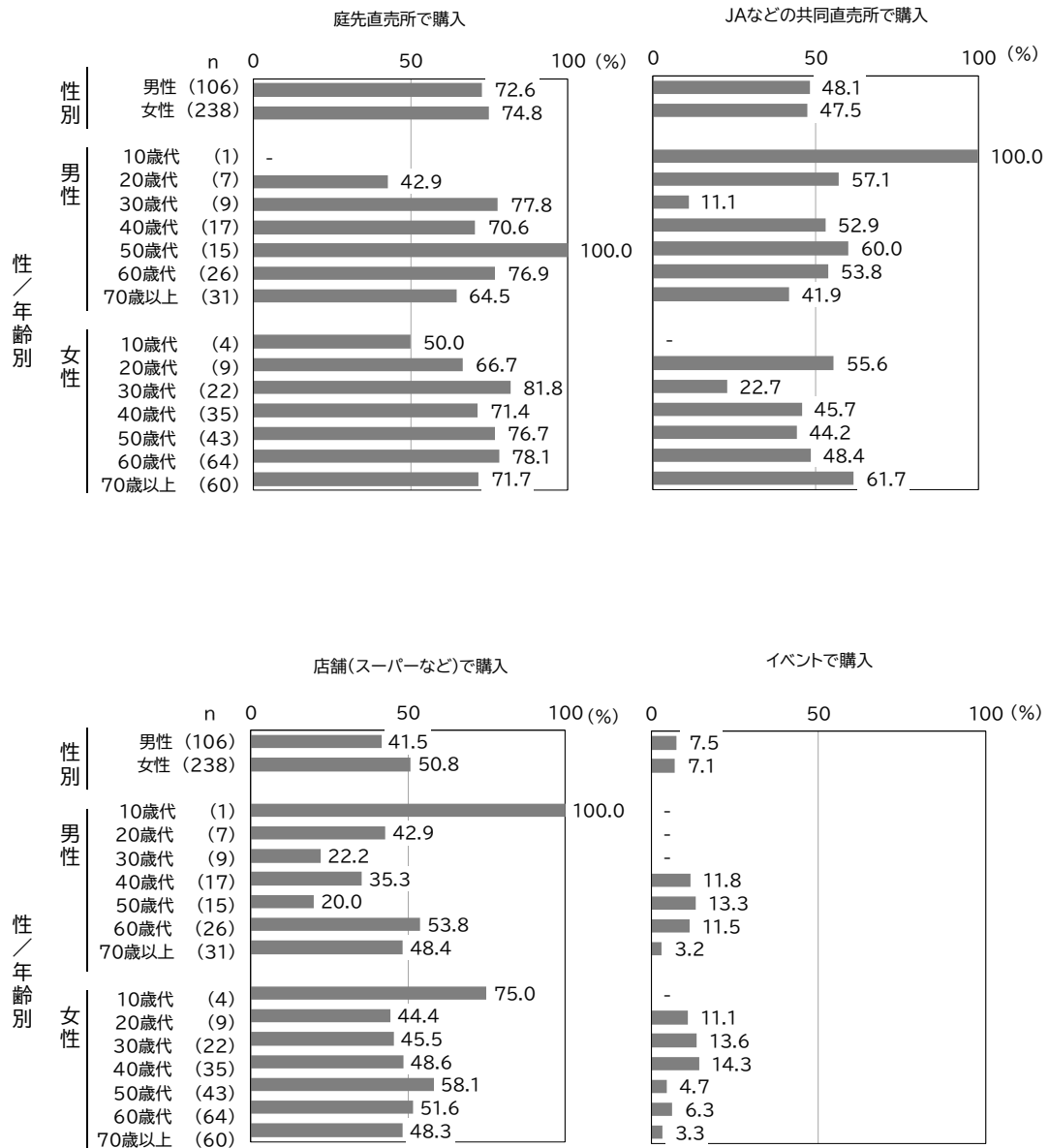
〈小平産の農産物の購入方法〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、「店舗(スーパーなど)で購入」は女性が50.8%で、男性(41.5%)に比べて9.3ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、男性の30歳代以上、女性の20歳代以上では「庭先直売所で購入」が最も多くなっている。(図10-8)

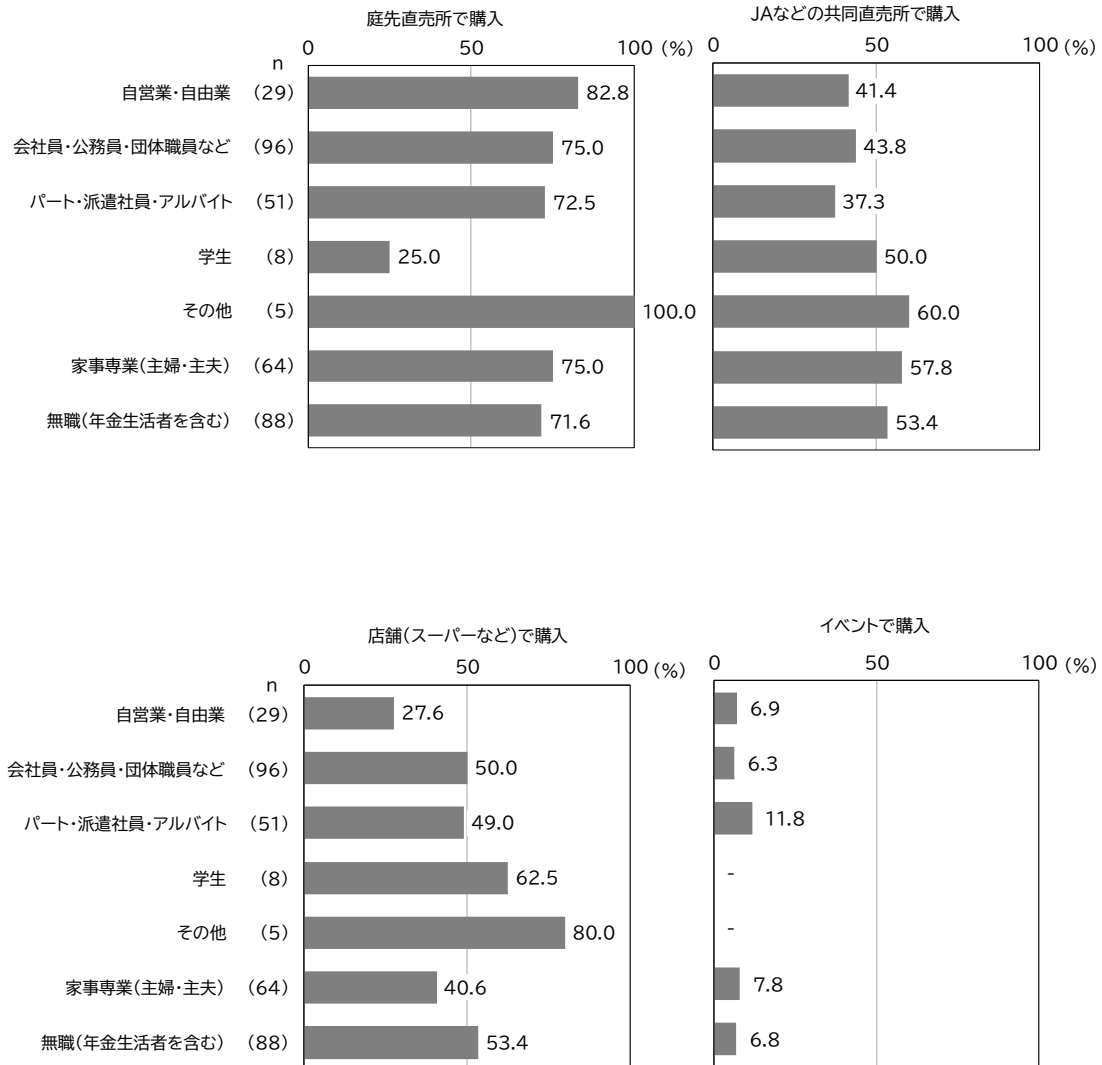
<図10-8>性別、性／年齢別



【職業別】

職業別にみると、“学生”以外の職業では「庭先直売所で購入」が最も多く、いずれの職業でも7割以上となっている。“学生”では「店舗(スーパーなど)で購入」が62.5%で最も多くなっている。(図10-9)

〈図10-9〉職業別



(問15で「2」と答えた方におたずねします。)

問15-2【小平産の農産物を購入していない理由】 小平産の農産物を購入していない1番の理由は、次のうちどれですか。(○は1つ)

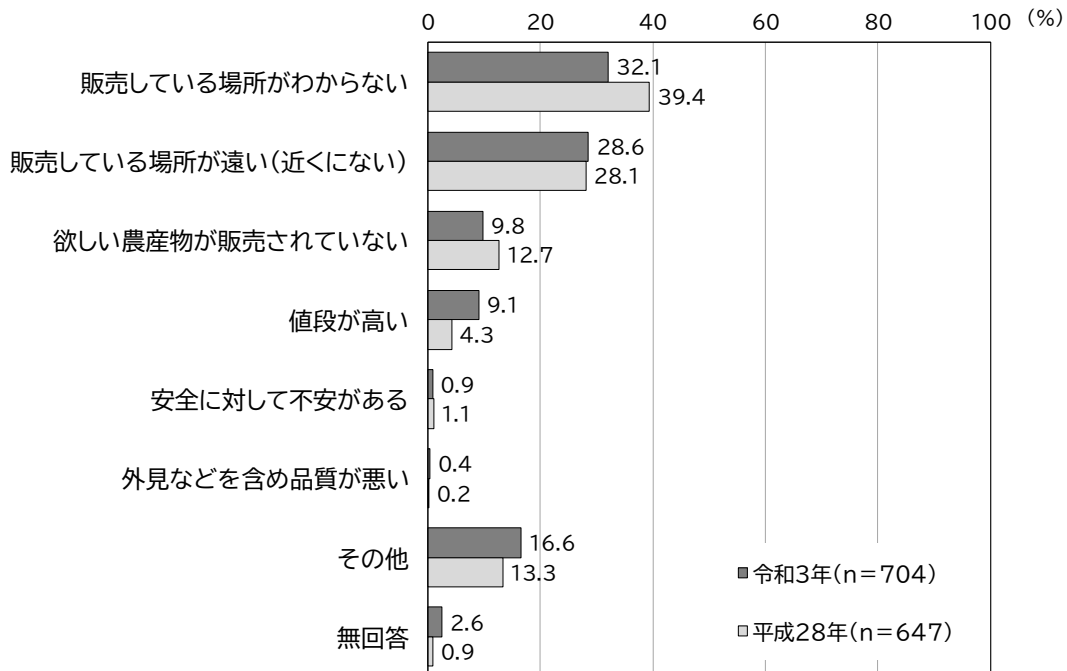
◇「販売している場所がわからない」が 32.1%で最も多い

小平産の農産物を購入していない理由については、「販売している場所がわからない」が 32.1%で最も多く、次いで、「販売している場所が遠い(近くにない)」(28.6%)、「欲しい農産物が販売されていない」(9.8%)の順となっている。(図 10-10)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「販売している場所がわからない」については、前回調査(39.4%)から 7.3 ポイント減少し、認知度が向上していることがうかがえる。(図 10-10)

<図10-10>小平産の農産物を購入していない理由

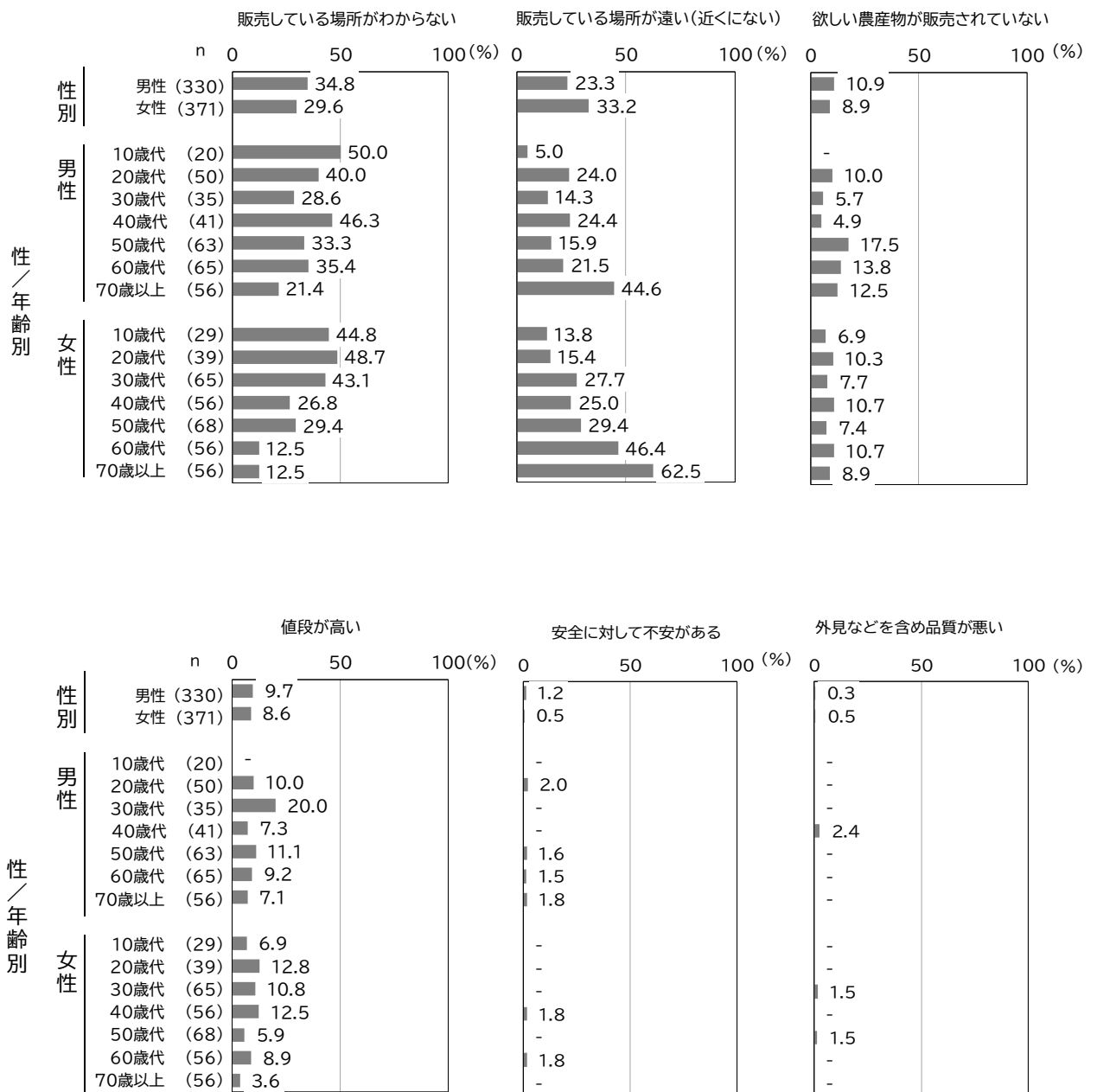


【性別、性／年齢別】

性別にみると、男性では、「販売している場所がわからない」が 34.8%で最も多く、女性 (29.6%)より 5.2 ポイント高くなっている。女性では、「販売している場所が遠い(近くにない)」が 33.2%で最も多く、男性(23.3%)より 9.9 ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、男性では、60 歳代以下は「販売している場所がわからない」、「70 歳以上」は「販売している場所が遠い(近くにない)」が最も多くなっている。女性では、30 歳代以下は「販売している場所がわからない」が4割以上となっているほか、70 歳以上では「販売している場所が遠い(近くにない)」が 62.5%となり、他の年代に比べて高くなっている。(図10-11)

<図10-11>性別、性／年齢別



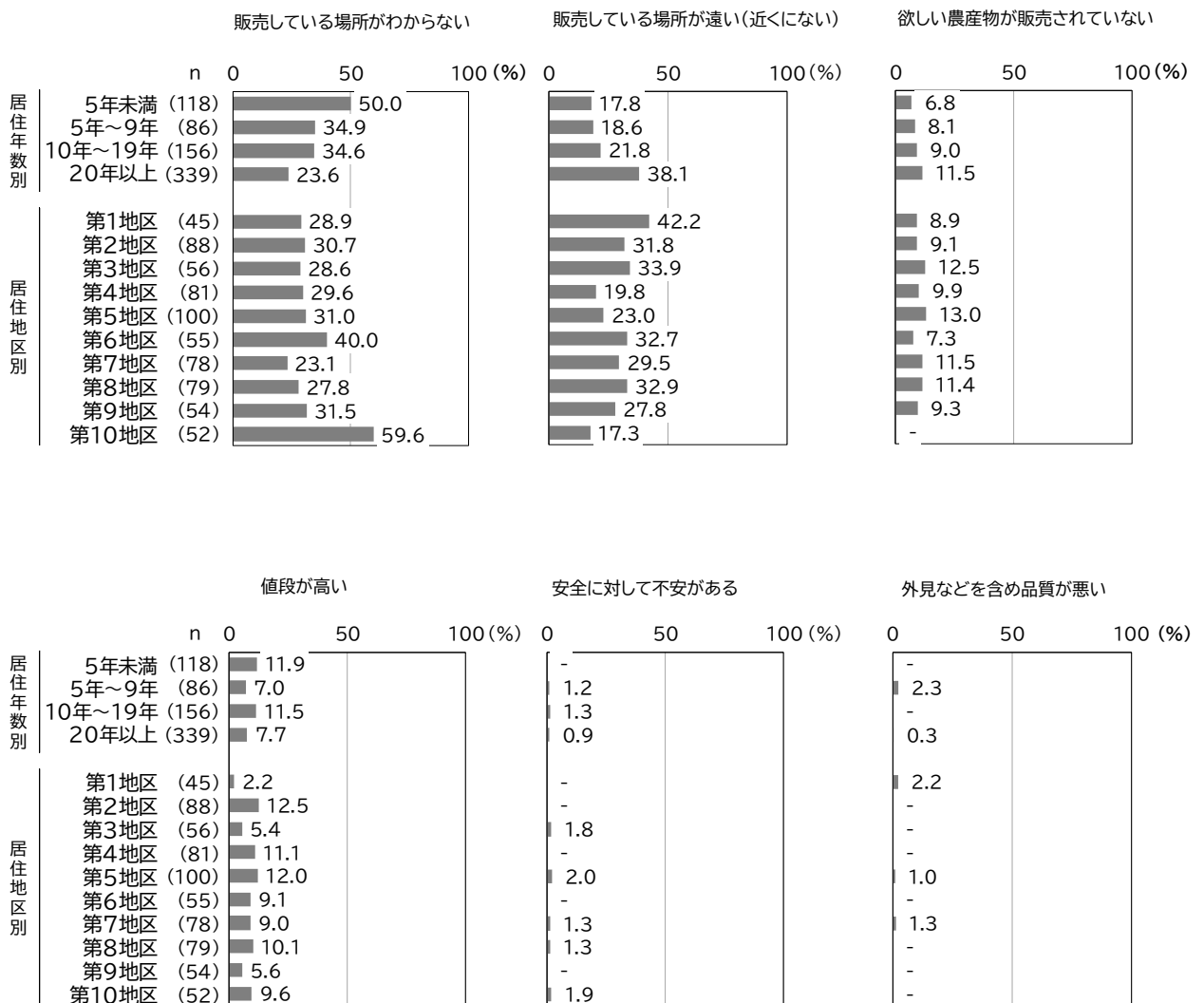
〈小平産の農産物を購入していない理由〉

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、「販売している場所がわからない」は居住年数が短くなるにつれて高くなっており、“5年未満”では半数を占めている。“20年以上”では「販売している場所が遠い(近くにない)」が38.1%で最も多くなっている。

居住地区別にみると、第4・5・6・9・10地区では「販売している場所がわからない」が最も多く、特に“第10地区”では約6割を占めている。第1・2・3・7・8地区では「販売している場所が遠い(近くにない)」が最も多く、特に“第1地区”では42.2%となり、他の地区に比べて高くなっている。(図10-12)

〈図10-12〉居住年数別、居住地区別

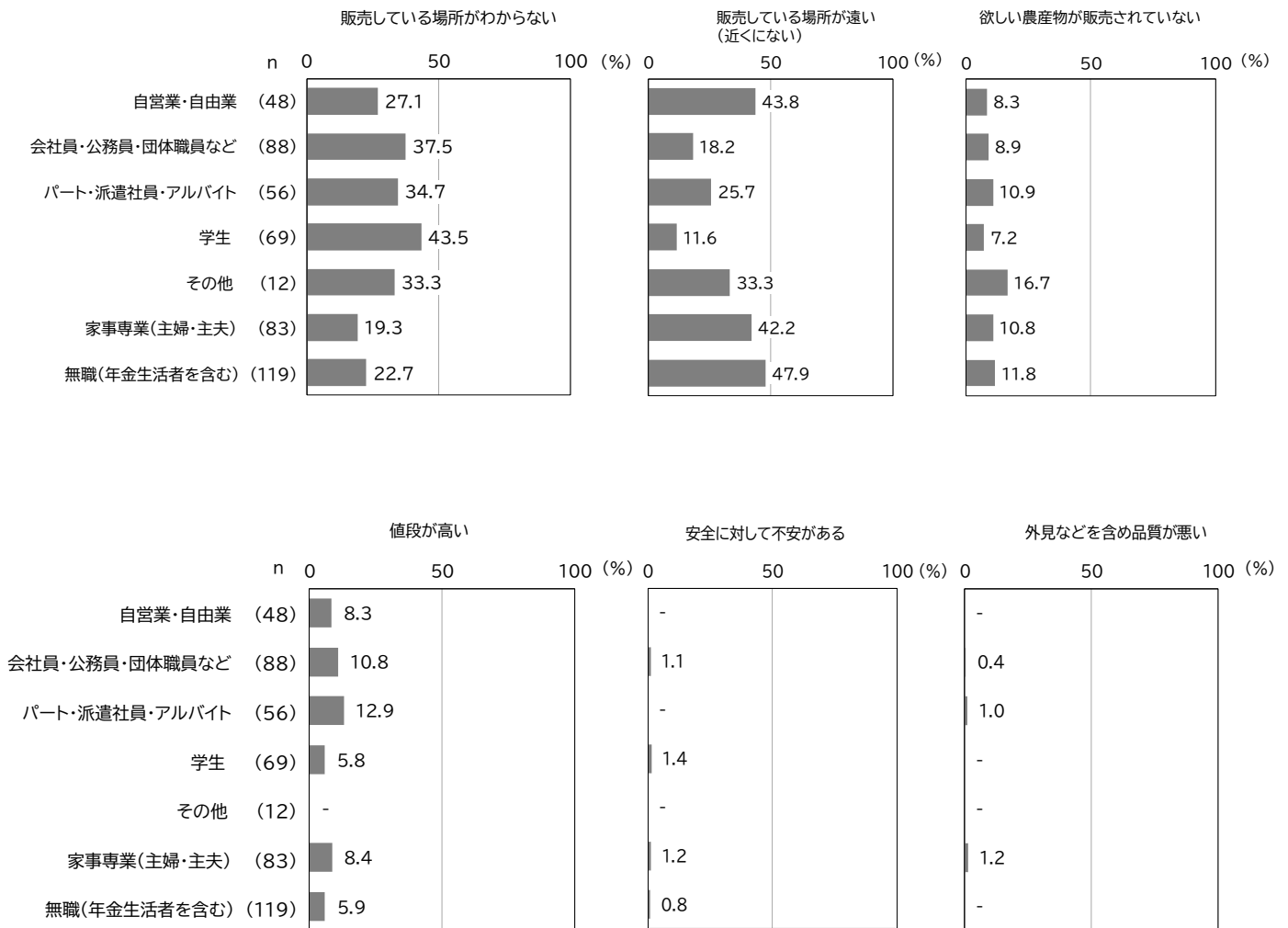


〈小平産の農産物を購入していない理由〉

【職業別】

職業別にみると、「販売している場所がわからない」は、“学生”が 43.5%で最も多く、次いで“会社員・公務員・団体職員など”(37.5%)、“パート・派遣社員・アルバイト”(34.7%)の順となっている。「販売している場所が遠い(近くにない)」は、“無職(年金生活者を含む)”が最も多く約半数となっており、全体(図10-10)と比べて高くなっている。(図 10-13)

〈図10-13〉職業別



11 情報提供について

問16【市からの情報の入手先】 あなたは、小平市からの情報は主にどこから得ていますか。

(○は1つ)

◇「市報」が66.7%で最も多い

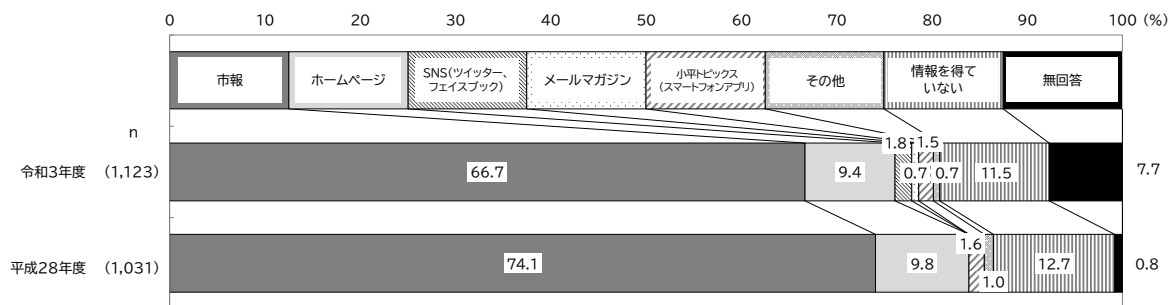
市からの情報の入手先は、「市報」が66.7%で最も多く、次いで、「情報を得ていない」(11.5%)、「ホームページ」(9.4%)の順となっている。(図11-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「市報」については、前回調査(74.1%)から7.4ポイント減少した。

※今回調査より、「SNS(ツイッター、フェイスブック)」「メールマガジン」(0.7%)の選択肢を追加。(図11-1)

<図 11-1>市からの情報の入手先、時系列比較

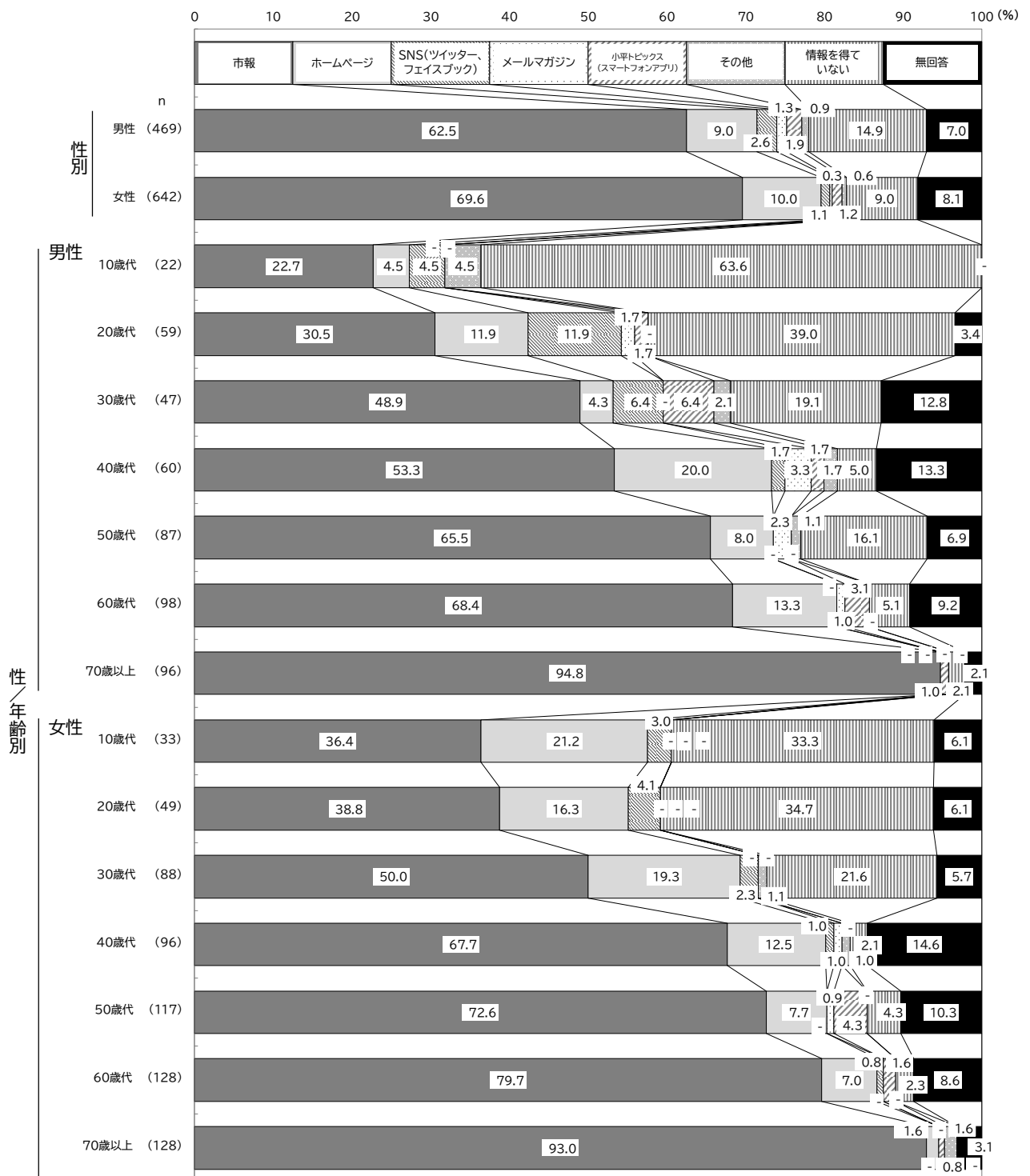


【性別、性／年齢別】

性別にみると、「市報」は女性が69.6%となり、男性(62.5%)より7.1ポイント高くなっている。「情報を得ていない」は、男性が14.9%で、女性(9.0%)より5.9ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、「市報」は年代が上がるにつれて情報の入手先として割合が高くなっており、男女ともに“70歳以上”では9割以上となっている。「情報を得ていない」は、男女ともに30歳代以下の割合が他の年代に比べて高くなっており、特に男性の“10歳代”では63.6%と高い割合を占め、最も多くなっている。(図11-2)

＜図11-2＞性別、性／年齢別



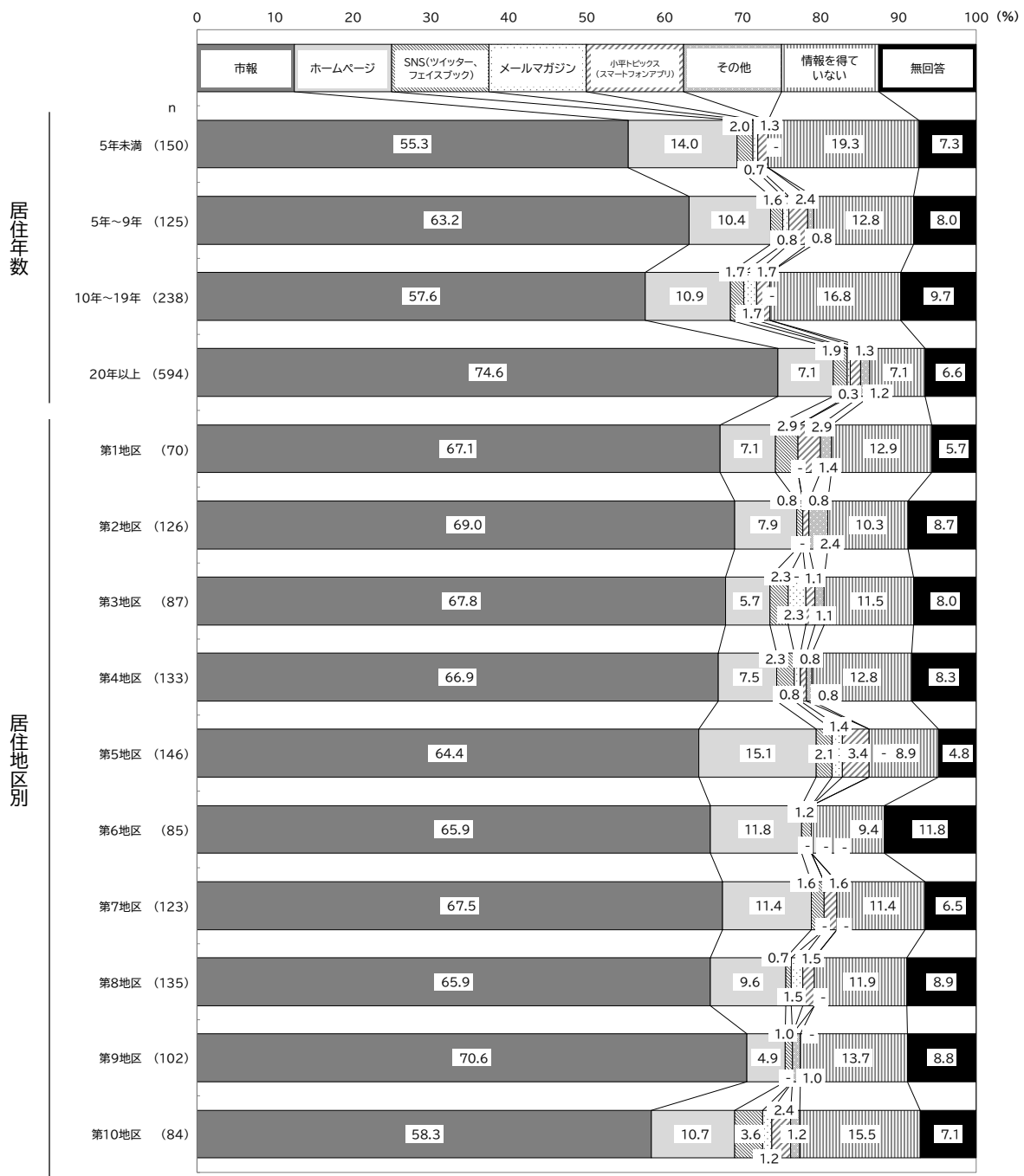
〈市からの情報の入手先〉

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、「市報」の割合は、居住年数が長くなるにつれて高くなる傾向にあり、最も高い“20年以上”(74.6%)と、最も低い“5年未満”(55.3%)では、19.3ポイントの差がある。なお、「情報を得ていない」は“5年未満”が19.3%で最も多くなっている。

居住地区別にみると、“第10地区”を除き「市報」が6割以上となっている。“第10地区”では「情報を得ていない」が15.5%で他の地区に比べて高くなっている。(図11-3)

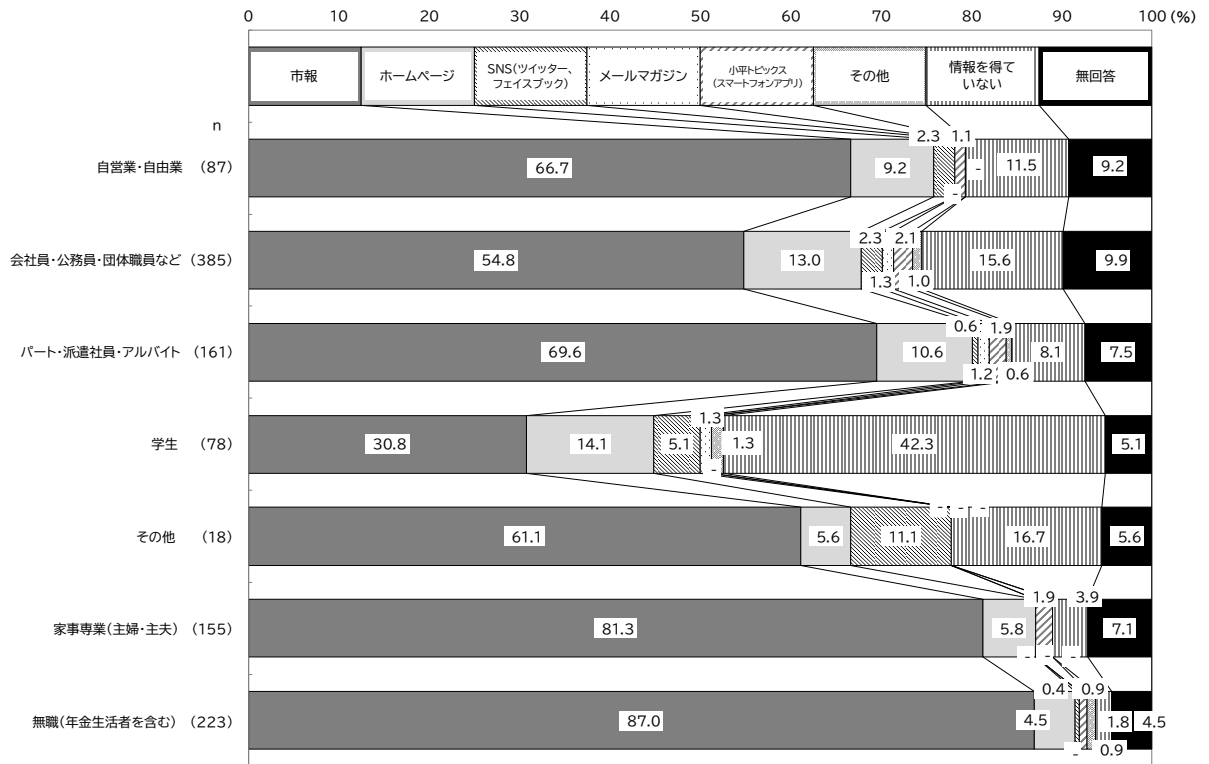
〈図11-3〉居住年数別、居住地区別



【職業別】

職業別にみると、“学生”を除き「市報」が最も多くなっており、特に“家事専業(主婦・主夫)”、“無職(年金生活者を含む)”では8割を超えている。なお、“学生”では「情報を得ていない」が42.3%で最も多く、他の職業に比べて特に高くなっている。(図11-4)

〈図11-4〉職業別



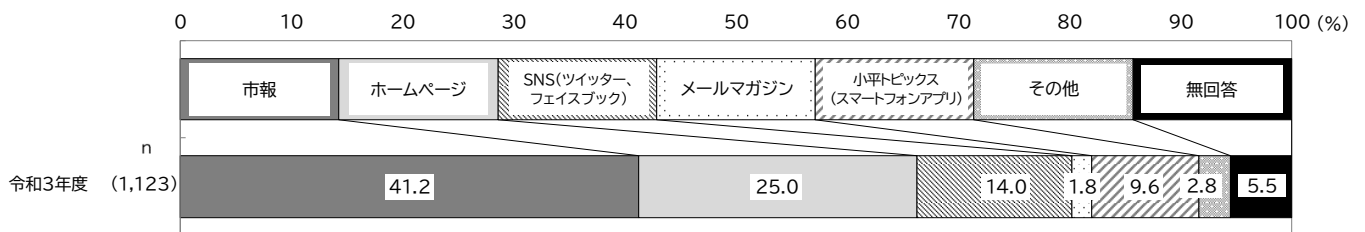
問17【市が情報発信する上で充実した方が良いと思うもの】 今後、市が情報発信する上で、もっと充実した方がよいと思うものは何ですか。(〇は1つ)

◇「市報」が 41.2%で最も多い

市が情報発信する上で充実した方が良いと思うものは、「市報」が 41.2%で最も多く、次いで、「ホームページ」(25.0%)、「SNS(ツイッター、フェイスブック)」(14.0%)の順となっている。

(図11-5)

<図11-5>市が情報発信する上で充実した方が良いと思うもの

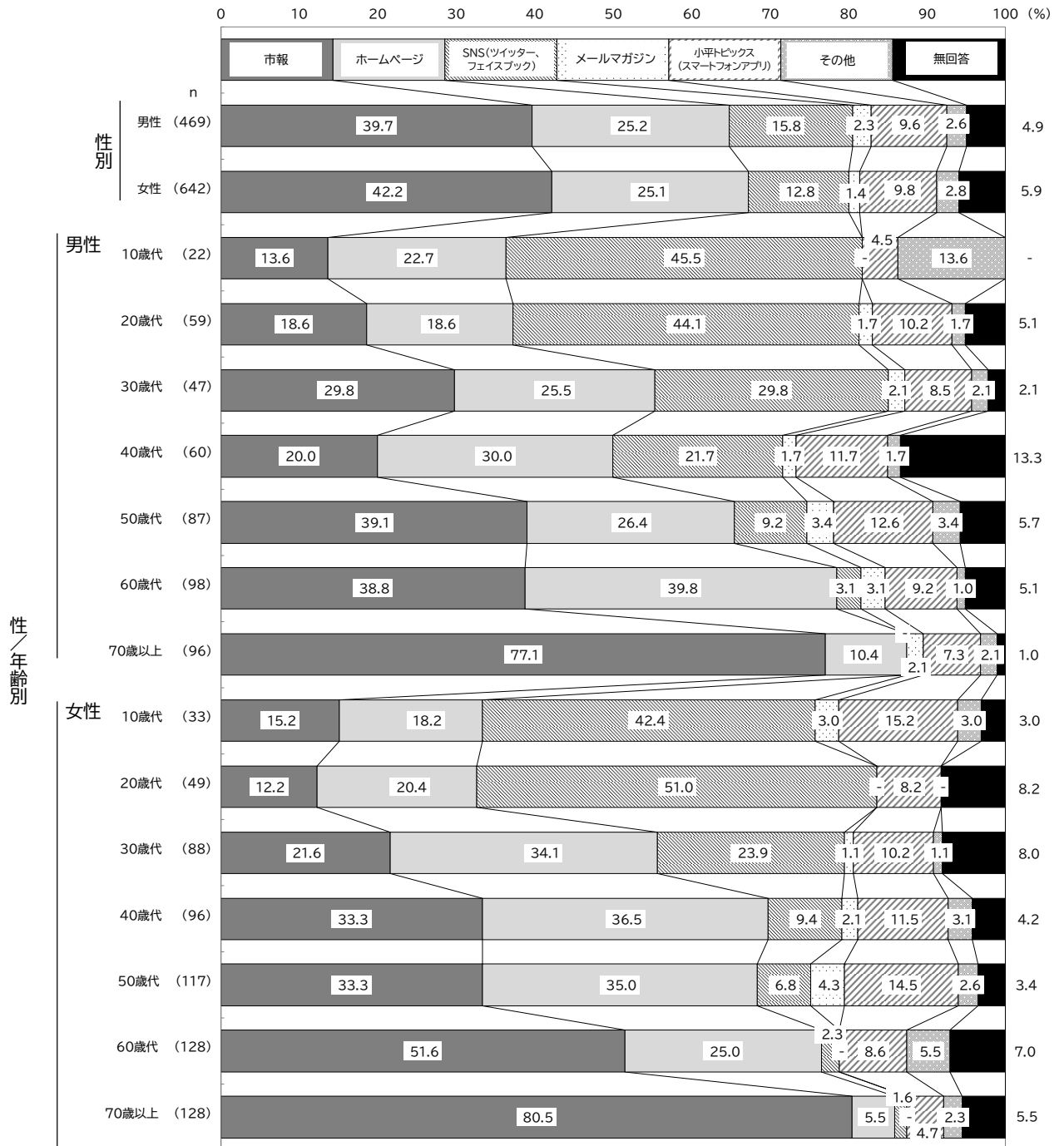


【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図11-5)の傾向と大きな違いはみられない。

性／年齢別にみると、男女ともに“70歳以上”では「市報」が最も多く、8割前後と他の年代に比べて高くなっている。「ホームページ」は男性の“40歳代”、“60歳代”、女性の30～50歳代で3割以上を占め、最も多くなっている。(図11-6)

〈図11-6〉性別、性／年齢別

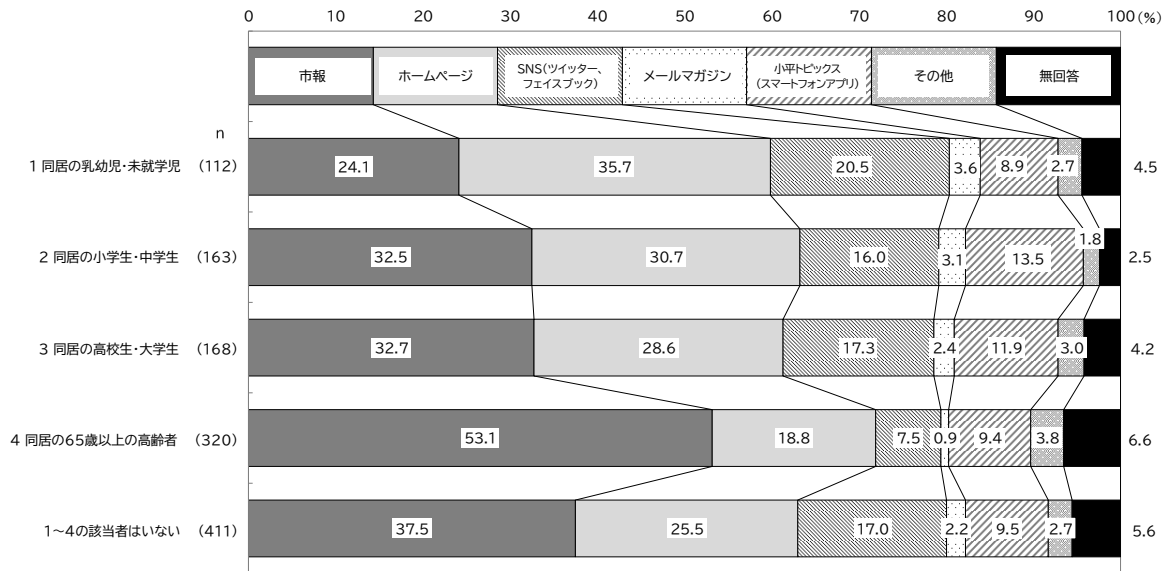


〈市が情報発信する上で充実した方が良いと思うもの〉

【同居家族別】

同居家族別にみると、“同居の乳幼児・未就園児”以外では「市報」が最も多くなっており、特に“同居の65歳以上の高齢者”では過半数となっている。なお、“同居の乳幼児・未就園児”では、「ホームページ」が35.7%で最も多い。(図11-7)

〈図11-7〉同居家族別

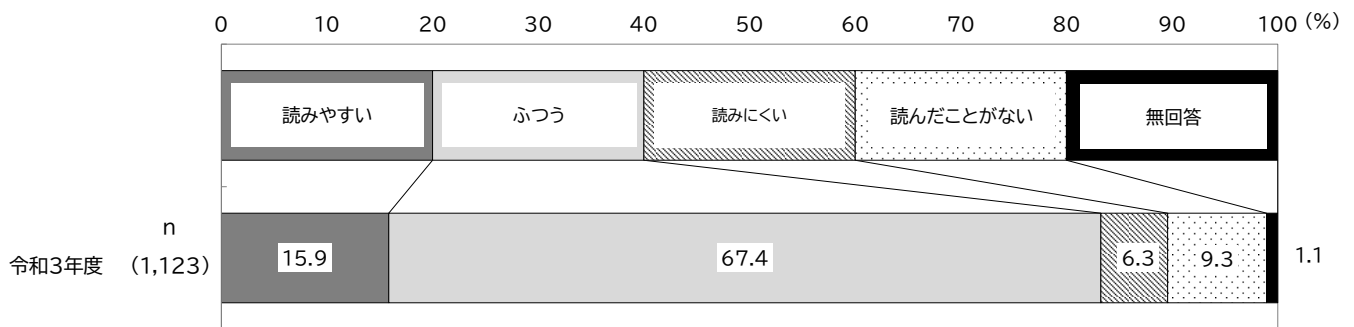


問18【市報の読みやすさ】 あなたは、市報の読みやすさについてどう思いますか。（○は1つ）

◇「ふつう」が67.4%で最も多い

市報の読みやすさは、「ふつう」が 67.4%で最も多く、次いで、「読みやすい」(15.9%)、「読んでいけない」(9.3%)の順となっている。(図11-8)

<図11-8>市報の読みやすさ



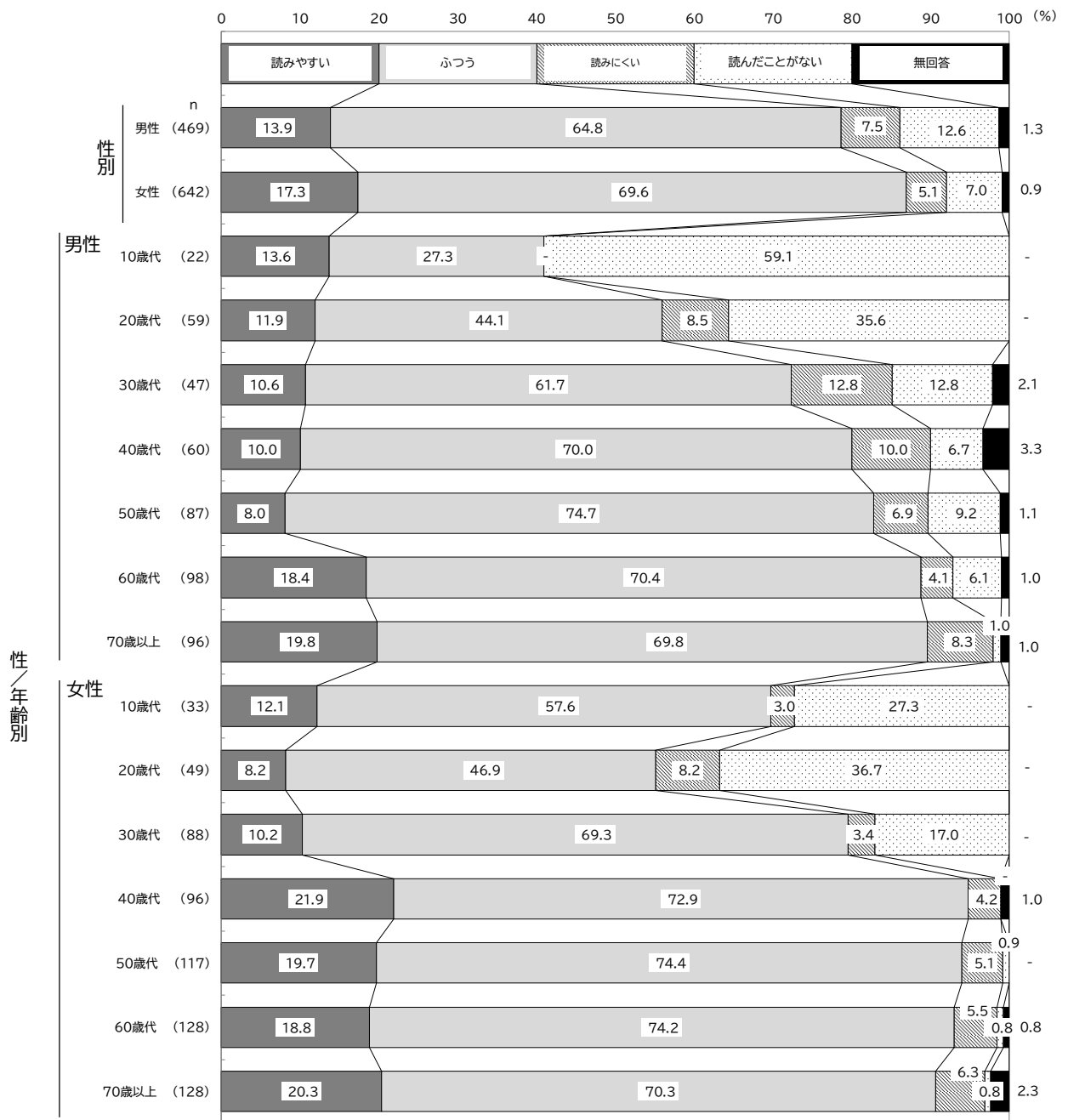
〈市報の読みやすさ〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、「読みやすい」は女性が17.3%で、男性(13.9%)に比べて3.4ポイント高くなっている。一方、「読んだことがない」は男性が12.6%で、女性(7.0%)に比べて5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、「読みやすい」は男性の60歳代以上、女性の40歳代以上で約2割となり、他の年代に比べて高くなっている。「読んだことがない」は、男女ともに20歳代以下の割合が高くなっており、特に男性の“10歳代”では59.1%となっている。(図11-9)

〈図11-9〉性別、性／年齢別



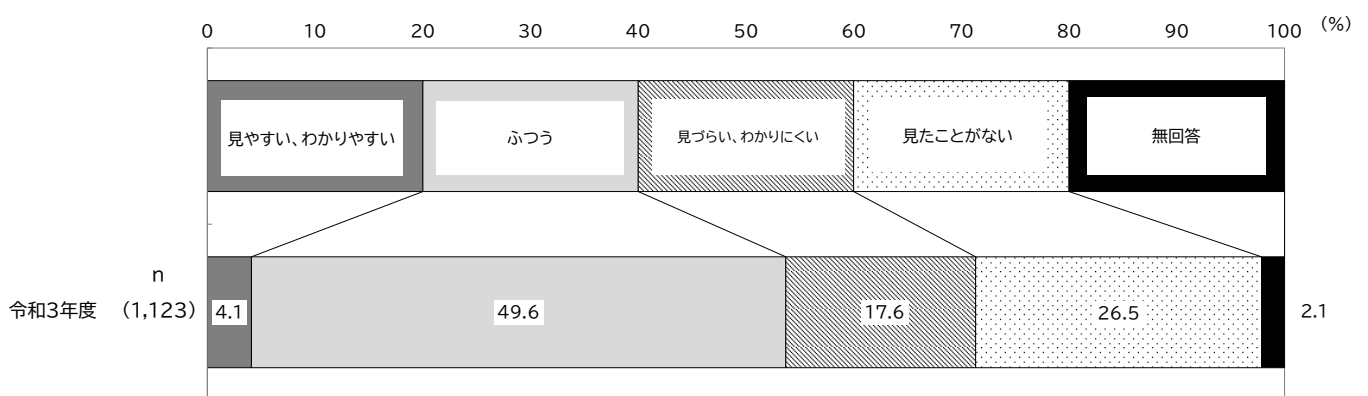
問19【市のホームページについて】 あなたは、市のホームページについてどう思いますか。

(○は1つ)

◇「ふつう」が約半数

市のホームページについては、「ふつう」が 49.6%で最も多く、次いで、「見たことがない」(26.5%)、「見づらい、わかりにくい」(17.6%)の順となっている。(図11-10)

<図11-10>市のホームページについて



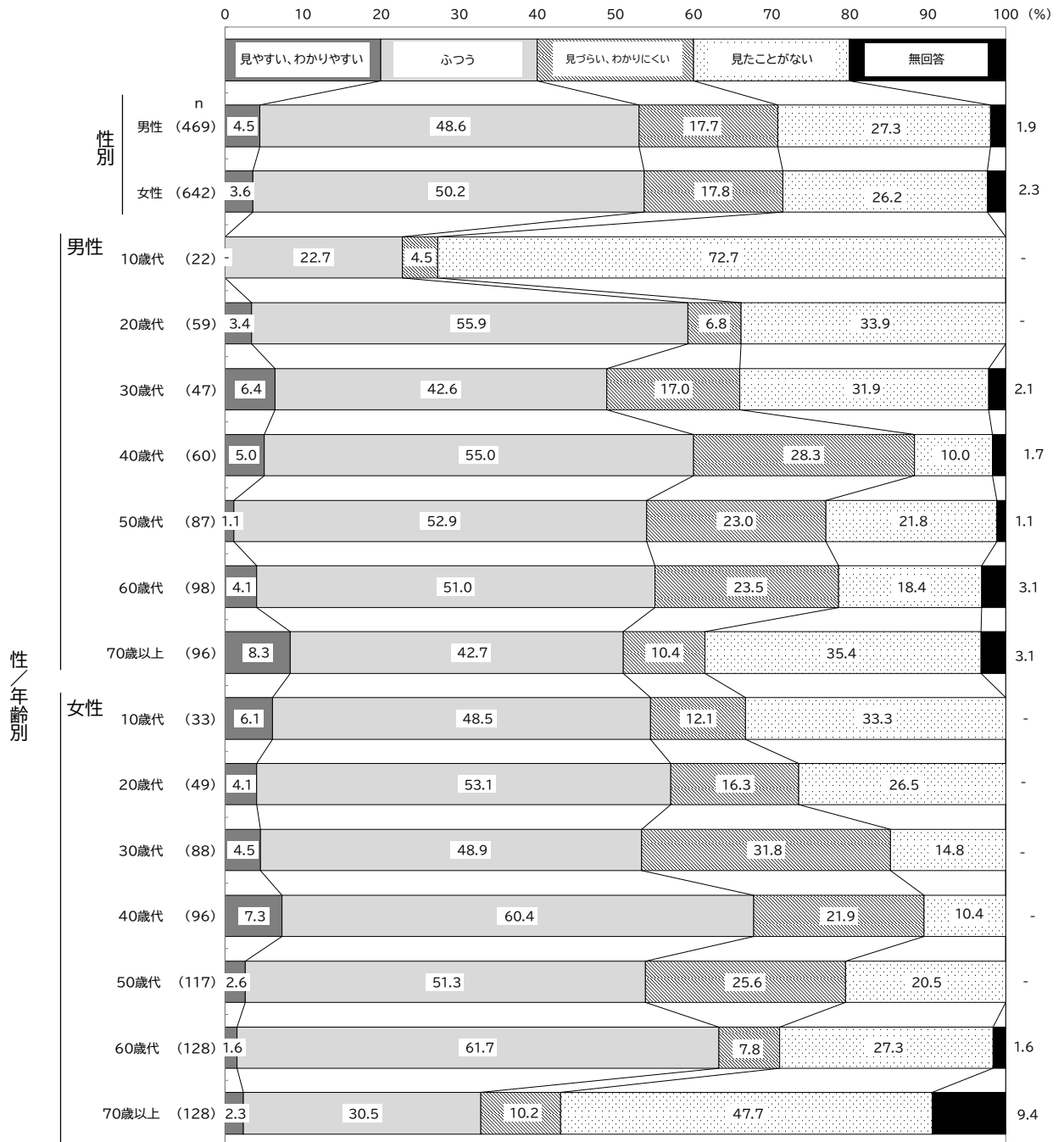
〈市のホームページについて〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図11-10)の傾向と大きな違いはみられない。

性／年齢別にみると、「見たことがない」は、男性では“10歳代”が72.7%、女性では“70歳以上”が47.7%で最も多く、他の年代に比べて高くなっている。「見づらい、わかりにくい」は、男性の40～60歳代、女性の30～50歳代で2～3割を占めているが、それ以外の年代では1割以下となっている。(図11-11)

〈図11-11〉性別、性／年齢別



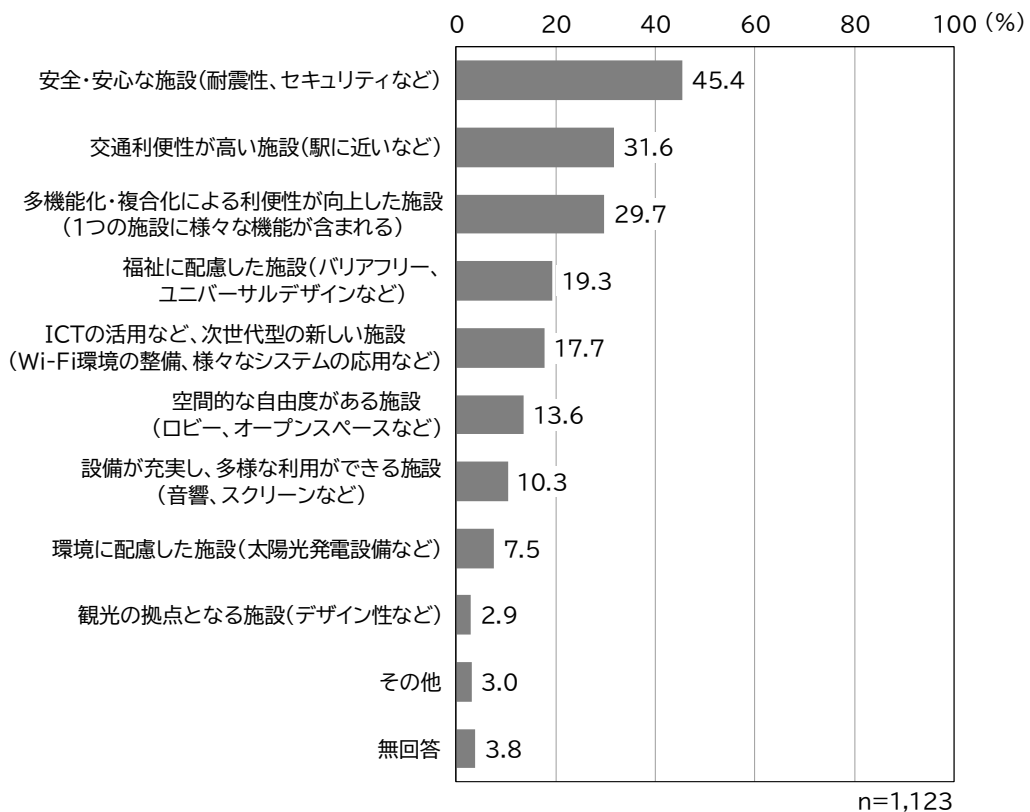
12 公共施設について

問20【公共施設の機能】 公共施設の機能として重要だと思う建物や設備の要素は、次のうちどれですか。(○は2つまで)

◇「安全・安心な施設(耐震性、セキュリティなど)」が45.4%で最も多い

公共施設の機能は、重要だと思うものとして「安全・安心な施設(耐震性、セキュリティなど)」が45.4%で最も多く、次いで、「交通利便性が高い施設(駅に近いなど)」(31.6%)、「多機能化・複合化による利便性が向上した施設(1つの施設に様々な機能が含まれる)」(29.7%)の順となっている。(図12-1)

<図12-1> 公共施設の機能



〈公共施設の機能〉

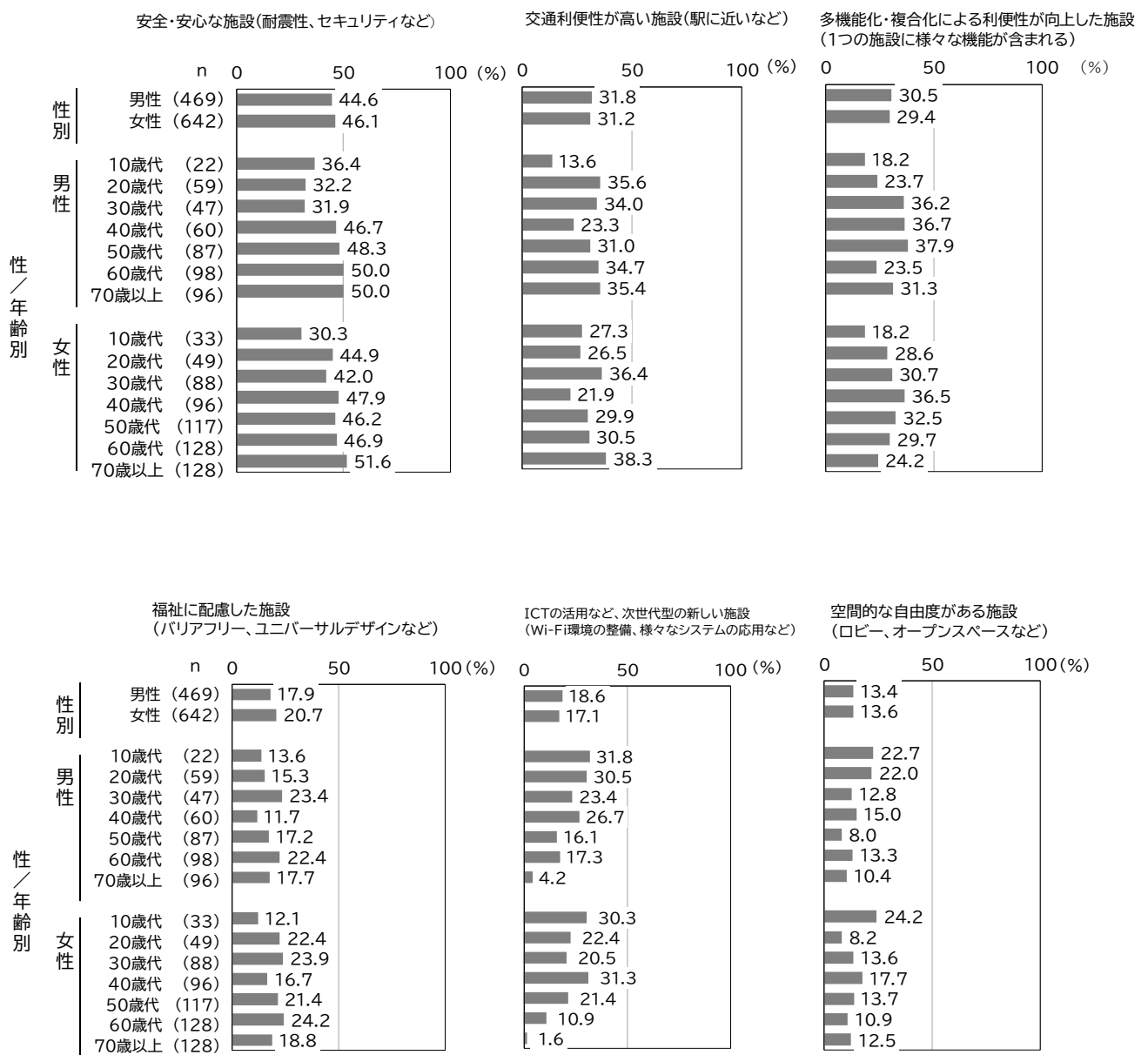
【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図12-1)の傾向と大きな違いはみられない。

性／年齢別にみると、男性の20～30歳代を除き「安全・安心な施設(耐震性、セキュリティなど)」が最も多く、特に男性の60歳代以上、女性の“70歳以上”では半数以上となっていることから、高齢者層には安全・安心の需要が高いことがうかがえる。

なお、男性の“20歳代”では「交通利便性が高い施設(駅に近いなど)」が35.6%、“30歳代”では「多機能化・複合化による利便性が向上した施設(1つの施設に様々な機能が含まれる)」が36.2%で最も多くなっている。

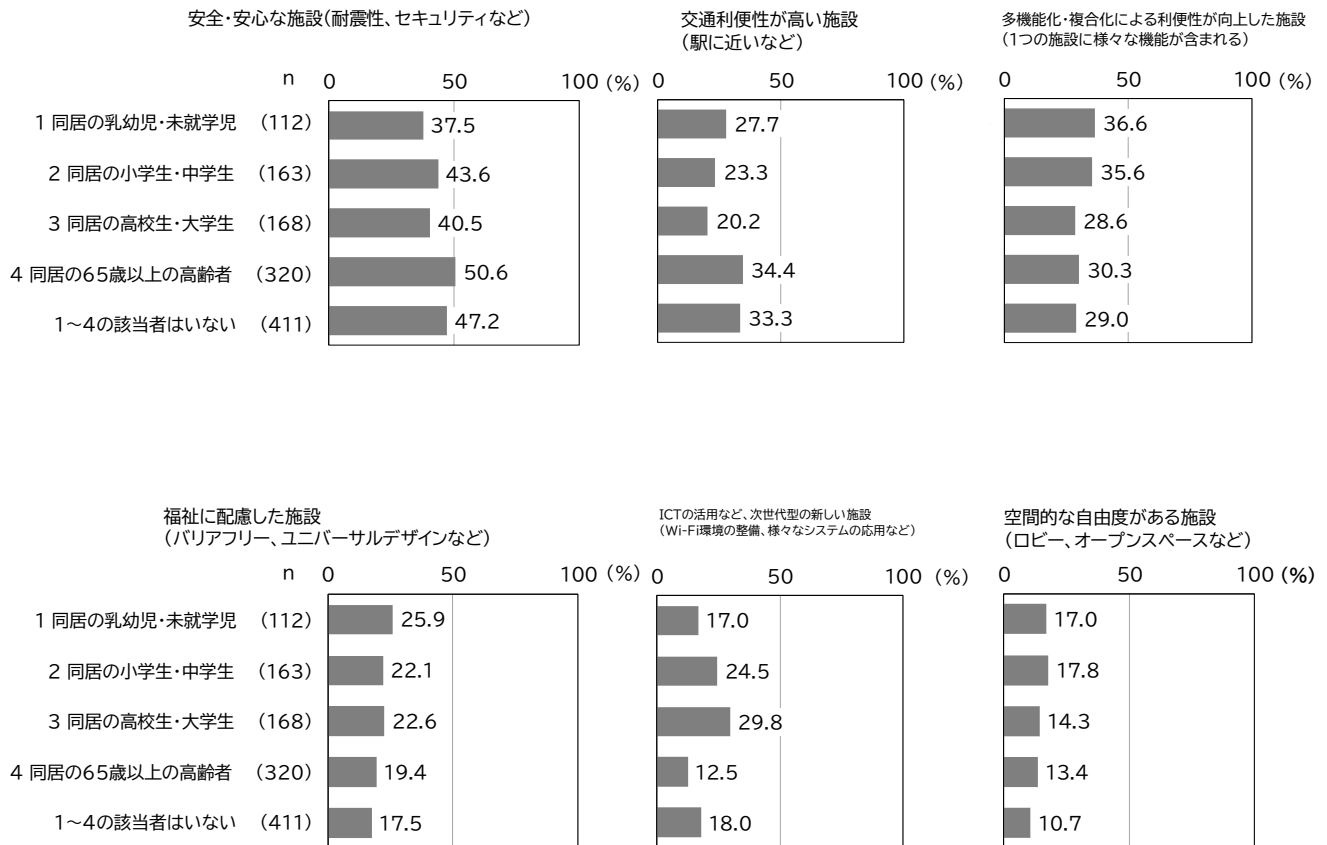
<図12-2> 性別、性／年齢別



【同居家族別】

同居家族別にみると、いずれも「安全・安心な施設(耐震性、セキュリティなど)」が最も多く、“同居の65歳以上の高齢者”では過半数となっている。「ICTの活用など、次世代型の新しい施設(Wi-Fi環境の整備、様々なシステムの応用など)」は、“同居の高校生・大学生”が29.8%となり、他の同居家族に比べて高くなっている。(図12-3)

〈図12-3〉同居家族別

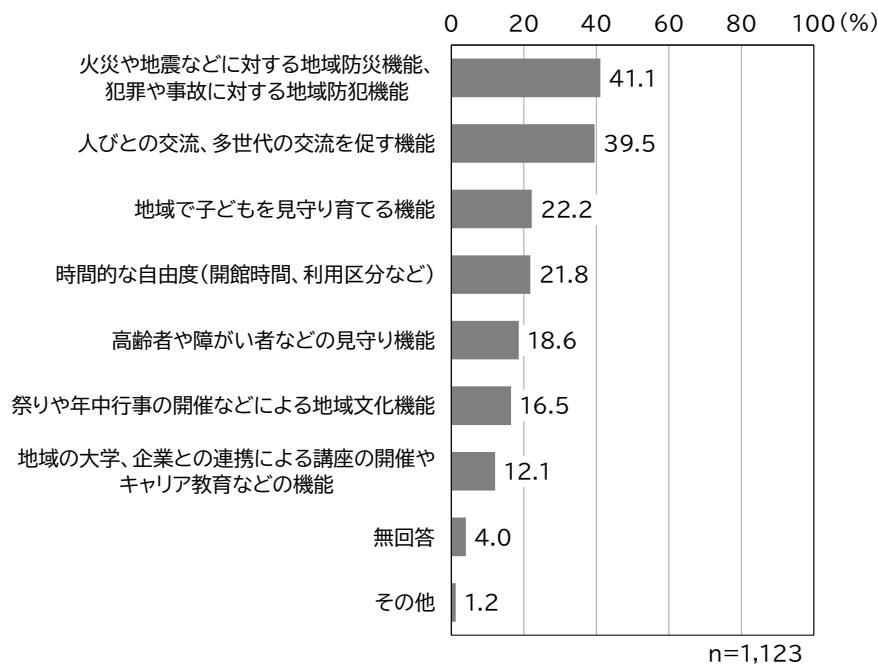


問21【公共施設の地域コミュニティの拠点としての要素】 公共施設が地域コミュニティの拠点となる上で、重要だと思う要素は、次のうちどれですか。(〇は2つまで)

◇「火災や地震などに対する地域防災機能、犯罪や事故に対する地域防犯機能」が41.1%で最も多い

公共施設の地域コミュニティの拠点としての要素は、重要だと思うものとして「火災や地震などに対する地域防災機能、犯罪や事故に対する地域防犯機能」が 41.1%で最も多く、次いで、「人びとの交流、多世代の交流を促す機能」(39.5%)、「地域で子どもを見守り育てる機能」(22.2%)の順となっている。(図12-4)

<図12-4> 公共施設の地域コミュニティの拠点としての要素

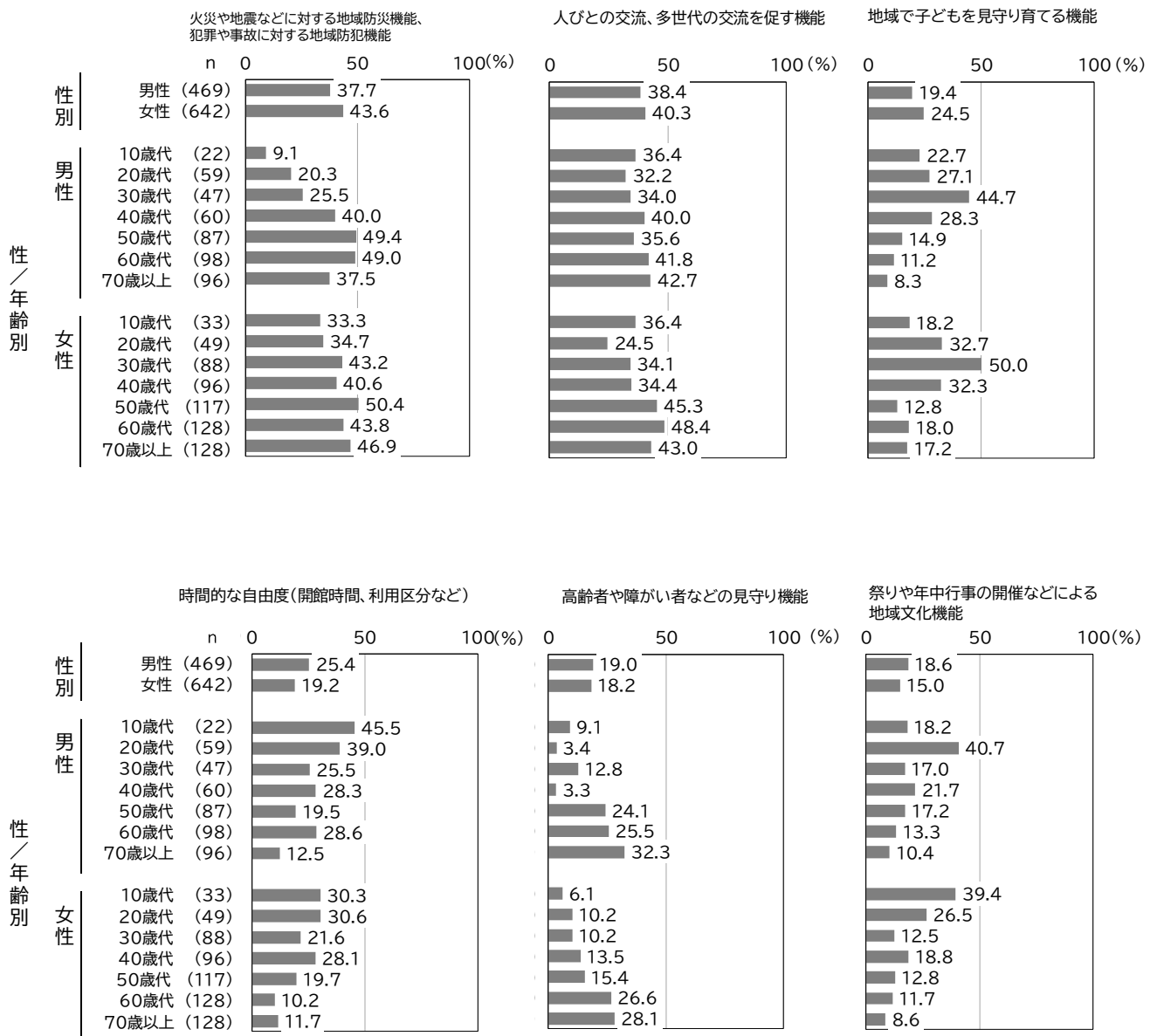


【性別、性／年齢別】

性別にみると、男女ともに上位2位は、「人びとの交流、多世代の交流を促す機能」と「火災や地震などに対する地域防災機能、犯罪や事故に対する地域防犯機能」となっているが、第3位は男性では「時間的な自由度(開館時間、利用区分など)」、女性では「地域で子どもを見守り育てる機能」となり、それぞれ差がみられる。

性／年齢別にみると、男女ともに“30歳代”では「地域で子どもを見守り育てる機能」が最も多く、約半数となっている。「時間的な自由度(開館時間、利用区分など)」は、男女ともに20歳代以下の割合が他の年代に比べて高く、男性の“10歳代”では約半数を占めている。また、男性の“20歳代”、女性の“10歳代”では「祭りや年中行事の開催などによる地域文化機能」が最も多く、約4割を占めている。全体的に、年代ごとに重要だと思う要素にはばらつきがみられる。(図12-5)

〈図12-5〉性別、性／年齢別

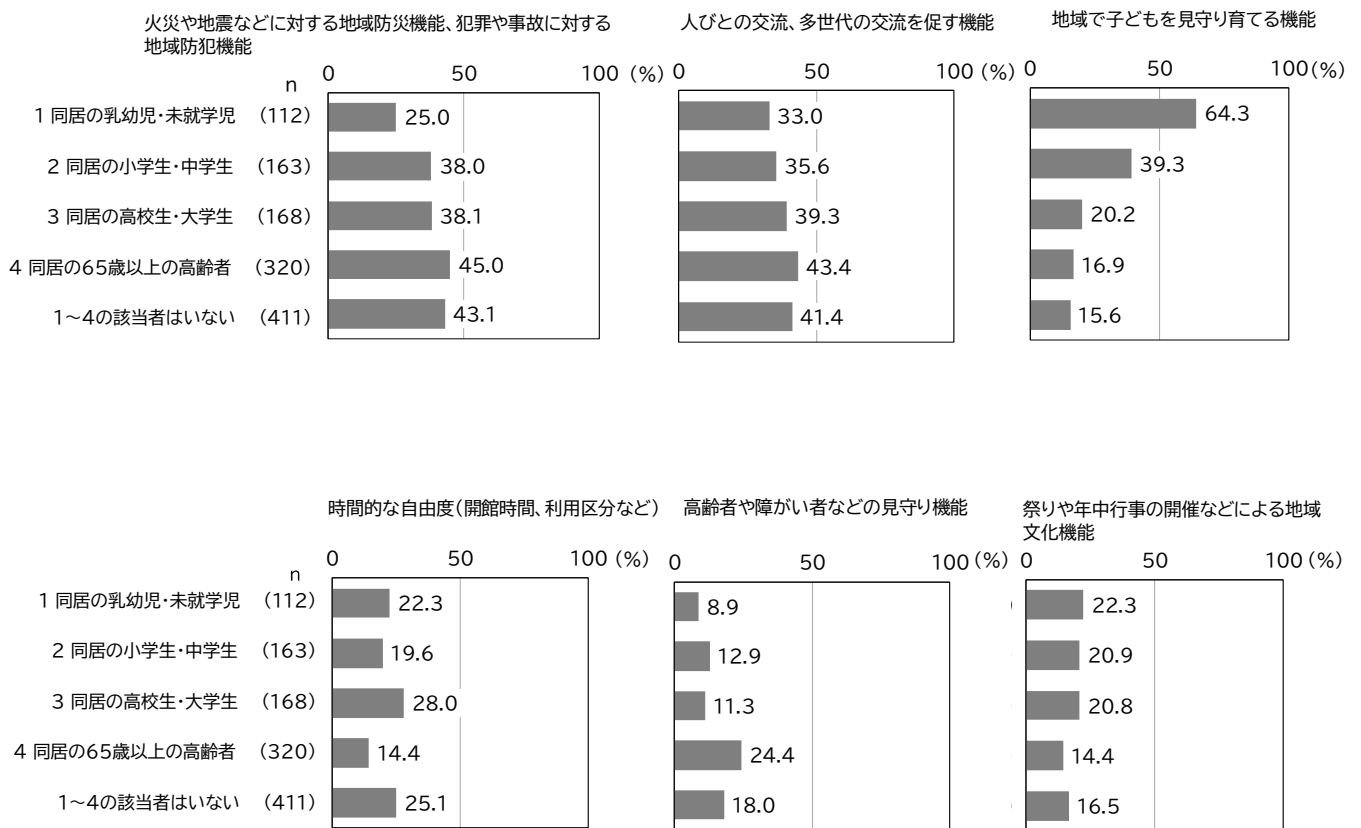


〈公共施設の地域コミュニティの拠点としての要素〉

【同居家族別】

同居家族別にみると、「地域で子どもを見守り育てる機能」は、“同居の乳幼児・未就学児”が64.3%で、全体(22.2%)に比べて42.1ポイント高くなっており、特に高い需要があることがうかがえる。(図12-6)

〈図12-6〉同居家族別

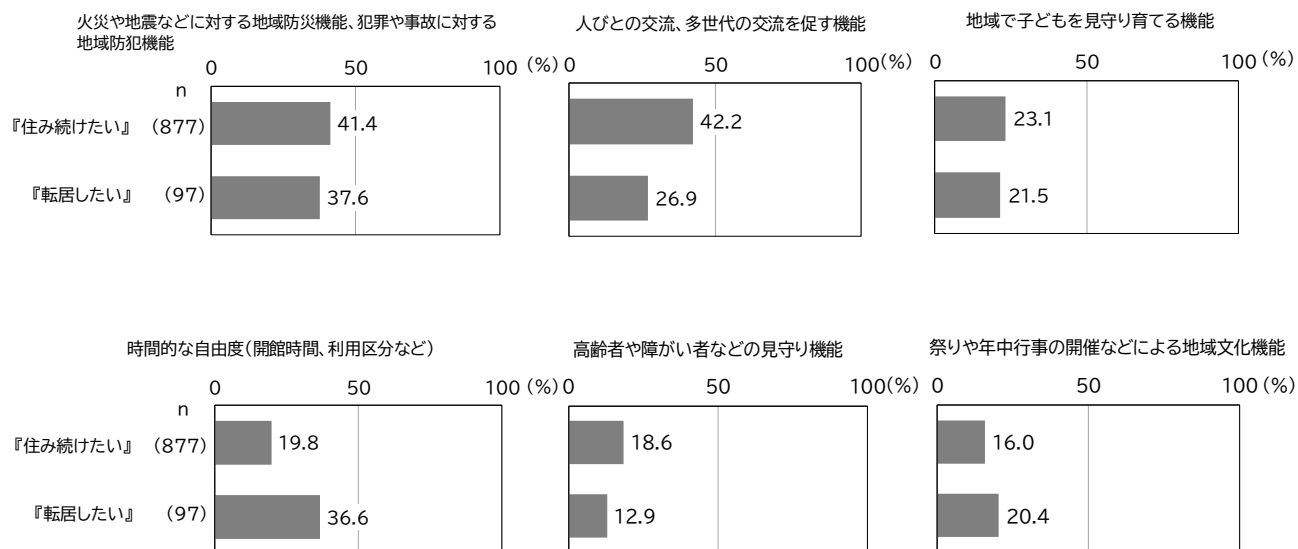


【居住意向別】

居住意向別にみると、これからも小平市に“住み続けたい”人では、公共施設の地域コミュニティの拠点としての要素について「人びとの交流、多世代の交流を促す機能」を選んだ人が42.2%で最も多く、今後小平市を“転居したい”人(26.9%)に比べて15.3ポイント高くなっている。

一方、“転居したい”人では、「時間的な自由度(開館時間、利用区分など)」を選んだ人が36.6%となり、“住み続けたい”人(19.8%)に比べて16.8ポイント高くなっている。(図12-7)

〈図12-7〉居住意向別



問22【市内の公共施設の利用頻度】 あなたは、次の公共施設について過去1年間でどのくらいの頻度で訪れましたか。(○は各設問に1つ)

◇『利用した』は「図書館」が44.6%で最も多い

市内の公共施設の利用頻度について、「ほぼ毎日」から「年に1回程度」までを合わせた『利用した』の割合は、それぞれ次のようになっている。

(「地域センター」:28.1%、「公民館」:25.3%、「図書館」:44.6%、「市民文化会館」:12.6%、「市民総合体育館」:17.0%、「高齢者福祉施設」:3.2%)

なお、すべての公共施設において、「訪れなかった」の割合が最も高くなっている。(図12-8)

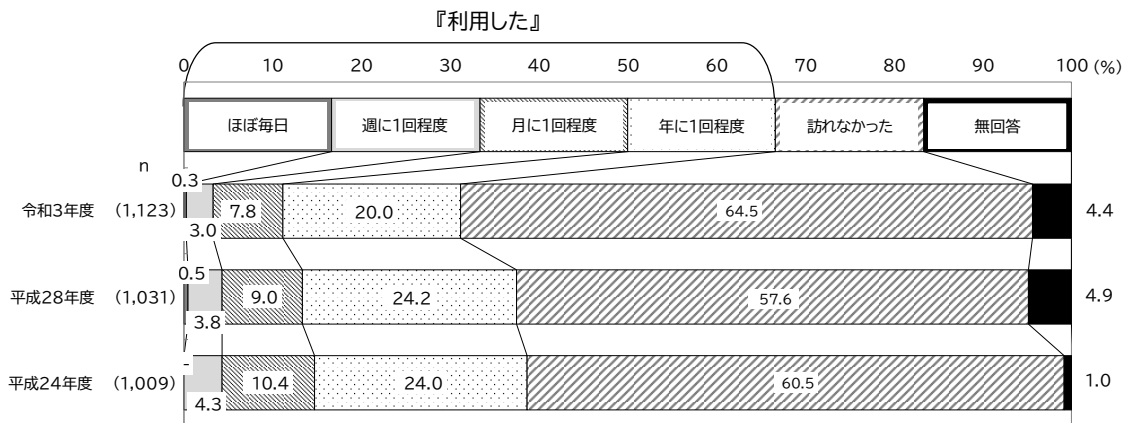
【時系列比較】

時系列で比較すると、『利用した』は、前回調査と比較して、「地域センター」は6.4ポイント、「公民館」は8.3ポイント、「図書館」は11.0ポイントそれぞれ減少した。(図12-8)

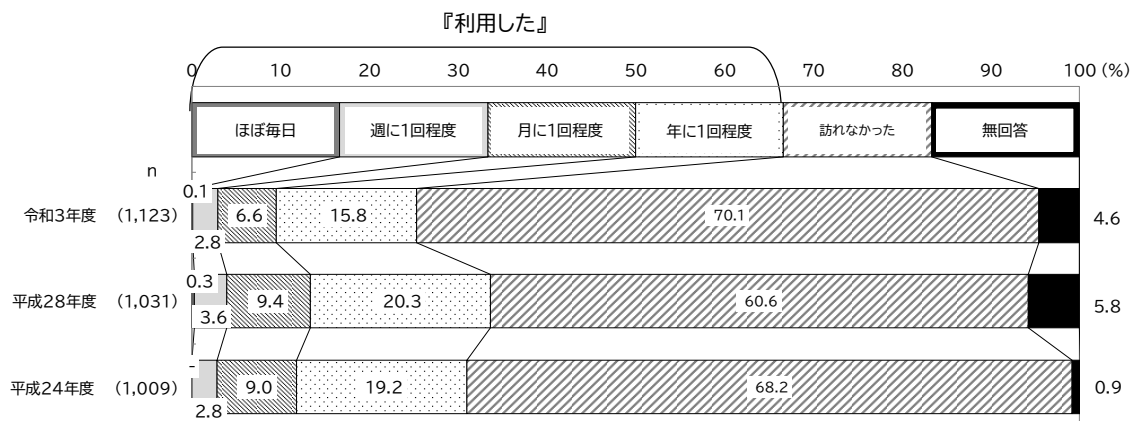
※「市民文化会館」、「市民総合体育館」、「高齢者福祉施設」は前回調査なし。また、今回調査より、選択肢の末尾が「〇〇回以上」から「〇〇回程度」に変更されているものがある。

<図12-8>市内の公共施設の利用頻度、時系列比較

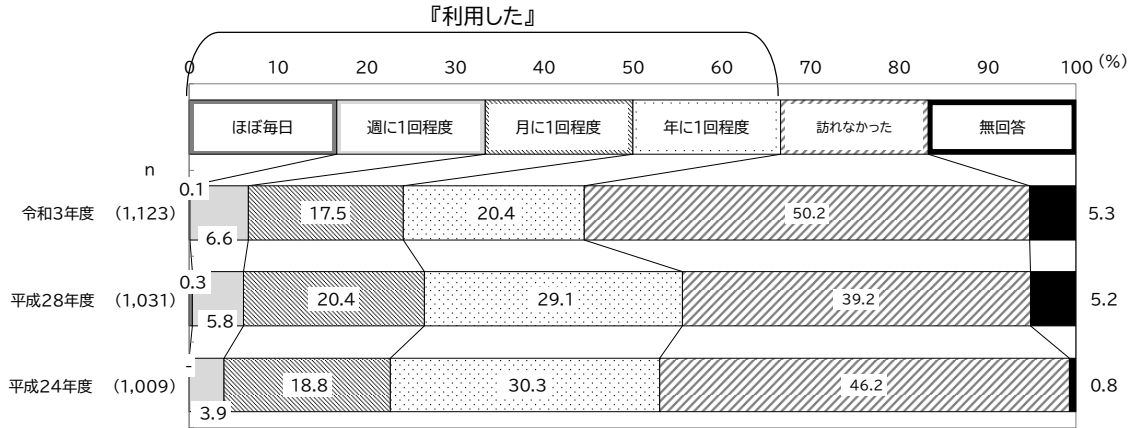
(1)地域センター



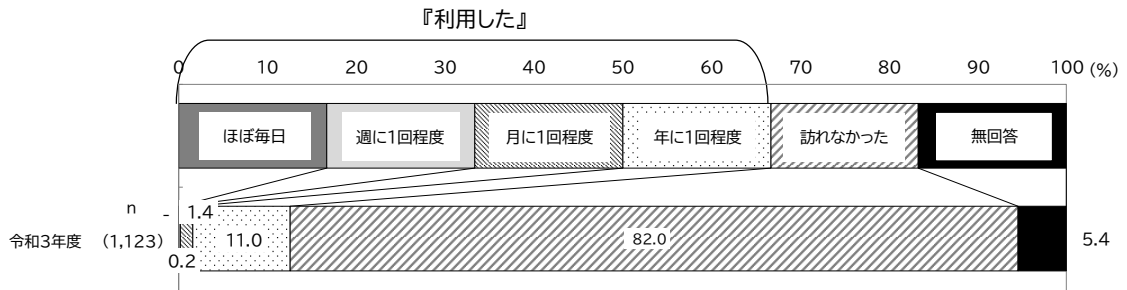
(2)公民館



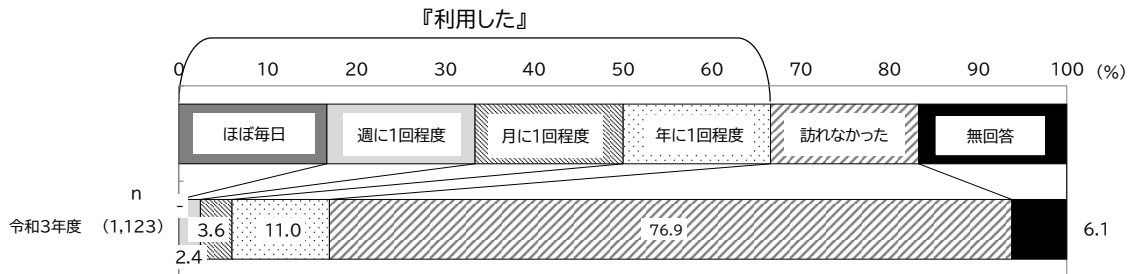
(3)図書館



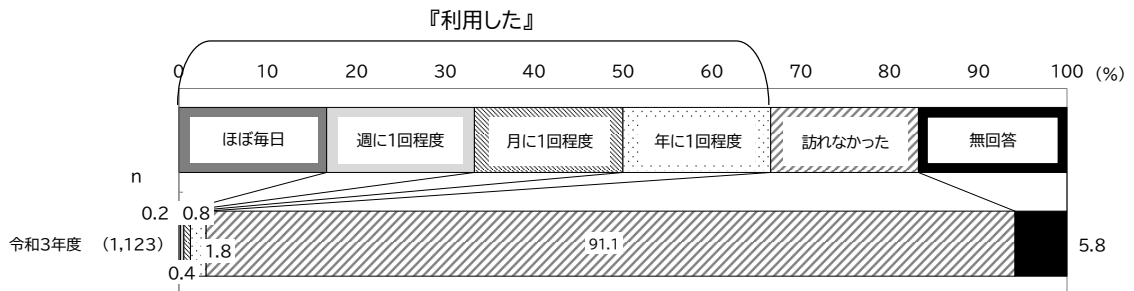
(4)市民文化会館



(5)市民総合体育館



(6)高齢者福祉施設



〈市内の公共施設の利用頻度〉

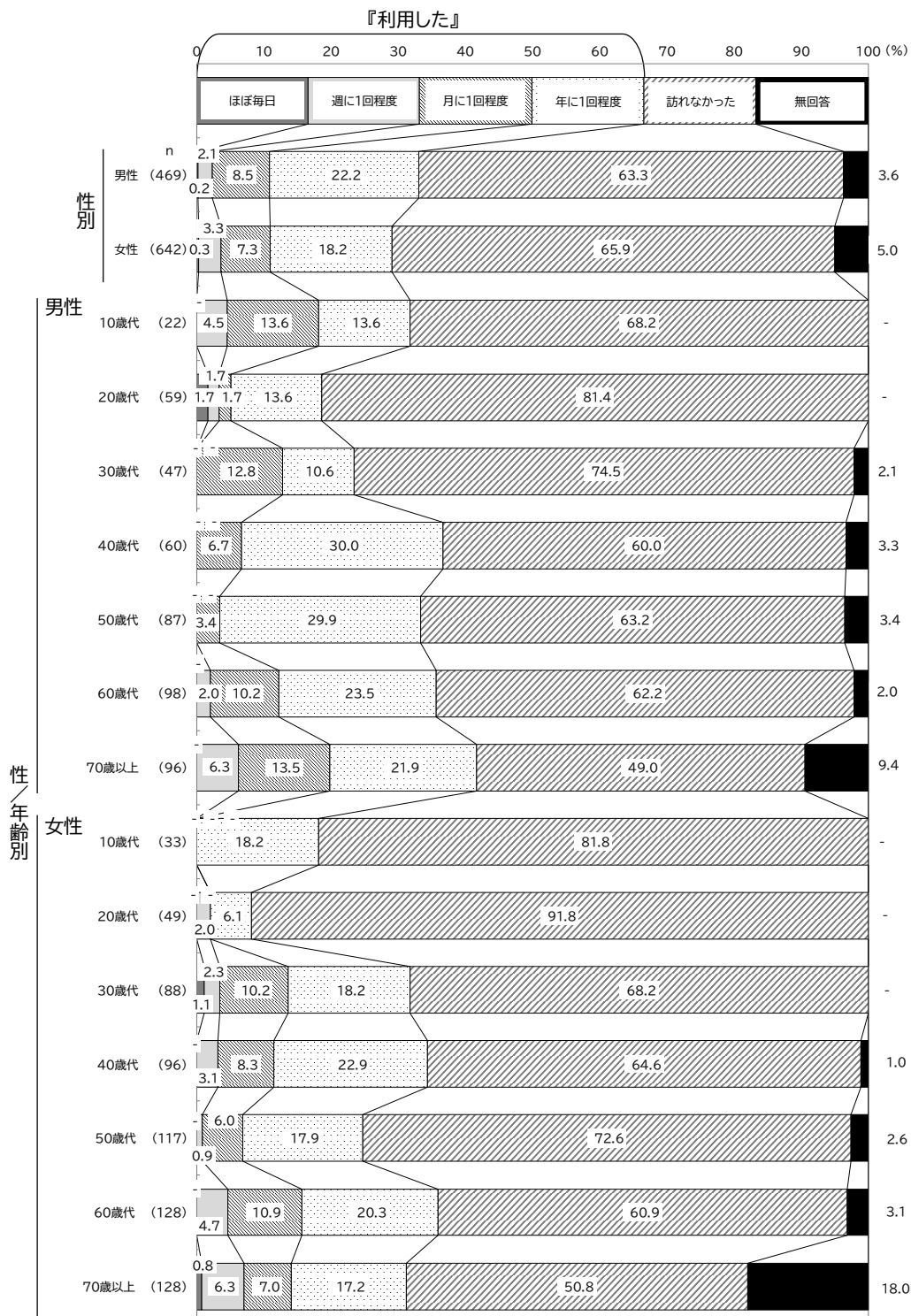
(1)地域センター

【性別、性／年齢別】

性別にみると、『利用した』は、男性が33.0%となり、女性(29.1%)より3.9ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、『利用した』が最も多いのは、男性では“70歳以上”が41.7%、女性では“60歳代”が35.9%となっている。一方、「訪れなかった」は男女ともに“20歳代”が最も多く、男性は81.4%、女性は91.8%となっている。(図12-9)

〈図12-9〉性別、性／年齢別

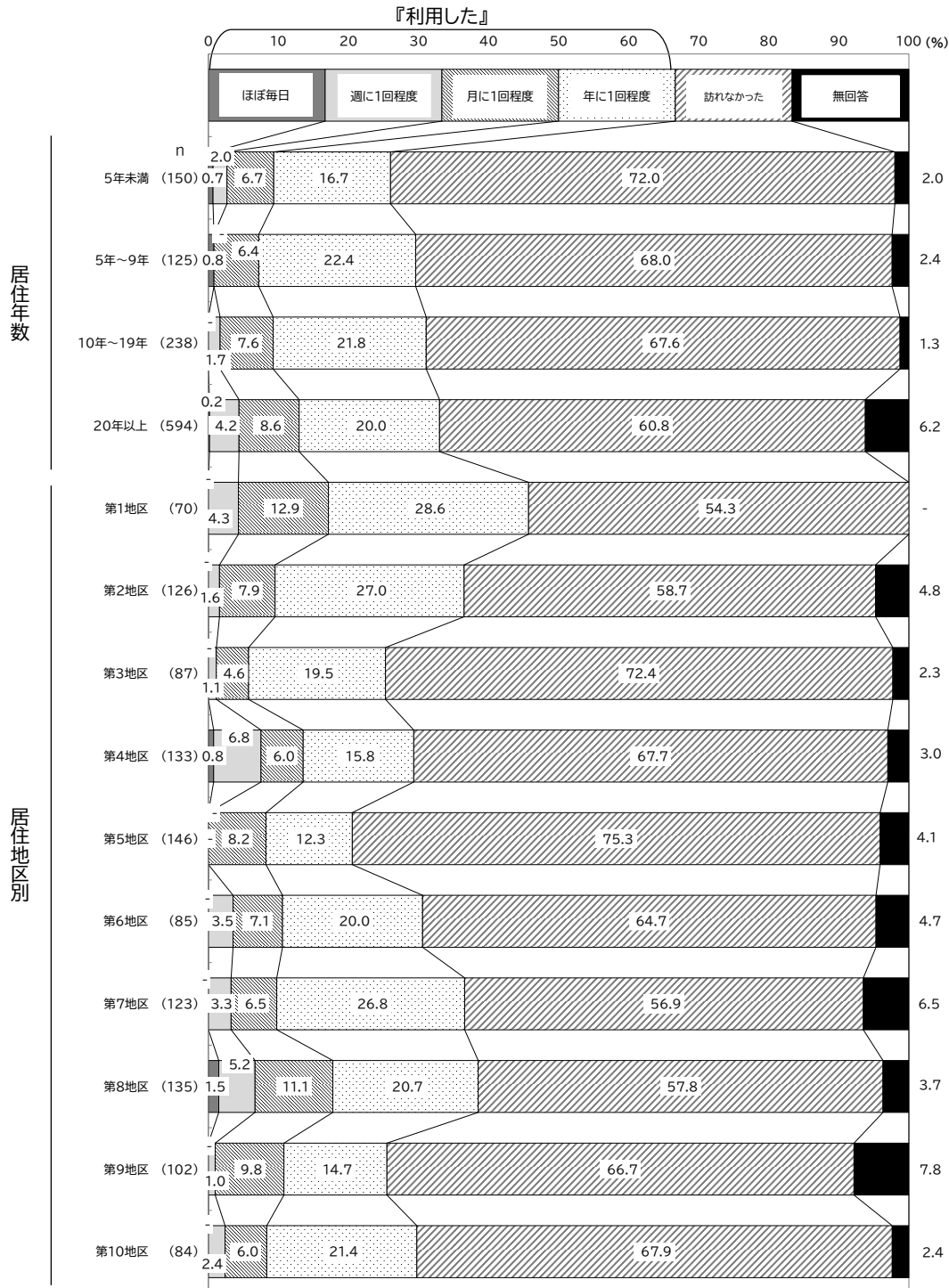


【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『利用した』は、居住年数が長くなるにつれて高くなっており、最も高い“20年以上”では33.0%となっている。

居住地区別にみると、『利用した』が最も多いのは“第1地区”が45.8%となっており、次いで“第8地区”(38.5%)、“第7地区”(36.6%)の順となっている。なお、「訪れなかった」が最も多いのは、“第5地区”で75.3%となっている。(図12-10)

〈図12-10〉居住年数別、居住地区別



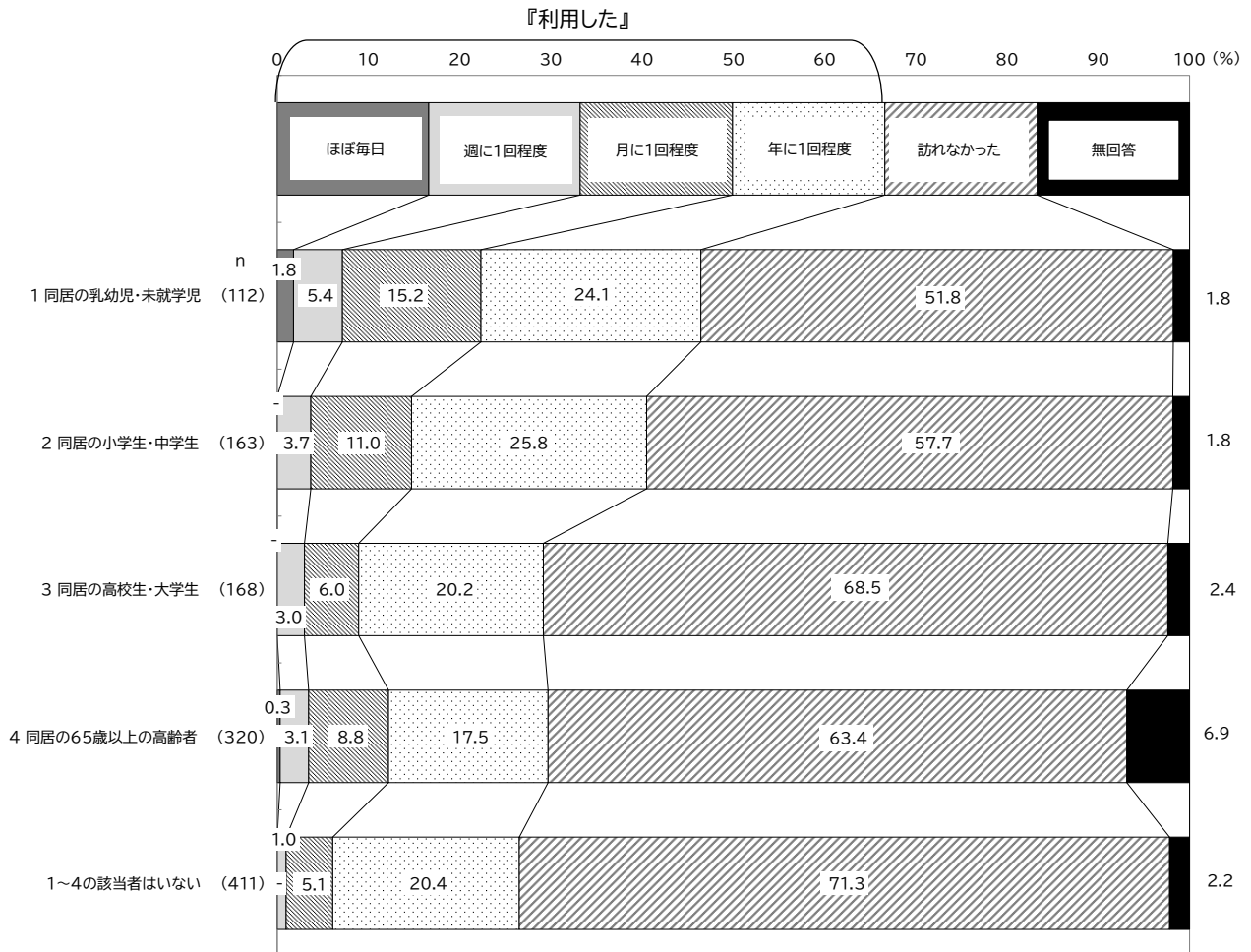
〈市内の公共施設の利用頻度〉(1)地域センター

【同居家族別】

同居家族別にみると、『利用した』は、“同居の乳幼児・未就学児”が46.5%、“同居の小学生・中学生”が40.5%で、それぞれ4割を超えており、全体(28.1%)に比べて高くなっている。

(図12-11)

〈図12-11〉同居家族別



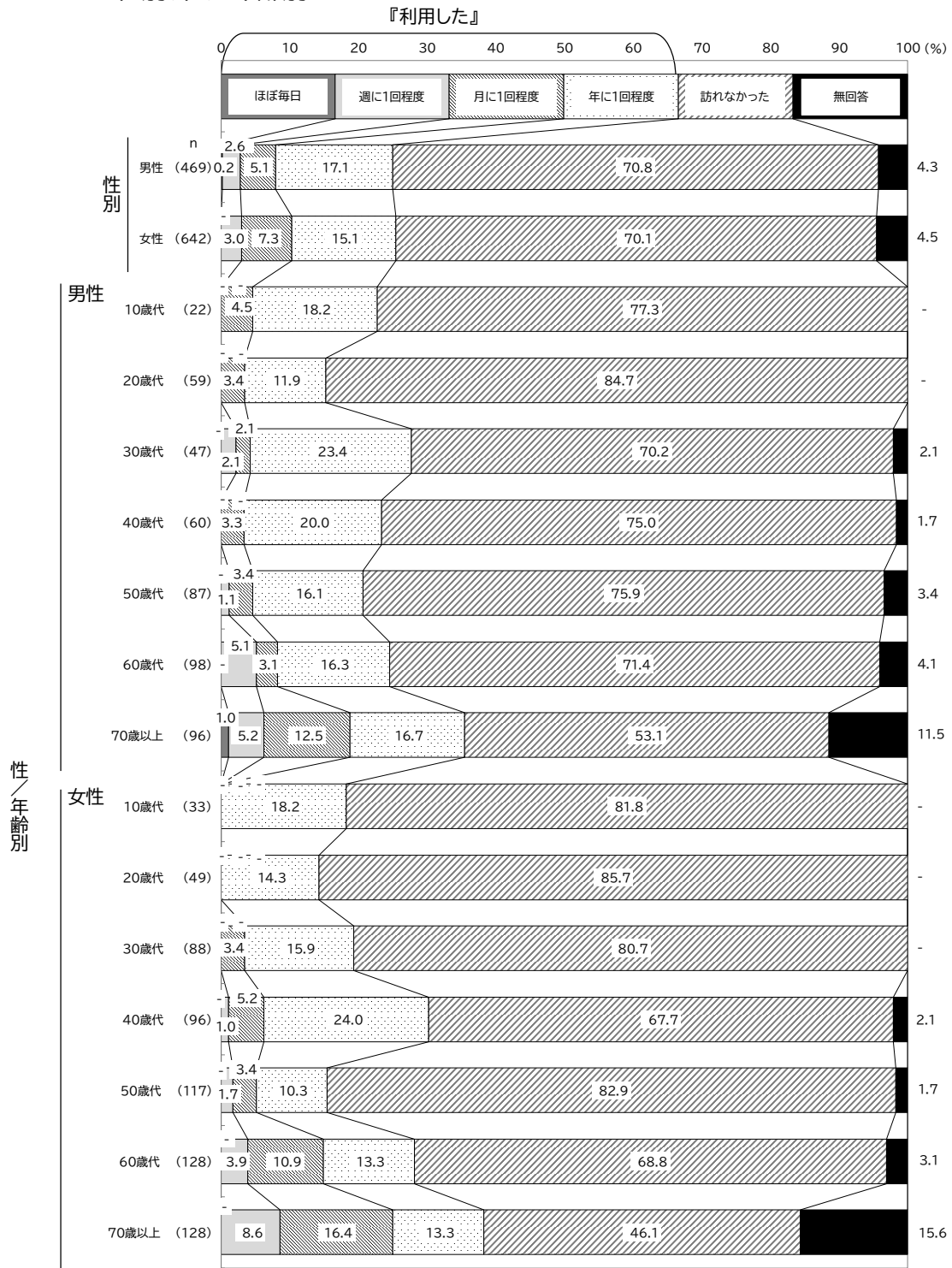
(2) 公民館

【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図12-8)と比べて大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、『利用した』は男女ともに“70歳以上”が最も多く、男性が35.4%、女性が38.3%となっている。一方、「訪れなかった」は男女ともに“20歳代”が最も多く、男性は84.7%、女性は85.7%となっている。(図12-12)

<図12-12>性別、性／年齢別



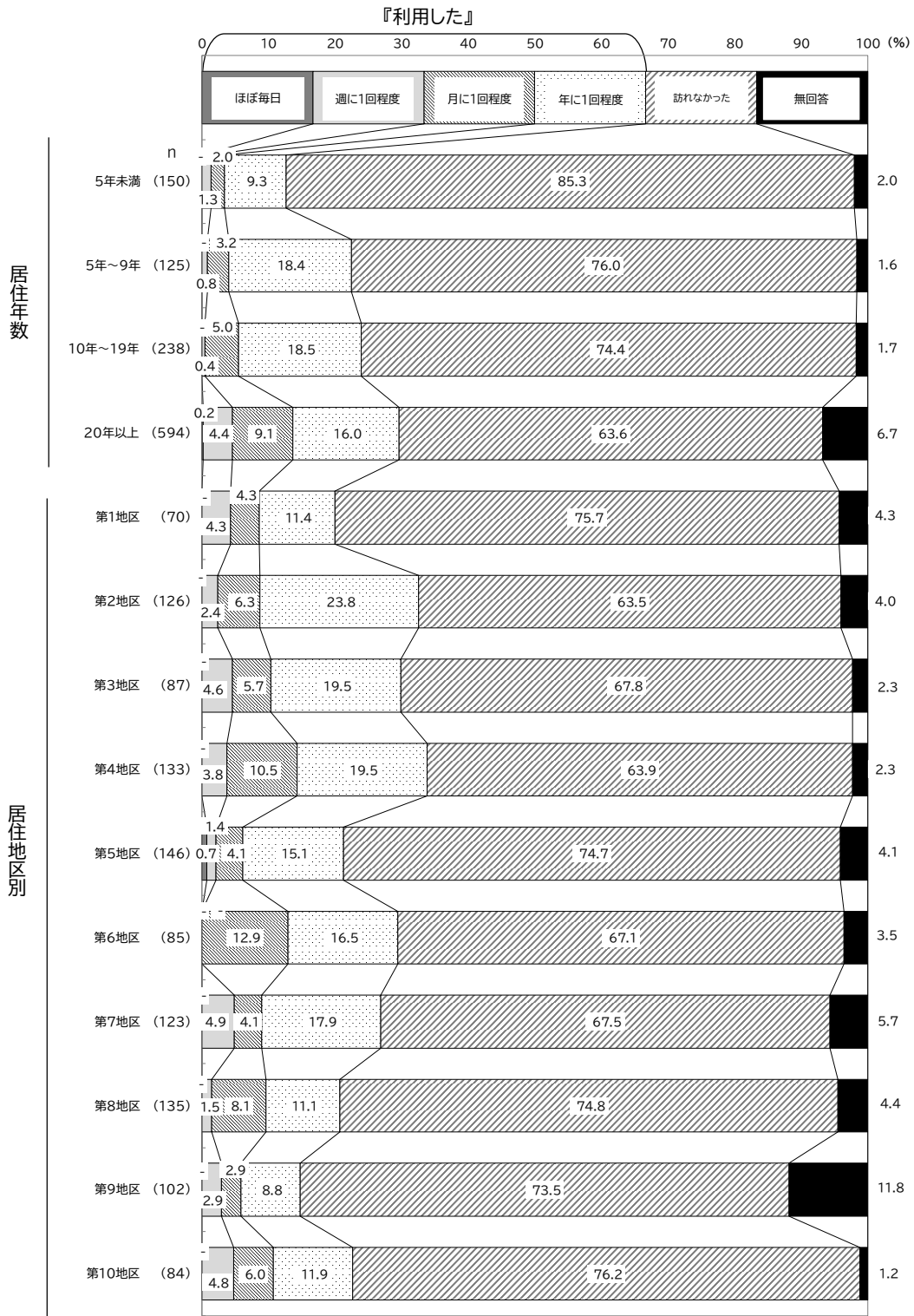
〈市内の公共施設の利用頻度〉(2)公民館

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『利用した』は、居住年数が長くなるにつれて高くなっており、最も高い“20年以上”では29.7%となっている。

居住地区別にみると、『利用した』が最も多いのは“第4地区”が33.8%となっており、次いで“第2地区”(32.5%)、“第3地区”(29.8%)の順となっている。なお、「訪れなかった」が最も多いのは、“第10地区”で76.2%となっている。(図12-13)

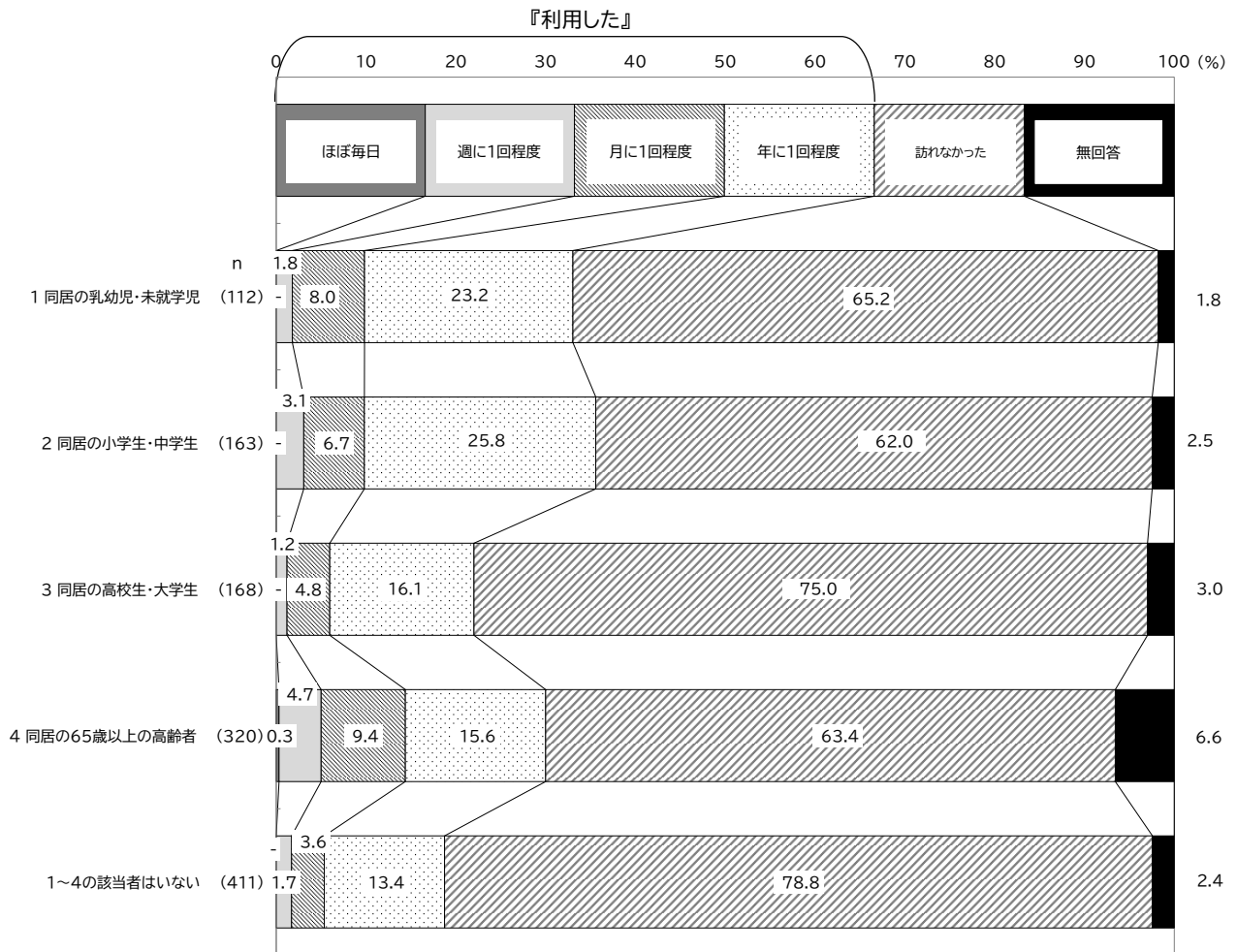
〈図12-13〉居住年数別、居住地区別



【同居家族別】

同居家族別にみると、『利用した』は、“同居の小学生・中学生”が 35.6%となっており、全体 (25.3%)と比べて 10.3 ポイント高くなっている。(図12-14)

〈図12-14〉同居家族別



〈市内の公共施設の利用頻度〉

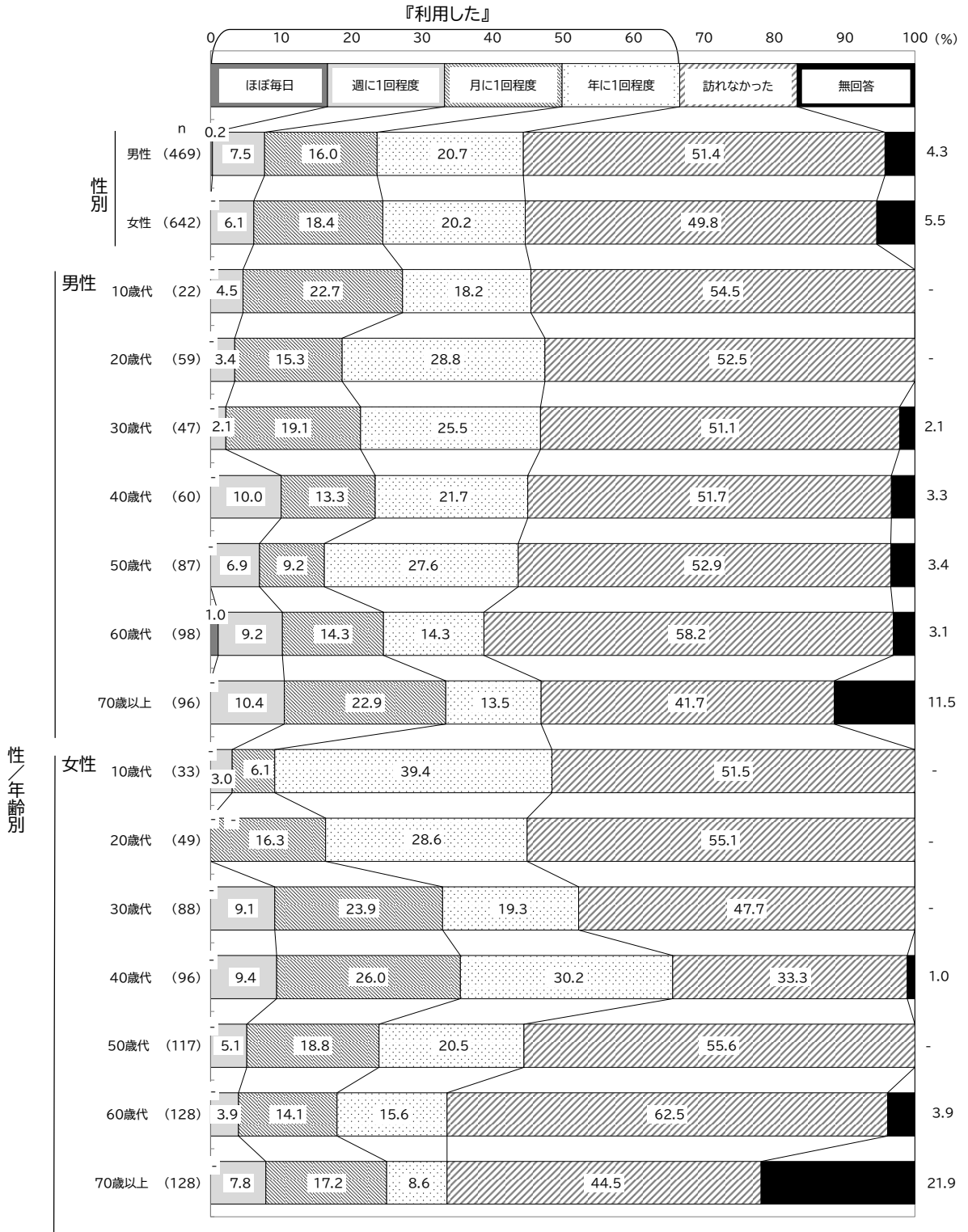
(3)図書館

【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図12-8)と比べて大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、『利用した』は、男性では“20 歳代”が 47.5%、女性では“40 歳代”が 65.6%で最も多くなっている。一方、「訪れなかった」は男女ともに“60 歳代”が最も多く、男性は 58.2%、女性は 62.5%となっている。(図12-15)

〈図12-15〉性別、性／年齢別

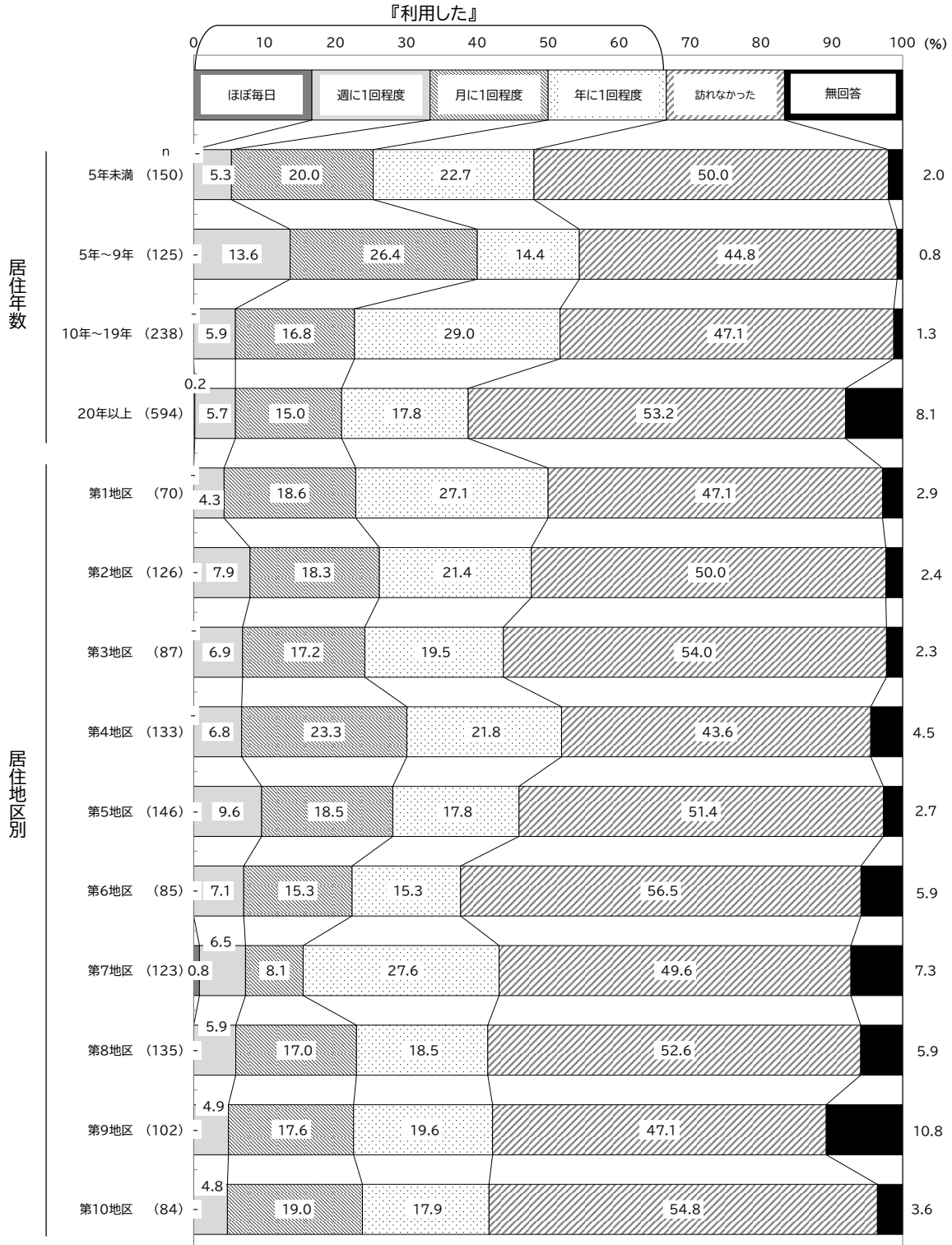


【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『利用した』は、“5年～9年”が54.4%、“10年～19年”が51.7%で、それぞれ過半数となっている。

居住地区別にみると、『利用した』が最も多いのは“第4地区”が51.9%となっており、次いで“第1地区”(50.0%)、“第2地区”(47.6%)の順となっている。なお、「訪れなかった」が最も多いのは、“第6地区”で56.5%となっている。(図12-16)

<図12-16>居住年数別、居住地区別



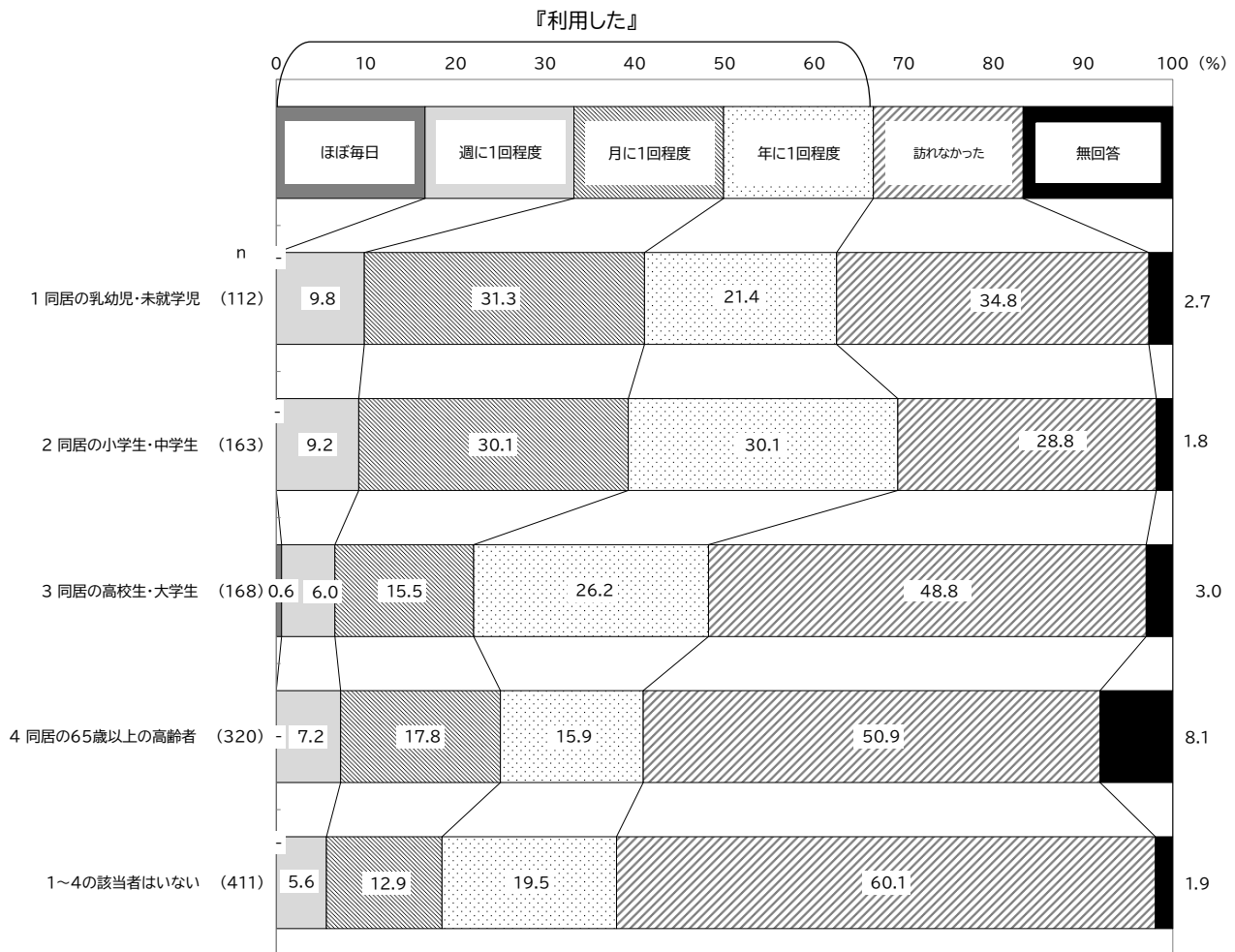
〈市内の公共施設の利用頻度〉(3)図書館

【同居家族別】

同居家族別にみると、『利用した』は、“同居の乳幼児・未就学児”が62.5%、“同居の小学生・中学生”が69.4%で、それぞれ6割を超えており、全体(44.6%)に比べて高くなっている。

(図12-17)

〈図12-17〉同居家族別



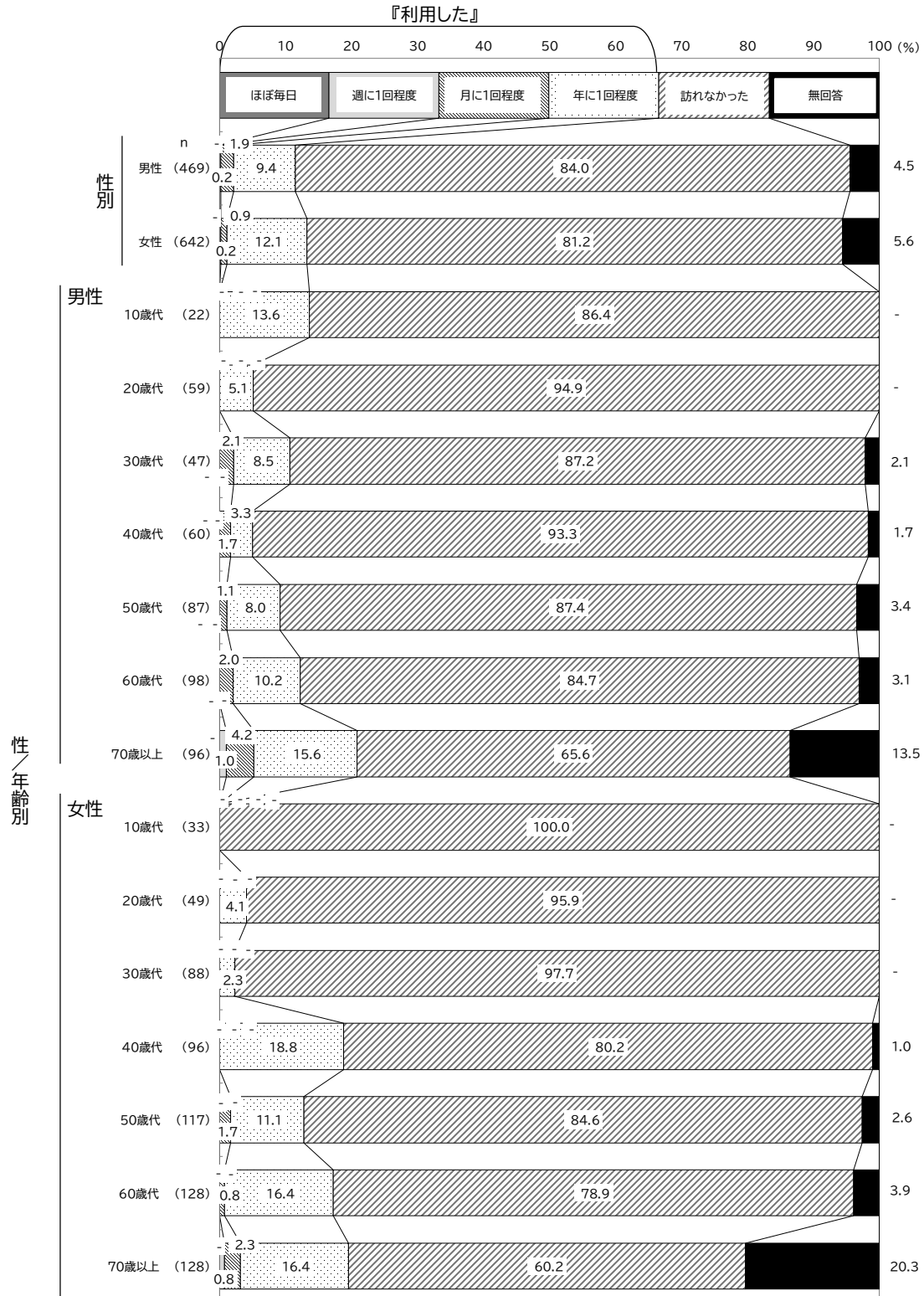
(4)市民文化会館

【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図12-8)と比べて大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、『利用した』は、男女ともに“70歳以上”が最も多く、男性が20.8%、女性が19.5%となっている。一方、「訪れなかった」は、男性の“20歳代”、“40歳代”、女性の10～30歳代で9割以上となり、高い割合を占めている。(図12-18)

〈図12-18〉性別、性／年齢別



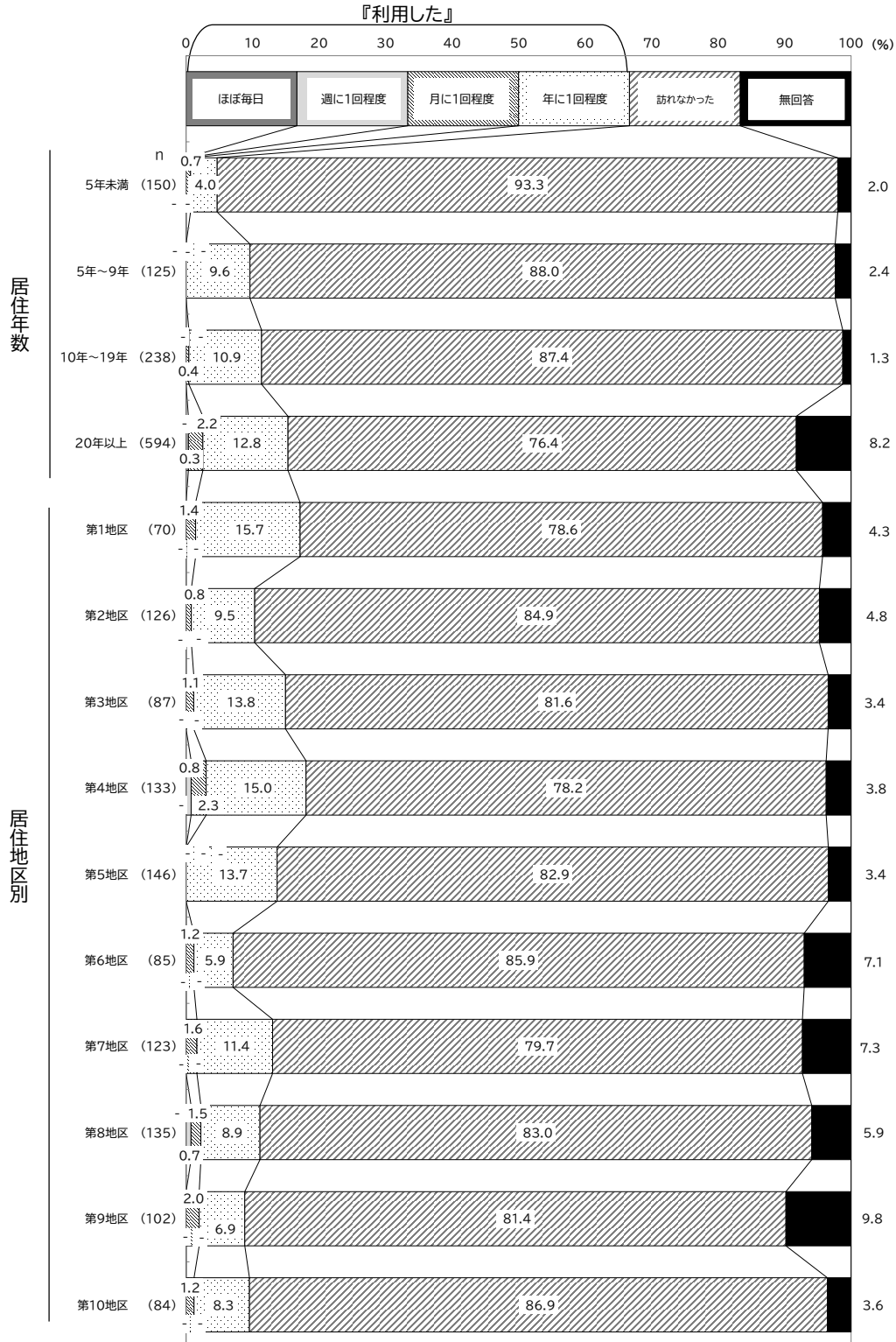
〈市内の公共施設の利用頻度〉(4)市民文化会館

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『利用した』は、居住年数が長くなるにつれて高くなっており、最も高い“20年以上”では15.3%となっている。

居住地区別にみると、『利用した』が最も多いのは“第4地区”が18.1%となっており、次いで“第1地区”(17.1%)、“第3地区”(14.9%)の順となっている。なお、「訪れなかった」が最も多いのは、“第10地区”で86.9%となっている。(図12-19)

〈図12-19〉居住年数別、居住地区別

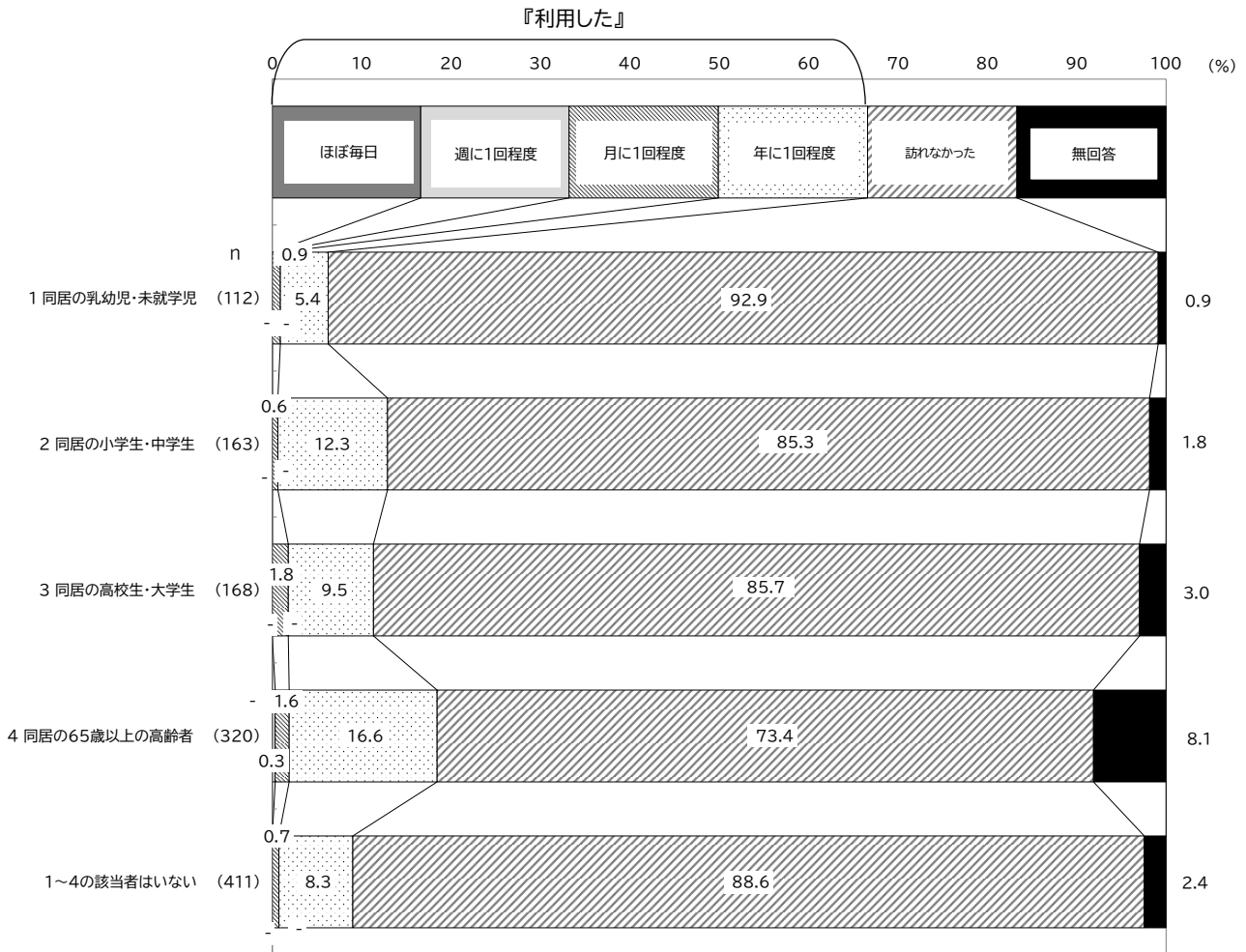


【同居家族別】

同居家族別にみると、『利用した』は、“同居の65歳以上の高齢者”が18.5%で最も多くなっている。一方、「訪れなかった」は、“同居の乳幼児・未就学児”が92.9%で最も多くなっている。

(図12-20)

<図12-20>同居家族別



〈市内の公共施設の利用頻度〉

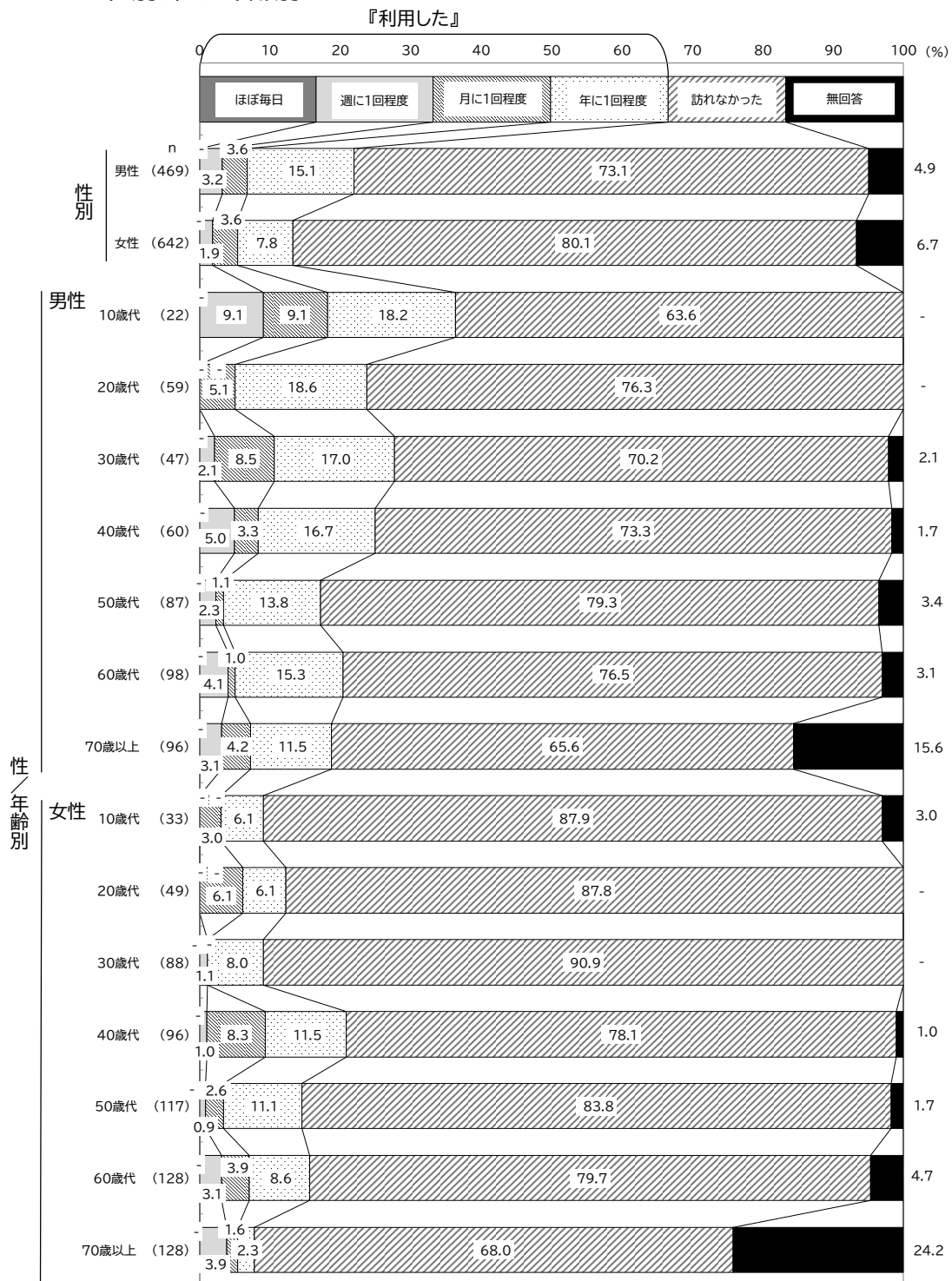
(5)市民総合体育館

【性別、性／年齢別】

性別にみると、『利用した』は、男性が 21.9%となり、女性(13.3%)に比べて 8.6 ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、『利用した』は、男性では“10 歳代”が 36.4%、女性では“40 歳代”が 20.8%で最も多くなっている。一方、「訪れなかった」は、男性では“50 歳代”が 79.3%、女性では“30 歳代”が 90.9%で最も多くなっている。(図12-21)

<図12-21>性別、性／年齢別

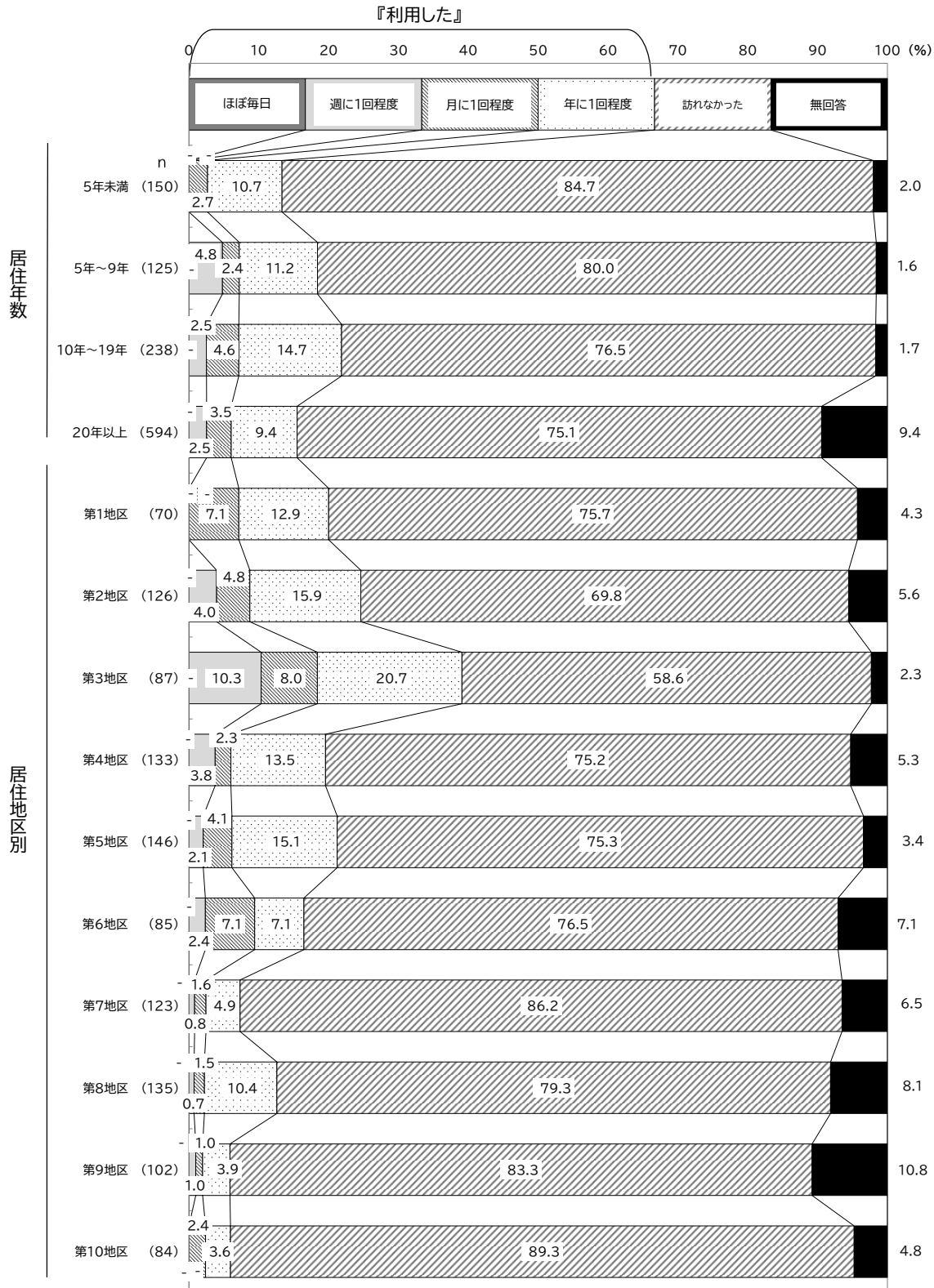


【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、『利用した』は、“10年～19年”が21.8%で最も多くなっている。

居住地区別にみると、『利用した』が最も多いのは“第3地区”が39.0%となっており、次いで“第2地区”(24.7%)、“第5地区”(21.3%)の順となっている。なお、「訪れなかった」が最も多いのは、“第10地区”で89.3%となっている。(図12-22)

<図12-22>居住年数別、居住地区別

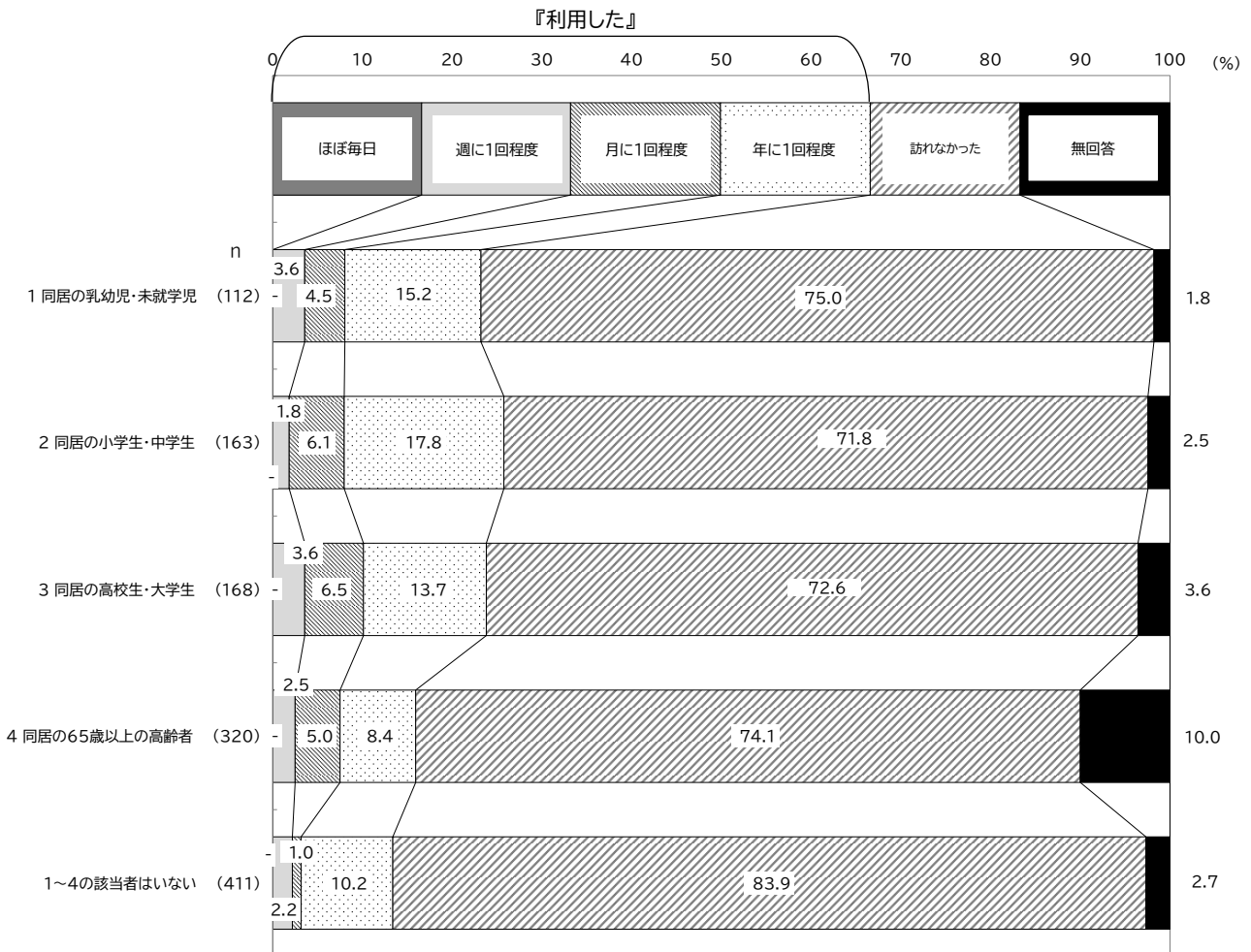


〈市内の公共施設の利用頻度〉(5)市民総合体育館

【同居家族別】

同居家族別にみると、『利用した』は、“同居の65歳以上の高齢者”、“1～4の該当者はいない”を除く、子どものいる家庭で2割以上となっている。(図12-23)

〈図12-23〉同居家族別



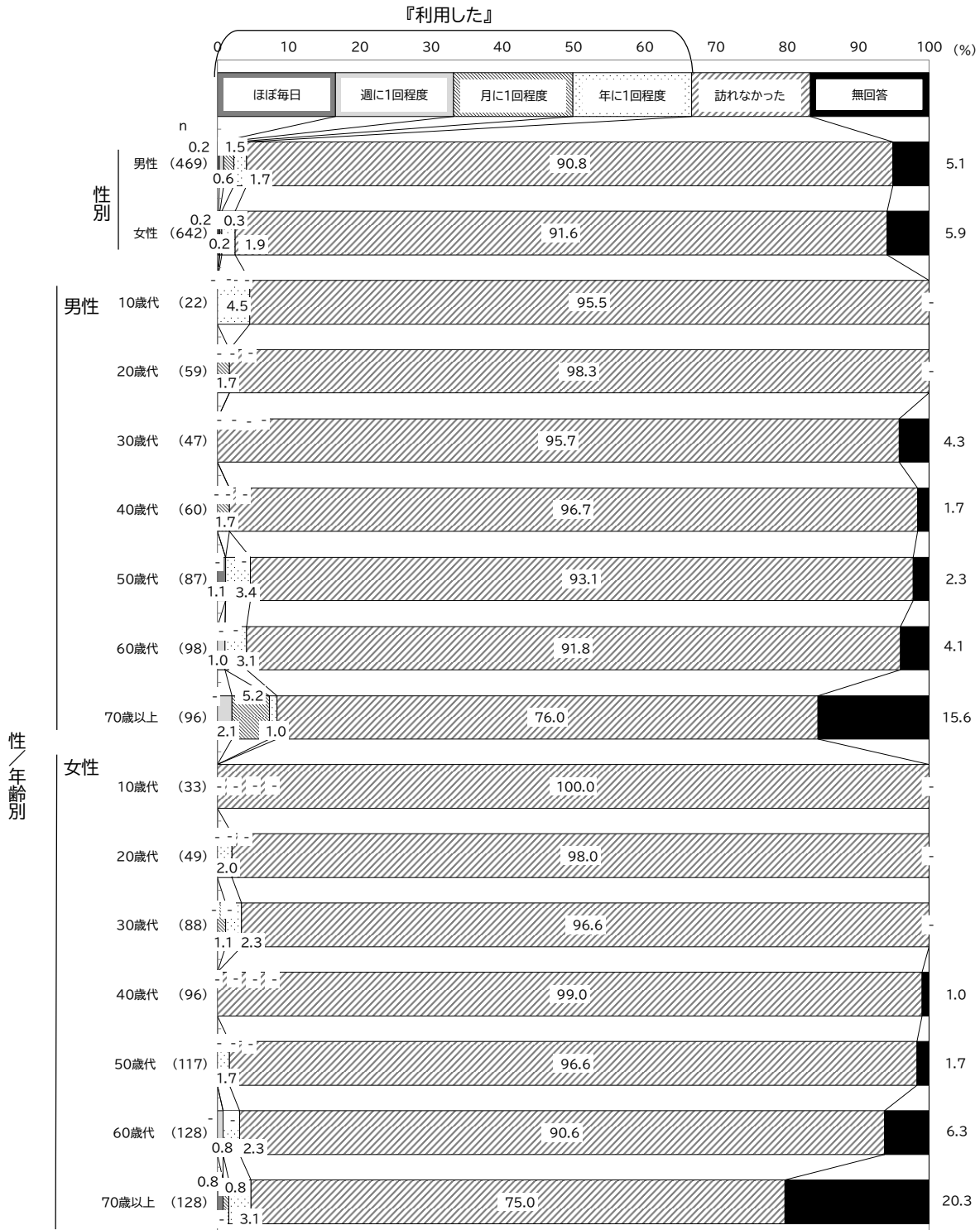
(6)高齢者福祉施設

【性別、性／年齢別】

性別にみると、全体(図12-8)と比べて大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、男女ともに、“70歳以上”を除くすべての年代で、「訪れなかった」が9割以上となっている。なお、“70歳以上”の『利用した』の割合は、男性が8.3%、女性が4.7%となっている。(図12-24)

〈図12-24〉性別、性／年齢別



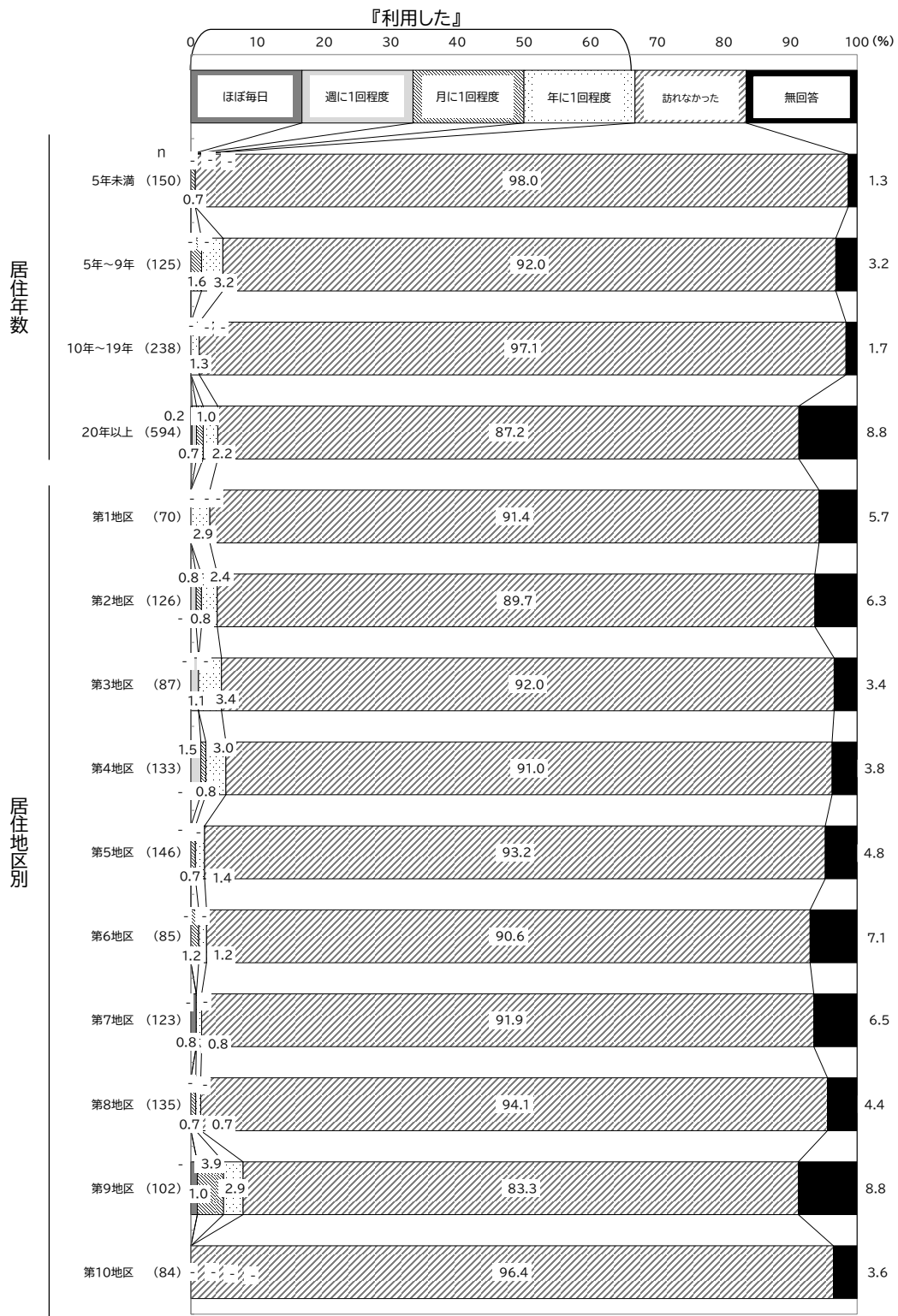
〈市内の公共施設の利用頻度〉(6)高齢者福祉施設

【居住年数別、居住地区別】

居住年数別にみると、“20年以上”を除くすべての年数で、「訪れなかった」が9割以上となっている。

居住地区別にみると、『利用した』は“第9地区”が7.8%となり、他の地区に比べて高くなっている。(図12-25)

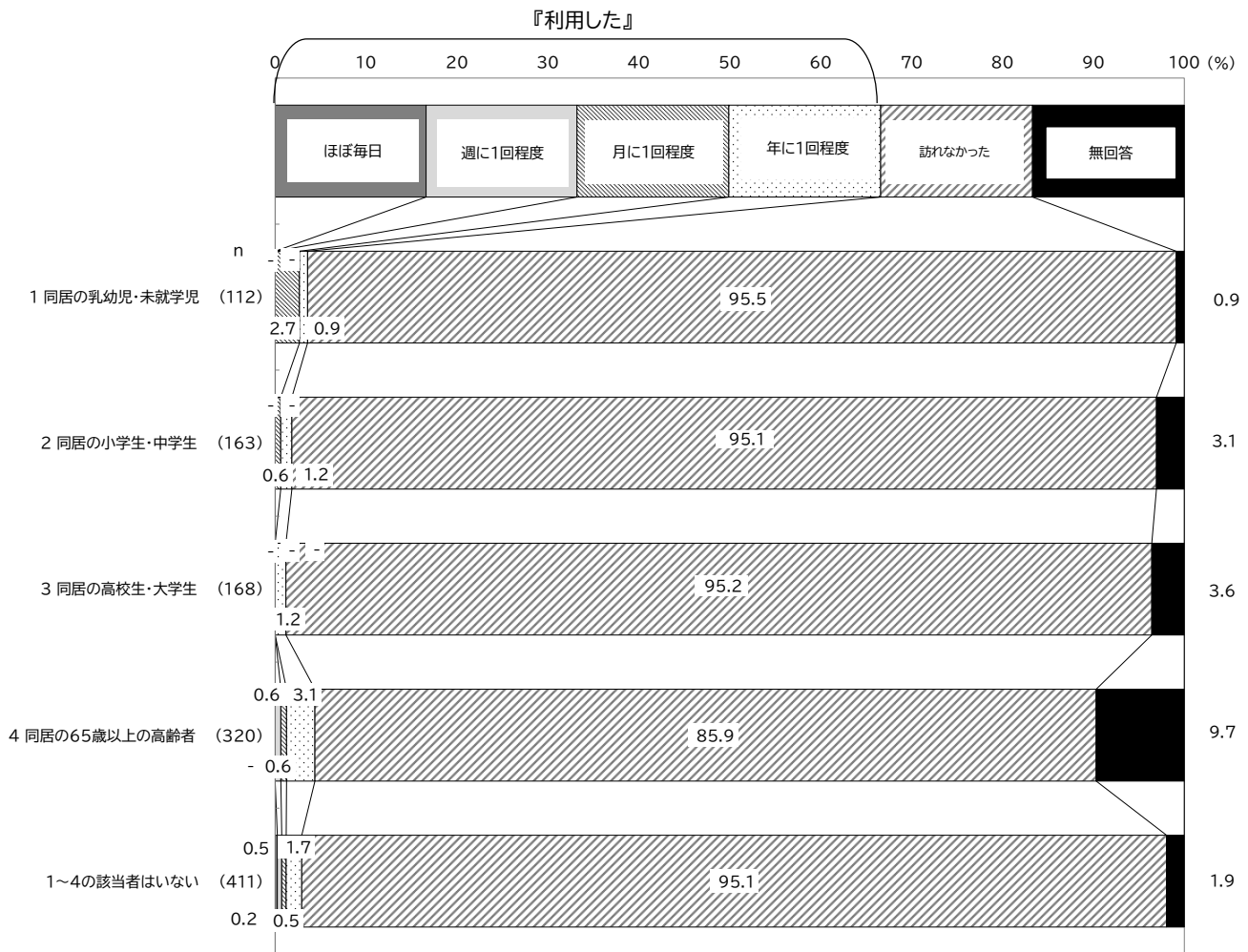
〈図12-25〉居住年数別、居住地区別



【同居家族別】

同居家族別にみると、“同居の65歳以上の高齢者”を除くすべての同居家族で、「訪れなかった」が9割以上となっている。なお、“同居の65歳以上の高齢者”の『利用した』は4.3%となっている(図12-26)

〈図12-26〉同居家族別



問23【公共施設の利用にかかる経費負担】 地域センター、公民館などの公共施設の部屋を利用する場合、利用する人が経費を負担することについて、あなたの意見に最も近いのは次のうちどれですか。(○は1つ)

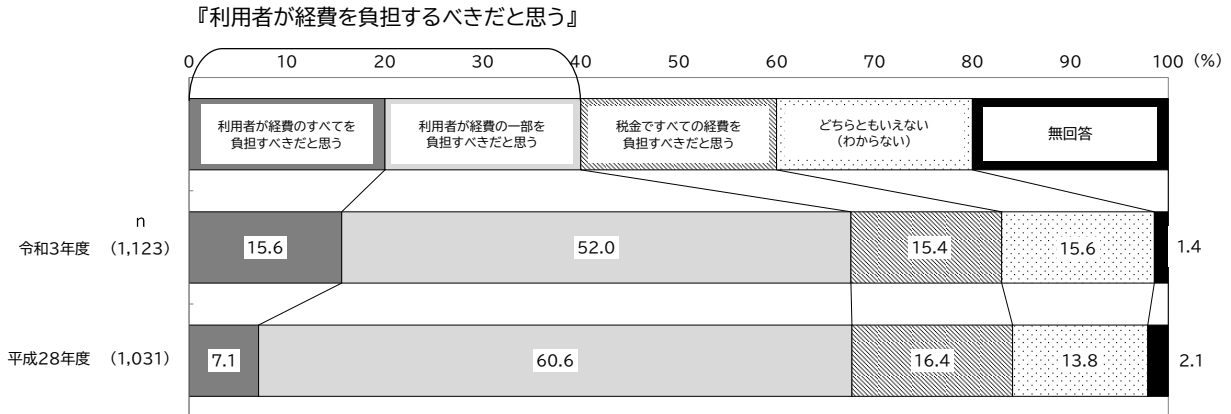
◇「利用者が経費の一部を負担すべきだと思う」が過半数で最も多い

公共施設の利用にかかる経費負担は、「利用者が経費の一部を負担すべきだと思う」が52.0%で最も多く、次いで、「利用者が経費のすべてを負担すべきだと思う」(15.6%)と「どちらともいえない(わからない)」(15.6%)が同率となっている。(図12-27)

【時系列比較】

時系列で比較すると、「利用者が経費のすべてを負担すべきだと思う」は前回調査(7.1%)より、8.5ポイント増加しているが、「利用者が経費の一部を負担すべきだと思う」は前回調査(60.6%)より8.6ポイント減少しているため、2つを合わせた『利用者が経費を負担すべきだと思う』に、大きな変化はみられない。(図12-27)

<図12-27> 公共施設の利用にかかる経費負担、時系列比較

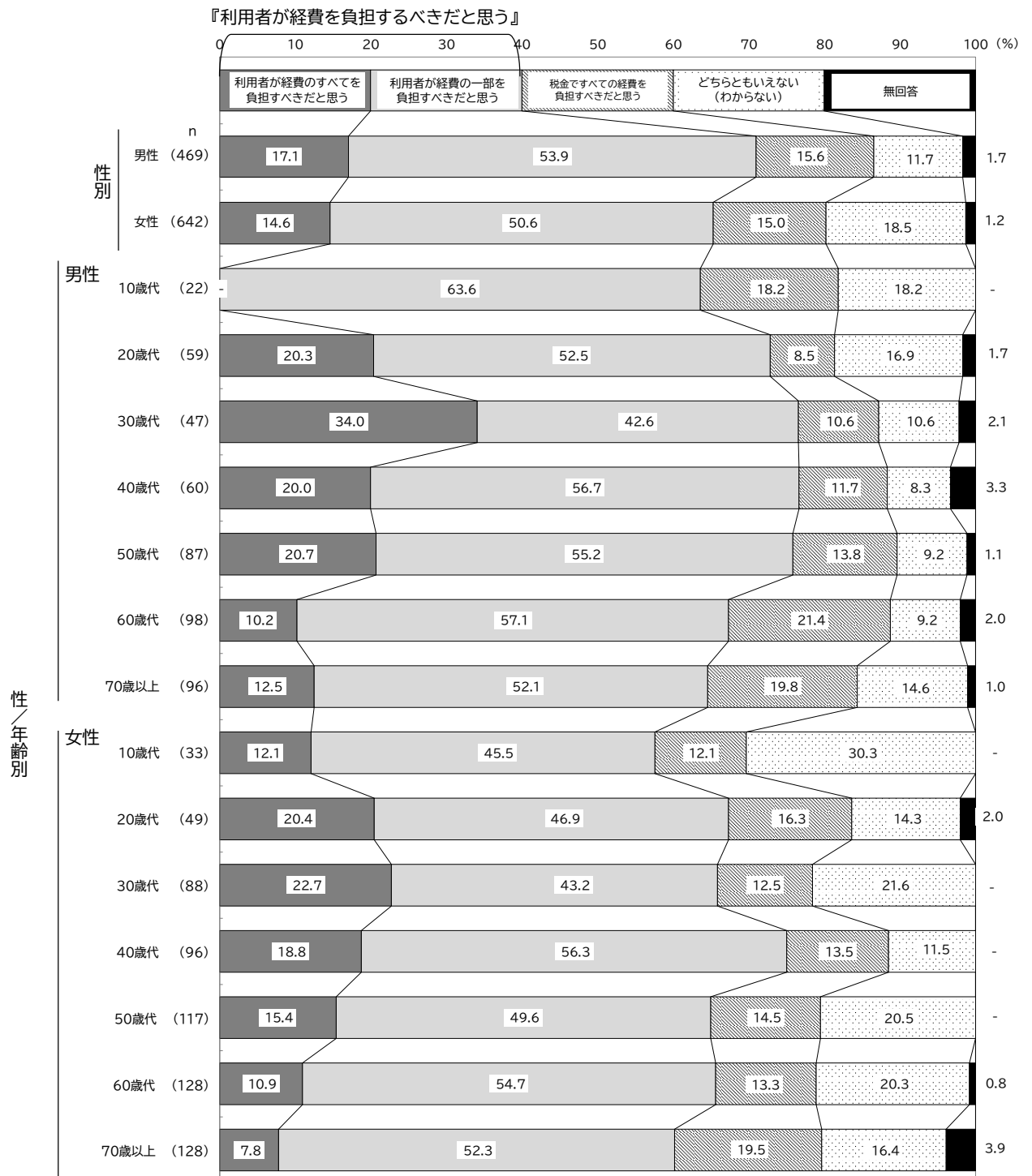


【性別、性／年齢別】

性別にみると、『利用者が経費を負担すべきだと思う』は、男性が71.0%で、女性(65.2%)に比べて5.8ポイント高くなっている。なお、「税金ですべての経費を負担すべきだと思う」に性別による大きな変化はみられない。

性／年齢別にみると、女性の“10歳代”を除き、『利用者が経費を負担すべきだと思う』が6割以上となっている。「税金ですべての経費を負担すべきだと思う」は、男性の60歳代以上、女性の“70歳以上”が約2割を占め、他の年代に比べて高くなっている。(図12-28)

<図12-28>性別、性／年齢別

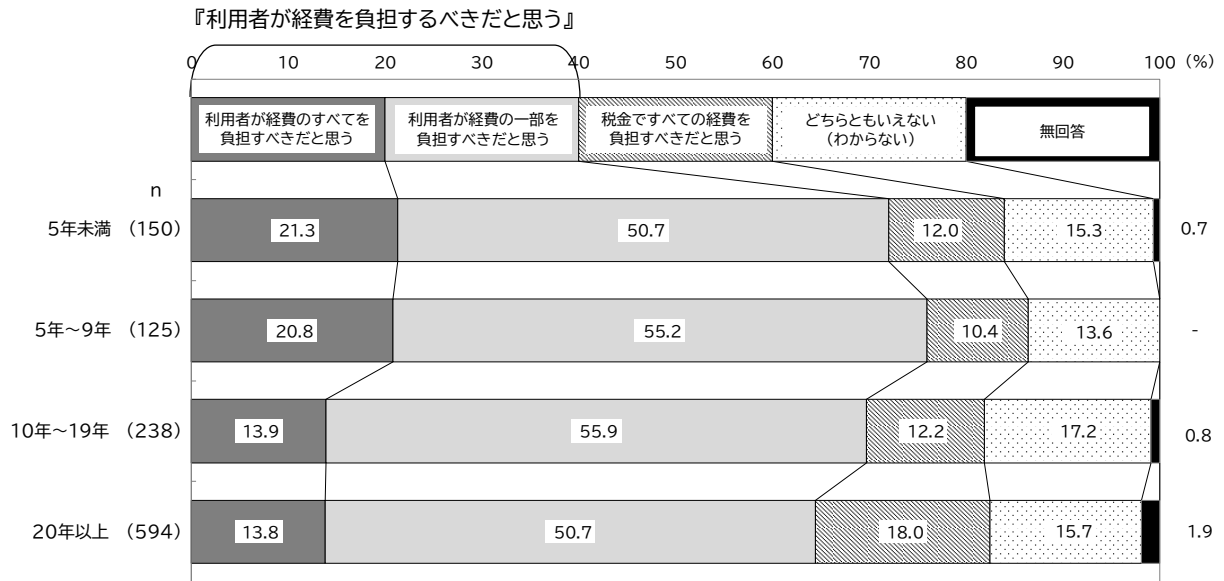


〈公共施設の利用にかかる経費負担〉

【居住年数別】

居住年数別にみると、「利用者が経費のすべてを負担すべきだと思う」は居住年数が短くなるにつれて高くなっており、“5年未満”では21.3%となっている。「税金ですべての経費を負担すべきだと思う」は“20年以上”が18.0%となり、他の年数に比べて高くなっている。(図12-29)

〈図 12-29〉居住年数別



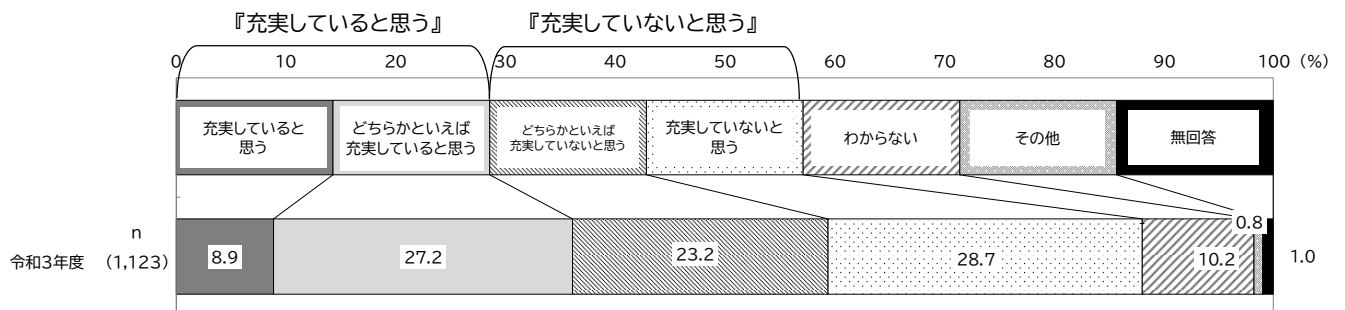
問24【鉄道の最寄り駅周辺の公共施設の充実度】 あなたがふだん利用している鉄道の最寄り駅の周辺では、利便性の高い公共施設が充実していると思いますか。（○は1つ）

◇『充実していないと思う』が過半数

鉄道の最寄り駅周辺の公共施設の充実度について、「充実していると思う」(8.9%)と「どちらかといえば充実していると思う」(27.2%)を合わせた『充実していると思う』は36.1%となっている。

一方、「どちらかといえば充実していないと思う」(23.2%)と「充実していないと思う」(28.7%)を合わせた『充実していないと思う』は51.9%となっている。(図 12-30)

<図 12-30> 鉄道の最寄り駅周辺の公共施設の充実度



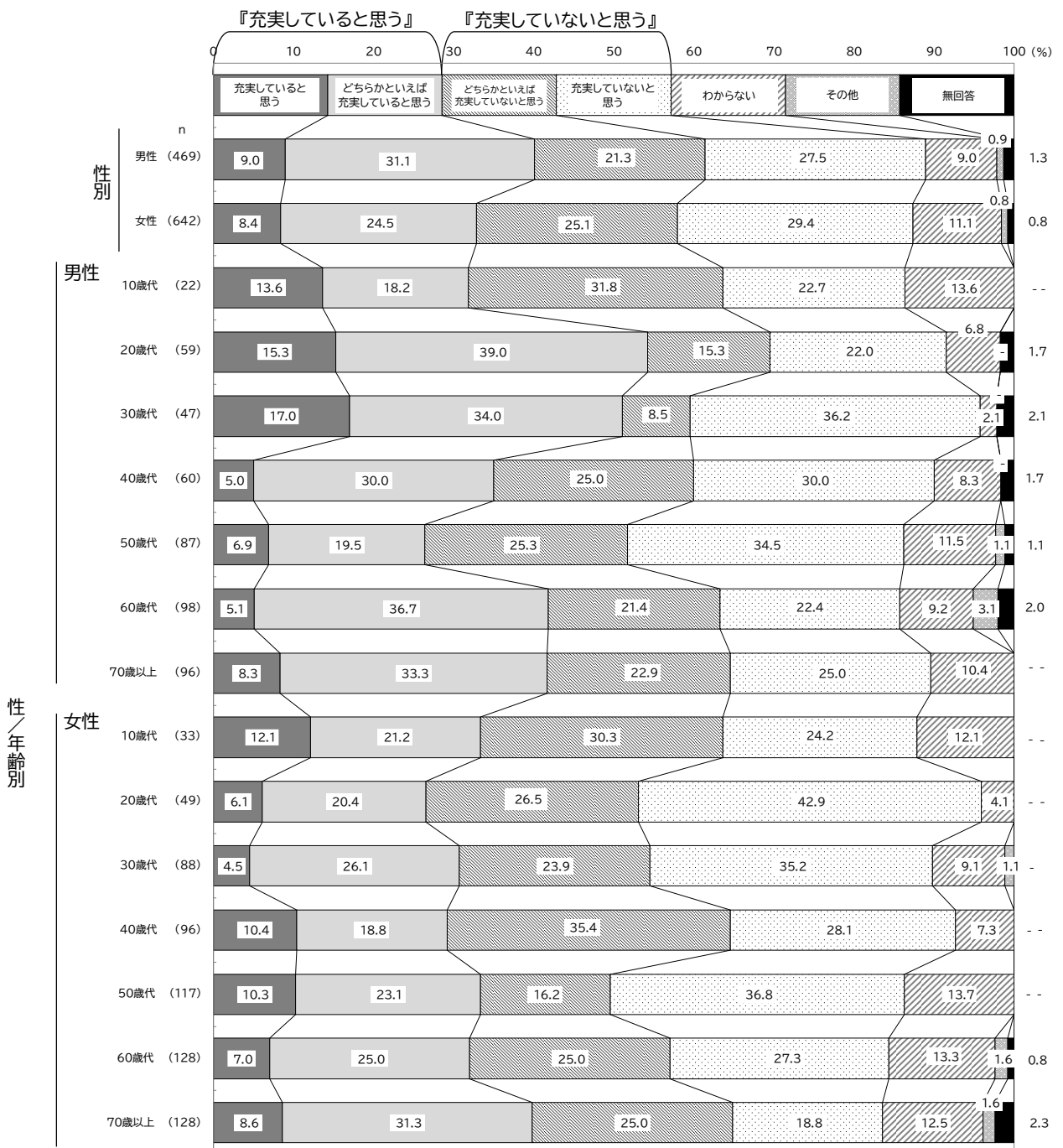
〈鉄道的最寄り駅周辺の公共施設の充実度〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、『充実していると思う』は、男性が40.1%で、女性(32.9%)に比べて7.2ポイント高くなっている。一方、『充実していないと思う』は女性が54.5%で過半数となり、男性(48.8%)に比べて5.7ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、『充実していると思う』は男性の20～30歳代が過半数となり、他の年代に比べて高くなっている。『充実していないと思う』は、女性の“20歳代”、“40歳代”が特に高く、6割以上を占めている。(図12-31)

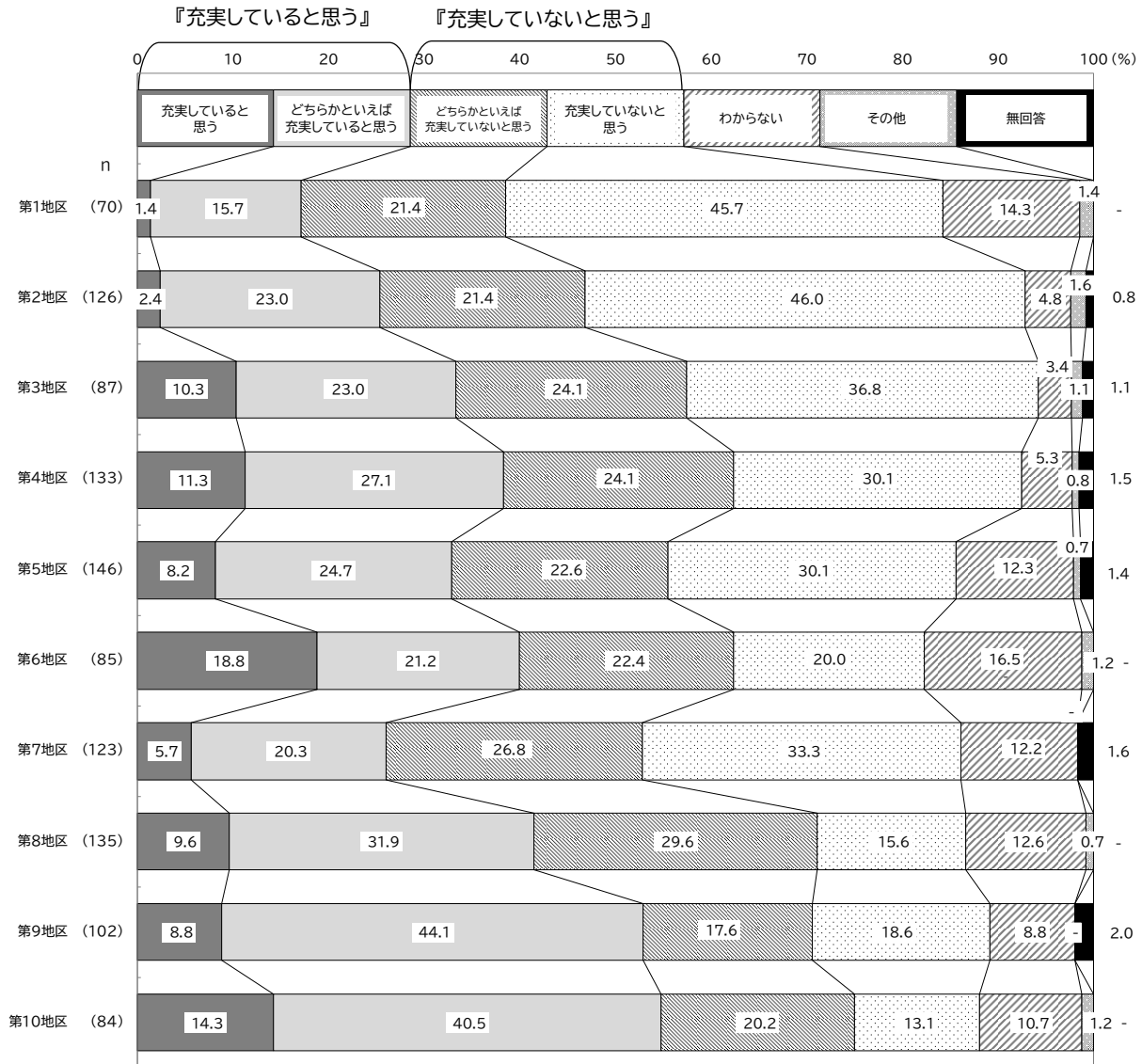
〈図12-31〉性別、性／年齢別



【居住地区別】

居住地区別にみると、『充実している』が最も多いのは“第10地区”が54.8%となっており、次いで“第9地区”(52.9%)、“第8地区”(41.5%)の順となっている。なお、『充実していない』が最も多いのは、“第2地区”で67.4%となっている。(図12-32)

<図12-32>居住地区別

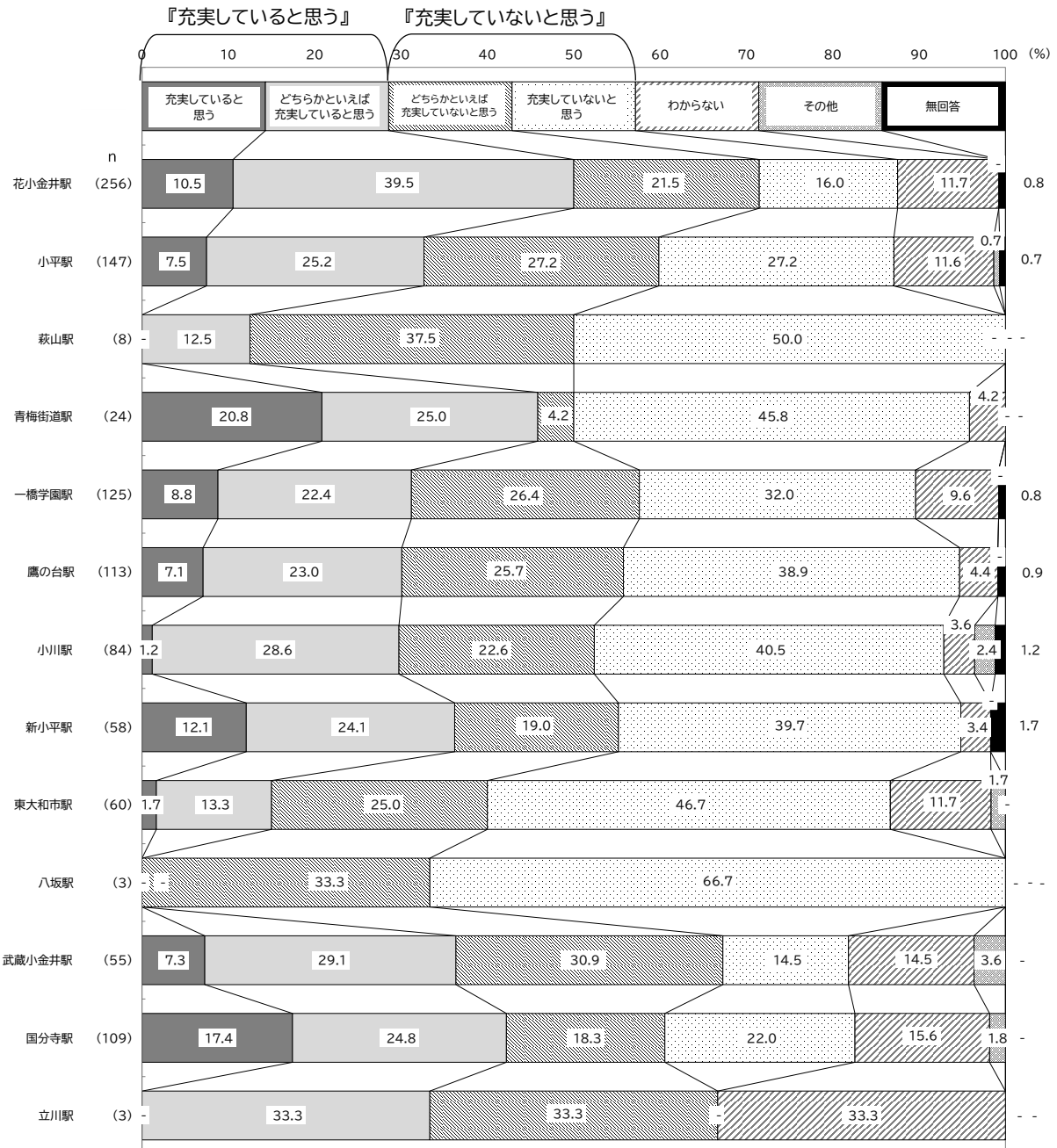


〈鉄道の最寄り駅周辺の公共施設の充実度〉

【最寄りの鉄道駅別】

最寄りの鉄道駅別にみると、『充実している』が最も多いのは“花小金井駅”で半数を占めている。なお、『充実していないと思う』が半数以下なのは、小平市内では“花小金井駅”のみとなっている。(図 12-33)

〈図 12-33〉最寄りの鉄道駅別



13 行政サービスの向上・改善について

問25【市職員の仕事や対応への満足度】 あなたは、小平市職員の仕事や対応に満足していますか。(○は1つ)

◇『満足』が 41.0%、『不満』が 16.7%

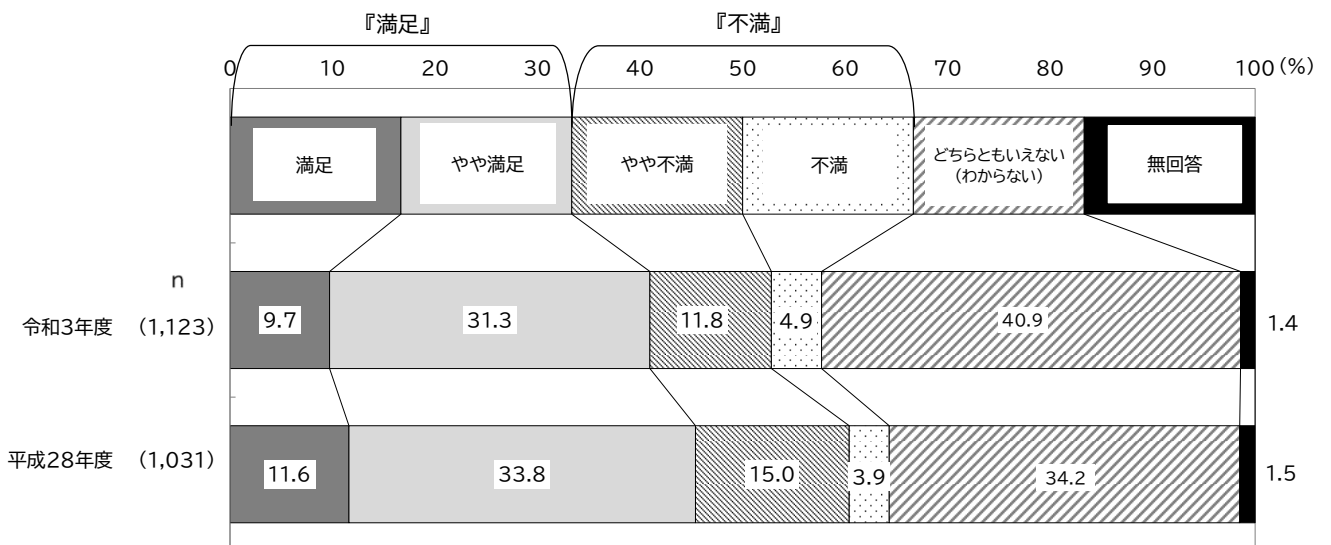
市職員の仕事や対応への満足度について、「満足」(9.7%)と「やや満足」(31.3%)を合わせた『満足』は 41.0%となっている。

一方、「やや不満」(11.8%)と「不満」(4.9%)を合わせた『不満』は 16.7%、「どちらともいえない(わからない)」が 40.9%となっている。(図13-1)

【時系列比較】

時系列で比較すると、『満足』は前回調査(45.4%)より 4.4 ポイント、『不満』は前回調査(18.9%)より 2.2 ポイントそれぞれ減少した。なお、「どちらともいえない(わからない)」が前回調査(34.2%)より 6.7 ポイント増加している。(図13-1)

<図13-1>市職員の仕事や対応への満足度、時系列比較



〈市職員の仕事や対応への満足度〉

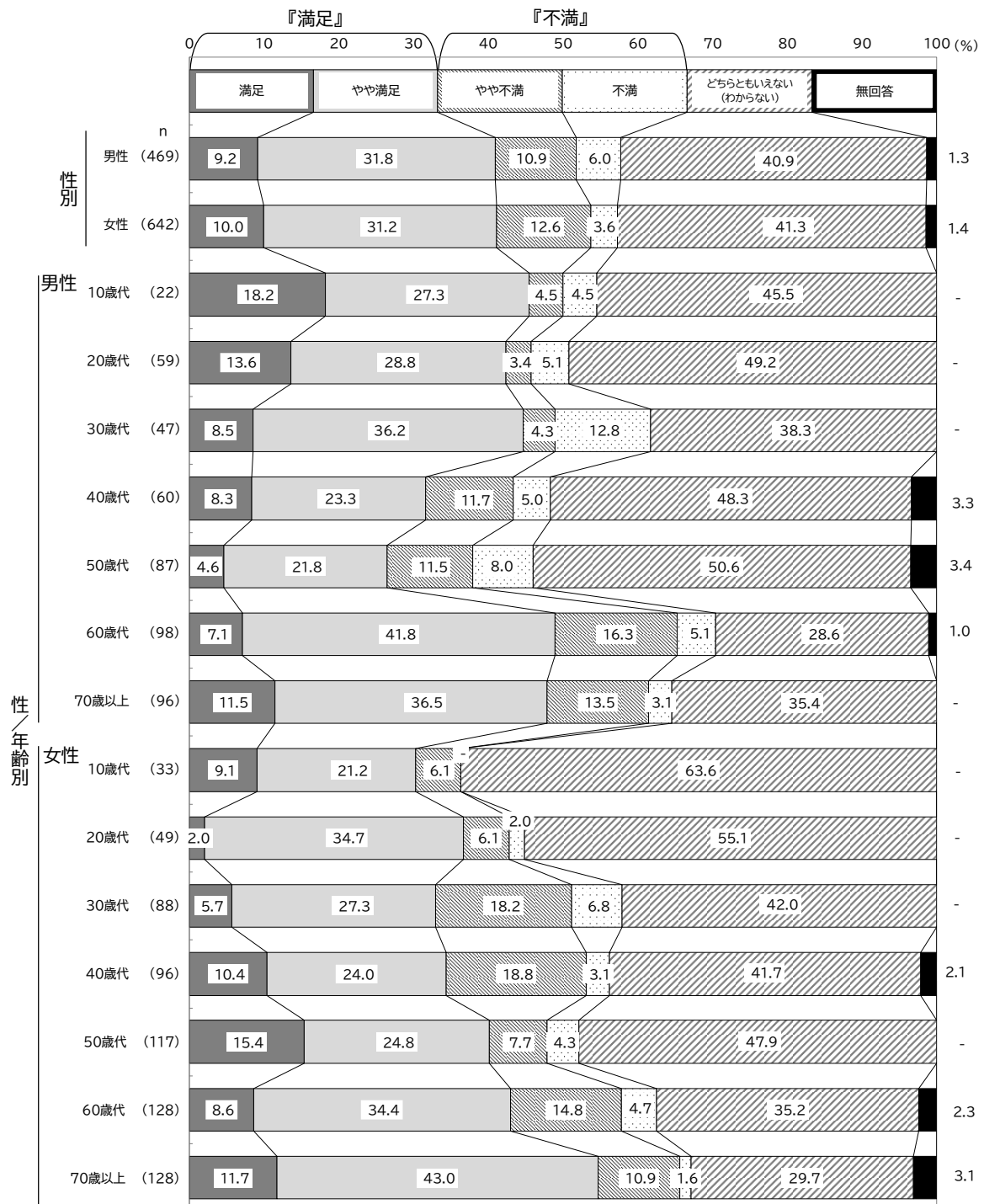
【性別、性／年齢別】

性別にみると、『満足』は男性が41.0%、女性は41.2%でいずれも約4割となり、大きな差はみられない。

性／年齢別にみると、『満足』の割合は、男性では“60歳代”が48.9%で最も多く、“50歳代”が26.4%で最も少なくなっている。女性では、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、最も高い“70歳以上”(54.7%)と、最も低い“10歳代”(30.3%)では24.4ポイントの差がみられる。

なお、『不満』については、男性の“60歳代”、女性の“30歳代”、“40歳代”で2割以上となり、他の年代に比べてやや高くなっている。(図13-2)

〈図13-2〉性別、性／年齢別

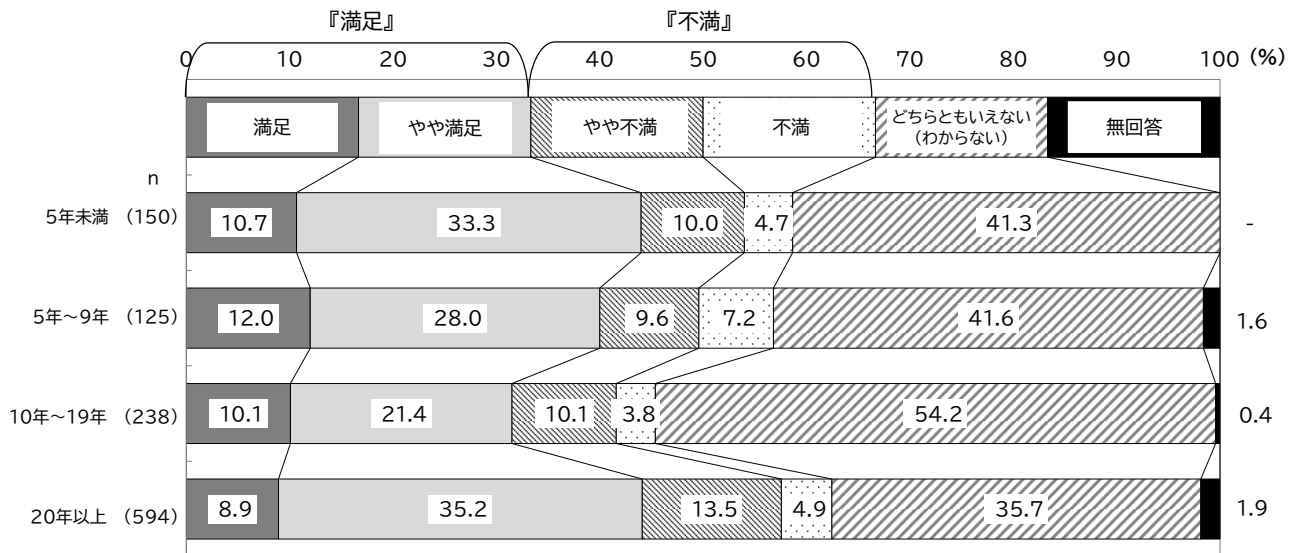


【居住年数別】

居住年数別にみると、『満足』は“10年～19年”を除き4割以上となっている。

なお、“10年～19年”では『満足』は31.5%となり他の居住年数に比べて低い一方、「どちらともいえない(わからない)」は54.2%で最も多くなっている。(図13-3)

〈図13-3〉居住年数別



問26【市職員に必要な能力・資質】 小平市職員に必要な能力・資質は次のうちどれだと思いますか。(〇は3つまで)

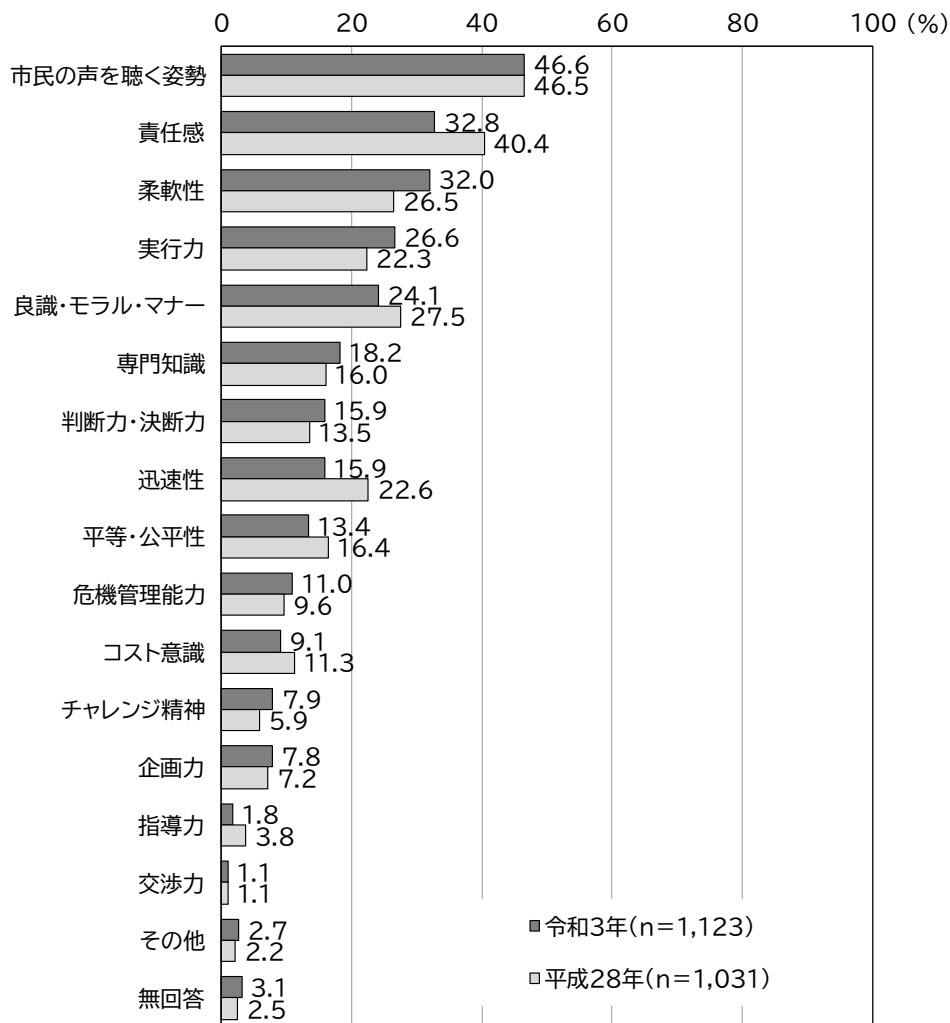
◇「市民の声を聴く姿勢」が 46.6%で最も多い

市職員に必要な能力・資質は、「市民の声を聴く姿勢」が 46.6%で最も多く、次いで、「責任感」(32.8%)、「柔軟性」(32.0%)の順となっている。(図13-4)

【時系列比較】

時系列で比較すると、最も増えたのは「柔軟性」で 5.5 ポイント増加、最も減ったのは「責任感」で 7.6 ポイント減少している。(図13-4)

<図13-4>市職員に必要な能力・資質、時系列比較

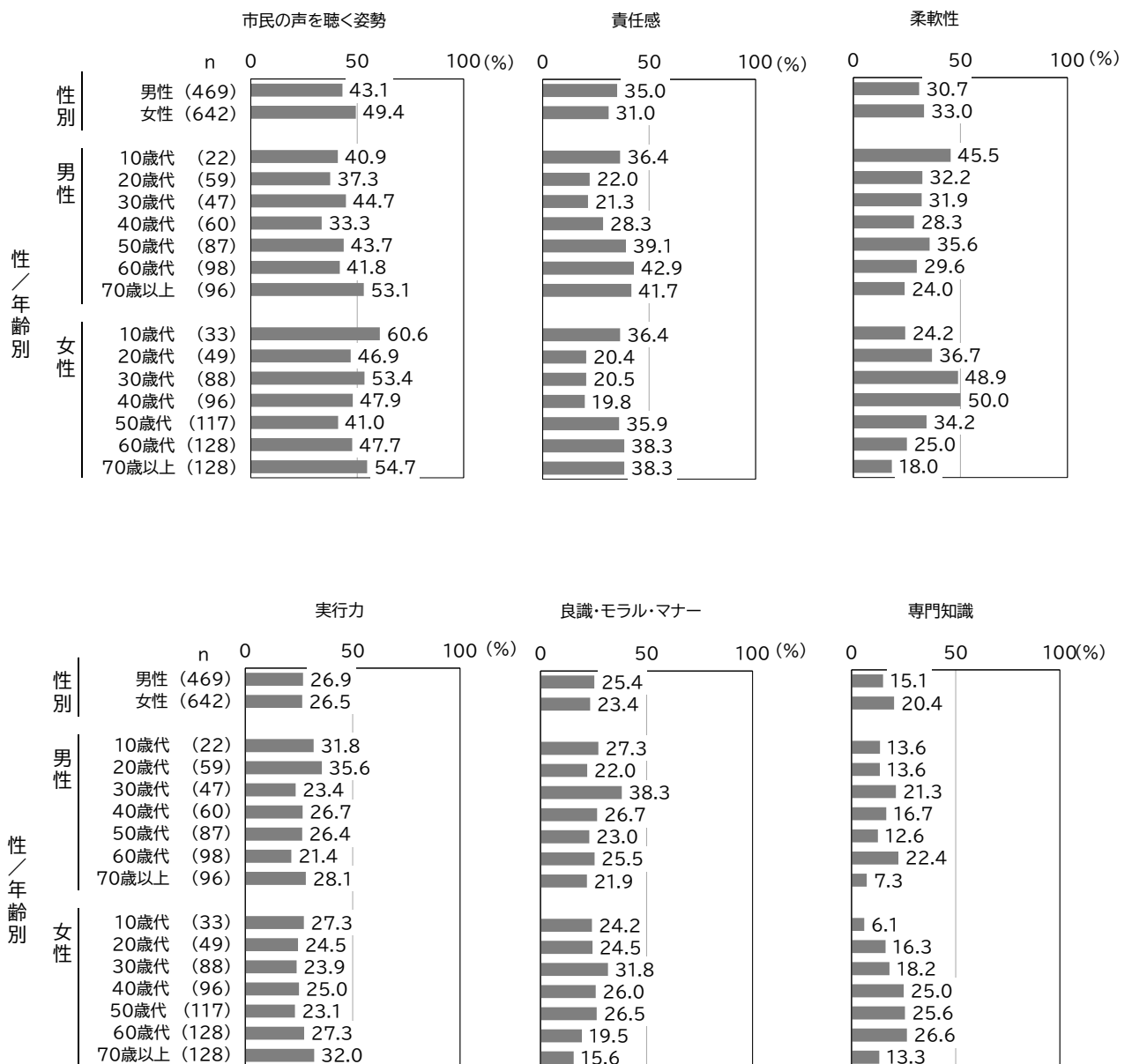


【性別、性／年齢別】

性別にみると、上位6項目では、「市民の声を聴く姿勢」と「専門知識」は、女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

性／年齢別にみると、男性の“60歳代”は「責任感」、男性の“10歳代”と女性の“40歳代”では柔軟性が最も多くなっている。その他の年代では、「市民の声を聴く姿勢」が最も多く、特に女性の“10歳代”では60.6%となっている。(図13-5)

〈図13-5〉性別、性／年齢別

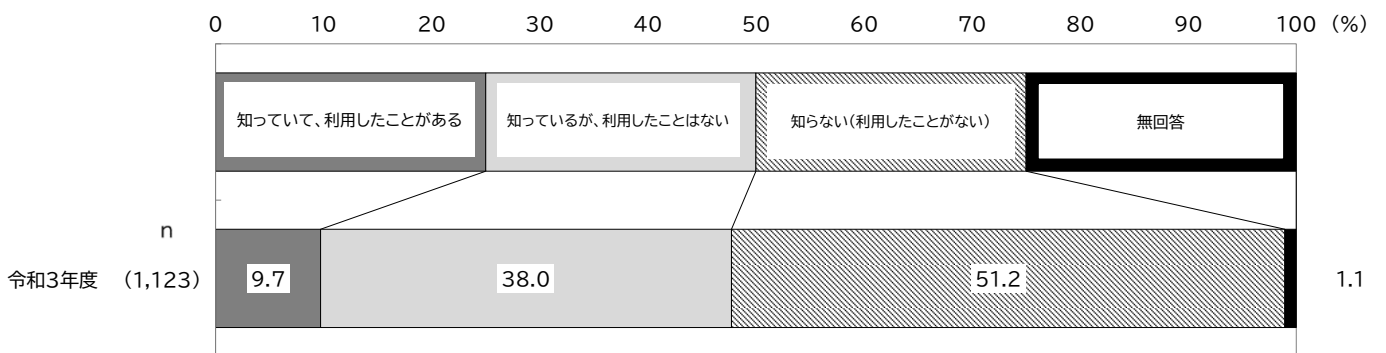


問27【動く市役所の認知度】 あなたは、動く市役所を知っていますか。また、利用したことはありますか。(○は1つ)

◇「知らない(利用したことがない)」が過半数

動く市役所の認知度は、「知らない(利用したことがない)」が 51.2%で最も多く、次いで、「知っているが、利用したことはない」(38.0%)、「知っていて、利用したことがある」(9.7%)の順となっている。(図13-6)

<図13-6>動く市役所の認知度

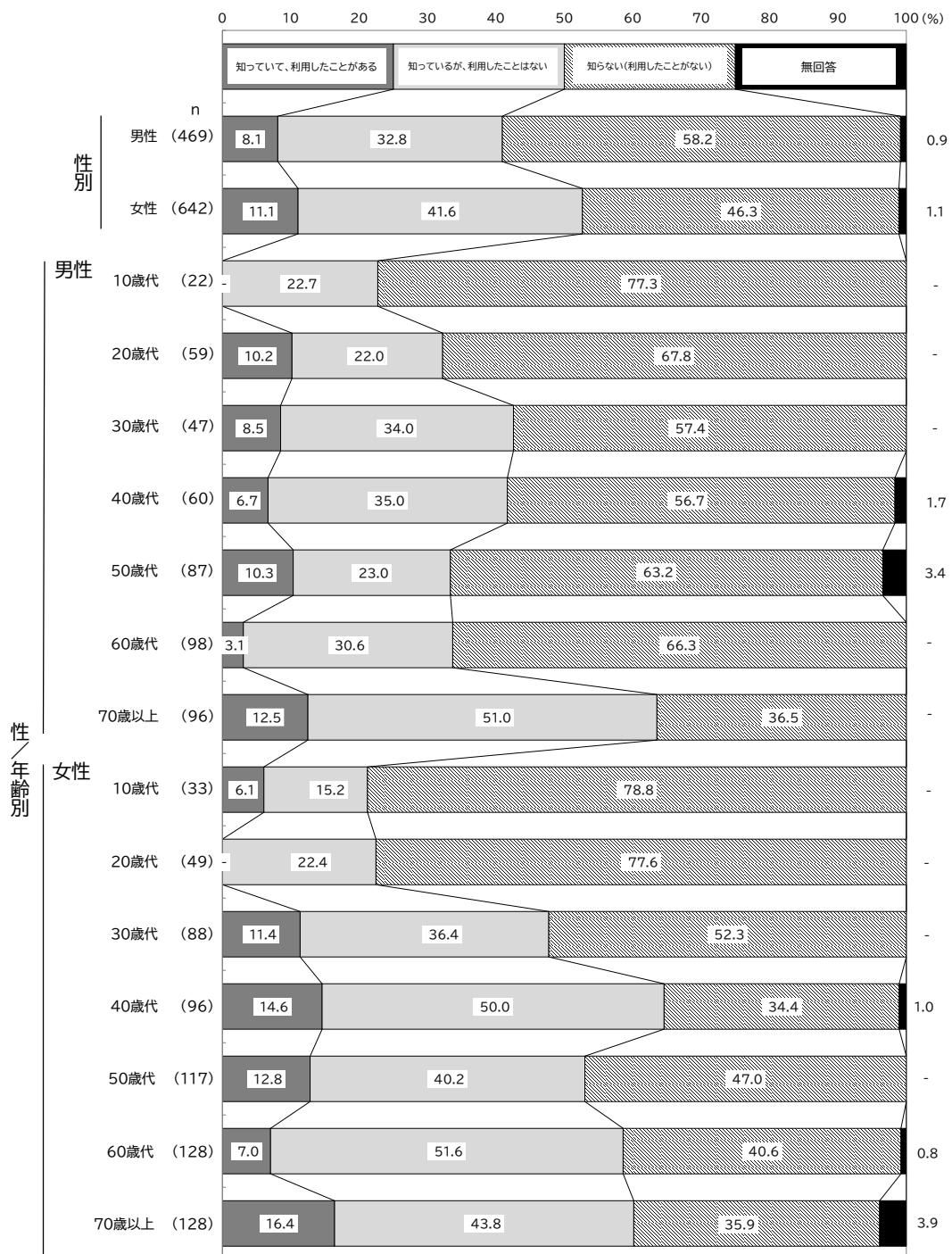


【性別、性／年齢別】

性別にみると、「知っているが、利用したことはない」は、女性が41.6%となり、男性(32.8%)より8.8ポイント高くなっている。一方、「知らない(利用したことがない)」は、男性が58.2%となり、女性(46.3%)より11.9ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、「知っているが、利用したことはない」は男性の“70歳以上”、女性の“40歳代”、“60歳代”では半数以上となっており、他の年代に比べて認知度は高いことがうかがえる。「知らない(利用したことがない)」は、男性の60歳代以下、女性の30歳代以下で過半数となっており、特に男性の“10歳代”、女性の20歳代以下では7割以上となっている。(図13-7)

<図13-7>性別、性／年齢別

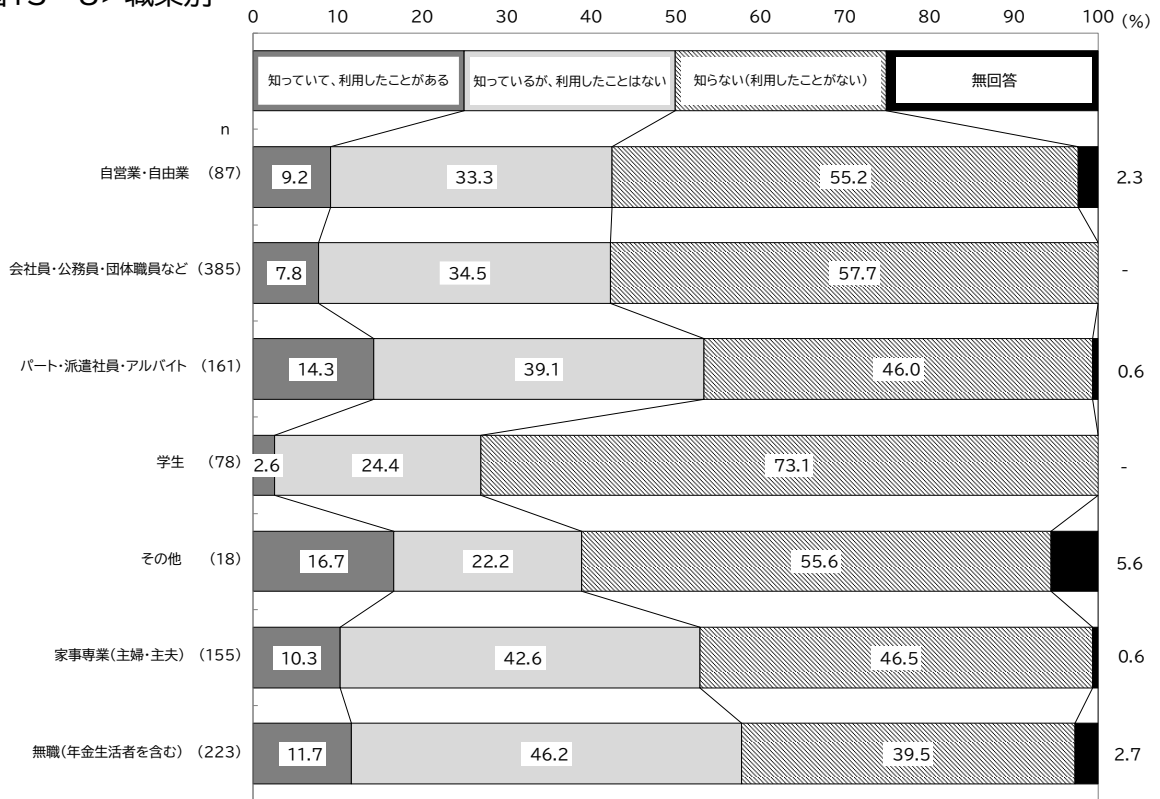


〈動く市役所の認知度〉

【職業別】

職業別にみると、「知っているが、利用したことはない」は、“家事専業(主婦・主夫)”、“無職(年金生活者を含む)”が4割以上となっている。“学生”では、「知らない(利用したことがない)」が73.1%で、他の職業に比べて高くなっている。(図13-8)

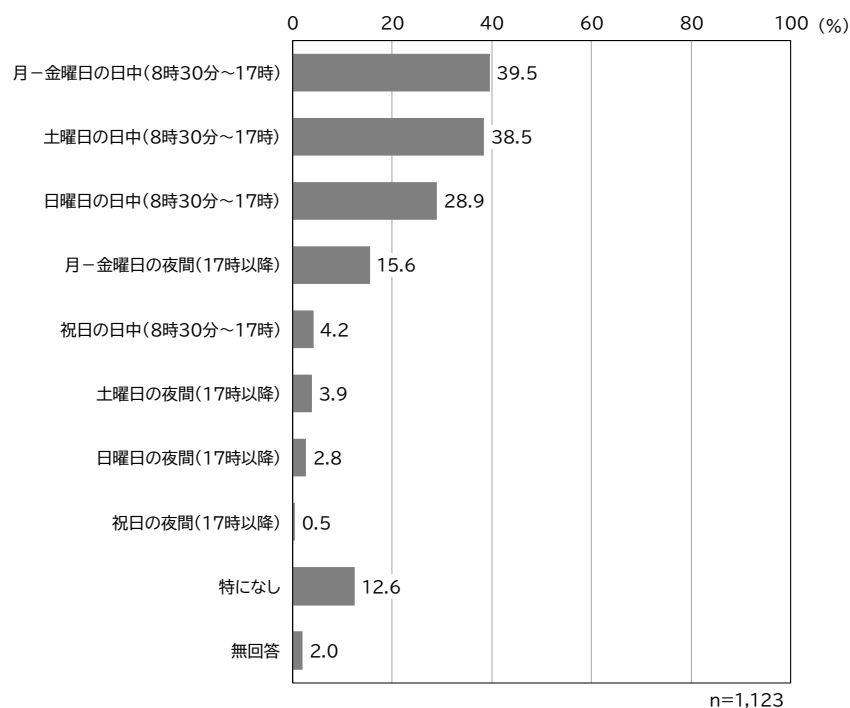
〈図13-8〉職業別



問28【窓口を利用しやすい時間帯】 あなたが市役所の窓口(出張所・動く市役所を含む)を最も利用しやすいのはいつですか。(〇は2つまで)

◇「月－金曜日の日中(8時30分～17時)」と「土曜日の日中(8時30分～17時)」が約4割
窓口を利用しやすい時間帯は、「月－金曜日の日中(8時30分～17時)」が39.5%で最も多く、次いで、「土曜日の日中(8時30分～17時)」(38.5%)、「日曜日の日中(8時30分～17時)」(28.9%)の順となっている。(図13－9)

<図13－9>窓口を利用しやすい時間帯



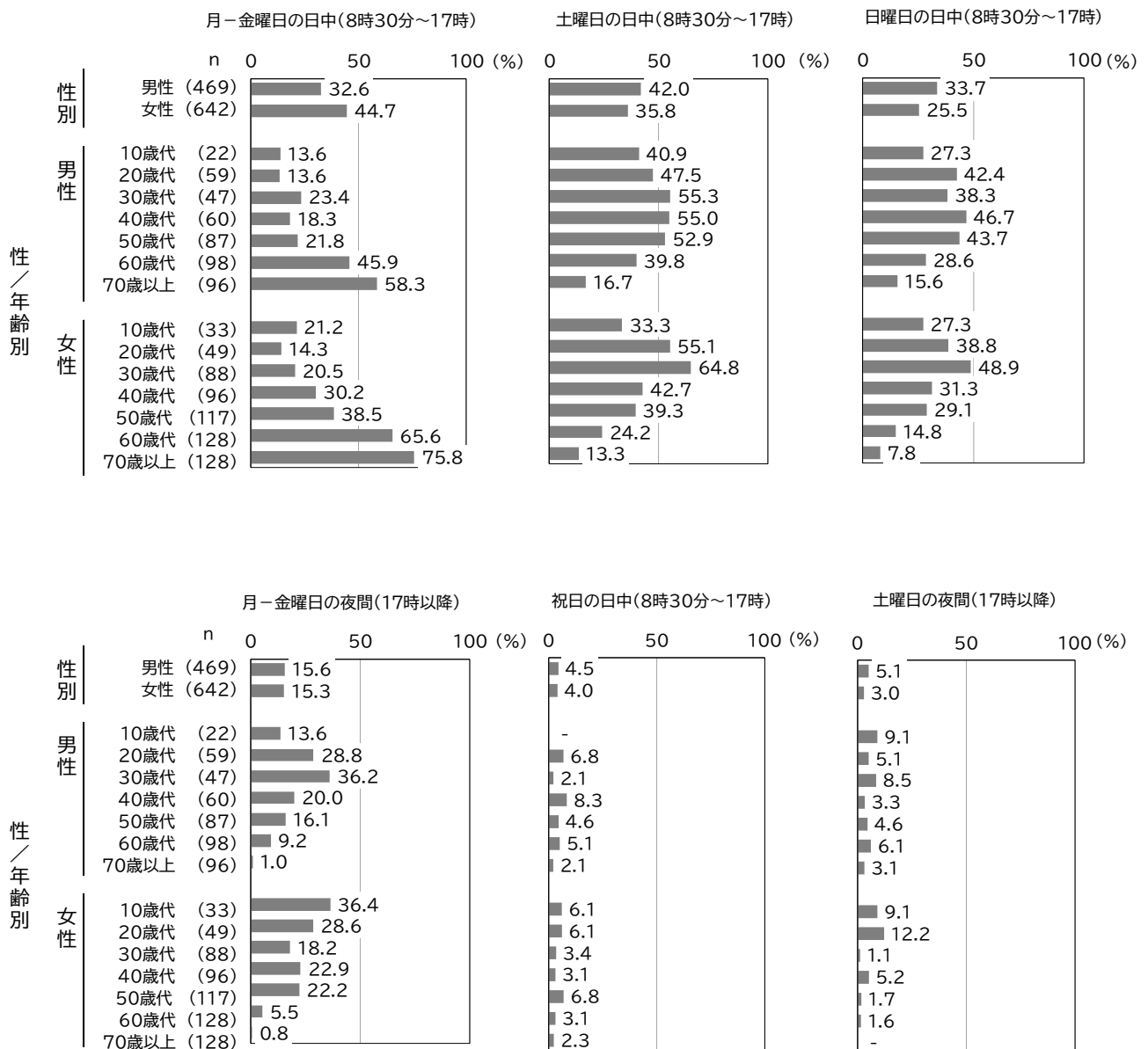
〈窓口を利用しやすい時間帯〉

【性別、性／年齢別】

性別にみると、「月－金曜日の日中(8時30分～17時)」は女性が44.7%で、男性(32.6%)より12.1ポイント高い一方、「土曜日の日中(8時30分～17時)」、「日曜日の日中(8時30分～17時)」は男性が女性より5ポイント以上多くなっており、女性に比べて男性の方が土日の利用がしやすいことがわかる。

性／年齢別にみると、男女ともに60歳代以上では「月－金曜日の日中(8時30分～17時)」が最も多くなっているが、50歳代以下では、「土曜日の日中(8時30分～17時)」、「日曜日の日中(8時30分～17時)」の方が多くなっており、若い世代では、平日より土日の方が利用しやすいことがわかる。また、50歳代以下では「月－金曜日の夜間(17時以降)」も一定の需要があることがうかがえる。(図13-10)

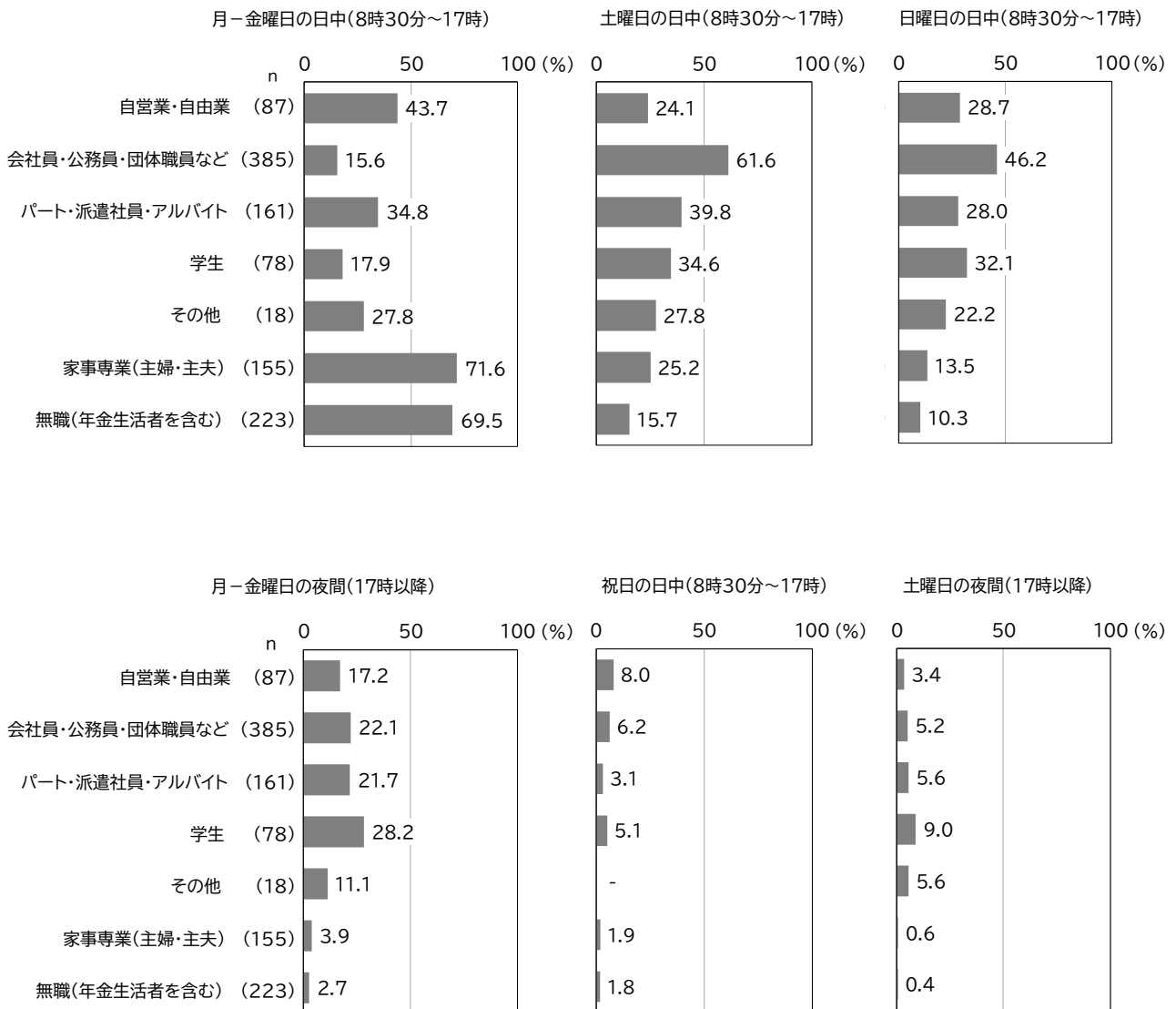
〈図13-10〉性別、性／年齢別



【職業別】

職業別にみると、「月～金曜日の日中(8時30分～17時)」は、「家事専業(主婦・主夫)」、「無職(年金生活者を含む)」が約7割となり、他の職業に比べて高くなっている。「土曜日の日中(8時30分～17時)」、「日曜日の日中(8時30分～17時)」は、「会社員・公務員・団体職員など」が、全体(38.5%、28.9%)と比べてそれぞれ20ポイント前後高くなっており、特に土日の需要が高いことがわかる。(図13-11)

〈図13-11〉職業別



14 新型コロナウイルス感染症の影響について

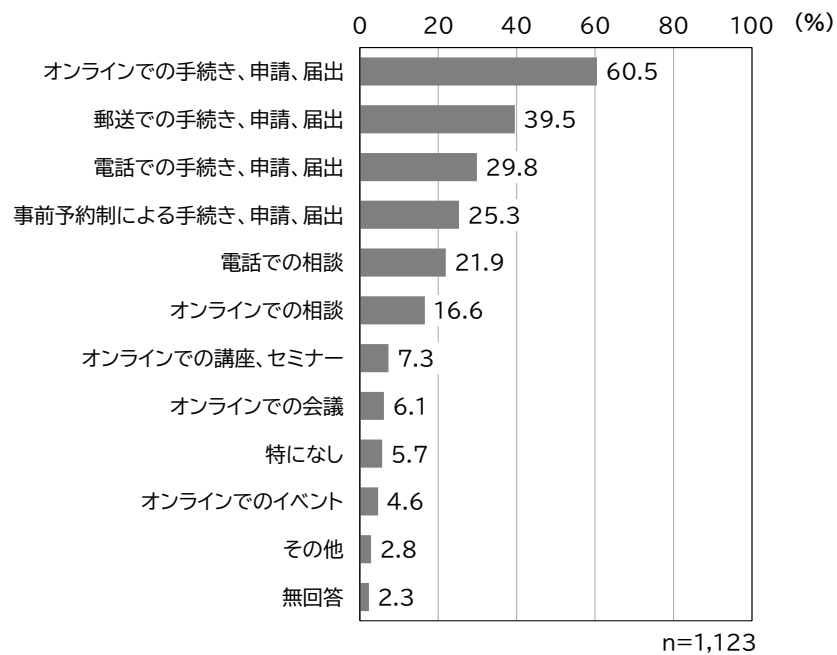
問29【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策】市の業務のうち、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮したやり方で行った方がよいと思うのは、次のうちどれですか。

(○は3つまで)

◇「オンラインでの手続き、申請、届出」が60.5%で最も多い

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策は、「オンラインでの手続き、申請、届出」が60.5%で最も多く、次いで、「郵送での手続き、申請、届出」(39.5%)、「電話での手続き、申請、届出」(29.8%)の順となっている。(図14-1)

<図14-1>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策



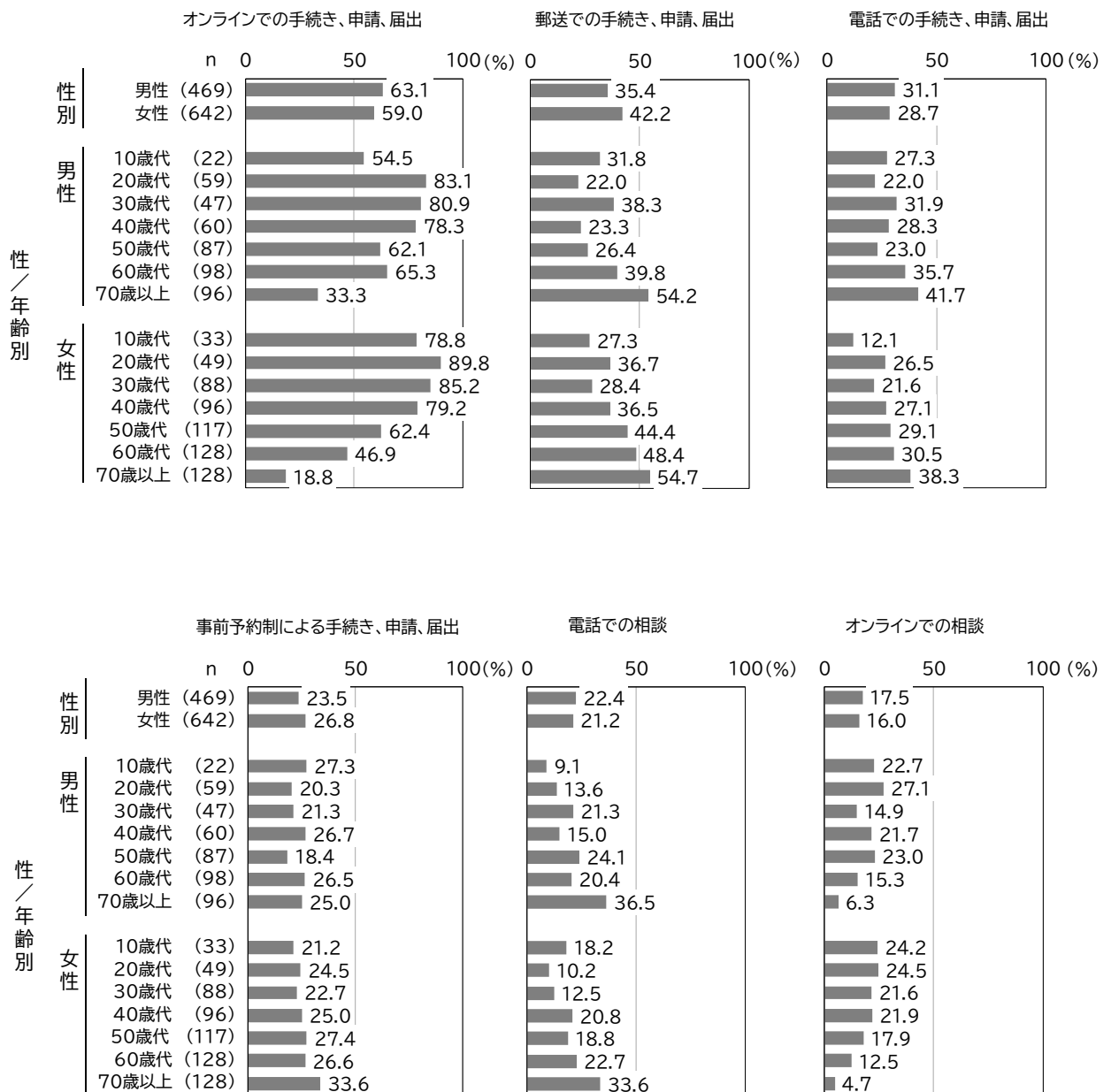
【性別、性／年齢別】

性別にみると、「オンラインでの手続き、申請、届出」は、男性が 63.1%となり、女性(59.0%)より 4.1 ポイント高くなっている。また、「郵送での手続き、申請、届出」は、女性が 42.2%となり、男性(35.4%)より 6.8 ポイント高くなっている。

性／年齢別にみると、「オンラインでの手続き、申請、届出」は、男性の 60 歳代以下、女性の 50 歳代以下で過半数となり、特に男女とも 20～30 歳代では 8 割以上となっている。“70 歳以上”では「郵送での手続き、申請、届出」が男女とも過半数となり、他の年代に比べて高くなっている。

(図 14-2)

<図14-2>性別、性／年齢別



15 今後の市政について

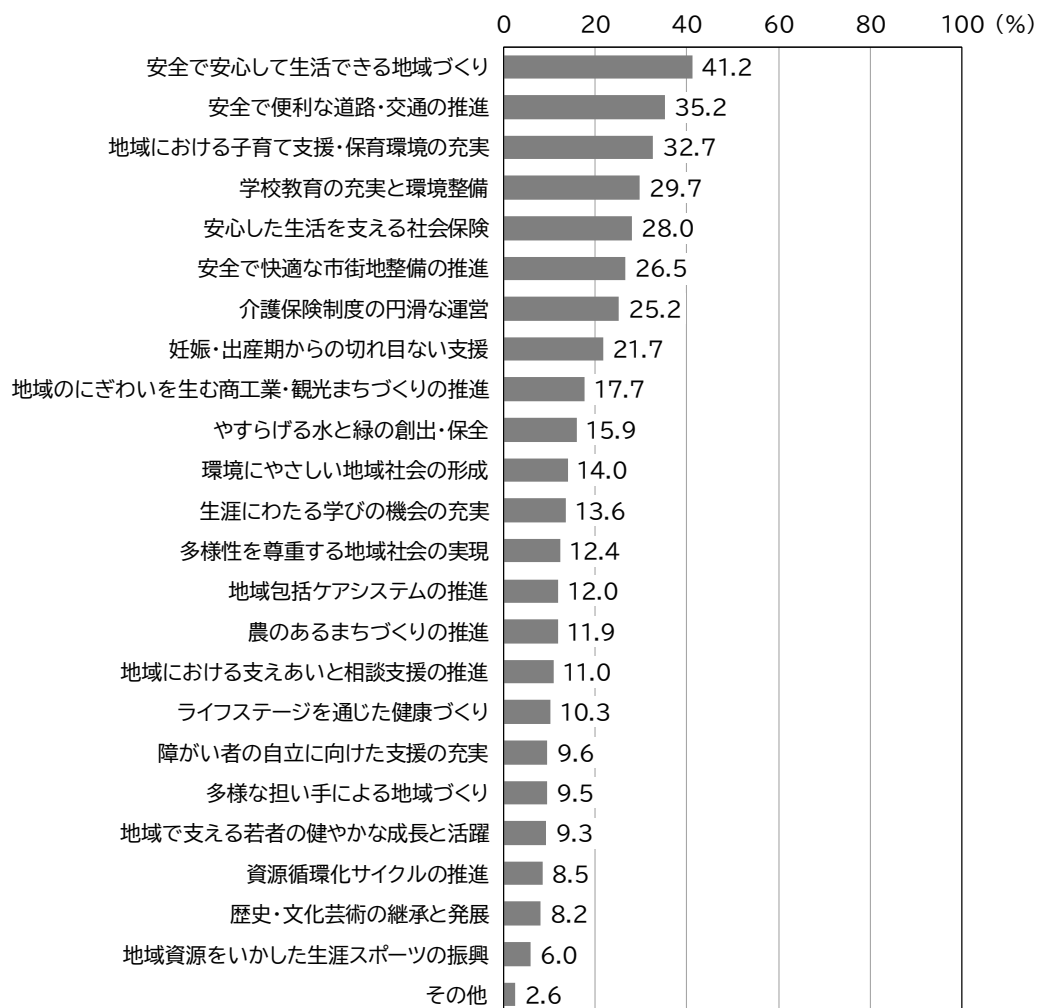
問30【将来像を実現するための重点政策】 小平市のめざす将来像「つながり、共に創るまちこだいら」を実現するためには、どのような政策を重点的に進めればよいと思いますか。

(○は5つまで)

◇「安全で安心して生活できる地域づくり」が 41.2%で最も多い

将来像を実現するための重点政策は、「安全で安心して生活できる地域づくり」が 41.2%で最も多く、次いで、「安全で便利な道路・交通の推進」(35.2%)、「地域における子育て支援・保育環境の充実」(32.7%)の順となっている。(図15-1)

<図15-1>将来像を実現するための重点政策



n=1,123

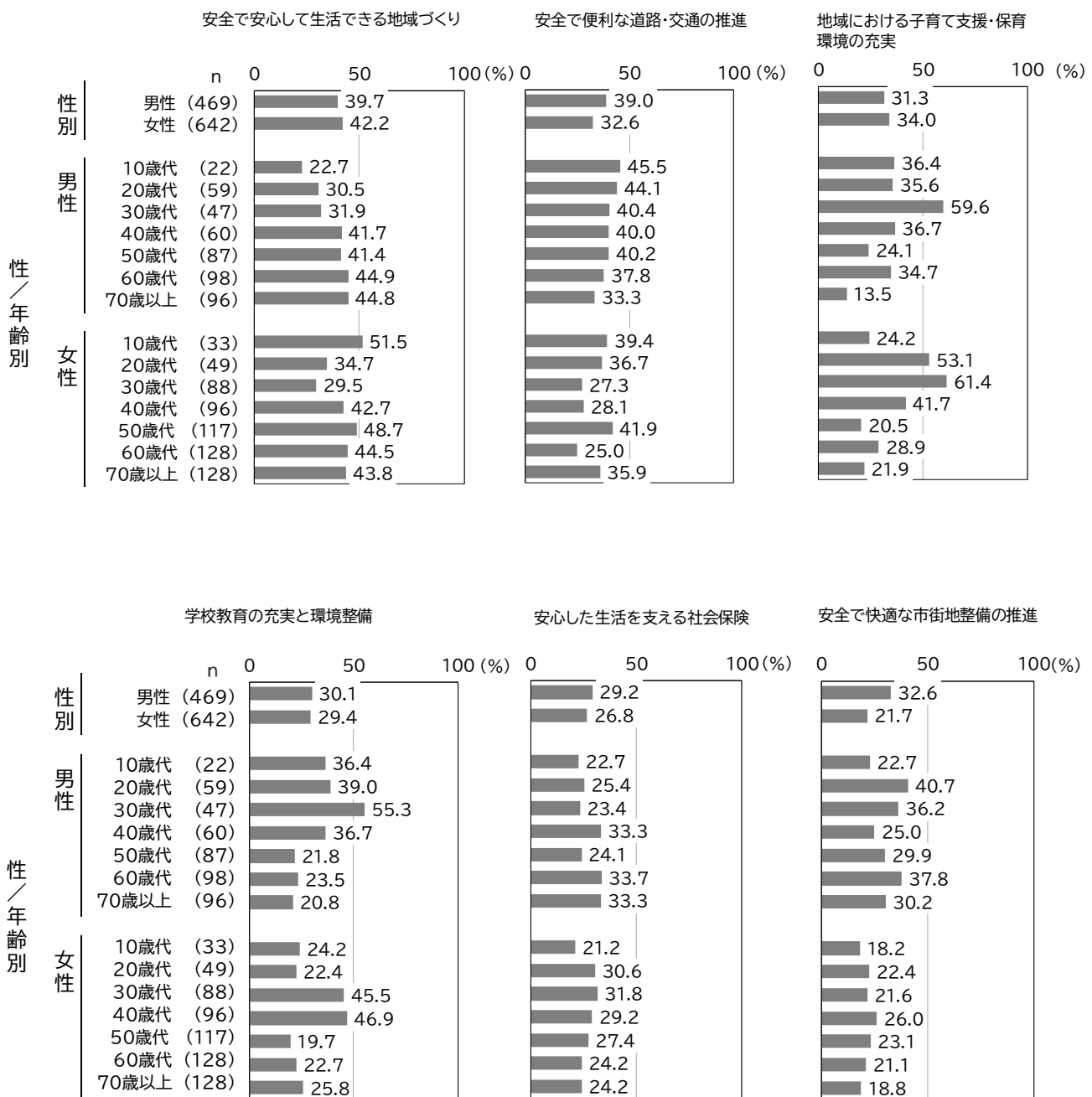
【性別、性／年齢別】

性別にみると、上位6項目では、「安全で便利な道路・交通の推進」が 6.4 ポイント、「安全で快適な市街地整備の推進」が 10.9 ポイント、それぞれ男性が女性に比べて高くなっている。

性／年齢別にみると、男性の 40 歳代以上、女性の“10 歳代”と 40 歳代以上では、「安全で安心して生活できる地域づくり」が4割以上となっており、幅広い世代で最も多くなっている。

なお、「地域における子育て支援・保育環境の充実」では男性の“30 歳代”と女性の 20～40 歳代、「学校教育の充実と環境整備」では男性の“30 歳代”と女性の 30～40 歳代が他の年代に比べて高くなっており、特に子育て世代の需要が高いことがわかる。(図15-2)

<図15-2>性別、性／年齢別

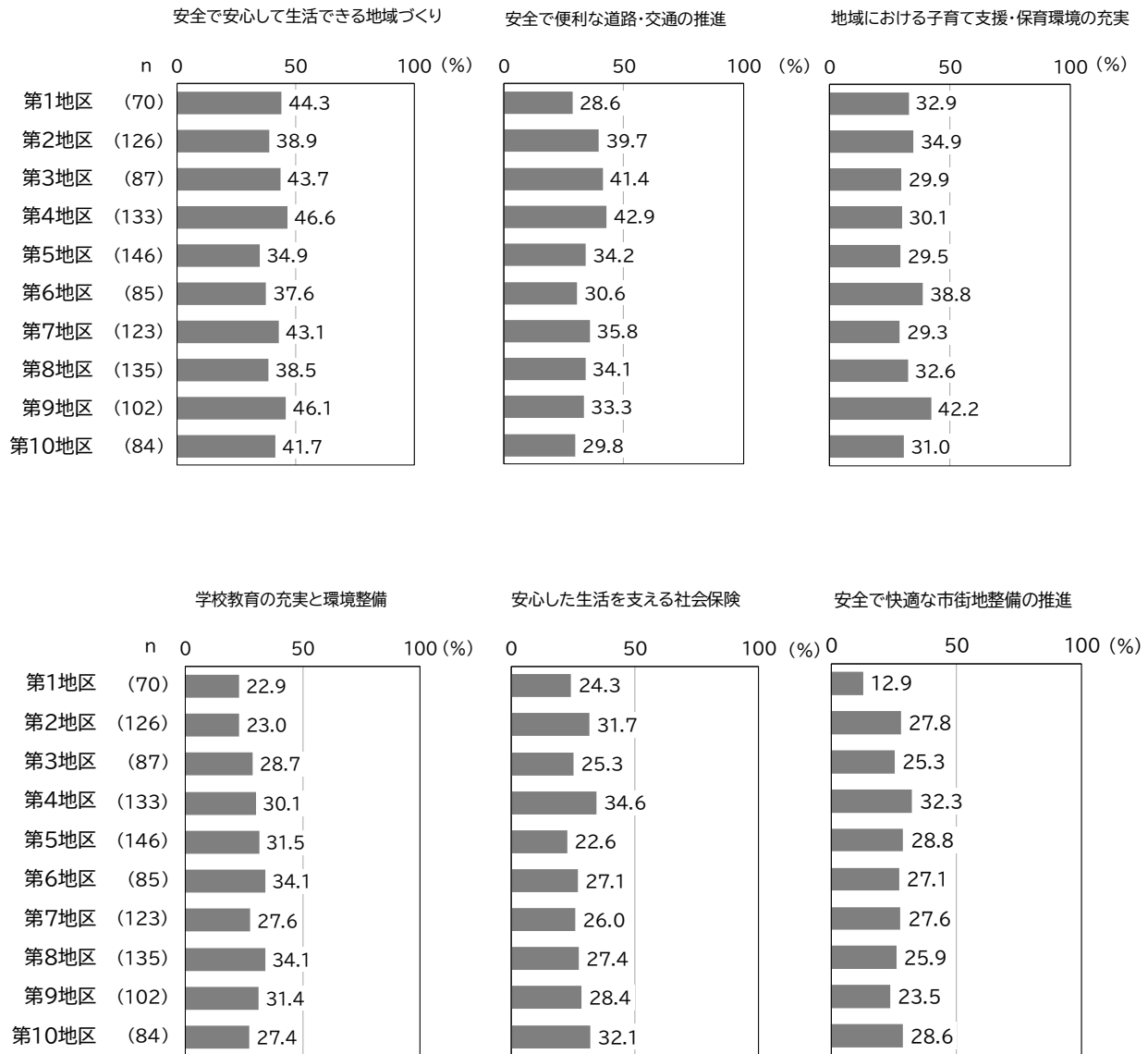


〈将来像を実現するための重点政策〉

【居住地区別】

居住地区別にみると、全体(図15-1)と比べて、“第9地区”では「地域における子育て支援・保育環境の充実」が9.5ポイント高く、“第1地区”では「安全で快適な市街地整備の推進」が13.6ポイント低くなっている。(図15-3)

〈図15-3〉居住地区別

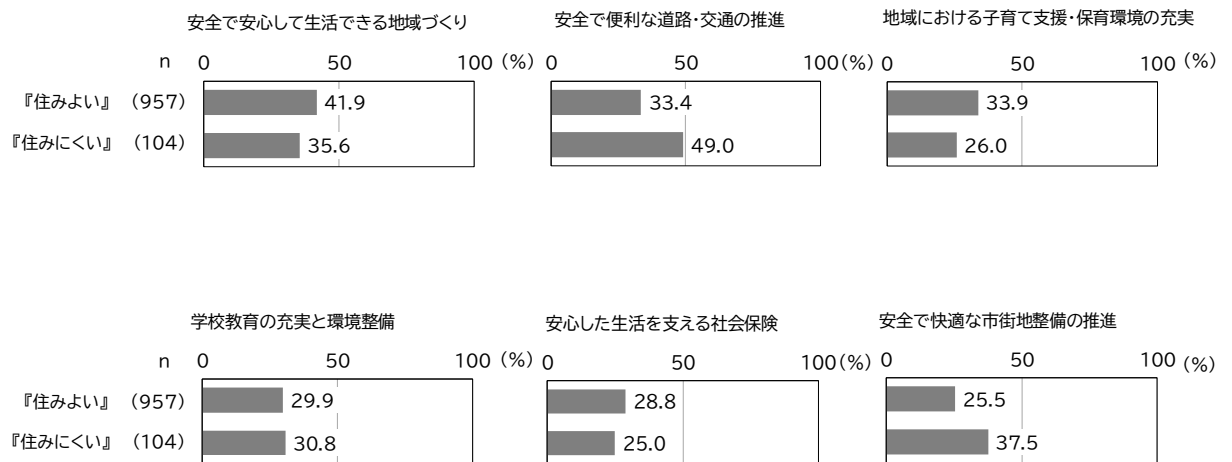


【住みよさ別】

住みよさ別にみると、将来像を実現するための重点政策について、現在の小平市が“住みよい”と答えた人では、“住みにくい”と答えた人に比べて「地域における子育て支援・保育環境の充実」が7.9ポイント、「安全で安心して生活できる地域づくり」が6.3ポイント高くなっている。

また、現在の小平市が“住みにくい”と答えた人では、“住みよい”と答えた人に比べて「安全で便利な道路・交通の推進」が15.6ポイント、「安全で快適な市街地整備の推進」が12.0ポイント高くなっている。(図15-4)

〈図15-4〉住みよさ別



自由記述

問31【まちづくりについてのご意見・アイデア】 これからの小平市のまちづくりについて、ご意見・アイデアなどございましたら、ご自由にご記入ください。

これからの小平市のまちづくりについて、意見やアイデアを自由に記述していただいた。その結果、387人から延べ649件の意見が寄せられた。ここでは、各テーマのうち主なものを掲載する。

なお、1人の回答が多岐にわたる場合は、複数の回答として、それぞれを各テーマに分類している。

<u>まちづくり</u>	148 件
駅周辺・商店街の開発・整備について……………	37 件
商業施設の充実について……………	27 件
自然環境・緑化について……………	23 件
環境衛生・清潔なまちづくりについて……………	12 件
地域の特産品・PR について……………	11 件
地域コミュニティについて……………	11 件
<u>都市基盤</u>	147 件
道路・歩道の整備について……………	69 件
交通機関について……………	37 件
防災・防災無線について……………	22 件
<u>市政</u>	97 件
市役所の窓口業務・対応について……………	16 件
手続きの利便性向上(オンライン化)について……………	10 件
<u>子育て・教育・文化</u>	52 件
子育て環境の充実について……………	22 件
学校・教育について……………	18 件
<u>医療・保健・福祉</u>	42 件
高齢者福祉について……………	20 件
障がい者福祉について……………	7 件

<u>公共施設</u>	41 件
公園の整備について……………	13 件
図書館について……………	9 件
<u>生活環境</u>	36 件
ごみ収集・料金について……………	26 件
防犯対策について……………	8 件
<u>コロナウイルス</u>	26 件
ワクチンについて……………	12 件
コロナウイルスの対応・情報発信について……………	8 件
<u>アンケートについて</u>	19 件
<u>広報活動</u>	16 件
情報発信について……………	14 件
市報について……………	2 件
<u>感謝・期待</u>	13 件
今後のまちづくりへの期待について……………	7 件
感謝について……………	6 件
<u>地域活動(イベント)について</u>	5 件
<u>その他</u>	7 件